

地域との協働による高等学校教育改革推進事業

《 グローカル型 》

令和 3 年度 研究開発実施報告書

【 第 3 年次 】

外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト
～新たなコミュニティーを協創できるスーパーグローカル・リーダー(SGL)の育成～

Rainbow Bridge Project! -Think Globally, Act Locally-



名古屋石田学園 星城高等学校

卷頭言

校長 石田 泰城

文部科学省から委託事業の採択を受け、「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト～新たなコミュニティーを協創するスーパーグローカルリーダー（SGL）の育成」を研究開発テーマに掲げてスタートした「地域との協働による高等学校教育改革推進事業《グローカル型》」も、3年間の研究指定の最終年度となりました。4月27日（土）に行われた今年度のSGL開講式は、新型コロナウイルス感染防止への対応から、昨年度に続き各教室をオンラインで結んでの開催となりましたが、コンソーシアムとして協働関係を深めてきた豊明市の市長小浮正典様からは、「挑戦」の言葉を贈っていただきました。「まずは関心を持ち、何ができるかを話し合ってほしい。一步でも二歩でもいい、挑戦することが課題の解決に繋がる。行動の一つひとつが大きな輪になって、日本、世界を変えられる」。そこにはこの2年間の活動成果に対する評価と、SGL活動に寄せる地域からの大きな期待が込められているように感じられました。コロナ禍により海外での活動計画が中止となり、地域・校内での活動にも様々な制約が生じた中、ここにまとめられた「研究開発実施報告書【第3年次】」は、生徒たちが教職員をはじめとする多くの関係者に支えられながら、状況の変化に対応するための知恵を出し合い探究学習を深めていった、まさに挑戦の記録であると言えます。

現在、仰星コースと特進コースが取り組んでいるSGL活動は、平成27年度に仰星コースの教育課程に組み入れられたSGHアソシエイト校としての探究学習の成果を継承・発展することを意図して始まりました。新教育課程となる令和4年度入学生からは、普通コース（新年度より「明徳コース」に改称）においても総合的な探究の時間（計6単位）を「未来探究」（1年：社会未来探究、2年：世界未来探究、3年：自分未来探究）と位置づけた学習プログラムが準備されています。それぞれのコースの特色を生かして学校全体が取り組む探究学習の深まりは、本校の建学の精神「彼我一体」が求める生徒像、「社会で通用する礼節と自修的に努力する姿勢の確立を目指し、社会貢献を果たせる人材の育成」のための、大きな力となるものと期待しています。

最後になりましたが、本校の研究開発に多大なるご指導・ご支援を賜りましたコンソーシアム諸機関の皆様、地域協創学の授業にご参加いただいた地域の皆様、研究諸機関の皆様方に心よりお礼を申し上げますとともに、3年間の研究開発成果が本校の教育活動の一層の充実へと繋げられていくことを願い、卷頭の言葉といたします。

目 次

卷頭言

石田 泰城

1. 研究開発の概要	1
2. 研究開発の組織	5
3. 研究開発の内容	
(1) 総合的な探究の時間 【SGL 地域協創学 I】	9
(2) 総合的な探究の時間 【SGL 地域協創学 II】	45
(3) 総合的な探究の時間 【SGL 地域協創学 III】	79
(4) 学校設定教科 : SGL 語学 【SGL 英語 I】	91
(5) 学校設定教科 : SGL 語学 【SGL 第 2 外国語】	96
(6) Think Global 探究 【アラカルト講座】	102
(7) Act Global 探究 【オンライン研修】	108
(8) 探究成果発表	114
4. 全国高等学校グローカル探究オンライン発表会	119
5. 評価と課題	146
6. 総合的な探究の時間における 「オンライン」の活用	162

古藪 真紀子

1. 研究開発の概要

(1) 研究開発の概要

星城高等学校は文部科学省より「地域協働推進校」の指定を受け、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に取り組むことになった。この事業はSGH(スーパーグローバル・ハイスクール)の後継事業の一つと言われており、高等学校が市町村や産業界などと協働してコンソーシアムを構築し、地域課題解決等の探究的な学びを実現する取組である。本校が指定を受けたグローカル型は、グローバルな視点をもってコミュニティーを支える地域のリーダー育成が目的となる。各地域の特性に応じたグローバルな社会課題研究としてSDGs、地域、文化、医療などのテーマを設定し、その解決に向けた探究的な学びをカリキュラムの中に体系的・系統的に位置付けるカリキュラム開発を実施する。この事業の初年度となる令和元年度は全国で20校が指定を受け、そのうち14校が公立高校、本校を含む6校が私立高校であった。また、令和2年度は新たに4校が指定を受け、事業特例校として4校が指定を受けた。

本校の研究開発は、人と人との繋がりが希薄になりつつある地域社会において、さまざまな立場の市民の繋がりが活性化する新たなプロジェクトを共生・協働という観点から協創することができる地域リーダーを育成することが目的である。本校が立地する愛知県豊明市では、とりわけ外国人市民と高齢市民の増加が顕著であり、これらの対応が地域全体の大きな課題となっている。そのような現状を踏まえ、研究開発では「外国人市民との多文化共生を推進する地域活動」と「高齢市民との安心・安全な健康生活づくりを協働する地域活動」に取り組む。そして、これらの活動を通して外国人市民と高齢市民がより輝く、新たなコミュニティーの形成を目指す。この活動の名称は、スーパーグローカル・リーダー(Super Glocal Leader)育成活動とし、その略称として「SGL」と表記する。また、地域協働コンソーシアム全体で共有するSGL活動のスローガンとして、『Rainbow Bridge Project! - Think Globally, Act Locally -』を掲げる。

市民が輝く新たなコミュニティーを協創できるグローカル・リーダー育成のために、課題探究のテーマとして「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋づくり」を設定し、「多文化共生」・「健康福祉」・「コミュニケーション力」の3つの探究的学習アプローチで構成される教育課程を研究開発する。生徒育成目標となる具体的な人物像は、①「異なる考えを容認し、共生しようとする人間」、②「他者と協働して問題解決を図ろうとする人間」、③「自らの考えを発信して多くの人々と新たなものを協創できる人間」、④「人との繋がりを大切にし、感謝のできる実践力に富んだ地域のリーダー」である。

カリキュラム研究開発の核となるのは総合的な探究の時間「SGL 地域協創学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の開発である。それに加えて、学校設定教科「SGL 語学」の開発と教育課程の中に組み入れられる海外研修の開発がある。これらの授業の開発とその実践によって、グローバルな視点をもってローカルの課題解決に取り組むグローカル・リーダーが育成されるカリキュラムを研究開発する。

(2) 研究開発の経緯

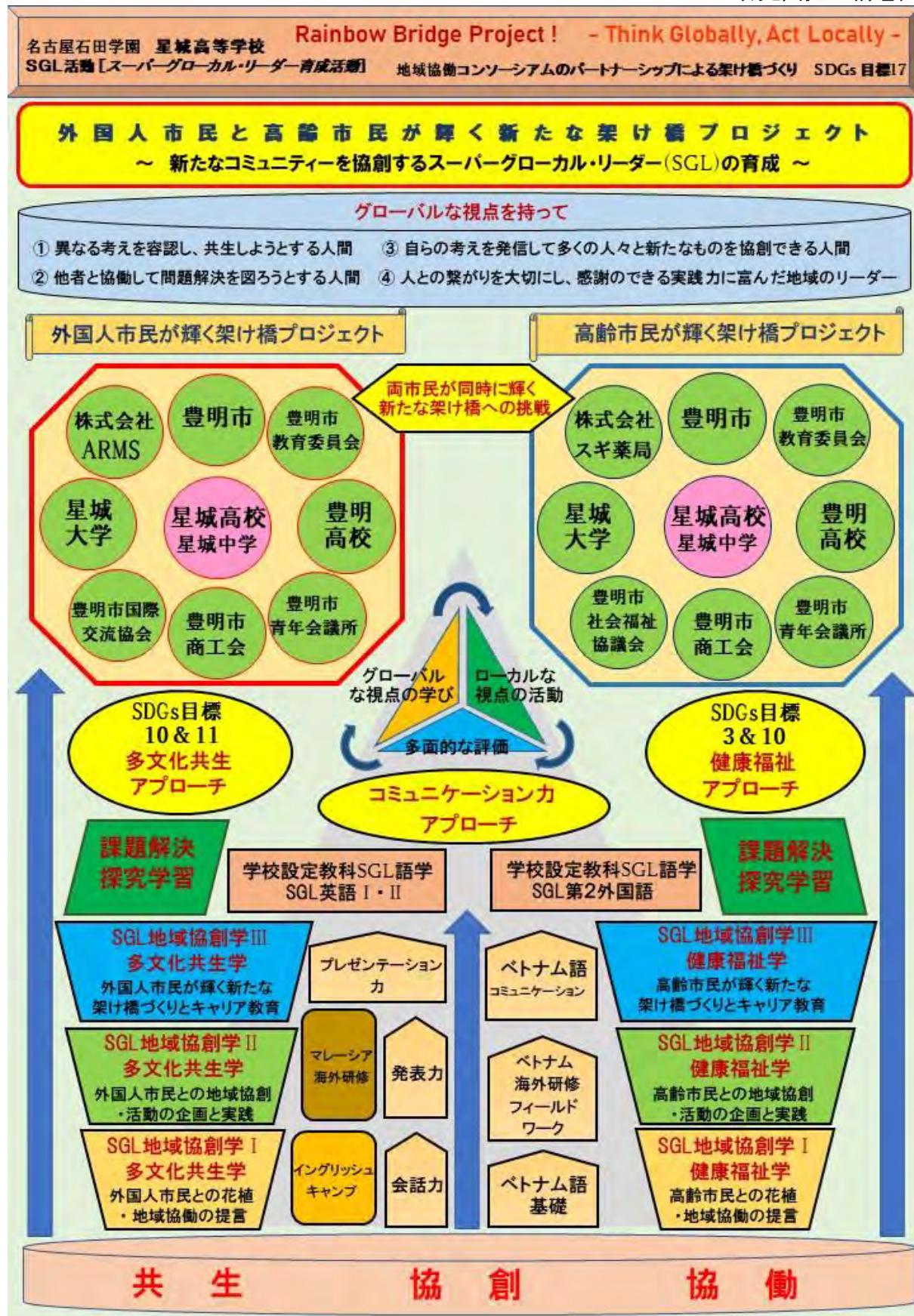
本校の仰星コースは平成 26 年度にグローバル人材育成プログラムとして、「星城版スーパーグローバルハイスクール事業」を独自に立ち上げた。「持続可能なアジアの発展に寄与できるグローバル人材の育成」を目標に掲げ、アジア諸国が抱える課題解決のための探究活動を行った。平成 27 年度からは SGH アソシエイト校の指定を受け、『持続可能なアジアの発展に寄与できる、実践力を有するグローバル・リーダーの育成』を目標に掲げて探究活動を展開してきた。4 年間のアソシエイト活動を経て、グローバルな視点での探究活動の結果から、課題のいくつかが地元の豊明市が抱える課題と共に通することに気づいた。地元が抱える外国人市民と高齢市民に関わる諸問題を、今やグローバル化している社会課題と捉え、課題解決に向けて生徒が主体的に取り組むことが本校における探究活動の柱となった。このような活動と実績を踏まえ、グローバルな視点での学びと地域課題解決に向けた探究的な学びをさらに促進させるため、文部科学省への応募申請では対象コースを仰星コースだけではなく、新たに特進コースを加え、対象生徒の規模を拡大することになった。

(3) 構想図とロジック・モデル

研究開発のテーマを「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト～新たなコミュニティーを協創するスーパーグローカル・リーダー(SGL)の育成～」と設定した。次に、目標とする生徒育成人物像を定め、地域協働に取り組むコンソーシアムを構成した。そして、多文化共生アプローチ・健康福祉アプローチでは、「外国人市民との共生」と「高齢市民の健康福祉」についての探究的な学びに取り組む「SGL 地域協創学 I・II・III」を総合的な探究の時間に設定した。コミュニケーション力アプローチでは、「英語力向上」を目指して「SGL 英語 I・II」を、地域に住む外国人市民との交流や海外研修での交流を見据えて「SGL 第 2 外国語（ベトナム語）」を学校設定科目として設定した。次のページに示したのはこれらの内容をまとめた研究開発構想図である。

また、グローカル型地域協働推進校には「高校魅力化評価システム」が導入されている。その評価システムの一つに、ロジック・モデルの作成がある。研究開発計画における「インプット」・「アクティビティ」・「アウトプット」・「中間アウトカム」・「最終アウトカム」を明確にし、研究開発がどのような目的で、何に取り組み、それによって何が成果として想定されるのかを校内の教員及び校外の地域協働コンソーシアムの各団体と共有するためのものである。令和元年 6 月に初めてロジック・モデルを作成し、同年秋に行われた研究開発校全国サミットでの研修を経て、ロジック・モデルを修正した。ロジック・モデルを作成したことによって、地域での活動が学びのゴールではなく、地域での活動を通して、生徒のどのような知識や技能を身に着け、どのような生徒に成長していくかという目標を見失わないようにするための指針のようなものになり、教員間や地域協働コンソーシアム内において共有することで、PDCA サイクルを円滑にすすめていく大きな手助けとなつた。

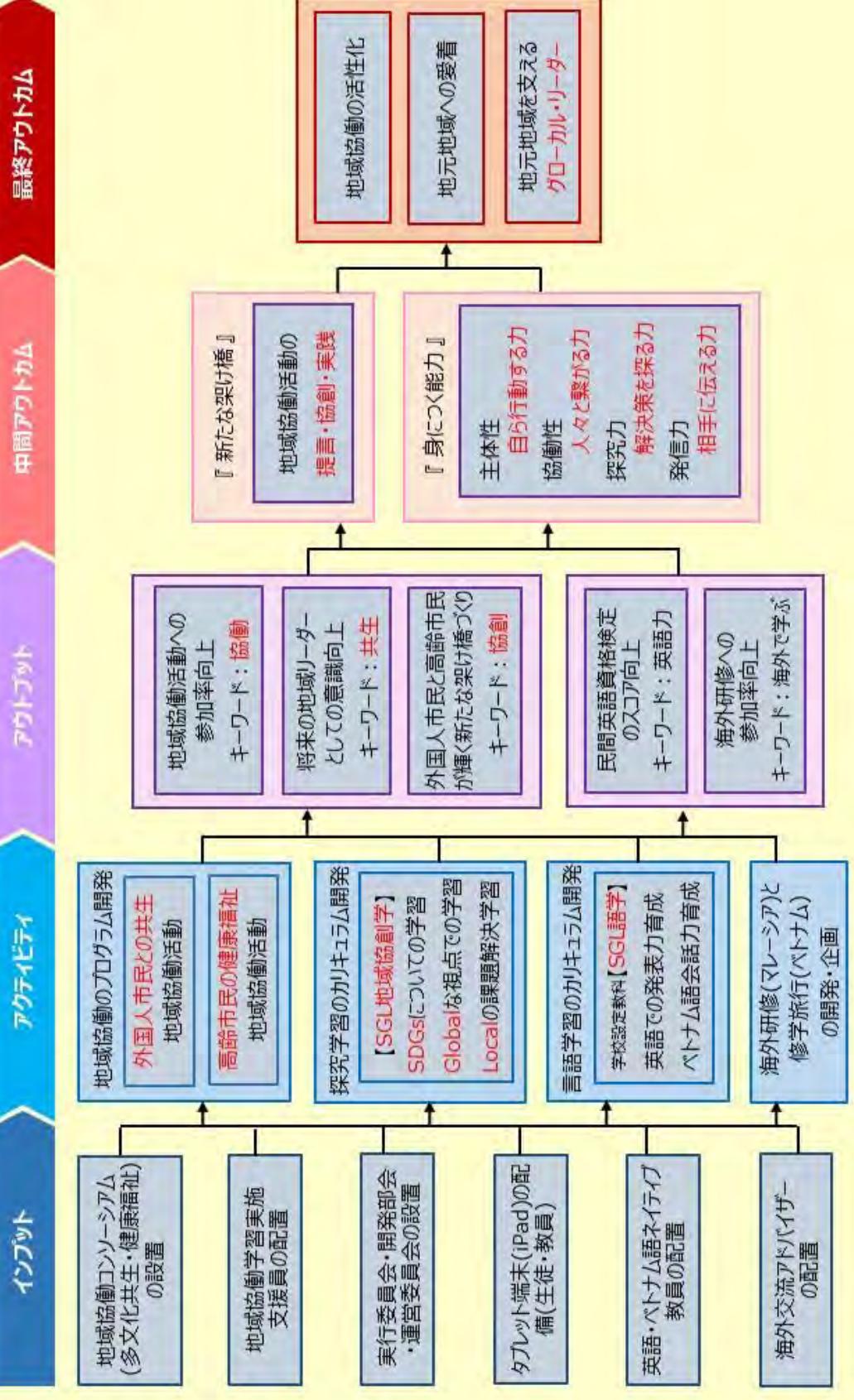
研究開発の構想図



名古屋石田学園星城高等学校

『外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト』

～新たなコミュニティーを協創するスーパーグローバル・リーダー(SGL)の育成～



2. 研究開発の組織

(1) 地域協働コンソーシアムの体制

外国人市民との共生を推進する多文化共生コンソーシアムと高齢市民の健康福祉を推進する健康福祉コンソーシアムをそれぞれ構築し、2つのコンソーシアムで、グローバルな視点を持って地域課題解決に取り組む学習プログラムの研究開発に臨む。

【多文化共生コンソーシアム】

機関名
豊明市役所
豊明市教育委員会
豊明市国際交流協会
星城大学経営学部
ARMS 株式会社
県立豊明高等学校
豊明市商工会
豊明市青年会議所

【健康福祉コンソーシアム】

機関名
豊明市役所
豊明市教育委員会
豊明市社会福祉協議会
星城大学リハビリテーション学部
株式会社スギ薬局
県立豊明高等学校
豊明市商工会
豊明市青年会議所

企業や高等教育機関などさまざまな機関の協力によって支えられるのは言うまでもないが、とりわけ豊明市役所の強力なバックアップによって研究開発が成り立っている。研究開発構想の作成段階から、豊明市長をはじめ行政経営部長や市民協働課長、健康長寿課長など多くの市役所関係者と協議を重ねることで、地元地域が抱えている課題を正確に把握することができた。このことが地域課題解決に向けた研究構想テーマを設定することにつながり、また、それに基づいた学習プログラムの研究開発に主体的に関わる地域協働コンソーシアムの体制づくりにつながった。

(2) SGL 開発会議・SGL 開発部・SGL 実行委員会・運営指導委員会

SGL 開発会議の設置

地域課題を学ぶプログラムや地域活動のプログラムなどを開発するために、その開発を支える校内組織として SGL 開発会議を設置した。校長、副校長、教頭、SGL 開発部主任で構成され、毎週火曜日 1 限の定例会とする。SGL 開発部主任が作成する企画案を協議し、開発に関わる大きな方向性を決定する。

SGL 開発部の設置

SGL 開発部で出された方向性に沿って、具体的な授業計画や指導案の作成と地域協働コンソーシアムや地域住民との調整をする部署であり、開発の中心的な役割を担う。

SGL 実行委員会の設置

SGL 開発部で作成された指導案をもとに、生徒の実情に合わせて運営方法を調整し

たり、授業実施後の点検評価をしたりする組織として、SGL 実行委員会を設置した。副校长、教頭、SGL 開発部主任、各担任で構成され、毎週金曜日 2 限の定例会とした。特に、ルーブリック評価の作成については SGL 実行委員会で協議し、評価文の検討や自己評価の集計結果を分析することで、探究学習を通して生徒に身につけさせたい能力（主体性・協働性・探究力・発信力）について協議し、PDCA サイクルによって継続的に改善を図る体制づくりを進める。

運営指導委員会の設置

SGL 開発会議での研究開発の内容や進捗状況、地域協働コンソーシアムを構成する各団体との協力体制の実情、SGL 実行委員会の実施状況などを踏まえ、それぞれの専門的な立場から、改善すべき点についての指導や学びを促進させるための助言をする組織として、運営指導委員会を設置した。学識経験者、学校教育に専門的知識を有する者、教育学研究者、地元地域の有識者、関係行政機関の職員を含む 5 名で構成され、各学期に 1~2 回程度開催される。

【運営指導委員会】

氏名	所属・職
渥美榮朗	元愛知県教育長
寺田志郎	元愛知県教育委員会学習教育部長、元県立高校長会会长
久野弘幸	名古屋大学大学院准教授
月岡修一	豊明市議、学校評議員
小串真美	豊明市役所行政経営部長

（3）海外交流アドバイザーと地域協働学習実施支援員の役割

海外交流アドバイザーの配置

海外での交流を通して、グローバルな視点での学びを促進させる手法として、海外研修の実施や海外在住高校生とのオンライン交流などが考えられる。そのような学びを開発し、実践する際の助言者として海外交流アドバイザーを配置し、名古屋大学大学院国際開発研究科特任助教の古藪真紀子氏にその役割を依頼した。新たな海外研修の開発に重点を置き、外国人市民との共生と高齢市民の健康福祉に関する現地フィールドワークの企画に関する指導や助言にあたるとともに、海外研修の事前研修や事後研修の企画と実施について支援する役割を担う。

しかし、今年度もコロナ禍において、どのような形で研修を企画するかが大きな課題となった。海外研修実施の見通しが立たない中、代替えプランを検討してきた。最終的には、オンラインを活用して各国の社会課題を学ぶ研修と JICA での経験を有する方々を中心とした世界各国における日本の開発支援を学ぶアラカルト研修を計画し、実施に向けての助言及び講師派遣の調整に関わる役割を担うことになった。

地域協働学習実施支援員の配置

総合的な探究の時間において、どのような地域との協働による学びを企画し、実践するかについて指導や助言をするのとともに、その学びに必要となる関係団体の協力をコーディネートする支援員として地域協働学習実施支援員を配置し、今年度も海外交流アドバイザーとの兼任で古藪真紀子氏にその役割を依頼した。毎週月曜日または金曜日に企画検討会議を開き、土曜日に実施する総合的な探究の時間の授業計画や実施した授業内容の改善点などについて協議した。今年度は特に、コロナ禍における地域での活動や地域住民との交流をどのように企画するかが大きな課題となった。緊急事態宣言が発出されていない状況において、感染予防に配慮しながら前年度よりもさらに活動内容を発展させたり、地域住民との交流をさらに深めたりする企画の開発を支援する役割を担う。

(4) 組織図

カリキュラム研究開発を円滑に進めていくために、本校と地域協働コンソーシアム、運営指導委員会、地域協働学習実施支援員、海外交流アドバイザーの役割を明確にする必要がある。地域協働コンソーシアムは、地域との協働による学びについて、本校を中心に企画と実践の両方に主体的に関わる共同体である。それぞれの組織で対応できることを検討し、何のテーマについて、誰が、どうような形で実施するのかを協議しながら、地域協働プログラムの企画と実践に直接的に関わる。地域協働学習実施支援員は企画された内容の実施に向けて、本校の本事業担当教員と地域協働コンソーシアムの各担当者の間でさまざまな調整をするコーディネーターとしての役割を担う。海外交流アドバイザーは海外研修プログラムの開発を支援し、事前事後の研修を含めた企画開発において中心的な役割を担う。運営指導委員会は研究開発の全体的な状況を定期的に把握し、必要に応じて本校のSGL開発会議に対して指導や助言をする。

地域協働コンソーシアムとSGL開発会議、SGL開発部、SGL実行委員会、地域協働学習実施支援員、海外交流アドバイザー、運営指導委員会が協力体制を築くことにより、カリキュラムの研究開発が円滑に進み、生徒が主体的に、なお且つ安心して取り組める学習プログラムの実施につながっていくと期待される。地元地域の協力者との個人的なつながりで開発できるものも多くあると思われるが、カリキュラム研究開発という事業の性質上、持続可能な学習プログラムを開発するという方向性を踏まえて、地域との協働による学びの企画内容は地域協働コンソーシアムと情報を共有し、協議することによって、学習内容の改善や変更を行いやすい状況を維持する。

地域協働コンソーシアム会議はコンソーシアムを構成する各団体の代表者による会議で、これまでには各団体の責任ある立場の方々に集まっていたいただき、開催してきた。今後、持続可能な会議にしていくためには、会議への出席者を実務担当者に変えていく必要があると感じている。いわゆるトップダウンの形から、現場からボトムアップしていく形に変更することで、持続可能な組織や会議の在り方を検討していきたい。

星城高等学校 研究開発の組織図



3. 研究開発の内容

(1) 総合的な探究の時間【SGL 地域協創学 I】

1年生の総合的な探究の時間「SGL 地域協創学 I (2 単位)」は、「Think Global」「Think Local」「Act Local」「Act Global」の4つで構成される。「Think Global」ではグローバルな視点でSDGsを理解し、世界規模のまたは世界の各地における解決すべき課題について考える。「Think Local」では地元豊明市について、どのような街なのか、そしてどのような地域課題があるのかについて学ぶ。「Act Local」では花溢れる街づくりプロジェクトを企画し、実践する。「Act Global」はマレーシアで多文化共生社会について学ぶ海外研修を実施する。しかし海外研修の実施が不可能になったため、今年度はオンライン研修に計画を変更した。

「Act Local」について、今年度は4~5人の各探究班のそれぞれが地域の市民団体や敬老会などの地域団体と協働するために、自分たちで連絡を取り、企画を説明し、協力をお願いし、実践するという計画をした。このことによって、活動をやらされているという気持ちではなく、自分たちが地域住民との協働を企画・実践するという気持ちで取り組むことになり、生徒の主体性が育成されることを期待した。

「Think Local」について、花溢れる街づくりプロジェクトで編制した探究班を引き継ぎ、それぞれの班で新たな地域協働活動の提言をポスターにまとめる。そのポスターを用いて、ポスターセッションを実施する。これらの活動を通して、生徒の主体性、協働性、探究力、発信力が広く育成されることを期待した。

SGL 地域協創学 I の年間授業計画

回	日付	授業内容
第1回	4月17日(土)	SGL開校式、探究班編制、アイスブレイク、貧困の輪について考える
第2回	5月1日(土)	自分の住んでいる町を知る・豊明市を知る
第3回	5月29日(土)	カンボジアを知る、花溢れる街プロジェクト①、花壇整備
第4回	6月5日(土)	カンボジアオンライン研修・花溢れる街プロジェクト②、各地区・団体調べ
第5回	6月19日(土)	パラオオンライン研修、花溢れる街プロジェクト③
第6回	7月3日(土)	シンガポールオンライン研修・花溢れる街づくりプロジェクト④
第7回	7月17日(土)	花溢れる街づくりプロジェクト⑤、協働する団体への企画・計画説明
第8回	9月4日(土)	アラカルト講座・花溢れる街づくりプロジェクト⑥、花壇準備
第9回	9月18日(土)	花溢れる街づくりプロジェクト⑦
第10回	10月16日(土)	花溢れる街づくりプロジェクト⑧、地域住民との花植活動
第11回	10月30日(土)	地元地域の視点から解決すべき地域課題について考える
第12回	11月6日(土)	探究成果発表の提言内容検討、パラオオンライン研修
第13回	11月20日(土)	探究成果発表の内容・原稿・ポスターの作成
第14回	12月4日(土)	探究成果発表の内容・原稿・ポスターの作成、インドネシアオンライン研修
第15回	12月18日(土)	探究成果発表の内容・原稿・ポスターの作成
第16回	1月15日(土)	探究成果発表の内容・原稿・ポスターの作成
第16回	1月30日(土)	探究成果クラス内発表
臨時休校	1月29日(土)	※新型コロナ感染症の急拡大により、臨時休校となった。
第17回	2月5日(土)	探究成果発表、ポスターセッション

コロナ禍で地域との協働が難しい場面が多々生じたが、市内の地域活動が一切中止になっている状況の中で、地元の高校生が感染対策を講じながら、主体的に地域との協働に取り組んでいることに多くの応援や理解、協力を得ることができた。次のページはSGL 地域協創学 I の構想図であり、それ以降のページにはすべての授業における授業進行表とその授業の内容や生徒の様子、授業の改善点などを記した。

文部科学省指定 地域との協働による高等学校教育改革推進事業

グローカル型地域協働推進校 【外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト】

令和3年度第1学年【SGL地域協創学 I (2単位)】(総合的な探究の時間)

- 【1年生の主課題】
- ①グローバルな視点でSDGsの理解
 - ②花溢れる街づくりプロジェクトでの協働
 - ③新たな地域協働活動の提言

Think
GlobalThink
Local

三崎区・桜ヶ丘区・
前後区・桶狭間区・
豊明団地自治会

★グローバルな視点での学び(地球課題発見)

SDGs 17の持続可能な開発目標(4月～11月)

主体性の向上

★ローカルな視点での学び(地域課題発見)

星城高校
1年生
探究班



地域協働コンソーシアム

豊明市役所	商工会
(株)スギ薬局	青年会議所
(株)ARMS	豊明高校
社会福祉協議会	星城大学
国際交流協会	市教育委員会
	順不同

★外国人・高齢市民との協働による学び(活動実践)

地域協働プログラム ①スギ薬局介護予防体操
(5月～3月) ②子ども日本語教室

協働性の向上

Act
Local

花溢れる街づくりプロジェクト

①6月→活動体験 ②10月→企画経験

★海外での探究的な学び(他国取組理解)

マレーシア海外研修(12月)

多文化共生の学び 6日間 希望生徒30名

★地域課題解決に向けた学び(解決策発見)

新たな地域協働活動の提言づくり(11～1月)

探究力の向上

発信力の向上(学校設定科目SGL英語 I を含む)

Glocal
探究

ポスターセッション形式での発表(2月)

- 单元名 : SGL の始動
- 学習内容 : SGL 開校式、探究班編成、アイスブレイク、貧困の輪について考える
- ループリック評価 :

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	SDGs に興味・関心をもつことができる	SDGs と地域課題を関連付けて考えることができる	SDGs 推進や地域課題解決について自分の考えをもつことができる	SDGs や地域課題に対して自分たちでできる取組を考えることができる
協働性	グループ活動で相手の意見に耳を傾けることができる	グループ活動でお互いの意見を伝え合うことができる	グループ活動でお互いの意見の良いところを認め合うことができる	多様な意見をもとにグループとしての考えをまとめることができる
探究力	豊明市について、地域の特性を調べることができる	豊明市の地域課題に対する取組や活動について調べることができる	現地調査を通じて、地域の現状を知り、地域が求めるることを考えることができる	地域の課題解決を踏まえて花植えプロジェクトを企画することができる
発信力	グループ活動で自分の意見を伝えることができる	相手の意見に対する感想を伝えることができる	グループ内の意見をクラス全体の場で発表することができる	他のグループの意見を踏まえて、自分の意見をクラスで発表することができる

4. 授業進行表

【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目	校長と豊明市のビデオメッセージを視聴する。	校長と市長からのメッセージを理解する。	プロジェクトでビデオを投影する。(あらかじめデータを共有フォルダよりダウンロードしておく)	
	メッセージに対する感想を書く。	感想シートに記入する。	校長・市長にメッセージへの感想を後日報告する旨を伝える	
	ループリック評価表の内容を理解する。	ループリック評価表を読み、各項目・各レベルの内容を理解する。	1学期末に自己評価することを伝え、各項目で高いレベルを目指すように説明する。	
	探究班をつくる。	各班 4~5 名の男女混合探究班をクラス内で話し合って決める。	仰星コースは全 5 班、特進コースは全 7 班を編成する。	
	【チームビルディング】班内の役割を決める。	各班で話し合い、チームリーダー、サブリーダー、記録・写真係、資料・備品管理係を決める。	各係の役割を説明し、各生徒のやる気や自主性を尊重する。また役割の押しつけがないように注意深く観察する。	
	【TG 探究】SDGs の概要を理解する。	愛知県 SDGs ガイドブックを読み、SDGs とは何かを理解する	Sustainable Development Goals 17 の目標にはどんな意味があるかを考えさせる。	
2限目	【アイスブレイク】SDGs スゴロクに取り組む。	SDGs に関する質問に答えることでスゴロクに取り組む。	SDGs に対する関心を高めながら、班内で話し合いをしやすい雰囲気をつくる。	
	【TG 探究】貧困についての資料確認	貧困についての資料を読む	特に貧困ラインを確認するように導く。個人・グループ・全体、読ませ方はお任せ	
	「貧困」の派生図作成 (20 分) 派生図の発表 (10 分)	貧困から連想する言葉を出し合い、つなげることで派生図を作成する。各班が作成したものを発表する。	「仕事がない」→「お金がない」を例として提示してよい。 他の班で気になった発表内容をメモさせる。	
3限目	「貧困の輪」の話し合い (20 分) 「貧困の輪」の発表 (10 分)	7 つの項目の順番を並べ替え、貧困が生じるサイクルを考える。各班が並べたものを発表する。	正解があるわけではないことを伝える。 他の班で気になった発表内容をメモさせる。	
	【TG 探究】 「断ち切るべきところ」はどこかについての話し合い (20 分) 「断ち切るべきところ」の発表 (10 分)	どこを断ち切ることで、貧困を止められるか、改善できるかを考える。各班が考えたことを発表する。	多様な考えや提言が出てくるように促す。 なぜそこで断ち切るのかの理由を明確にして説明するように促す。	
	TG 探究の振り返り (10 分)	授業を振り返り、考えたことや学んだこと、感想などをワークシートに記入する。	記入後、ワークシートを回収する。 (12:45 4限目終了予定)	

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

校長と豊明市長のビデオメッセージを視聴、今学期のループリック評価表の確認、チームビルディング、SDGsスゴロク、貧困の輪について考える、以上の5つの活動を実施した。SGL活動の概要を理解することを狙いとしたが、年度の始まりであったため、新しいクラスメイトとの緊張をほぐすことができるような活動とした。本時の導入として、石田校長と豊明市的小浮市長からのビデオメッセージの視聴とループリック評価表の確認をもって、SGL活動の概要を把握した。その後班を編制し、全半はSDGsスゴロクを実施した。スゴロクは編制した班ごとに行い、SDGsの目標について、止まったマスに応じてクイズを答える形式のものであった。後半は貧困の輪について考えた。SDGsの目標のうちの1つである「貧困をなくそう」に関連した資料をクラスで読み、「貧困」からはじまる派生図と、あらかじめ与えられたキーワードを用いて「貧困の輪」を班毎に作成、それらをクラス全体で発表し、班の意見を共有した。

【生徒の学びと教育的効果】

地域が抱える具体的な問題を、豊明市長のビデオメッセージを通じて知ることができた。外国人市民や高齢者福祉など、社会全体の一般的な問題として生徒は捉えてしまいそうな課題であるが、当事者から話を聞くことで、地域課題として捉えることができたように感じた。

SDGsスゴロクを通じて、それぞれの目標の概要を把握することができた。また、ボードゲームの要素もあったことから、アイスブレイクとしても機能し、新しいクラスメイトとの緊張をほぐすこともできた。とくに、SDGsの目標のうちの1つである「貧困をなくそう」については、後半の「貧困の輪」を実践したことから、その概要だけでなく、その目標を達成する方法について考えることができた。このことは、持続的な世界を実現するために設定されたSDGsの目標の達成にあたり、個人や組織レベルでどのような取り組みが求められているのかを自ら考え、困難な課題に挑戦する姿勢を育んだ。

【育成の評価と改善点】

「SDGsスゴロク」には非常に意欲的に取り組む班が多く、授業前半は緊張した面持ちではあったものの、表情が良くなり徐々にコミュニケーションも増えていった。マス毎に用意された質問項目には答えるのに難しいものもあったが、楽しく取り組んでいる様子がうかがえた。このことは、後半の「貧困の輪」において、話し合いの活動を活発にする一助となった。「貧困の輪」では、1年1組での事だが、最後に並べた貧困の輪の順序が5班すべてで同じであった。断ち切るべきところは班それぞれの考えがあったが、さらに多様な考え方方が得られるように、与えるキーワードを工夫したい。

活動全般において、班での話し合いをする際、他の班員に意見をどう求めたらいいのかでつまずく班があり、教員による補助が適宜必要となる場面があった。班学習を不得手とする生徒のために、話を振る役として司会者を設定するなど、役割を与えるとよいかかもしれない。

1. 単元名：地域を知ろう
2. 学習内容：自分の住んでいる町を知る・豊明市を知る・高齢市民や外国人市民が多いことでどのような問題が生じるかを考える
3. ループリック評価：

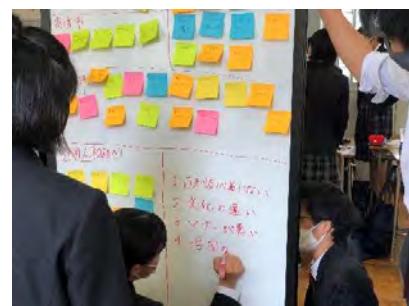
項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	SDGsに興味・関心をもつことができる	SDGsと地域課題を関連付けて考えることができる	SDGs推進や地域課題解決について自分の考えをもつことができる	SDGsや地域課題に対して自分たちにできる取組を考えることができる
協働性	グループ活動で相手の意見に耳を傾けることができる	グループ活動でお互いの意見を伝え合うことができる	グループ活動でお互いの意見の良いところを認め合うことができる	多様な意見をもとにグループとしての考えをまとめることができる
探究力	豊明市について、地域の特性を調べることができる	豊明市の地域課題に対する取組や活動について調べることができる	現地調査を通じて、地域の現状を知り、地域が求めるることを考えることができる	地域の課題解決を踏まえて花植えプロジェクトを企画することができる
発信力	グループ活動で自分の意見を伝えることができる	相手の意見に対する感想を伝えることができる	グループ内の意見をクラス全体の場で発表することができる	他のグループの意見を踏まえて、自分の意見をクラスで発表することができる

4. 授業進行表

【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目 (5分) (10分) (10分)	【TL 探究】 自分の住んでいる地域を知る(25分) ・住んでいる地域の魅力を知る。 ・市町村の統計データから地域の現状を知る。 ・地域の魅力と現状を発表する。 豊明市を知る(25分) ・豊明市の魅力を考える。 ・豊明市の魅力を検索する。 ・統計データから豊明市の現状を知る。 ・豊明市の魅力と現状を発表する。	・住んでいる地域の魅力を考え、調べる。 ・市町村HPから基礎データ(人口・世代構成・外国人の数と出身国)を調べる。 ・班内で地域のことを1人1分で発表し合う。 ・登下校での情報やイメージで豊明市の魅力として思い浮かぶことを出し合う。 ・ネットの情報から魅力を探る。 ・豊明市HPから基礎データ(人口・世代構成・外国人の数と出身国)を調べる。 ・クラスを代表して1つ班が発表する。追加情報を他の班が発表し、情報を補足する。	・iPad使用可を伝える。 ・市町村で出ない場合「愛知県の人口、愛知県外国人データ」で検索させる。 ・ワークシートに記入させる。時間があれば各班の情報をクラスで共有する。 ・iPadでの検索無しで、今までの経験や記憶から話し合わせる。 ・iPadで検索させて魅力を調べさせる。 ・出ない場合「愛知県の人口、愛知県外国人データ」で検索させる。 ・様々な魅力を多く出させる、基礎データは正確な情報を理解させる。	
2限目 (10分) (10分) (5分)	高齢者・外国人のデータをまとめる(10分) ・高齢市民の人口割合を理解する。 ・外国人市民の出身国の割合を理解する。 どのような問題が生じるかを考える(20分) ・高齢市民や外国人市民が多いことで地域に生じる問題について考える。	・ワークシートの円グラフに0~14、15~64、65歳以上の3つの構成で分ける。 ・ワークシートの円グラフに上位4か国とその他の構成で分ける。 ・高齢市民と外国人市民のどちらかの課題について検討するかを決める。 ・選んだ課題で地域に生じる問題点を5つあげ、根拠を示しながら順位付けをする。	・正しい高齢比率(%)を理解させる。 ・正しい出身国の割合を理解させる。 ・感想を発表または記入させる。	
(20分) (10分) (5分) 10:45	・各班が考えたことを発表し、共有する。 ・ワークシートを回収する。	・それぞれの班が順位付けとその理由を発表する。 ・iPadでワークシートの画像をとってから、提出する。	・高齢市民の班と外国人市民の班が偏りすぎないようにする。 ・多様な問題点が出るように促す。 ・なぜその順位付けになるのかの理由を説明できるように話し合わせる。 ・多様な意見があり、視点によって順位付けも変わることを理解させる。 ・回収後、トイレ休憩をとり、アラカルト講座の会場へ移動するよう指示する。	
3限目 12:45	【TG 探究】 アラカルト講座を受講し、世界各地の現状や課題を聞く。※講師名（主活動国） ①内海悠二（アフガン・ヨルダン） ②江口由希子（トンガ） ③柳田由衣（スリランカ） ④玉置美春（カンボジア） ⑤後藤千明（エジプト・スーダン） ⑥荒木美恵子（ジャマイカ） ⑦林研吾（SDGs） ⑧大島風花（ナミビア） ⑨佐藤邦子（東ティモール） ⑩永石雅史（東ティモール、フィリピン） ・質疑応答 ・ワークシート記入・回収	・世界各地の現状や課題について、講師が活動されたことや経験を知る。 ・世界規模の課題や地域課題をどのように考えているかを知る。 ・興味、関心のある事柄についてメモをとり、疑問や質問があれば積極的に訪ねる。 ・質問する。 ・ワークシートにまとめる。	・生徒単位の移動になるので、それぞれの生徒にどこへ行くべきかを確實に認識させる。 ・教室移動の際は、速やかに行動させる。 ・各講座の発表や質疑応答が円滑に進むように支援する。 ・号令係、お礼の挨拶係に適宜指示する。	
4限目 12:45			・ワークシートを回収する。 ・講師をSGL室へ案内する。	

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

授業の前半では、生徒それぞれが住んでいる地域の魅力や市町村の統計データを調べ、各探究班内において相互に発表した後、今度は探究班ごとに、豊明市の魅力や統計データを調べ、クラス内にて発表した。また後半では、10名の講師によるアラカルト講座を実施した。

前半の活動においては、探究的、協働的な学習を簡単に実施することで、探究学習における基礎的・基本的な技能を身につけさせるとともに、協働性、探究力、発信力を広く養うことを学びの狙いとした。

アラカルト講座は、全学年合同で実施した。受講したい講座について事前に希望調査をとっており、各講座の人数は40名程度で編成した。講師の先生方による2時間程度の講義を受講した後、統一のワークシートを記入させる。世界各地の現状や課題について、講師の方々が活動されたことや経験されたことを聞くことで、地球規模の課題について深く考えるきっかけとし、グローバルマインドを身につけることを狙いとした。

【生徒の学びと教育的効果】

前半の活動においては、ホワイトボードと付箋を用いて調べたことをまとめた。これまでの地域協創学で実施してきた、付箋を用いての協働活動では、ブレーンストーミングやKJ法を指導してきた。これらの手法を、今年度も取り入れることで班での話し合い活動を活発にさせたい。

後半のアラカルト講座は、各生徒1講ずつの受講であった。それぞれの先生方がしてきた体験や、物事の考え方は生徒にとって大変刺激となり、生徒の関心や意欲を喚起させる効果があった。また、学年をまたいで活動であったため、交流学習の要素が一端にあったことから、他者を尊重する態度を育む効果があったと感じた。

【育成の評価と改善点】

新学年が始まったばかりということもあり、生徒間の日常でのコミュニケーションはそれほど頻繁には起こらないが、グループで話し合いをする際は、非常に活発にコミュニケーションを図る姿勢がある。また、自分の考えを発言したり、相手の意見を聞いたりする中でお互いを認め合う姿が確認できる。

1日の活動としては、内容が盛りだくさんとなっている。また一つひとつの活動の意味や関連性をきちんと理解させるように展開を工夫しなければ、それぞれの独立した内容の活動となってしまう点に注意が必要である。ブレーンストーミングとKJ法は生徒も実践がしやすいようであるが、グループピーリングする際は指導者の力が必要なグループがある点も要注意である。

- 単元名：カンボジアを知る・花あふれる街プロジェクト
- 学習内容：カンボジアが抱える課題を知り、どのような支援が必要かを議論する。割り当てられた花壇設置場所の状況を把握する
- ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	SDGsに興味・関心をもつことができる	SDGsと地域課題を関連付けて考えることができる	SDGs推進や地域課題解決について自分の考えをもつことができる	SDGsや地域課題に対して自分たちでできる取組を考えることができる
協働性	グループ活動で相手の意見に耳を傾けることができる	グループ活動でお互いの意見を伝え合うことができる	グループ活動でお互いの意見の良いところを認め合うことができる	多様な意見をもとにグループとしての考えをまとめることができる
探究力	豊明市について、地域の特性を調べることができる	豊明市の地域課題に対する取組や活動について調べることができる	現地調査を通じて、地域の現状を知り、地域が求めるることを考えることができる	地域の課題解決を踏まえて花植えプロジェクトを企画することができる
発信力	グループ活動で自分の意見を伝えることができる	相手の意見に対する感想を伝えることができる	グループ内の意見をクラス全体の場で発表することができる	他のグループの意見を踏まえて、自分の意見をクラスで発表することができる

4. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目 (15分)	【TG 探究】 <ul style="list-style-type: none">カンボジアオンラインツアービデオ視聴 (R2/2/13)カンボジアの派生図①の作成	<ul style="list-style-type: none">カンボジアオンラインツアービデオを見て、カンボジアを振り返る。カンボジアの派生図①を作成する。	<ul style="list-style-type: none">昨年度のカンボジアオンラインツアービデオ（一部）をプロジェクトで投影し視聴させる。（事前ダウンロード）ビデオの内容から派生図を作らせる。Cambodia Mines-remove Campaign のビデオ（一部）をプロジェクトで視聴させる。（事前ダウンロード）①とは違いのある派生図を作らせたい。	
(10分)				
(15分)	<ul style="list-style-type: none">別のビデオ視聴により、カンボジアの別の面についての理解カンボジアの派生図②の作成	<ul style="list-style-type: none">CMCという団体の地雷・教育・貧困についてのビデオを見る。改めてカンボジアの派生図②を作成する。		
(10分)	<ul style="list-style-type: none">カンボジアについて支援すべき分野の検討と話し合う分野の決定	<ul style="list-style-type: none">2つの派生図から、支援すべきだと思う分野やテーマを列举し、3つの分野に絞る。		
2限目 (20分)	<ul style="list-style-type: none">具体的な支援内容と期待できる変化の検討（できる限り多くのアイディアを出す）	<ul style="list-style-type: none">3つの分野について①具体的にどのような支援が必要か、②その支援で期待される変化について、自分の考えを付箋に書く。		
(15分)	<ul style="list-style-type: none">同じような考えを集めて分類・整理及び1つの支援分野と内容に焦点化、現状と課題の検索	<ul style="list-style-type: none">考えを分類して整理し、班として最重要支援分野と内容を選び、それについて、iPadを使って現状と課題について調べる。		
(15分)	<ul style="list-style-type: none">班でまとめた内容の発表	<ul style="list-style-type: none">各班の代表者が、まとめたことをクラス全体に発表する。（余裕があれば質疑応答）		
3限目 (10分)	<ul style="list-style-type: none">TG 探究の振り返りとまとめホワイトボードの記録（写真係）	<ul style="list-style-type: none">ワークシートに記入し6月5日カンボジアオンライン講義での質問を考える。	<ul style="list-style-type: none">今回考えたことが、オンライン講義での質問に繋がるよう指導する。	
(5分)	<ul style="list-style-type: none">花あふれる街プロジェクトの理解	<ul style="list-style-type: none">先輩から、昨年の活動の様子について話を聞く。（1組：栗原・加藤、2組：田岡・木許、3組：畠山、4組：高原）	<ul style="list-style-type: none">2年生から1年生に向けて、活動を通して得た経験、学んだ事について特に話してもらう。必要に応じて、プロジェクトを利用する。	
4限目 (20分)	<ul style="list-style-type: none">花壇設置場所の確認	<ul style="list-style-type: none">各クラスに割り当てられた花壇設置場所へ移動し、現在の状況を把握する。	<ul style="list-style-type: none">1組：豊明団地 2組：大蔵池公園・はざま公園 3組：三崎水辺公園 4組：前後駅前広場到着したら、割り当てられた区域を簡単に整備する。	<ul style="list-style-type: none">1組・3組はバスで移動するため、時刻に注意する。 (1組：11時27分 3組：11時41分)バスの乗車状況に応じて、人数を調整する。必要であれば、11時57分の便も利用する。抜いた雑草を持ち帰るためにゴミ袋を用意しておく。学校へは戻って来ずに、現地にて解散指示を出す。

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

昨年度のカンボジアオンラインツアーアの動画を視聴した後、カンボジアについて支援すべき内容を各班で考え話し合い、クラス内で発表することで共有した。後半では、2年生から昨年の活動の様子について話を聞いた後、割り当てられた花壇設置場所へ移動し、現在の状況を確認することで、花溢れる街づくりプロジェクトの概要を理解した。

授業の前半では、カンボジアの現在の状況を知り、支援の内容について考えることで、グローバルな視点を身につけること、視野を広げ好奇心を育むことを狙いとした。後半では、実際に自分のクラス・班が担当する花壇を目で見て確認し、花壇の整備を行いながら、どのような花壇の形にするか、花の色や高さなど異なるたくさんの種類があるなかで、どの花をどのように配置し植えるかといったイメージを膨らませることで、花溢れる街づくりプロジェクトについて大まかな見通しを立てることを狙いとした。

【生徒の学びと教育的効果】

カンボジアの現在の状況を知る手段として、昨年度実施したオンラインツアーアの動画を視聴した。コロナ禍において、リアルタイムでのオンラインでなくても、最近の現地の様子を動画で確認できたことは、生徒たちの見聞を広めるために十分機能した。さらに、カンボジアに対する支援策を各班で考える活動において、派生図を活用した。前時に引き続き派生図を利用したことで、それぞれの班において、効果的に活用する様子がうかがえた。このことは、学習に対する肯定的な態度を育てる効果があった。

花溢れる街づくりプロジェクトにおいて、実際に花を植える場所を確認する際、花壇整備のほかに、可能な範囲で周辺環境の散策も行い、周囲にある施設やお店など、どのような街のなかに花壇があるのか、どういう人々が近辺で生活するのかなども確認した。

【育成の評価と改善点】

本時の活動は、主に探究力を養うものであった。前半の活動における動画の視聴は、コロナ禍において様々な活動が制限される中で、海外の文化に触れることができる活動である。話し合い活動を活発にさせたことから、今後も適宜取り入れたい。

昨年度花壇を作成した生徒にクラスまで来てもらい、昨年度の取組の報告を聞き、実際に現地へ行く活動は、花溢れる街づくりプロジェクトの概要を理解する上で十分な活動であった。しかし、生徒が実際に花壇へ赴き活動をする回数は限られているため、今後は花壇整備だけでなく、協力団体とのコミュニケーションの機会を設ける等工夫をすることで、フィールドワークをさらに充実させたい。

- 単元名：花あふれる街プロジェクト・カンボジアオンライン講義
- 学習内容：地域・地区とそこに住む人々について調べる・カンボジアの現状を知り、SDGsに繋がる発想を身につける。
- ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	SDGsに興味・関心をもつことができる	SDGsと地域課題を関連付けて考えることができる	SDGs推進や地域課題解決について自分の考えをもつことができる	SDGsや地域課題に対して自分たちでできる取組を考えることができる
協働性	グループ活動で相手の意見に耳を傾けることができる	グループ活動でお互いの意見を伝え合うことができる	グループ活動でお互いの意見の良いところを認め合うことができる	多様な意見をもとにグループとしての考えをまとめることができる
探究力	豊明市について、地域の特性を調べることができる	豊明市の地域課題に対する取組や活動について調べることができる	現地調査を通じて、地域の現状を知り、地域が求めるることを考えることができる	地域の課題解決を踏まえて花植えプロジェクトを企画することができる
発信力	グループ活動で自分の意見を伝えることができる	相手の意見に対する感想を伝えることができる	グループ内の意見をクラス全体の場で発表することができる	他のグループの意見を踏まえて、自分の意見をクラスで発表することができる

4. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目 (10分)	【TL 探究】 花溢れる街づくりプロジェクトの趣旨を理解する。	話を聞く。	地域課題解決の第1ステップとして、地域住民とコミュニケーションを取り、交流・協働するということを理解させる。	
(25分)	協働できる地域団体のリストを確認し、各地域団体がどのような活動をしている団体なのかを調べる。	タブレットを用いて調べ、調べた内容をワークシートに記入する。 ・団体名 ・団体の活動内容		
(5分)	協働したい地域団体の希望を出す。	調べた内容をもとに、各班で協働したい地域団体の希望の順を決める。	誰と協働するか又は誰に協働をサポートしてもらうかを考えさせる。	
(10分)	各班の希望を調整し、各班と協働する地域団体を決める。地域団体の代表者名と連絡先を確認する。	決定した協働する団体の、団体名と代表者名・連絡先をワークシートに記入する。	協働する地域団体を決める際、できるだけ各班の希望に沿うように配慮する。	
2限目 (10分)	今後のスケジュールを確認する。担当する花壇の場所を確認する。	ワークシートに書かれたスケジュールの概略を参照しながら確認する。	花を植えた後、花壇の水やりなど管理・整備を定期的に実施する必要があることを把握させる。	
(40分)	地域団体へ説明するためのスライド資料を班内で協働して作成する。 (google スライドを班内で共有して作成する)	花壇づくりの計画を立てながら資料作成を進める。 ・どのような花壇にしたいか。 ・必要な道具や備品は何か。 ・植えたい花、花の仕入れ先。など	各班でどのような計画を考えているか把握する。 季節によって仕入れることのできる花が異なることを伝えておく。	
3限目 4限目 (15分)	【TG 探究】 カンボジアオンライン研修 ・カンボジア近代史	・普段の授業を受ける姿勢で、オンライン研修を受講する。	・オンラインではあるが、研修を聴く姿勢や態度に留意させる。 ・前回の事前学習をもとに、スムーズな質疑がおこなえるよう事前指導をしておく。 ・3年5組⇒1組の順で質疑をおこなわせる。 ・時間に遅れないよう、指示をする。	
(15分)	・内戦経験者の体験談	・内戦経験者の体験談を聞く。		
(10分)	・質疑応答	・きちんとした言葉使いで質問をする。		
(10分)	・休憩	・時間内に席に戻る。		
(15分)	・地雷撤去活動団体職員の講義	・地雷撤去活動団体職員の講義を聞く。		
(10分)	・質疑応答	・きちんとした言葉使いで質問をする。	・1年4組⇒1組の順で質疑をおこなわせる。	
(15分)	・学校設立支援団体職員の講義	・学校設立支援団体職員の講義を聞く。		
(10分)	・質疑応答	・きちんとした言葉使いで質問をする。	・2年6組⇒1組の順で質疑をおこなわせる。	
(5分)	・まとめ ・感想や意見	・オンライン講義を受けた感想や意見を入力し、提出をする。	・Google Classroomにて配信されたフォームにて、感想や意見を入力するよう指示する。	

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

授業の前半では、各班が協力する団体を決定し、「花溢れる街づくりプロジェクト」についての計画を立てながら、協力する地域団体の方々に説明するための、スライドの作成を始めた。後半では、カンボジアについての講義をオンラインで受講した。

花溢れる街づくりプロジェクトにおいて、主体性、協働性、探究力、発信力を総合的に養うことを狙いとしている。今回の活動では、発信力を養うことを主な狙いとした。前時の活動において、オンライン研修に向けた事前学習を行っている。本時の活動では、グローバルな視点を獲得することを狙いとしているが、事前学習を実施したこと、その効果が高まることに期待している。

【生徒の学びと教育的効果】

前年度の活動では、協力する地域団体を生徒が調べてアポイントメントをとり決定していったが、今年度は予め決まっている地域団体の中から協力する団体を決定する。そのため、地域団体の方々とコミュニケーションをとる機会が増え、より充実した協働活動が展開されることを期待している。そのきっかけとなるプロジェクトの概要説明のためのスライド作成は、発信力を養うだけでなく、協働性を身につける効果もあった。

後半のオンライン研修は各クラスで教室のプロジェクトを用いて実施された。内戦経験者のお話と、地雷撤去活動団体職員の方のお話をリアルタイムでお伺いすることができ、質疑応答の機会も設けることができた。カンボジアの課題に精通する方々からの話を聞き、より具体的な内容を知ることができたことは、学習者の見聞を広める事のできた活動であった。

【育成の評価と改善点】

協働する相手のことを思い、計画を練ることの大切さを継続的に指導する必要があったことが、前年度の活動の反省点としてある。目に見えない心構えや姿勢についての指導だけでなく、連絡を取る際の言葉遣いや、実際にお会いする際の作法などの指導も十分にしたい。そのため、スライドの作成においては、計画の段階で考え得る問題点の解決方法を考えておく事や、外国人市民に向けたスライドでは外国語も併用するなど、説明における配慮をするよう声掛けをしていく。

後半のオンライン研修は、質疑応答の機会があったが、基本的には話を一方的に聴く時間であったため、生徒の集中が切れる様子がしばしば見られた。事前学習が効果的に機能するためにも、質疑応答の機会を増やすなどの工夫をしたい。

- 単元名：パラオと沖縄の貧困、移民、犯罪とSDGs・花あふれる街プロジェクト
- 学習内容：日本で得られる情報からは知ることのできないパラオの現状を知り、SDGsに繋がる発想を身につける。
- ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	SDGsに興味・関心をもつことができる	SDGsと地域課題を関連付けて考えることができる	SDGs推進や地域課題解決について自分の考えをもつことができる	SDGsや地域課題に対して自分たちにできる取組を考えることができる
協働性	グループ活動で相手の意見に耳を傾けることができる	グループ活動でお互いの意見を伝え合うことができる	グループ活動でお互いの意見の良いところを認め合うことができる	多様な意見をもとにグループとしての考えをまとめることができる
探究力	豊明市について、地域の特性を調べることができる	豊明市の地域課題に対する取組や活動について調べることができる	現地調査を通じて、地域の現状を知り、地域が求めるることを考えることができる	地域の課題解決を踏まえて花植えプロジェクトを企画することができる
発信力	グループ活動で自分の意見を伝えることができる	相手の意見に対する感想を伝えることができる	グループ内の意見をクラス全体の場で発表することができる	他のグループの意見を踏まえて、自分の意見をクラスで発表することができる

4. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目 (10分)	【TG 探究】 パラオオンライン講義の準備 Kahoot!へのログイン（準備） パラオオンライン講義 ・パラオと沖縄の移民・貧困・犯罪 ・ビデオ「1000 以上残るパラオの日本語」 ・第一次世界大戦、国際連盟と委任統治 ＜クイズ(Kahoot!)＞ ・日本にもある借用語 ・即席パラオ語	・班ごとに机を並べ、講義を受ける体制を整える。 ・班ごとに iPad 1 台を使い、Kahoot!にログイン（学年一クラス一班名）し、クイズの準備を行う。 ・普段の授業を受ける姿勢で受講する。 ・ビデオを拝聴し、パラオ語の中に数多くの日本語が混じっていることを理解する。 ・1919 年からの日本委任統治領時代の状況を理解する。 ・手際よく Kahoot!に参加する。素早く班で話し合い、答えを導きだし、入力する。 ・パラオ語の練習に、積極的に参加する。	・以下の点に注意し環境を整える。 ①班ごとの体制を整える。 ②代表の 1 つの班に中継用 iPad を設置する。 ③マイク OFF、カメラ ON の状態にして zoom に入室する。 ④生徒の iPad を班ごとに 1 台準備させ、Kahoot!に入室させる。ニックネームを「学年一クラス一班（例：1年1組1班）」とさせる。 ⑤クラス内が静かになったところで、マイクを ON にする。その際には、会話が相手に伝わることを留意させる。	
(25分)	・パラオの貧困・犯罪・移民 ※パラオより中継（インタビュー形式）※【特別ゲスト】ジェニファー・アンソン女史（パラオ大統領府国家安全保障局局長） ・パラオと八重山の SDGs ・イリオモテヤマネコか人間か（皇太子殿下の手紙（回答）から） ・「石垣空港物語」珊瑚か経済か ・パラオ海洋保護区と水産資源	・Kahoot!終了後、再び講義を受ける体制を整える。 ・パラオの貧困、犯罪、移民について、日本から得られる情報の差異について理解する。 ・2 年次の修学旅行への導入として、訪れる八重島諸島の歴史、環境などについて理解を深める。 ・3 名の生徒で、手紙を読み上げる。 ・代表生徒より、今回の講義についての謝辞を述べる。	・日本一ニュージーランド一パラオの 3 か国同時中継であることから、通信状況が悪くなったときは、その場を取り次ぐ。 ・2 年次には八重島諸島への修学旅行が実施されることから、その事前学習として、講義の内容を捉えさせる。 ・事前に指導しておく。	
2限目 (15分)	・休憩	・指定された時間に席へ戻る。	謝辞代表生徒・2年4組生徒	
(10分)	・感想（Google フォーム）	・言葉遣いに気をつけ、感想を入力し、送信する。	・休憩時間を伝える。	
(20分)	・片付け	・机を元の状態に戻す。	・Google Classroom にて配信されたフォームにて、アンケートや感想を入力するよう指示する。	
3限目	各班でそれぞれの企画書を作り上げる。 ・どのように連絡をとるか。 ・どのような花壇にしたいか。 ・どのくらいの期間がかかるか。 ・どのような花を植えたいか。 ・予算はいくらか。	・花壇のイメージを考える。 ・必要な時間を考える。 ・植えたい花、花の仕入れ先を考える。 ・使える予算の額を考慮する。	予算は、各班 10,000 円。 各班でどのような計画を考えているか把握する。	

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

授業の前半では、パラオについての講義をオンラインで受講した。後半は、「花溢れる街づくりプロジェクト」についての計画を立てながら、協力する地域団体の方々に説明するための、スライドの作成を進めた。

活動の大まかな内容としては、前時と同様である。花溢れる街づくりプロジェクトにおいて、主体性、協働性、探究力、発信力を総合的に培うことを狙いとしており、とくに発信力を養うことを狙いとしている。オンライン研修では、グローバルな視点を獲得することを狙いとしている。パラオについてより深く学ぶことで、グローバルな視点を身につけ、視野を広げることで好奇心を育みたい。

【生徒の学びと教育的効果】

花壇構想については、花の色合いや背丈をイメージしながらデザインを順調に考案している様子であった。花の苗や土、肥料の費用が実際にいくらかかるのか、どこで仕入れるのか等、グループで話し合う様子が見られた。また、高齢者や外国人市民にも企画の趣旨が伝わるように、スライドの工夫の方法についての提案も盛んであった。他者からの視点で物事を考えることは非常に有意義であり、協働性を育む効果が期待される。

今回のオンライン研修では、Kahoot!を用いて、パラオに関する簡単なクイズが実施された。前時と比較すると、双方向での活動が充実しており、パラオについてより深く学ぶことができた。さらに、日本語が数多く混じっているというパラオ語のユニークな特長が、生徒の興味・関心を引いていた。

【育成の評価と改善点】

「花溢れる街づくりプロジェクト」に関する生徒の理解に課題がある。なぜ花壇を協働作成するのかについてあまり理解しておらず、どんな花壇を作るのかについての考えを深めるグループが多い。花壇を作ることが目的ではなく、花壇作成を通して地域の方と接点を持つことが目的である。他者を招いて実施することについて十分考えさせ、外部の方に、いかに協力を仰ぐのかを重点的に指導することで、趣旨を理解したうえで花壇作成の理由や目的を協働団体に伝える準備を行うよう指導したい。

オンライン研修では、クイズに解答する機会が適宜設けられていたことから、前時と比較すると生徒が集中して受講する様子が見られた。オンライン研修においては、生徒が集中して受講できるよう、話を一方的に聞く形式をできるだけ避け、能動的な学習の機会を取り入れたい。

1. 単元名 :花あふれる街プロジェクト・シンガポールオンライン講義
2. 学習内容:花溢れる街プロジェクトを進める・シンガポールの概要、多文化共生など学び、SDGs に繋がる発想を身につける。
3. ループリック評価:

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	SDGsに興味・関心をもつことができる	SDGs と地域課題を関連付けて考えることができる	SDGs 推進や地域課題解決について自分の考えをもつことができる	SDGs や地域課題に対して自分たちにできる取組を考えることができる
協働性	グループ活動で相手の意見に耳を傾けることができる	グループ活動でお互いの意見を伝え合うことができる	グループ活動でお互いの意見の良いところを認め合うことができる	多様な意見をもとにグループとしての考えをまとめることができる
探究力	豊明市について、地域の特性を調べることができる	豊明市の地域課題に対する取組や活動について調べることができる	現地調査を通じて、地域の現状を知り、地域が求めるることを考えることができる	地域の課題解決を踏まえて花植えプロジェクトを企画することができる
発信力	グループ活動で自分の意見を伝えることができる	相手の意見に対する感想を伝えることができる	グループ内の意見をクラス全体の場で発表することができる	他のグループの意見を踏まえて、自分の意見をクラスで発表することができる

4. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目 2限目	【TL 探究】 以下の2つの活動に取り組む。 ①7月17日に予定されている、各班の協力団体に花溢れる街プロジェクトの概要説明をする場所と時間を決定するため、協力団体の代表の方に電話をする。 ②各班でそれぞれの企画書を作り上げる。 ・どのような花壇にしたいか。 ・どのくらいの期間がかかるか。 ・どのような花を植えたいか。 ・予算はいくらか。	①それぞれの班で選出した代表者2名は、指定された時間帯に2号館校長室または事務室へ行く。協力団体の代表者の方に電話をして、花溢れる街プロジェクトの概要説明に向けてアポイントメントをとる。 時間と場所は、以下の通りです。 (事務室) 1限: 1組 2限: 2組 (校長室) 1限: 3組 2限: 4組 ②グーグルスライドを用いて、企画書を作り上げる。 ・花壇のイメージを考える。 ・必要な時間を考える。 ・植えたい花、花の仕入れ先を考える。 ※花が咲く時期に注意する ・使える予算の額を考慮する。 ※花壇で使用する土に注意する	①概要説明の日時・場所は、特に指定がなければ7月17日10:00頃、星城高校で実施できるように提案させる。 昨年概要説明をした場所は以下の通りです。 (豊明団地) 自治会ホール、けやきテラス、星城高校、星の城幼稚園 (大蔵池公園・はざま公園) 桜ヶ丘公民館、館区民会館、桶狭間区民会館、長作集会所、ぴいす (前後駅) 花き市場、星城高校、いつぶく (三崎水辺公園) egao屋、三崎総合会館、星城高校、けやきの会(月・水・金15:00まで) ②各班でどのような計画を考えているか把握する。完成したスライドについて、概要説明までに各担任の先生方で一度チェックをお願い致します。	
3限目 4限目 (5分)	【TG 探究】 シンガポールオンライン研修 ・シンガポール概要説明	・普段の授業を受ける姿勢で、オンライン研修を受講する。 ・シンガポールの概要を理解する。 (人口・面積・時差・公用語・学校制度など)	・オンラインではあるが、研修を聞く姿勢や態度に留意させる。 ・以下の点に留意し環境を整える。 ①2限終了後、直ちに準備を行う。 ②マイクオフ、カメラオフの状態にしてzoomに入室する。 ③質疑応答などの際、マイクのオンオフがスムーズに行える体制を整える。	
(5分)	・市内観光地の紹介 ※ビデオ視聴	・著名な観光地を見学し、理解を深める。	・1年生1組~4組(4クラス)	
(20分)	・テロックアイヤーストリート (複数の宗教が存在する通り)	・複数の宗教が同じ空間に存在することを確認し、多文化共存の理解を深める。		
(15分)	・質疑応答	・きちんとした言葉使いで質問をする。		
(8分)	・Harmony in Diversity Gallery ※ビデオ視聴	・相互理解、尊敬、感謝を築く重要性を学ぶ。		
(20分) (5分)	・ホーカーセンター ・クイズ形式での学び	・多国籍料理などについて、クイズ形式で学ぶ。きちんとした言葉使いで回答をする。	・回答を求められるような状況にあたっては、速やかに行う。 ・3年生1組~5組(5クラス)	
(5分) (7分)	・まとめ ・質疑応答	・まとめを聞く。 ・きちんとした言葉使いで質問をする。 ・代表生徒より、謝辞を述べる。	・2年生1組~6組(6クラス) ・謝辞代表生徒2年組	
	・感想や意見	・オンライン講義を受けた感想や意見を入力し、提出をする。	・Google Classroomにて配信されたフォームにて、感想や意見を入力するよう指示する。	

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

授業の前半では、7月17日に予定されている、各班の協力団体に花溢れる街づくりプロジェクトの概要説明をする場所と時間を決定するため、協力団体の代表の方に電話をした。併せて、「花溢れる街づくりプロジェクト」についての計画を立てながら、協力する地域団体の方々に説明するための、スライドの作成を進めた。後半は、シンガポールについての講義をオンラインで受講した。今回の活動が、協力団体の方々と初めてコミュニケーションをとる機会となる。この機会をもって、協働性を獲得することを狙いとしている。また、オンライン研修では、グローバルな視点を獲得することを狙いとしている。シンガポールについてより深く学ぶことで、グローバルな視点を身につけ、視野を広げることで好奇心を育みたい。

【生徒の学びと教育的効果】

地域の方々とやり取りを行うために、次回実際に協働団体の代表者とお会いし花壇作成の打ち合わせを行う上で、予算や実施日時・場所などに加えて、集合時間や集合場所、持ち物、連絡方法、どのように参加を募るのかなど、自分のグループが計画していることを理解している必要がある。このことに加えて、アポイントメントを取る際の注意事項に従うことや、言葉遣いに気をつけ連絡を行うことが求められる。電話を用いて、大人と話をするという経験が乏しいことが考えられたため、電話での会話におけるマナーなどをプリントにまとめて配布した。滞りなくアポイントメントを取ることができた生徒は、大きな達成感を得られたようだった。

後半のオンライン研修では、シンガポールについて学んだ。リアルタイムで、現地を見て回る形式であったため、オンラインツアーより近い講義であった。シンガポールの現在の様子を知ることができたことから、学習者の見聞を広めることのできた活動であった。

【育成の評価と改善点】

アポイントメントを取る電話連絡をしたことが、不足事項に気づくきっかけとなった。探究学習においては、失敗から学ぶことが大切である。地域の方々とやり取りをする際、その不足事項によって混乱が生じてしまうこともあるが、生徒だけではどうしても解決が困難な状況でなければ教員によるフォローはせず、生徒の力で解決させるよう導きたい。

後半で実施したオンライン研修は、リアルタイムで現地を回る様子が見られたことについて、生徒の良好な反応があった。コロナ禍において様々な活動が制限される中で、海外の文化に触れる機会として十分に機能している。今後も適宜、取り入れたい。

1. 単元名：協働する団体と会い、花壇づくりと今後の予定について説明する。
2. 学習内容：協働する団体と会う。花壇づくりの計画を説明する。必要に応じて花壇づくりを始める。
3. ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	SDGsに興味・関心をもつことができる	SDGsと地域課題を関連付けて考えることができる	SDGs推進や地域課題解決について自分の考えをもつことができる	SDGsや地域課題に対して自分たちにできる取組を考えることができる
協働性	グループ活動で相手の意見に耳を傾けることができる	グループ活動でお互いの意見を伝え合うことができる	グループ活動でお互いの意見の良いところを認め合うことができる	多様な意見をもとにグループとしての考えをまとめることができる
探究力	豊明市について、地域の特性を調べることができる	豊明市の地域課題に対する取組や活動について調べることができる	現地調査を通じて、地域の現状を知り、地域が求めるることを考えることができる	地域の課題解決を踏まえて花植えプロジェクトを企画することができる
発信力	グループ活動で自分の意見を伝えることができる	相手の意見に対する感想を伝えることができる	グループ内の意見をクラス全体の場で発表することができる	他のグループの意見を踏まえて、自分の意見をクラスで発表することができる

4. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目	【AL 探究】 協働する団体の代表者と会う (現地集合) 花壇づくりの計画を説明する 質問・要望などを伺う 次回会う予定を決める	・事前に設定した場所に集合する ・班長は教員に出欠を報告する 現地で担任に報告又は連絡 ・協働する団体の代表者に挨拶する ・花壇づくりの計画を説明する (資料作成、必要があれば印刷) ・質問・要望などを伺う 答えられないことは持ち帰り後日回答する ・次回会う予定を決める (9/18 整備 or 10/16 当日)	1組 新田先生 → 豊明団地 2組 蟹江先生 → 大蔵池公園 3組 加藤先生 → 三崎水辺公園 4組 遠藤先生 → 前後駅前広場 事前に校外活動申請書を提出させる 事前に manaca を各班に渡す 事後に校外活動報告書を提出させる	
2限目	各クラスが担当する場所を確認し、各班が担当する範囲を整地する。	担当範囲の枯れた花やその周りの草などを刈り、土を均す。ゴミは各自持参の袋に入れる。 ブロックの並びが崩れている場所はできる限り修正する。 花の苗や肥料などを購入できる花屋などを確認する。 時間に余裕があれば、他の生徒は花壇作成場所の周辺環境を歩いて確認する。	ケガの無いよう各班員が協力して作業をすすめるように支援する。 学校のゴミ袋を持参し各生徒が集めたゴミをまとめる。 定期的に休憩時間を取り、水分補給などで熱中症を予防する。 生徒の力で実施可能な範囲の作業とし、無理にはさせないようにする。(9月・10月に本格的な花壇づくりを行う)	
3限目	解散する (現地解散)	クラス毎に解散する。		
4限目				

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

本時の狙いは、花壇作成当日に向け協働団体の代表者と直接打ち合わせを行い、資料を見せながら説明し代表者に理解をしてもらうことである。

代表者とのあいさつ・打ち合わせの後は、花壇の状況の再確認をして実際の花壇を前にしながら、次回の活動時にどんな作業が必要なのか、どう花壇をアレンジするのかなどを確認した。また花壇作成の当日はどこに誰が立って地域の方々を補助するのか、誰がどう仕切ってグループと団体を引っ張るのか、人の動線と危険なものや場所をイメージさせ、発注可能な花苗などの発注を行った。

【生徒の学びと教育的効果】

実際に協働してくださる方々の表情を見ながら話を進める際、代表者がしっかりと耳を傾け、話を聞いてくださったおかげで生徒たちも非常に話しやすい空気があった。生徒が主導で地域と協働して花植えを実施したいと申し出ていることに大変驚かれている方も見え、暖かい雰囲気でこの活動について支持をしてくださっている様子で、途中生徒たちより熱心に花や花を植えることについて熱く語られる方も見えた。また花壇や協働団体によっては、昨年度からの改善をお願いされたところもあり、そのグループが独自で考案したアイディアと協働団体からのものとの融合が求められた。生徒たちは改めて花壇構想を練り直すことで、アイディアが深まっていく様子があった。

【育成の評価と改善点】

生徒が自分で企画したものを参加者に伝え、実施する計画がいよいよ現実を帯びてきた。その計画を暖かく支援してくださる地域の方々と直接話し合うことができた。

本日の活動時に、協働団体の方々に向けて、昨年度の反省点を改善する提案をできずに終わってしまった。前年度の活動実績がうまく引き継がれなかったことが原因にあると考えている。来年度はこの点を改善しておかなければならない。

1. 単元名 :花あふれる街プロジェクト・アラカルト講座

2. 学習内容:花溢れる街プロジェクトを進める

3. ループリック評価

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	班で計画したことや先生からの助言を活かして前向きに取り組むことができる。	花壇づくりを通して自分の意見や考えたことを班員に伝え話し合うことができる。	地域の方々と積極的に交流を図りながら、花壇づくりをすすめることができる。	花植え後も地域の方々とコミュニケーションを取り花壇を管理することができる。
協働性	班員の意見を大切にしながら、協力して花壇づくりに取り組むことができる。	地域の方々に事前に説明やお願いをし、協働する団体を見つけることができる。	地域の方々と協働しながら、花壇づくりや花植えを実施することができる。	花植え後も水やりや花壇整備などを通して地域の方々と交流することができる。
探究力	地域の方々に喜んでもらえるように、花壇づくりの計画を立てることができる。	予算を活用して、値段や購入先を検討しながら計画をすすめることができる。	花壇づくりを通して地域の方々に地域課題について聞き取りすることができる。	花植え活動を地域課題解決にどのようにつなげられるかを考えることができる。
発信力	花壇づくりの企画を地域の方々に伝える説明資料を班で作成することができる。	作成した資料をもとに地域の方々に花壇づくりの企画を説明することができる。	地域の方々の意見を聞き、完成した花壇づくりの計画を説明することができる。	自分たちが地域課題解決に向けて取り組んでいくことを発信することができる。

4. 授業進行表

【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目	【TL 探究】 2学期ループリック評価表と今後の流れを確認	ループリック評価の内容を確認する。	2学期のループリックを確認し、より高いレベルでの活動を目標とするよう指導する。	
2限目	花溢れる街プロジェクトの準備をする ・花・土などの注文準備や注文実施 ・9/18 の活動計画（花壇整備・花の撤去） ・10/16 の参加者（地域の方）リストの作成依頼 ・10/16 以後の管理・水やり計画の作成 ・10/30 の振り返りの活動計画	花・土などを業者に連絡し、注文を進める（前年度は主に LAP ガーデンを利用し、様々な助言を頂きました。） 花壇整備の計画を立てる。 花溢れる街プロジェクトの参加者名簿の準備・作成を依頼する。 花溢れる街プロジェクト後の花壇の管理・水やりをする当番を決め、計画を立てる。（12月上旬くらいまで） 振り返りのための計画を立てる	時期的に購入できる花なのか、どのように注文するのか、取りに行くのか、持つてもらえるのかなどを確認させる。 ※予算の受け渡しを実施します（11,000円）。各班のサブリーダーに、印鑑を持ってきてもらうよう指示しておく 今回は、地域の方々との協力は依頼しません。 10/16 の活動において、参加者は保険に加入します。 前年度は主に毎週木曜・土曜日の授業後に水やりのために現地へ行っていました。 協力して頂いた団体の方々と一緒に振り返りを実施します。そのため、どこで・どのように行うのかを計画させる。 休憩時間を設け、アラカルト講座の会場へ移動するよう指示する。	
3限目	【TG 探究】オンラインで実施アラカルト講座を受講し、世界各地の現状や課題を聞く。※講師名（主活動国） ①内海 悠二（アフガニスタン等） ②内海 摩耶（南スーダン） ③江口由希子（トンガ王国） ④山田 修士（ドミニカ共和国） ⑤玉置 美春（カンボジア） ⑥後藤 千明（エジプト） ⑦荒木美恵子（ジャマイカ） ⑧林 研吾（SDGs） ⑨大島 風花（ナミビア） ⑩佐藤 邦子（東ティモール） ⑪永石 雅史（東ティモール等） ⑫古賀真紀子（アフガニスタン）	世界各地の現状や課題について、講師が活動されたことや経験を知る。	オンラインでの実施となるため、その準備を迅速に行う。各教室は PC を使ってプロジェクター投影し、iPad は授業風景の記録や、ホストとの連絡手段に利用する。	
4限目	ワークシート記入・回収	世界規模の課題や地域課題をどのように考えているかを知る。 興味、関心のある事柄についてメモをとる。 代表生徒はお礼の挨拶をする。	それぞれの生徒にどこへ行くべきかを確実に認識させる。 教室移動の際は、速やかに行動させる。 講座の修了後、挨拶係に適宜指示する。	
		ワークシートをまとめる。	ワークシートを回収する。	

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

今学期最初の授業であったため、今学期のループリック評価表を確認した。授業の前半では、「花溢れる街づくりプロジェクト」当日に向け、花・土などの注文準備や注文実施、前日までの花壇整備の計画を行った。後半では、オンラインでのアラカルト講座を受講した。

次回の活動において、花壇整備を実施し、準備を完了することになる。そのため、本時においては、その日時を計画することや、花壇整備を地域団体の方々と協力して実施するかどうかの検討などを行った。当日の花植え活動が滞りなく実施できるように、準備を整えることを狙いとしている。

アラカルト講座は、全学年合同で実施した。世界各地の現状や課題について、講師の方々が活動されたことや経験されたことを聞くことで、地球規模の課題について深く考えるきっかけとし、グローバルマインドを身につけることを狙いとした。

【生徒の学びと教育的効果】

本時の活動は、次回の花植え活動に向けた準備であったが、電話による花の注文や、花壇整備の計画に係る話し合い活動が盛んに行われていたことから、主体性、協働性、発信力を広く養う効果があった。

後半のアラカルト講座は、今年度2回目の実施となる。各生徒1講ずつの受講であったが、それぞれの先生方がしてきた体験や、物事の考え方は生徒にとって大変刺激となり、生徒の関心や意欲を喚起させる効果があった。

【育成の評価と改善点】

2学期の前半において、1学期から進めてきた「花溢れる街づくりプロジェクト」を完了させることとなる。ここまで活動において、その概ねの準備は完了しており、現地にて活動するフィールドワークを残すのみとなった。このプロジェクトでの狙いは、地域の方々と花壇を整える活動を通して、主体性、協働性、探究力、発信力を広く養うことである。今後の活動においても、日頃の指導や声掛けをもって、SGL活動全体の意義を理解させるようにしたい。

アラカルト講座について、課題解決についてグローバルな視点で考えさせ、SGL活動をさらに充実させることが主な狙いであったが、その枠を越えて、生徒それぞれの在り方や生き方について、関心や意欲を喚起させるものであった。今後も外部講師の協力をえて、教員にはない専門知識・技能を学習する機会をもって、効果的な指導をしていきたい。

1. 単元名 :花あふれる街プロジェクト
2. 学習内容:花溢れる街プロジェクトを進める
3. ループリック評価

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	班で計画したことや先生からの助言を活かして前向きに取り組むことができる。	花壇づくりを通して自分の意見や考えたことを班員に伝え話し合うことができる。	地域の方々と積極的に交流を図りながら、花壇づくりをすすめることができる。	花植え後も地域の方々とコミュニケーションを取り花壇を管理することができる。
協働性	班員の意見を大切にしながら、協力して花壇づくりに取り組むことができる。	地域の方々に事前に説明やお願いをし、協働する団体を見つけることができる。	地域の方々と協働しながら、花壇づくりや花植えを実施することができる。	花植え後も水やりや花壇整備などを通して地域の方々と交流することができる。
探究力	地域の方々に喜んでもらえるように、花壇づくりの計画を立てることができる。	予算を活用して、値段や購入先を検討しながら計画をすすめることができる。	花壇づくりを通して地域の方々に地域課題について聞き取りすることができる。	花植え活動を地域課題解決にどのようにつなげられるかを考えることができる。
発信力	花壇づくりの企画を地域の方々に伝える説明資料を班で作成することができる。	作成した資料をもとに地域の方々に花壇づくりの企画を説明することができる。	地域の方々の意見を聞き、完成した花壇づくりの計画を説明することができる。	自分たちが地域課題解決に向けて取り組んでいくことを発信することができる。

4. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目	【AL 探究】			
2限目	割り当てられた花壇を整備し、10月16日に花を植えられる状態にする	前回の活動で立てた計画に沿って、花壇を整備する。 ・雑草を抜く ・植えられた花を撤去する ・花壇の形を整える ・必要があれば、土を足したり入れ替えたりする	今回は、地域の方々との協力は依頼しません。	
3限目			当日は現地集合・現地解散となります。	
4限目		必要があれば、注文する花屋へ行き、品物を確認する	<p>1組：豊明団地 2組：大蔵池公園・はざま公園 3組：三崎水辺公園 4組：前後駅前広場</p> <p>私服での活動となります。(ビブス着用)</p> <p>スコップ等が必要であれば、事前にお知らせ下さい。</p> <p>時間ががあれば、花を注文する店舗に出向き、品物を確認する時間を割り当てて頂いても構いません。</p> <p>(予算・manaca の使い方について) ・予算は各クラス 11,000 円 ・予算受領印と会計報告書の作成 ・領収書の宛名は「星城高校」 ・各班のサブリーダが会計を行う</p> <p>各班 1 枚の manaca (残高 10,000 円以上が入金済み) が割り当てられており、その取り扱い方法に留意させる。 公共マナー、モラルの重要性を理解させる。 計画的な行動を心がけるよう指導する。</p> <p>新型コロナ感染症の予防対策を徹底する。 ・マスクを着用 ・対面での活動を極力避ける</p> <p>新型コロナ感染症の予防対策を徹底させる。 ・『密』にならないように作業するよう声かけをお願い致します。 ・地域の方々にご協力頂く場合には、ソーシャルディスタンスを保つなど、とくにご注意下さい。</p>	
	～10月16日に向けて～ ・当日地域の方々と集合時間について、10時を目処に設定してください。そのため植える花などについて、9時～10時の間で準備が整うようご指導宜しくお願い致します。 ・集合時間の連絡について、とくに問題が無ければ、名簿作成に係る御礼と併せてお伝え下さい。(2週間前ごろ)			

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

次回の「花溢れる街づくりプロジェクト」当日に向け、花壇整備を行った。

次回の活動まで日にちが空くため、本時での花壇整備に加えて、当日に近い日時の所で、授業外の時間帯でも花壇整備を実施することとした。そのため本時においては、主に花の撤去、雑草の除去をもって、準備を整えることとした。

【生徒の学びと教育的効果】

本時の活動は、次回の花植え活動に向けた準備であったが、花壇整備の中で話し合い活動が盛んに行われていたことから、協働性を養う効果があった。「花溢れる街づくりプロジェクト」に係る全体計画のうち、当日の花植え活動と、その後の振り返り活動を残すのみとなった。プロジェクト全体を通して、主体性、協働性、探究力、発信力が培われている。

【育成の評価と改善点】

次回の花植え活動当日は、自分たちで整えた花壇に、自分たちで招いた地域の方々にお花を植えてもらう仕上げの日になるが、生徒たちはとても楽しみにしている様子であった。このことが背景にあり、生徒の主体的な動きがいたるところで見られた。しかし、テスト週間に応じてSGL活動の日程を調整したことから、花壇整備を授業時間外で実施することとなってしまった。新たな授業を開発する上で、授業時間内に活動を完了させることができるように、次年度以降の計画を見直したい。

1. 単元名 :花あふれる街プロジェクトを実施する
2. 学習内容:地域住民(高齢市民と外国人市民)と協働して花苗を植え、花壇を完成させる。
3. ループリック評価

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	班で計画したことや先生からの助言を活かして前向きに取り組むことができる。	花壇づくりを通して自分の意見や考えたことを班員に伝え話し合うことができる。	地域の方々と積極的に交流を図りながら、花壇づくりをすすめることができる。	花植え後も地域の方々とコミュニケーションを取り花壇を管理することができる。
協働性	班員の意見を大切にしながら、協力して花壇づくりに取り組むことができる。	地域の方々に事前に説明やお願いをし、協働する団体を見つけることができる。	地域の方々と協働しながら、花壇づくりや花植えを実施することができる。	花植え後も水やりや花壇整備などを通じて地域の方々と交流することができる。
探究力	地域の方々に喜んでもらえるように、花壇づくりの計画を立てることができる。	予算を活用して、箇段や購入先を検討しながら計画をすすめることができる。	花壇づくりを通して地域の方々に地域課題について聞き取りすることができる。	花植え活動を地域課題解決にどのようにつなげられるかを考えることができる。
発信力	花壇づくりの企画を地域の方々に伝える説明資料を班で作成することができる。	作成した資料をもとに地域の方々に花壇づくりの企画を説明することができる。	地域の方々の意見を聞き、完成した花壇づくりの計画を説明することができる。	自分たちが地域課題解決に向けて取り組んでいくことを発信することができる。

4. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目	【AL 探究】			
2限目	花壇作成場所に集合する (出欠確認)	・花壇をつくる場所に集合する	事前に校外活動申請書を提出させる	
3限目	教員配置	9:00 豊明団地 大蔵池公園・はざま公園 三崎水辺公園 前後駅	事前にビーブスを配布する (事前に manaca を各班に渡す)	
4限目	1組 新田→豊明団地 2組 蟹江先生→大蔵池公園・はざま公園 3組 加藤先生→三崎水辺公園 4組 遠藤先生→前後駅	・服装は私服で汚れてもよい服装・ビーブス着用、ネックストラップ名札所持 ・持ち物はスコップと軍手、飲み物、タオル、雨合羽を持参	【名鉄バス】 1組 8:38 名鉄バス・豊明団地線 8:48 着 3組 8:57 名鉄バス・豊明団地線 9:04 着 出欠を確認する	
	協働する団体と合流し、全体での開始の挨拶をする	・班長は担任に出欠を報告する ・協働する団体と合流 1組 9:45 集合 2組 10:00 集合 3組 10:00 集合 4組 10:00 集合	事前にクラス代表生徒、各班代表生徒を指導しておく 写真係に活動中の撮影をするように指示する 生徒の活動の様子とともに、周囲の状況をよく確認する	
	花壇に花植えを行う	① 各クラス代表の生徒(又は担任)より ・全体会がそろって挨拶(全員) ・各班と協働団体に分かれて各花壇へ移動指示 ② 各班に分かれて班の代表者より ・参加のお礼と簡単な趣旨説明をする ・花植えについての注意事項を連絡する	ゴミ袋を持参する ほうきなどの清掃道具を持参する 写真係に撮影するように指示する	
	完成した花壇と参加した住民・生徒の記念写真を撮る 花壇完成後、班ごとに終了の挨拶をする	・協働する地域の人とコミュニケーションをとりながら花植えを行う。(会話をすること) ・地域の人々に喜んでもらえる花壇づくりを目指すので、雑な作業はしない ・周囲の迷惑にならないように目配りをしながら作業を進める ・土などで周囲が汚れるので、きれいに清掃する ・草などのゴミを袋に入れてまとめていく ・各班写真係は活動中の写真を撮る(作業前・活動中・完成時の写真) ・隣の班員に協力してもらい、集合写真を撮る ・花壇づくりが終了したら、担任へ報告する	事前に各班の代表生徒等を指導しておく 水やりの計画について相談する(基本的に生徒が計画表に沿って実施) 体調不良者やケガ人の有無などを確認する ゴミ袋・清掃道具を持って行く	
	解散する(現地解散)	・担任の指示で解散する	参加住民の方々へお礼を伝える	
			各探究班の集合写真を送信するように指示する 事後に校外活動報告書を提出させる	

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

各班において、地域団体の方々と協力し、花植え活動を行った。

地域協創学Ⅰにおける、最も主となる体験活動である。「花あふれる街プロジェクト」を通して、主体性、協働性、探究力、発信力を培うことを狙いとしている。地域の方々と実際に協働することから、とくに協働性に資する活動であることに期待した。併せて、地域の方々と花を植える中でコミュニケーションをとり、地域課題についてより深くリサーチすることを狙いとしている。

【生徒の学びと教育的効果】

前年度の花植え活動当日は、悪天候に見舞われたことから大幅に規模を縮小した形での実施となり、その活動自体も途中で切り上げ終了となった。このことから、昨年度の1年生はやりきれない思いをすることになった。天候によって大きく左右されてしまう活動であったが、今年度は天候に恵まれ、どのクラスも滞りなく実施することができた。地域の方々とも十分にコミュニケーションをとることができ、学びの狙いを達成する事ができた。この活動では、交流学習の要素があつたことから、他者を尊重する態度を育む効果があつたと感じた。

【育成の評価と改善点】

「花溢れる街づくりプロジェクト」に係るそれぞれの活動は、生徒の生きる力を総合的に育んでいる。花植え活動を成功させるための調査、計画は、主体的な学びそのものであり、協働する上で地域の方々と関わる機会は豊かな人間性を培っている。この活動を授業として確立していくために考えなければならないことの1つとして、柔軟な年間計画がある。例年、花植え活動当日は10月中旬に計画しているが、この時期は比較的雨天が多い。悪天候に見舞われると計画を変更せざるを得なくなり、場合によっては生徒のみでの実施となる。今年度のように滞りなく実施できるよう、綿密な計画を組むようしたい。併せて、授業時間内に必要な活動ができるよう計画したい。今年度は授業時間外に花壇整備をすることになった。授業時間外での実施となると、生徒全員が参加することを保証することが難しくなり、授業として一律に教育効果を発揮させられない。改めて、授業時間内で活動が一通り実施できるよう計画を工夫したい。

1. 単元名 :地元地域の視点から解決すべき地域課題について考える。
2. 学習内容:地元地域の住民のお話から地域の現状と課題について考える。
3. ループリック評価

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	班で計画したことや先生からの助言を活かして前向きに取り組むことができる。	花壇づくりを通して自分の意見や考えたことを班員に伝え話し合うことができる。	地域の方々と積極的に交流を図りながら、花壇づくりをすすめることができる。	花植え後も地域の方々とコミュニケーションを取り花壇を管理することができる。
協働性	班員の意見を大切にしながら、協力して花壇づくりに取り組むことができる。	地域の方々に事前に説明やお願いをし、協働する団体を見つけることができる。	地域の方々と協働しながら、花壇づくりや花植えを実施することができる。	花植え後も水やりや花壇整備などを通して地域の方々と交流することができる。
探究力	地域の方々に喜んでもらえるように、花壇づくりの計画を立てることができる。	予算を活用して、値段や購入先を検討しながら計画をすすめることができる。	花壇づくりを通して地域の方々に地域課題について聞き取りすることができる。	花植え活動を地域課題解決にどのようにつなげられるかを考えることができる。
発信力	花壇づくりの企画を地域の方々に伝える説明資料を班で作成することができる。	作成した資料をもとに地域の方々に花壇づくりの企画を説明することができる。	地域の方々の意見を聞き、完成した花壇づくりの計画を説明することができる。	自分たちが地域課題解決に向けて取り組んでいくことを発信することができる。

4. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目	【TL 探究】 地元地域で活動されている住民の方から 地域の現状と課題について話を聞く	・どのような活動をされているかを聞く ・地域課題をどのように考えているかを聞く ・高校生に期待したいことを聞く ・地域のことについて質問をする (事前に準備及び話を聞いて疑問に感じたこと) ・質問に対する返答を聞く ・お礼の挨拶をする	・趣旨を説明しておく ・必要に応じてワークシートにメモを取るように指示しておく ・正しい姿勢で話を聞くように促す ・積極的に質問するように促す ・やりとりがうまく進むように支援する ・様々な話が聞けるように事前に指導しておく ・なぜそれが課題なのか、その背景や現状で見られる様々な困難などを考えさせる ・話し合いの内容や考えたことなどをしっかり聞くように促す	
2限目				
3限目				
4限目				



【授業の概要と学びの狙い】

各班それぞれが、「花溢れる街づくりプロジェクト」で関わった地域団体の方々から地域の現状と課題について話を聞いた。

本時の狙いは、豊明市に住む方から、地域課題についての話を詳しく聞く事である。現在のコロナ禍において、直接インタビューを実施するために、地域団体の方々に直接会いに行くだけでなく、学校へお招きするなど各班それぞれで質問をする場を柔軟に設定した。前回の活動で共に花植えをした協力団体の代表者の方々から、高齢者の方が抱える悩み、高齢者の方々が感じる豊明市の課題などを直接聞く場面を作り、生徒たちの地域課題の発見、課題解決の糸口を見つける一助になればと考えた。

また、話を聞く活動が終わった班について、時間に余裕があれば、花を植えた花壇の様子を見に行き、簡単な整備を行うこととした。併せて、今後は水やりを実施していくこととなるため、その方法について、各担任によって指導する機会とした。

【生徒の学びと教育的効果】

今回の花植え活動は、生徒たちが主体的に取り組み、地域団体の方々と、花植えまでにできるだけ多くの接点を設けて取り組んできた。花植え後においても、今回のような場を設けたことによって交流が深まり、話がしやすくなったと考えている。このことは、花植え後の花壇の整備や水やりを協働して進めるきっかけとなった。記念写真を撮るなどのコミュニケーションをもって親密性を高めたことで、高齢者の抱える課題をより身近に感じることができたのではないかと思われる。

今後の活動において、豊明市の地域課題について検討し、その解決方法を提言していくこととなる。学びを深くする上で、地域課題を自分事として捉えられることが大切である。そのため、地域の方々と交流が深められたことは、今後の学習活動をより深いものにする効果があると考えている。

【育成の評価と改善点】

今回の活動において、当事者の生の声、生きた言葉を聞くことができた。このことは、生徒たちにとって、与えられた課題を自分たちで解決したい課題とするきっかけになった。このような仕掛けを効果的に、継続的に用意することで、生徒の学びを深くしていきたい。生徒主体で活動が進んでいく中で、班ごとの取り組みの状況に差が生じることが少なからずある。授業者が各班の状況をある程度把握し、生徒それぞれに、その班での役割について適切に助言することで、活動を充実させたい。

- 単元名 : 探究成果発表における「新たな地域協働活動」の提言内容を決める、パラオオンライン研修
- 学習内容:これまでの学びや経験を踏まえ、各探究班で新たな地域協働活動を検討し、提言内容を決める。パラオの環境問題・海洋問題や改善への取り組みなどを学び、SDGs に繋がる発想を身につける。
- ループリック評価

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	班で計画したことや先生からの助言を活かして前向きに取り組むことができる。	花壇づくりを通して自分の意見や考えたことを班員に伝え話し合うことができる。	地域の方々と積極的に交流を図りながら、花壇づくりをすすめることができる。	花植え後も地域の方々とコミュニケーションを取り花壇を管理することができる。
協働性	班員の意見を大切にしながら、協力して花壇づくりに取り組むことができる。	地域の方々に事前に説明やお願いをし、協働する団体を見つけることができる。	地域の方々と協働しながら、花壇づくりや花植えを実施することができる。	花植え後も水やりや花壇整備などを通じて地域の方々と交流することができる。
探究力	地域の方々に喜んでもらえるように、花壇づくりの計画を立てることができる。	予算を活用して、値段や購入先を検討しながら計画をすすめることができる。	花壇づくりを通して地域の方々に地域課題について聞き取りすることができる。	花植え活動を地域課題解決にどのようにつなげられるかを考えることができる。
発信力	花壇づくりの企画を地域の方々に伝える説明資料を班で作成することができる。	作成した資料をもとに地域の方々に花壇づくりの企画を説明することができる。	地域の方々の意見を聞き、完成した花壇づくりの計画を説明することができる。	自分たちが地域課題解決に向けて取り組んでいくことを発信することができる。

4. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目	【AL 探究】 今後のスケジュールを確認する	探究成果発表までの、今後のスケジュールを聞き、確認しておく	～今後のスケジュール～ ポスター・原稿制作: 11/20、12/4、12/18 クラス内の成果発表: 1/15 探究成果発表: 1/29 ※発表時間は7分程度です 後日配信される共同編集が可能なファイルでポスター作成を進めて行きます	
2限目	前回の振り返り活動で聞いた話をまとめ 各班において、新たな地域協働活動の内容を検討する	前回の活動の内容をまとめ、配信されたドキュメントに入力する ・どのような地域課題を扱うのか? ・その地域課題をどのように解決・克服していくのか? とくに、扱う地域課題についてよく考える	入力した内容は、クラス内で共有します 設定する地域課題について、提言の内容を検討する活動が充実するよう十分考えさせる 解決策について、他の団体の協力を得ることも考えさせる	
3限目	ここまで検討内容について、クラス内で発表する	クラスの生徒に向けて検討内容を発表する	※可能であれば実施してください	
4限目	【TG 探究】 パラオオンライン研修 ・パラオ概要説明（基本情報） ・パラオ珊瑚礁センター（ライブ中継） ・ドルフィンズパシフィックの紹介（録画映像） ・パラオの珊瑚礁保全活動と生活 ・パラオが抱える海洋問題 ・マングローブの重要性 ・質疑応答 ・お礼（クロージング）	・普段の授業を受ける姿勢で、オンライン研修を受講する。 ・パラオの概要を理解する。 (世界遺産・位置・行き方・一般情報(人口、気候、歴史、政治、治安、観光地)など) ・パラオ珊瑚礁センターの概要、設立意図、設立年、ODA の取り組みなどを学ぶ。 ・ドルフィンズパシフィックで催行しているプログラムの映像を見て、同施設の概要、設立意図、NGO の取り組みなどを学ぶ。 ・パラオで行われている珊瑚礁の保全活動と現地の生活へのつながりを理解する。 ・パラオが抱えている海洋問題（温暖化、水面上昇、クラゲ危機、ゴミ問題など）を学び、グローバルな視点での問題解決方法を学ぶ。 ・SDGs の観点から、パラオのマングローブの役割について理解する。 ・きちんとした言葉使いで質問をする。 2年6組→5組→4組→3組→2組→1組 ・代表生徒より、謝辞を述べる。 ・オンライン講義を受けた感想や意見を入力し、提出をする。	・オンラインではあるが、研修を聞く姿勢や態度に留意させる。 ・以下の点に留意し環境を整える。 ①2限終了後、直ちに準備を行う。 ②マイクオフ、カメラオフの状態にしてzoomに入室する。 ③質疑応答などの際、マイクのオンオフがスムーズに行える体制を整える。 ・質問する生徒をあらかじめ PC の前に移動させるなど、スムーズに進行させる。 ・謝辞代表生徒 2年 組 番 ・Google Classroom にて配信されたフォームにて、感想や意見を入力するよう指示する。	

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

授業の前半では、前回の振り返り活動で聞いた話を各班でまとめ、共有した。併せて、各班において、新たな地域協働活動の内容を検討した。後半は、パラオについての講義をオンラインで受講した。

本時の狙いは、ここまで生徒たちが体験してきた地域の方々との交流や花植え活動を踏まえて、地域課題を発見することにある。その前提が「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト」であることをしっかりと認識しながら、地域への興味・関心・疑問・気づきなどを各班でディスカッションする。新たな地域協働活動の提言を通して、主体性、協働性、探究力、発信力を総合的に培われることを期待する。また、オンライン研修では、グローバルな視点を獲得することを狙いとしている。パラオについて学ぶことで、グローバルな視点を身につけ、視野を広げることで好奇心を育みたい。

【生徒の学びと教育的効果】

振り返り活動の共有においては、Google Classroom を活用した。各班それぞれでドキュメントにまとめ、各担任に提出されたものを集約、クラス内で共有した。まとめる際の形式はとくに指定しなかったが、それぞれの班が、どのようにまとめれば見やすく、またわかりやすくなるかを考えながら取り組んでいた。発信力を養うだけでなく、ここまでに培われてきた他者を尊重する姿勢や発信力を確認することができた。

後半のオンライン研修は、各クラスにて受講した。パラオに係る講義をオンラインで受講するのは2回目となるが、より具体的な内容を知ることができたことは、学習者の見聞を広める事のできた活動であった。

【育成の評価と改善点】

今回の活動においては振り返りの内容を共有するにとどまったが、今後は年度末の成果発表に向けて、ポスターを制作していくこととなる。新たな地域協働活動の提言が主な内容となるが、ここまで総括となることから、「花溢れる街づくりプロジェクト」に関する振り返りも扱ってよいものとしている。このことだけでなく、ポスターを制作する際、様々な注意事項があるため、今後の活動において適宜指導していきたい。

後半のオンライン研修では、同じ国について2回受講したことでさらに深い学びとなった。前回の講義において、パラオの概要を学習していたことから、パラオに関わる課題をより身近に感じることができた。今後は様々な国の講義を受講するだけでなく、ある国について計画的に学習する機会を設ける事で、探究学習を充実させたい。

- 単元名 : 探究成果発表における「新たな地域協働活動」の提言内容を決める
- 学習内容:これまでの学びや経験を踏まえ、各探究班で新たな地域協働活動を検討し、提言内容を決める。
- ループリック評価

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	班で計画したことや先生からの助言を活かして前向きに取り組むことができる。	花壇づくりを通して自分の意見や考えたことを班員に伝え話し合うことができる。	地域の方々と積極的に交流を図りながら、花壇づくりをすすめることができる。	花植え後も地域の方々とコミュニケーションを取り花壇を管理することができる。
協働性	班員の意見を大切にしながら、協力して花壇づくりに取り組むことができる。	地域の方々に事前に説明やお願いをし、協働する団体を見つけることができる。	地域の方々と協働しながら、花壇づくりや花植えを実施することができる。	花植え後も水やりや花壇整備などを通じて地域の方々と交流することができる。
探究力	地域の方々に喜んでもらえるように、花壇づくりの計画を立てることができる。	予算を活用して、植苗や購入先を検討しながら計画をすすめることができる。	花壇づくりを通して地域の方々に地域課題について聞き取りすることができる。	花植え活動を地域課題解決にどのようにつなげられるかを考えることができる。
発信力	花壇づくりの企画を地域の方々に伝える説明資料を班で作成することができる。	作成した資料をもとに地域の方々に花壇づくりの企画を説明することができる。	地域の方々の意見を聞き、完成した花壇づくりの計画を説明することができる。	自分たちが地域課題解決に向けて取り組んでいくことを発信することができる。

4. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目	【AL 探究】			
2限目	各班において、新たな地域協働活動の内容を検討する	前回検討した新たな地域協働活動の提言内容を振り返り、必要があればさらに検討を続ける	～今後のスケジュール～ ポスター・原稿制作：11/20、12/4、12/18、 1/15 クラス内の成果発表：1/29 探究成果発表：2/5 ※発表時間は7分程度です	
3限目	新たな地域協働活動の具体的な企画案を検討する 探究成果発表のタイトルを検討する 地域課題に関するデータを収集し、必要に応じてまとめる 探究成果発表の内容を検討し、原稿とポスターを作成する	地域課題は何かを明確にする 発表タイトルを検討し、決める 新たな地域協働活動の提言内容について、具体的な企画として誰を対象に、いつ、どこで、どのように実施するのかを検討する 地域課題や地域の現状について、問題点として認識できるようなデータやエビデンスなどを調べ、説得力をもつグラフや表を作成する	設定する地域課題について、提言の内容を検討する活動が充実するよう十分考えせる解決策について、他の団体の協力を得ることも考えさせる	
<ul style="list-style-type: none"> 前回の振り返り活動のまとめから、地域の方々が困っていることを一通り共有しました。それらすべてが地域課題というわけではなく、お話ししてくださいた人の個人的な悩みも含まれています。そのため、それらを参考にする上で、どなたが地域課題として適当なのかを精査する必要があります。 扱う地域課題について、その根拠を明確にしなければなりません。地域の人の声はきっかけであり、それ自体を根拠とするにはよく検証する必要があります。地域課題の実態が個人的なものでなく、地域の方々にとって一般的であると論証するために、地域課題に伴うデータを扱ったり、一般的な例から演繹的に示したりする事が考えられます。 着目した地域課題について、既に何らかの取り組みがあるかも知れません。扱う地域課題について、地域にある団体や、豊明市役所の各課において、何らかの活動がないかどうかを調べてみましょう。既存の取り組みは、課題の解決・克服方法を考える上で知っておく必要があります。 各班で提言内容を話し合うときは、ホワイトボードを活用すると良いです。話し合う内容によっては、ブレーンストーミングやKJ法を用いて、意見を出し合い整理するといいかも知れません。 昨年のSGL活動にて作成したポスターが本館家庭科室にまとめて掲示されています。必要があれば一度確認し、これから活動の参考にしてください。 				
4限目	花壇の状況を確認する	花を植えた現地へ行き、花壇の状況を確認する。必要があれば、整備をする。		

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

授業の前半では、各班で新たな地域協働活動の具体的な企画案を検討し、後半はクラスごとに現地へ行き、花壇の状況を確認した。

新たな地域協働活動の提言を通して、主体性、協働性、探究力、発信力を総合的に培うことを狙いとしている。各班において、地域への興味・関心・疑問・気づきなどをディスカッションし、課題解決に向けて探究していく。ディスカッションにおいては、SDGs のどの目標に該当するのかも考えさせ、課題が何で誰を対象としているのか明確にさせる。併せて、その課題の根拠となるデータやエビデンスを明らかにする。これらの活動は、iPad を使ってスライドや原稿を班員と共有しながら作業を進めていく。生徒全員が ICT ツールに触れ、そのスキルを高めていく。

【生徒の学びと教育的効果】

発表の形式はポスターセッションとしている。発表原稿は 7 分程度でまとめるように設定しており、各班の構成は 6 名程度であることから、1 人 1 分程度の発表を担当するという想定である。iPad を使いこなせる生徒は少なく、悪戦苦闘する様子が見られたが、使い慣れている生徒が周りの生徒に使い方を教えるという動きが見られたため、協働性を養う効果があるように感じた。

本時ではとくに、地域協働活動の提言の内容がさらに深くなることを期待し、扱う地域課題について、その根拠を明確にしなければならないことや、地域にある団体や、豊明市役所の各課における既存の取り組みについて調べる必要があることを指導した。生徒たちの提言内容を進化・深化させるために、適切な助言を適宜したい。

【育成の評価と改善点】

生徒たちが様々なアイデアを形にしていく中で、教員がどのような形でサポートしていくのかは十分吟味する必要がある。生徒の主体的な学びに重きを置いてるので、できるだけ生徒たちがひらめいたものを大切にしつつも、時にテーマから大きくかけ離れたり、極めて現実味がない提言に対して、教員がどのように声かけして、修正していくのか、教員自身のスキルの向上も図らなければならない。発表原稿の作成については、iPad でデータを共有して作業を進められるようにしたもの、やはり能力のある生徒が一人でまとめている姿が散見された。一人の生徒に負荷がかかりすぎないように配慮が必要である。

- 単元名：探究成果発表における「新たな地域協働活動」の提言、インドネシアオンライン研修
- 学習内容：各探究班で新たな地域協働活動を検討し提言する、バリ島をはじめとした島々の状況について学び、SDGsに繋がる発想を身につける。
- ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	班で計画したことや先生からの助言を活かして前向きに取り組むことができる。	花壇づくりを通して自分の意見や考えたことを班員に伝え話し合うことができる。	地域の方々と積極的に交流を図りながら、花壇づくりをすすめることができる。	花植え後も地域の方々とコミュニケーションを取り花壇を管理することができる。
協働性	班員の意見を大切にしながら、協力して花壇づくりに取り組むことができる。	花植活動の概要について、地域の方々に事前に説明やお願ひをすることができる。	地域の方々と協働しながら、花壇づくりや花植えを実施することができる。	花植え後も水やりや花壇整備などを通して地域の方々と交流することができる。
探究力	地域の方々に喜んでもらえるように、花壇づくりの計画を立てることができる。	予算を活用して、値段や購入先を検討しながら計画をすすめることができる。	花壇づくりを通して地域の方々に地域課題について聞き取りすることができる。	花植え活動を地域課題解決にどのようにつなげられるかを考えることができる。
発信力	花壇づくりの企画を地域の方々に伝える説明資料を班で作成することができる。	作成した資料をもとに地域の方々に花壇づくりの企画を説明することができる。	地域の方々の意見を聞き、完成した花壇づくりの計画を説明することができる。	自分たちが地域課題解決に向けて取り組んでいくことを発信することができる。

4. 授業進行表

【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目 2限目	<p>【AL 探究】 各班において、新たな地域協働活動の内容を検討する</p> <p>新たな地域協働活動の具体的な企画案を検討する</p> <p>探究成果発表のタイトルを検討する</p> <p>地域課題に関するデータを収集し、必要に応じてまとめる</p> <p>探究成果発表の内容を検討し、原稿とポスターを作成する</p>	<p>前回検討した新たな地域協働活動の提言内容を振り返り、必要があればさらに検討を続ける</p> <p>地域課題は何かを明確にする</p> <p>発表タイトルを検討し、決める</p> <p>新たな地域協働活動の提言内容について、具体的な企画として誰を対象に、いつ、どこで、どのように実施するのかを検討する</p> <p>地域課題や地域の現状について、問題点として認識できるようなデータやエビデンスなどを調べ、説得力をもつグラフや表を作成する</p>	<p>～今後のスケジュール～ ポスター・原稿制作：12/4、12/18、1/15 クラス内の成果発表：1/29 探究成果発表：2/5 ※発表時間は7分程度です</p> <p>設定する地域課題について、提言の内容を検討する活動が充実するよう十分考えさせる 解決策について、他の団体の協力を得ることも考えさせる</p>	
3限目 4限目	<p>【TG 探究】 インドネシアオンライン研修</p> <ul style="list-style-type: none"> インドネシア並びにバリ島の概要説明 バリ島文化紹介 <ul style="list-style-type: none"> ①宗教教について ②バリグリン（バリ島伝統料理） ③観光地紹介 クタビーチからライブ配信 バリ島の民族文化ならびに有名な観光スポットの研修 日本人スタッフによる「海外で働く」とは 質疑応答 お礼 	<ul style="list-style-type: none"> 普段の授業を受ける姿勢で、オンライン研修を受講する。 バリ島の概要を理解する。 (場所・一般情報<人口、気候、歴史、治安、観光地>など) バリ島をはじめとした島々の状況について学ぶ。 バリ島の民族文化や有名な観光スポットについて学ぶ。 日本人がバリ島で働くことに至った経緯や意義について理解する。 きちんとした言葉使いで質問をする。 1年1組→2組→3組→4組 代表生徒より、謝辞を述べる。 オンライン講義を受けた感想や意見を入力し、提出をする。 	<ul style="list-style-type: none"> オンラインではあるが、研修を聴く姿勢や態度に留意させる。 以下の点に留意し環境を整える。 11:30までにzoom接続を開始する。 ①マイクオフ、カメラオフの状態にしてzoomに入室する。 ②質疑応答などの際、マイクのオンオフがスムーズに行える体制を整える。 質問する生徒をあらかじめPCの前に移動させるなど、スムーズに進行させる。 質問 1年1組生徒 生徒 1年2組生徒 1年3組生徒 1年4組生徒 謝辞生徒 1年4組生徒 Google Classroomにて配信されたフォームにて、感想や意見を入力するよう指示する。 	

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

授業の前半では、各班において、新たな地域協働活動の内容を検討し、ポスターの制作と発表原稿の準備を進めた。後半は、インドネシアについての講義をオンラインで受講した。

新たな地域協働活動の提言を通して、主体性、協働性、探究力、発信力を総合的に培うことを狙いとしている。班によつては、提言の内容が具体的に決定している。年度末の探究成果発表、ポスターセッションに向けて、ポスターと発表原稿の完成を目標に作業を進めていく。

オンライン研修では、グローバルな視点を獲得することを狙いとしている。インドネシアについてより深く学ぶことで、グローバルな視点を身につけ、視野を広げることで好奇心を育みたい。

【生徒の学びと教育的効果】

新たな地域協働活動を提言することについて、生徒はかなり難しく感じている様子である。そのため、授業者によって、探究を進めるための指導を適宜行っている。本時では、扱う地域課題について、花植え活動の振り返りの際、地域団体の方々からお伺いした内容をそのまま鵜呑みにするのではなく、地域課題として適當なかどうかを精査する必要があること、本館家庭科室に掲示されている、一昨年のSGL活動にて作成したポスターを確認させて、参考にさせるなどの指導を行った。

後半のオンライン研修は、基本的には各クラスにおいて実施したが、1組と2組は、学習室にて合同で実施した。インドネシアの現在の状況を知ることができたことから、生徒たちの見聞を広め、グローバルマインドを獲得する活動であった。さらに授業の後半において、現地の方々との質疑応答の時間を設けた。一方的な講義形式でなく、双方向での学びがあったことで、より深い学びとなつた。

【育成の評価と改善点】

地域協創学Ⅰの時間だけでは、iPadの基本操作や、Googleスライドの使い方などを丁寧に教える時間を確保することが難しい。そのため、教科を横断して、日頃の授業で前もって身につけさせる工夫があると良い。例えば、情報の授業においてiPadを利用し、SGL活動の情報を共有しながら、必要なスキルを身につけさせる事などが考えられる。学校全体での、協力体制の構築が必要である。

1. 単元名：探究成果発表における「新たな地域協働活動」の提言

2. 学習内容：各探究班で新たな地域協働活動を検討し提言する

3. ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	班で計画したことや先生からの助言を活かして前向きに取り組むことができる。	花壇づくりを通して自分の意見や考えたことを班員に伝え話し合うことができる。	地域の方々と積極的に交流を図りながら、花壇づくりをすすめることができる。	花植え後も地域の方々とコミュニケーションを取り花壇を管理することができる。
協働性	班員の意見を大切にしながら、協力して花壇づくりに取り組むことができる。	花植え活動の概要について、地域の方々に事前に説明やお願ひをすることができる。	地域の方々と協働しながら、花壇づくりや花植えを実施することができる。	花植え後も水やりや花壇整備などを通じて地域の方々と交流することができる。
探究力	地域の方々に喜んでもらえるように、花壇づくりの計画を立てることができる。	予算を活用して、箇段や購入先を検討しながら計画をすすめることができる。	花壇づくりを通して地域の方々に地域課題について聞き取りすることができる。	花植え活動を地域課題解決にどのようにつなげられるかを考えることができる。
発信力	花壇づくりの企画を地域の方々に伝える説明資料を班で作成することができる。	作成した資料をもとに地域の方々に花壇づくりの企画を説明することができる。	地域の方々の意見を聞き、完成した花壇づくりの計画を説明することができる。	自分たちが地域課題解決に向けて取り組んでいくことを発信することができる。

4. 授業進行表

【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目	【AL 探究】			
2限目	各班において、新たな地域協働活動の内容を検討する	前回検討した新たな地域協働活動の提言内容を振り返り、必要があればさらに検討を続ける	～今後のスケジュール～ ポスター・原稿制作：12/18、1/15 クラス内の成果発表：1/29 探究成果発表：2/5 ※発表時間は7分程度です	
3限目	新たな地域協働活動の具体的な企画案を検討する	地域課題は何かを明確にする	設定する地域課題について、提言の内容を検討する活動が充実するよう十分考えさせる	
4限目	探究成果発表のタイトルを検討する	発表タイトルを検討し、決める	解決策について、他の団体の協力を得ることも考えさせる	
	地域課題に関するデータを収集し、必要に応じてまとめる	新たな地域協働活動の提言内容について、具体的な企画として誰を対象に、いつ、どこで、どのように実施するのかを検討する		
	探究成果発表の内容を検討し、原稿とポスターを作成する	地域課題や地域の現状について、問題点として認識できるようなデータやエビデンスなどを調べ、説得力をもつグラフや表を作成する	※今回の活動にて、概ねの完成を目指す。	
	他クラスの活動状況を確認し、生徒同士で情報共有をする	教員の合図で、他教室に見学へ行く (見学する時間帯) 10:00 ~ 1組 10:30 ~ 2組 11:00 ~ 3組 11:30 ~ 4組	12/18 の活動場所について、他教室への見学を円滑に実施するために、 1組：多目的室一 2組：多目的室二 3、4組：各 HR 教室 での実施とします。	

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

各班において、新たな地域協働活動の内容を検討し、ポスターの制作と発表原稿の準備を進めた。また、他クラスの活動の様子を見学する機会を設けた。

新たな地域協働活動の提言を通して、主体性、協働性、探究力、発信力を総合的に培うことを狙いとしている。本時では、クラス内で作業を進めていくだけでなく、他クラスの活動の進捗状況を確認させた。他の班の活動の状況を知ることで、ポスターの制作と発表原稿の準備がより活発にさせることを狙いとしている。

【生徒の学びと教育的効果】

新たな地域協働活動の提言内容について、具体的な企画を提言するよう助言している。誰を対象に、いつ、どこで、どのように実施するのかが明確になっていることが大切である。加えて、地域課題や地域の現状について、問題点として認識できるようなデータやエビデンスなどを調べるよう助言している。これらに説得力をもたせるために、グラフや表を活用するよう促した。ポスターや原稿の作成を進める過程で、できる工夫は様々ある。それらを考えて実行することは、思考力や表現力を養う効果があるように感じた。

他クラスの活動の見学について、各クラス30分ずつの時間を割り振り、割り当てられた時間内において、他のクラスの様子を自由に見学してよいこととした。自分たちとは異なる視点での提言の内容に、生徒は関心をもって見学する様子が見受けられた。この活動では、交流学習の要素があったことから、他者を尊重する態度を育む効果があったと感じた。

【育成の評価と改善点】

ポスターの制作と発表原稿の準備に充てることのできる授業日は、あと1回を残すのみとなった。例年、発表原稿およびポスターの作成にぎりぎりまで時間を要する班が多くみられる。余裕をもって完成させることで、発表本番の準備に時間をかけることができるようになる。前年度の成果発表において、班のなかに、原稿を見ずに発表できる生徒が多くいると、聴衆への説得力も強い発表となる傾向があった。良い発表原稿・スライドを作り上げることと同等に、発信する力も大切にさせたい。

1. 単元名：探究成果発表会に向けての準備
2. 学習内容：探究成果発表会に向けての原稿・ポスターを作成し、発表に備える。
3. ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	発表内容について、自分の考えや意見を持つことができた。	自分が担当する発表原稿やスライドを自分で作成できた。	自分の発表原稿とスライドについて、改善点を考え、修正できた。	全体の発表原稿とスライドについて、改善点を提案し修正できた。
協働性	班の中で自分が担当する役割を実行できた。	他の班員の意見やアイデアを取り入れ、自分の発表に活かすことができた。	お互いの原稿やスライドについて、意見やアイデアを出し、検討できた。	根拠となる資料やデータを班内で共有し、それに対する意見を集約できた。
探究力	高齢者や外国人を対象としたテーマ設定ができた。	それぞれのテーマに関する地域課題解決に向けた提言ができた。	提言の根拠となる資料やデータ、グラフを提示してスライドを作成できた。	データやグラフを効果的に使い、提言の根拠を明確に示すことができた。
発信力	原稿を見ながら聴衆に向けて、班の伝えたいことが発信できた。	途中、原稿を確認しながら聴衆に向けて、班の伝えたいことが発信できた。	原稿を見ずに聴衆に向けて、班の伝えたいことが発信できた。	発表に対する質疑に的確に回答し、班の提言をより強く訴えることができた。

4. 授業進行表

【TG 探究 Think Global】 【TL 探究 Think Local】 【AG 探究 Act Global】 【AL 探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目	3学期ループリック評価表と今後の流れを確認	ループリック評価の内容を確認する。 ＜今後の予定＞ 1/29：クラス内での発表 2/5：探究成果発表会	3学期のループリックを確認し、より高いレベルでの活動目標とするよう指導する。	
2限目	【AL 探究】 探究成果発表の発表ポスターと発表原稿を作成・完成	発表内容の作成では、次のことを意識する。 1.発表タイトル…発表の内容が伝わるか 2.どのようなことに関心や疑問を持ったのか 3.何の地域課題に対して取り組むのか 4.課題であることを示すエビデンスは何か（データ、グラフ、資料など） 5.新たな地域協働活動の提言内容について、具体的な企画はなにか（誰を対象に、いつ、どこで、どのように実施するのか）	以下の2点を伝える。 1.本時の活動において、文部科学省の取材があること 2.2/5の探究成果発表会では、コンソーシアムの方々をお招きし、各クラスの発表を見ていただくこと	
3限目	発表に向けての練習	班内で、発表の手順や内容、順番などの検討を行う。 作成した発表ポスターをもとに、班内で発表のシミュレーション、練習をおこなう。 発表の準備（原稿・ポスター・質疑応答の想定）が整い、ポスター印刷ができるまで準備が進んだら、その旨を担任の先生へ報告する。また、ポスターの印刷を依頼する。	各班の発表ポスター・発表原稿の確認と指導を綿密に行う。 机間巡回を行い、それぞれの班に適切な指導を行う。 ～今後のスケジュール～ ポスター・原稿制作：1/15 クラス内での成果発表：1/29 探究成果発表：2/5 ※発表時間は7分程度です ※今回の活動にて、完成を目指す。	
4限目			各班の発表ポスター・発表原稿をもとに発表の段取りや筋書き、内容などについて、助言・指導する。 ポスター印刷ができる班を把握する。	

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

ここまで作成を進めてきた発表原稿およびポスターについて、各クラスの担任による点検、指導を受け、改善、修正を行う。

新たな地域協働活動の提言を通して、主体性、協働性、探究力、発信力を総合的に培うことを狙いとしている。次回の授業はクラス内発表の予定となっている。クラス内発表に向けて、最終的な原稿、ポスターを完成させ、完成した班から、発表の練習を進めていく。

併せて、授業の後半において、可能な範囲で花壇の様子を確認しに行った。

【生徒の学びと教育的効果】

ポスター・原稿の制作について、授業時間が十分であったことから、作業は概ね順調に進んでいた。しかし、進捗状況が芳しくなく、作業が滞っている班もあったため、授業者による助言、補助を適宜行った。また、ポスター・原稿が完成した班から順に発表をシミュレーションし、その内容に修正を加えた。

実際に発表してみることで、話すスピードや声のトーンを意識するようになり、自分たちが作り上げた発表をいかにして人々に伝えるか、発信力の大切さに気づいた生徒が多くいた。このことから、完成したところから大きく修正する班も見られた。

【育成の評価と改善点】

生徒一人ひとりの主体性と仲間との協働、この2つを融合させることが、SGL活動を実りあるものにするために不可欠である。班の中に、班員をまとめて活動を進める推進力のある生徒がいるかどうかで作業速度に大きな差がある。生徒たちのリーダーシップの育成はもちろんのこと、いかにして教員がフリーライダーを作らないように、生徒たちに声かけをしていくかが大切である。

作業が順調に進んでいない班において、やはり能力のある生徒が一人で作業を進めている姿が散見された。一人に作業のしわ寄せが行かないよう、一人の生徒に負荷がかかりすぎないように配慮が必要である。

また成果発表において、質疑応答の機会がある。これまでの授業の中でそういった場面設定をしてこなかったため、何をどう質問していくかがわからない生徒が多いことが考えられる。今後の活動に向けて、質疑応答があるといった点を意識させることで、成果発表を充実させたい。

1. 単元名：探究成果発表会
2. 学習内容：クラス内探究成果発表会の実施と探究成果発表物（セルフレコーディング）の制作
3. ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	発表内容について、自分の考えや意見を持つことができた。	自分が担当する発表原稿やポスター自分で作成できた。	自分の発表原稿やポスターについて、改善点を考え、修正できた。	全体の発表原稿とポスターについて、改善点を提案し修正できた。
協働性	班の中で自分が担当する役割を実行できた。	他の班員の意見やアイデアを取り入れ、自分の発表に活かすことができた。	お互いの原稿やポスターについて、意見やアイデアを出し、検討できた。	根拠となる資料やデータを班内で共有し、それに対する意見を集約できた。
探究力	高齢者や外国人を対象としたテーマ設定ができた。	それぞれのテーマに関する地域課題解決に向けた提言ができた。	提言の根拠となる資料やデータ、グラフを提示してポスターを作成できた。	データやグラフを効果的に使い、提言の根拠を明確に示すことができた。
発信力	原稿を見ながら聴衆に向けて、班の伝えたいことが発信できた。	途中、原稿を確認しながら聴衆に向けて、班の伝えたいことが発信できた。	原稿を見ずに聴衆に向けて、班の伝えたいことが発信できた。	発表に対する質疑に的確に回答し、班の提言をより強く訴えることができた。

4. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目 2限目	探究成果発表物（セルフレコーディング）の制作（～11:00）	<ul style="list-style-type: none"> Google Meet と iPad の画面集力を用いて発表内容のセルフレコーディングを行う。以下のように準備、実施する。 <ol style="list-style-type: none"> 「設定」>「コントロールセンター」の順に選択し、「画面収録」の横にある追加ボタンをタップする。 Google スライドより、ポスターを開き、再生>このデバイスで表示をタップする。 iPad でコントロールセンターを開く。 グレイの録画アイコンを長押しして、「マイク」をタップし、マイクをオンにする。 「収録を開始」をタップし、3 秒のカウントダウン後に発表内容を録画する。 録画を停止するには、コントロールセンターを開いて、赤い録画ボタン 赤い録画アイコンをタップする。または、画面上端の赤いステータスバーをタップし、「停止」をタップする。 収録した動画を、Google Classroom にて提出をする。 	<ul style="list-style-type: none"> セルフレコーディングには静かな環境が必要なため、下のように別クラスにて行う。 1-1 ⇒ 3-1 教室、3-2 教室 1-2 ⇒ 多目 6、多目 3 1-3 ⇒ 多目 2、3-3 教室、3-4 教室 1-4 ⇒ 1-5 教室、多目 4 本時に全てのセルフレコーディングが完了するように時間配分や生徒への指導を的確に行う。 また、ほかのクラスの使徒と接触がないように指導する。 本時が最後の授業となるので、必ずセルフレコーディングを終える。 	
3限目 4限目	<ul style="list-style-type: none"> 発表ポスターを用いたクラス内探究成果発表 発表に対する質疑応答 審査用紙を用いた発表審査 ループリック評価 	<ul style="list-style-type: none"> 発表班はポスターをホワイトボードに貼り、クラス内発表を行う。 発表後は、各班より質疑応答を行う。 発表内容は、次のことを意識する。 <ol style="list-style-type: none"> 発表タイトル…発表の内容が伝わるか どのようなことに关心や疑問を持ったのか コンソーシアム関係者などからどのようなヒントや助言をいただいたのか 何の地域課題に対して取り組んだのか どのような啓発物をつくったのか 発表を聞く側として、ふさわしい質疑ができるように、発表を聴く。 発表班に対して、その発表がより充実したものとなるような質問を心がける 審査用紙を用いて、発表を審査する。 自分自身の活動を振り返り、ループリック評価表を記入する。また、Google フォームにてデータの入力を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題、仮説、SDGs、啓発素材開発・実践・振り返りなどをまとめて、1 年間の探究成果をクラス内で発表させる。 各班の発表ポスターを用いて各班 7 分程度の発表を行わせる。 発表後はそのほかの班より質疑応答を実施させる。 <質問の例> <ul style="list-style-type: none"> ○○○について、もう少し詳しく教えてください。 なぜ、○○○に注目したのですか？ ○○○について苦労したことは何ですか？失敗したことはありませんか？ ○○○はどうしたら（何をしたら）、さらに発展（進展）すると思いますか？ 審査用紙を回収し、集計する。 ループリック評価表へ正確に記入させる。また、Google フォームにてデータを入力・送信させる。 	

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

各班にて、新たな地域協働活動の提言に係る発表を画面収録することで、その成果を記録した。併せて、各クラスにおいて、日本語による探究学習の成果発表を実施した。

iPad を用いて画面収録し、その成果を記録しておくことで、その記録を次年度以降の振り返りの際に活用することを狙いとした。

後半は、各班で探究した新たな地域協働活動の提言を発表させ、その成果を共有した。また、他の班の発表とその内容について評価させた。発表を通して、他の班の活動とその成果を確認させ、自分の所属する班の活動と比較することで、自らの学習のプロセスや効果についてメタ認知的な思考を身につけることを狙いとした。

【生徒の学びと教育的効果】

成果発表は各クラスにて実施し、各班 7 分程度の持ち時間で発表した。発表を聞いている他の生徒は配布された審査用紙にて、グローバルな視点、地域課題の理解、地域協働活動の内容、調査・探究の深さ、発表力、発信力の 5 項目で採点し、併せて発表に対するコメントを記入した。ループリック評価表を用いてプレゼンテーションに関する達成基準を具体的に明示していたことから、目的意識を持って発表に取り組む様子が見られた。また発表を聞く姿勢は真剣で、他の班の提言内容に対する関心の高さがうかがえた。ここまで活動の総まとめに位置づけられる本時の活動は、学習に対する肯定的な態度を育てる効果があった。

【育成の評価と改善点】

本時の活動は、主に主体性を獲得し、発信力を養うものであった。本来は学年を越えて、学校全体での成果発表をポスター発表の形式で実施したかったが、新型コロナウイルスの感染拡大により、前時の授業が実施されなかつたことで、クラス内の発表のみとなった。各班の発表内容については、概ね良好であった。難しいテーマでありながら、それぞれの班が地域課題の根拠を十分に調べており、論理的な提言となっていた。また解決手段についてもよく考えており、具体的な内容であった。

本時が今年度最後の活動となる。コロナ禍の中、様々な活動に制限のかかる状況ではあったが、こういう時だからこそ、生徒たちは自分たちで考え、行動することができた。来年度も、同じクラス、同じメンバーで活動できれば活動内容がより深まると考えている。しかし、新たなクラス編制となるのに合わせて、活動における班も新たな編制となる。今回の活動で理解した地域課題を、生徒それぞれが来年度の活動に繋げていけるよう指導したい。

(2) 総合的な探究の時間【SGL 地域協創学Ⅱ】

2年生の総合的な探究の時間「SGL 地域協創学Ⅱ（2 単位）」は、「Think Global」「Think Local」「Act Local」「Act Global」の4つで構成される。「Think Global」ではグローバルな視点で SDGs を理解し、世界規模のまたは世界の各地における解決すべき課題について考える。「Think Local」では1年生での学びを踏まえ、地元豊明市の地域課題について調べ、より深く考えることによって、より詳細で具体的な解決すべき地域課題は何かを見いだす学びとなる。「Act Local」では地域協創プロジェクトを企画し、実践する。これは地域課題の解決に向けた啓発物を開発するプロジェクトである。「Act Global」ではベトナムで多文化共生社会について学ぶ全員参加型の海外研修を実施する。しかし海外研修の実施が不可能になったため、オンライン研修として、カンボジア・シンガポール・パラオ・インドネシアについて学ぶ機会を設定した。

「Act Local」について、昨年度の経験を踏まえて生徒たちがコンソーシアム関係団体と協働して地域課題やその解決について考え、解決に向けた啓発物を開発する学びとなる。5~6人の各探究班のそれぞれが地域調べをもとに地域課題を設定し、コンソーシアムの方々と協議したりアドバイスをもらったりして、自分たちが設定した地域課題を解決するためにはどのような啓発物があればよいかを検討した。そして自分たちが考えた啓発物を実際に作成して地域の方々に提供することで地域課題解決につながったのかについて検証することを行う。生徒自らが地域のさまざまな団体やお店などに開発協力やアンケートの実施などを依頼して開発を実践するため、1年次よりもさらに地域課題解決に踏み込んだ学びになると期待される。

SGL 地域協創学Ⅱの年間授業計画

回	日付	授業内容
第1回	4月17日(土)	SGL開講式、豊明市長・校長メッセージ、チームビルディング、SDGs1「貧困」
第2回	5月1日(土)	地元地域への理解、Think Global アラカルト講座①
第3回	5月29日(土)	Think Global カンボジアの貧困、地域協創プロジェクト:地域課題の発見
第4回	6月5日(土)	啓発素材内容検討、カンボジアオンライン研修
第5回	6月19日(土)	啓発素材内容検討、パラオオンライン講義
第6回	7月3日(土)	啓発素材内容検討、シンガポールオンライン研修
第7回	7月17日(土)	啓発素材内容検討
第8回	9月4日(土)	啓発素材内容検討・開発、Think Global アラカルト講座②
第9回	9月18日(土)	地域課題解決のための啓発素材開発、現地調査
第10回	10月16日(土)	地域課題解決のための啓発素材開発、現地調査
第11回	10月30日(土)	地域課題解決のための啓発素材開発
第12回	11月6日(土)	地域課題解決のための啓発素材開発・完成、パラオオンライン研修
第13回	12月4日(土)	探究成果発表会のポスター・原稿作成、インドネシアオンライン研修
第14回	12月18日(土)	探究成果発表会のポスター・原稿作成・発表準備
第15回	1月15日(土)	探究成果発表会のポスター・原稿作成・発表準備・クラス内発表準備
臨時休校	1月29日(土)	※新型コロナ感染症の急拡大により、臨時休校となった。
第16回	2月5日(土)	探究成果発表会(クラス内発表会)、セルフレコーディング

豊明市役所の各課や社会福祉協議会・国際交流協会、株式会社スギ薬局、株式会社 ARMS、青年会議所をはじめ市内の飲食店やサロン、地域の敬老会など、実に多くの方々に高校生が地域課題解決に取り組むことをご理解をいただき、さまざまなご協力をいただいた。そうした方々のお力添え有って、啓発物を開発することができたと感じている。

文部科学省指定 地域との協働による高等学校教育改革推進事業

グローカル型地域協働推進校【外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト】

令和3年度第2学年【SGL地域協創学II(2単位)】(総合的な探究の時間)

【2年生の主課題】

- ①グローバルな視点でSDGsの理解
- ②地域協創プロジェクトの企画実践
- ③地域協創プロジェクトの実践発表

★グローバルな視点での学び(地球課題探究)

Think Global



主体性の向上

SDGs 17の持続可能な開発目標(4月～7月)

★ローカルな視点での学び(地域課題探究)

Think Local

探究力の向上

地域協創プロジェクトの企画(4月～7月)

Class①
×
株式会社
ARMS
×
星城大学

- ・e-Sports
- ・ベトナム祭
- ・日本語教室
- ・多文化交流開発

Class②
×
株式会社
スギ薬局
×
豊明高校

- ・市総合防災訓練
- ・ウォーキング
- ・大金星体操
- ・高齢者交流開発

Class③
×
健康長寿課
×
社会福祉
協議会

- ・ボラフェスタ
- ・子ども食堂
- ・認知症予防カルタ開発
- ・多世代交流開発

Class④
×
市民協働課
×
国際交流
協会

- ・豊明秋祭外国語チラシ・商工会祭
- ・国交フェスタ
- ・多文化共生カルタ開発・花マルシェ
- ・食文化交流開発

Class⑤
×
産業支援課
×
商工会・
青年会議所

- ・大根焼き、梯子獅子
- ・花マルシェ
- ・豊明観光カルタ開発

星城高校2年生探究班

地域協働コンソーシアム



★外国人・高齢市民との協働による学び(課題解決)

Act Local

協働性の向上

地域協創プロジェクトの実践(9月～12月)

★海外での探究的な学び(海外課題探究)

Act Global

学校設定科目SGL第2外国語【ベトナム語&英語学習】

ベトナム海外研修(11月) 5日間 全員参加
 ①現地企業での交流 ②現地学生との交流

発信力の向上

★課題解決に向けた学び(活動成果発表)

Glocal
探究

地域協創プロジェクト実践報告書(11～1月)

ポスターセッション形式での成果発表(2月)

1. 単元名 : SGLの始動
 2. 学習内容: SGL開校式・探究班編成・アイスブレイク・貧困の輪
 3. ループリック評価:

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	SDGs推進や地域課題解決について自分で考えることができる	SDGs推進や地域課題解決に向けての対策をグループで考えることができる	SDGs推進や地域課題解決に向けた啓発物の内容を考えることができる	SDGs推進や地域課題解決に向けた啓発物の活用計画を提案することができる
協働性	グループ活動で他者の意見に耳を傾けることができる	グループ活動でお互いの考えを伝え合い、認め合うことができる	グループの話し合いをもとに、協力して啓発物を作成することができる	コンソーシアムの方々と意見交換しながら啓発物を改良することができる
探究力	豊明市の地域課題と活動について調べることができる	地域課題解決に向けたことをグループで共有し、話し合うことができる	地域課題解決につながるプロジェクトをグループで立案することができる	コンソーシアムの方々と啓発物の活用方法について協議することができる
発信力	グループ活動で自分の意見を伝えることができる	グループ活動で他者の意見に対する自分の考えを伝えることができる	自分の意見やグループの意見を全体へ発表することができる	コンソーシアムの方々に自分たちが考えたことを発表することができる

4. 授業進行表

【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目	<p>【TL 探究】 豊明市長と校長のビデオメッセージ視聴 (20分)</p> <p>メッセージに対する感想記入 (5分)</p> <p>ループリック評価の内容確認 (5分)</p> <p>探究班の編成 (10分)</p> <p>〈チームビルディング〉 班内の役割決定 (10分)</p>	<p>市長・校長からのビデオメッセージを視聴する。</p> <p>感想シートに記入する。</p> <p>ループリック評価表を読み、各項目・各レベルの内容を理解する。</p> <p>各班4~5名の男女混合探究班をクラス内で話し合って決める。</p> <p>各班で話し合い、チームリーダー、サブリーダー、記録・写真係、資料・備品係を決める。</p>	<p>ワークシート・資料を配布する。 プロジェクターでビデオを投影する。</p> <p>本授業のワークシートを配布する。</p> <p>メッセージへの感想を後日、市長・校長へ報告する旨を伝える。</p> <p>1学期末に自己評価することを伝え、各項目で高いレベルを目指すように説明する。</p> <p>仰星コースは各クラス5班、特進コースは各クラス6(7)班を編成する。</p> <p>各係の役割を説明し、各生徒のやる気や自主性を尊重する。また役割の押しつけがないように注意深く観察する。</p>	
2限目	<p>【TG 探究】 〈アイスブレイク〉 (30分) 社会問題カルタの実施</p> <p>休憩時間</p>	<p>カルタに書かれている情報から社会問題を理解する。(QRコード)</p> <p>トイレ休憩</p>	<p>社会課題に対する関心を高めながら、班内で話し合いをしやすい雰囲気をつくる。</p> <p>興味を持ったカードについて発表させてもよい。</p>	
3限目	<p>【TG 探究】 貧困についての資料確認 愛知県 SDGs ガイドブック</p> <p>「貧困」の派生図作成 (20分) 派生図の発表 (10分)</p> <p>「貧困の輪」の話し合い (20分) 「貧困の輪」の発表 (10分)</p>	<p>貧困についての資料を読む 世界だけでなく、日本における貧困の現状を理解する。</p> <p>貧困から連想する言葉を出し合い、つなげることで派生図を作成する。 各班が作成したものを発表する。</p> <p>7つの項目の順番を並べ替え、貧困が生じるサイクルを考える。 各班が並べたものを発表する。</p>	<p>世界銀行が定めた貧困ラインも確認させたい。</p> <p>「貧困」→「お金がない」→「仕事がない」を例として提示してよい。</p> <p>正解があるわけではないことを伝える。 他の班の気になった発表内容をメモさせる。</p>	
4限目	<p>【TG 探究】 「断ち切るべきところ」はどこかについての話し合い (20分) 「断ち切るべきところ」の発表 (10分)</p> <p>TG 探究の振り返り (10分)</p>	<p>どこを断ち切ることで、貧困を止められるか、改善できるかを考える。 各班が考えたことを発表する。</p> <p>授業を振り返り、考えたことや学んだこと、感想などをワークシートに記入する。</p>	<p>多様な考え方や提言が出てくるように促す。</p> <p>なぜそこで断ち切るのかの理由を明確にして説明するように促す。</p> <p>記入後、ワークシートを回収する。 (12:45 4限目終了予定)</p>	

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

今年度最初の SGL 活動は、小浮正典豊明市市長よりのビデオメッセージを視聴することから始まった。高齢市民と外国人市民の増加といったこれまでの豊明市の地域課題に加え、障がい者や LGDB への理解などの課題について、とにかく興味や関心を持って欲しいとの助言をいただくことができた。その上で、SGL 活動へ取り組む意義をしっかりと再認識し、高校生らしい柔軟な発想でこの豊明市を明るく元気にして欲しいとの言葉をいただいた。

その後、石田校長よりのビデオメッセージを視聴させた。失敗を恐れず、何事にも挑戦して欲しい。そのためにしっかりと準備をして欲しいとの言葉をいただいた。その後、何事も知ろうとする姿勢が大切であり重要になること、高校生だからこそ解決できることもあること、たくさんことを知ればそれらが繋がっていくことになると激励していただいた。

ビデオ視聴後、1年間の活動をともにするチーム（班）を編制し、班毎の役割分担を話し合いによって決めた。そのうえで、各班の融和を図るために、まずは自己紹介、次に「SDGs カルタ」に取り組ませた。

授業後半では、[TG 探究] SDGs とは何かを理解させるために愛知県が作成したガイドブックを読んだ後、SDGs 目標1「貧困をなくそう」に関する資料を読ませ、貧困から連想される7つの言葉をならべてより深く「貧困」について考察させた。その上で、貧困を断ち切るために何を改善させることが重要かを話し合わせて、互いに発表をさせた。

【生徒の学びと教育的効果】

今年度の活動の概要については担任が説明した。班編制と役割分担決めについては、生徒たちによる自主的な話し合いで決定させた。班編制後のアイスブレイクでは「SDGs カルタ」を用いて親睦を図った。新学年が始まってまもなくぎこちない班もある中、生活の中の身近な課題から地球規模の課題にいたるまで、和気藹々と考えることができた。

後半の「貧困の輪」は、班によってその原因や影響が様々であり、「どこで断ち切るか」という議論に至っては様々な思考が見て取れた。しかし、共通することは「貧困」が、やはりどこか他人ごと、日本以外のこととして捉えられているようである。日本も決して無縁ではないことを感じる場面が必要である。

【育成の評価と改善点】

班編制はこの一年間の活動を共にする、言ってみれば重要な部分でもある。班員のそれぞれが自己の役割をしっかりと認識し、決して他人任せな状況にならないように仕向けなければならない。一方で、こちらからの指定で班を組むという方法も考えられるが、生徒の自主性を損なう恐れも出てくる。期待することは、どのようなメンバーで班が形成されようとも、その班員の持つ最大限のパワーで様々な思考や行動をやりきるということである。自分たちで決定した班員であるからこそ、十分な成果が出るよう期待している。

- 単元名：地域を知ろう
- 学習内容：自分の住んでいる町を知る・豊明市を知る・高齢市民や外国人市民が多いことでどのような問題が生じるかを考える
- ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	SDGs 推進や地域課題解決について自分で考えることができる	SDGs 推進や地域課題解決に向けた対策をグループで考えることができる	SDGs 推進や地域課題解決に向けた啓発物の内容を考えることができる	SDGs 推進や地域課題解決に向けた啓発物の活用計画を提案することができる
協働性	グループ活動で他者の意見に耳を傾けることができる	グループ活動でお互いの考えを伝え合い、認め合うことができる	グループの話し合いをもとに、協力して啓発物を作成することができる	コンソーシアムの方々と意見交換しながら啓発物を改良することができる
探究力	豊明市の地域課題と活動について調べることができる	地域課題解決に向けたことをグループで共有し、話し合うことができる	地域課題解決につながるプロジェクトをグループで立案することができる	コンソーシアムの方々と啓発物の活用方法について協議することができる
発信力	グループ活動で自分の意見を伝えることができる	グループ活動で他者の意見に対する自分の考えを伝えることができる	自分の意見やグループの意見を全体へ発表することができる	コンソーシアムの方々に自分たちが考えたことを発表することができる

4. 授業進行表

【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目 (5分) (10分) (10分)	【TL 探究】 自分の住んでいる地域を知る(25分) ・住んでいる地域の魅力を知る。 ・市町村の統計データから地域の現状を知る。 ・地域の魅力と現状を発表する。 豊明市を知る(25分) ・豊明市の魅力を考える。 ・豊明市の魅力を検索する。 ・統計データから豊明市の現状を知る。 ・豊明市の魅力と現状を発表する。	・住んでいる地域の魅力を考え、調べる。 ・市町村 HP から基礎データ(人口・世代構成・外国人の数と出身国)を調べる。 ・班内で地域のことを1人1分で発表し合う。 ・登下校での情報やイメージで豊明市の魅力として思い浮かぶことを出し合う。 ・ネットの情報から魅力を探る。 ・豊明市 HP から基礎データ(人口・世代構成・外国人の数と出身国)を調べる。 ・クラスを代表して1つ班が発表する。追加情報を他の班が発表し、情報を補足する。	・iPad 使用可を伝える。 ・市町村で出ない場合「愛知県の人口、愛知県外国人データ」で検索させる。 ・ワークシートに記入させる。時間があれば各班の情報をクラスで共有する。 ・iPad での検索無しで、今までの経験や記憶から話し合わせる。 ・iPad で検索させて魅力を調べさせる。 ・出ない場合「愛知県の人口、愛知県外国人データ」で検索させる。 ・様々な魅力を多く出させる、基礎データは正確な情報を理解させる。	
2限目 (10分) (10分) (5分)	高齢者・外国人のデータをまとめる(10分) ・高齢市民の人口割合を理解する。 ・外国人市民の出身国の割合を理解する。 どのような問題が生じるかを考える(20分) ・高齢市民や外国人市民が多いことで地域に生じる問題について考える。	・ワークシートの円グラフに0~14、15~64、65歳以上の3つの構成で分ける。 ・ワークシートの円グラフに上位4か国とその他の構成で分ける。 ・高齢市民と外国人市民のどちらかの課題について検討するかを決める。 ・選んだ課題で地域に生じる問題点を5つあげ、根拠を示しながら順位付けをする。	・正しい高齢比率(%)を理解させる。 ・正しい出身国の割合を理解させる。 ・感想を発表または記入させる。	
(20分) (10分) (5分) 10:45	・各班が考えたことを発表し、共有する。 ・ワークシートを回収する。	・それぞれの班が順位付けとその理由を発表する。 ・iPad でワークシートの画像をとってから、提出する。	・高齢市民の班と外国人市民の班が偏りすぎないようにする。 ・多様な問題点が出るように促す。 ・なぜその順位付けになるのかの理由を説明できるように話し合わせる。 ・多様な意見があり、視点によって順位付けも変わることを理解させる。 ・回収後、トイレ休憩をとり、アラカルト講座の会場へ移動するよう指示する。	
3限目 4限目 12:45	【TG 探究】 アラカルト講座を受講し、世界各地の現状や課題を聞く。※講師名（主活動国） ①内海悠二（アフガン・ヨルダン） ②江口由希子（トンガ） ③柳田由衣（スリランカ） ④玉置美春（カンボジア） ⑤後藤千明（エジプト・スーダン） ⑥荒木美恵子（ジャマイカ） ⑦林研吾（SDGs） ⑧大島風花（ナミビア） ⑨佐藤邦子（東ティモール） ⑩永石雅史（東ティモール、フィリピン） ・質疑応答 ・ワークシート記入・回収	・世界各地の現状や課題について、講師が活動されたことや経験を知る。 ・世界規模の課題や地域課題をどのように考えているかを知る。 ・興味、関心のある事柄についてメモをとり、疑問や質問があれば積極的に訪ねる。 ・質問する。 ・ワークシートにまとめる。	・生徒単位の移動になるので、それぞれの生徒にどこへ行くべきかを確實に認識させる。 ・教室移動の際は、速やかに行動させる。 ・各講座の発表や質疑応答が円滑に進むように支援する。 ・号令係、お礼の挨拶係に適宜指示する。	

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

昨年度、1年次のまとめとして地域課題解決に向けた提言を作成した本学年の生徒であるが、あらためて豊明市を根本から見つめ直す取り組みを行った。前回、小浮正典豊明市市長より、豊明市の地域課題をビデオメッセージとして伝えていたが、より理解を深めるため、まずはその比較対象として自分の住む町の基礎データ（人口・世代・構成・外国人の数と出身国、地域の魅力）を調べさせ、各班でその情報を共有させた。その後、豊明市の基礎データを調べさせ、自分たちの町と比較することによって、豊明市が抱える高齢化市民と外国籍市民の問題を理解する試みとさせた。

こうして見つめ直した豊明市の地域課題について、自分たちの班が、高齢市民と外国人市民のどちらかの課題について検討するかを決めさせた。その上で、選んだ課題で地域に生じる問題点を5つあげ、根拠を示しながら順位付けをさせた。

【生徒の学びと教育的効果】

自分の住む町の基礎データを調べる前に、まずは自分の知識だけで自分の町のことをまとめた。その後、インターネットを使い、自分の町のことを調べたのだが、多くの生徒が自ら住む町のことをよく理解していなかった様子が見受けられた。

こうして得られたそれぞれの地域の基礎データと豊明市の基礎データを比較することによって、ただ単に数字を見ていただけの時よりも、あらためて高齢化市民や外国籍市民の多さに気がつくことができた。

生徒はさらにここから、自分たちの班がどちらの課題（高齢市民の課題か外国籍市民の課題）に取り組むかを検討していくが、なかなか結論を導くことができない班も見受けられた。

【育成の評価と改善点】

本日の後半の活動は、アラカルト講座①であった。そのため、前半の活動として、自分の町と豊明市の基礎データを調べ、比較し、発表するまでを行ったが、発表までも含めると、時間が不十分だったことは否めない。アウトプットにはしっかりと時間配分をし、一つひとつの発表の機会を重要視していかなければならない。

後半のアラカルト講座においては、10の講座を開講することができ、世界中の様々な支援活動の経験を伺うことができた。やはり、実際に経験してきた講師の先生の話はリアリティと説得力があり、生徒は目の色を輝かせて講義を聞くことができた。

1. 単元名：カンボジアについて考える・豊明市の地域課題について考える
 2. 学習内容：カンボジアが抱える課題を知り、どのような支援が必要かを議論する。自分たちが取り組みたい地域課題を考える
 3. ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	SDGs推進や地域課題解決について自分で考えることができる	SDGs推進や地域課題解決に向けての対策をグループで考えることができる	SDGs推進や地域課題解決に向けた啓発物の内容を考えることができる	SDGs推進や地域課題解決に向けた啓発物の活用計画を提案することができる
協働性	グループ活動で他者の意見に耳を傾けることができる	グループ活動でお互いの考えを伝え合い、認め合うことができる	グループの話し合いをもとに、協力して啓発物を作成することができる	コンソーシアムの方々と意見交換しながら啓発物を改良することができる
探究力	豊明市の地域課題と活動について調べることができます	地域課題解決に向けて調べたことをグループで共有し、話し合うことができる	地域課題解決につながるプロジェクトをグループで立案することができる	コンソーシアムの方々と啓発物の活用方法について協議することができる
発信力	グループ活動で自分の意見を伝えることができる	グループ活動で他者の意見に対する自分の考えを伝えることができる	自分の意見やグループの意見を全体へ発表することができる	コンソーシアムの方々に自分たちが考えたことを発表することができる

4. 授業進行表

【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目 (15分)	【TG 探究】 <ul style="list-style-type: none">・カンボジアオンラインツアーリ^(R2/2/13)のビデオ視聴・カンボジアの派生図①の作成	<ul style="list-style-type: none">・カンボジアオンラインツアーリ^(R2/2/13)のビデオを見て、カンボジアを振り返る。・カンボジアの派生図①を作成する。	<ul style="list-style-type: none">・昨年度のカンボジアオンラインツアーリ^(一部)のビデオをプロジェクターで投影し視聴させる。(事前ダウンロード)・ビデオの内容から派生図を作らせる。・Cambodia Mines-remove Campaign のビデオ(一部)をプロジェクターで視聴させる。(事前ダウンロード)・①とは違^いいある派生図を作らせたい。	
(10分)				
(15分)	<ul style="list-style-type: none">・別のビデオ視聴により、カンボジアの別の面についての理解・カンボジアの派生図②の作成	<ul style="list-style-type: none">・CMC という団体の地雷・教育・貧困についてのビデオを見る。・改めてカンボジアの派生図②を作成する。		
(10分)	<ul style="list-style-type: none">・カンボジアについて支援すべき分野の検討と話し合う分野の決定	<ul style="list-style-type: none">・2つの派生図から、支援すべきだと思う分野やテーマを列挙し、3つの分野に絞る。		
2限目 (20分)	<ul style="list-style-type: none">・具体的な支援内容と期待できる変化の検討 (できる限り多くのアイディアを出す)	<ul style="list-style-type: none">・3つの分野について①具体的にどのような支援が必要か、②その支援で期待される変化について、自分の考えを付箋に書く。		
(15分)	<ul style="list-style-type: none">・同じような考えを集めて分類・整理及び1つの支援分野と内容に焦点化、現状と課題の検索	<ul style="list-style-type: none">・考えを分類して整理し、班として最重要支援分野と内容を選び、それについて、iPadを使って現状と課題について調べる。		
(15分)	<ul style="list-style-type: none">・班でまとめた内容の発表	<ul style="list-style-type: none">・各班の代表者が、まとめたことをクラス全体に発表する。(余裕があれば質疑応答)		
3限目 (10分)	<ul style="list-style-type: none">・TG 探究の振り返りとまとめホワイトボードの記録(写真係)	<ul style="list-style-type: none">・ワークシートに記入し6月5日カンボジアオンライン講義での質問を考える。	<p>※ホワイトボードの一例</p>	
(5分)	<ul style="list-style-type: none">・地域協創プロジェクトの理解・コンソーシアム協力予定者の理解	<ul style="list-style-type: none">・外国人・高齢市民に関わる地域課題解決の啓発素材の開発への取組を理解する。		
(20分)	<ul style="list-style-type: none">・昨年度2年生の探究成果の確認	<ul style="list-style-type: none">・iPad を用いて星城高校のHPで昨年度2年生の探究成果物データを見る。		
(15分)	<ul style="list-style-type: none">・豊明市の地域課題についての検討	<ul style="list-style-type: none">・昨年度のデータを見て、又は知っている情報から、気になった豊明市の地域課題をホワイトボードに列挙する。		
4限目 (15分)	<ul style="list-style-type: none">・地域課題についての情報検索	<ul style="list-style-type: none">・列挙した地域課題について、関連する現状データなどを検索し、情報を付箋に書く。		
(15分)	<ul style="list-style-type: none">・対象市民の選択(外国人・高齢者)と取り扱う地域課題の検討	<ul style="list-style-type: none">・出てきた地域課題と各種データ情報から、対象市民を選び、どのような地域課題解決に取り組みたいかを班で検討する。		
(15分)	<ul style="list-style-type: none">・班でまとめた内容の発表	<ul style="list-style-type: none">・各班の代表者が、まとめたことをクラス全体に発表する。(余裕があれば質疑応答)		
(5分)	<ul style="list-style-type: none">・振り返り	<ul style="list-style-type: none">・ワークシートに記入する。		

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

昨年度のカンボジアオンラインツアーの様子を数分程度にまとめ、そのビデオを視聴させた。まずはカンボジアという国の観光地を知ることから始め、知識として知っている範囲でのカンボジアのイメージを派生図①にまとめさせた。

その後、CMC（一般財団法人 カンボジア地雷撤去キャンペーン）が現地で取り組んでいる様子をまとめたビデオを視聴させ、カンボジアの地雷・教育・貧困について、より深い理解を促した。ここでもう一度、カンボジアのイメージを派生図②にまとめさせ、派生図①と派生図②の違いについて、それぞれの班で話をさせた。その中から、支援すべき分野やテーマを列挙させ、班としての意見をまとめた。

授業の後半は、iPadを用いて昨年度の探究成果発表データをホームページから確認させ、これから取り組んでいく啓発物の開発をより具体的にイメージにさせる手法をとった。

【生徒の学びと教育的効果】

本日のSGL活動では、次回の6月5日に行われるカンボジアオンライン研修に先駆けて、カンボジアについて事前学習を行った。カンボジアの現状を知り、何を解決するか、どのように支援を行うか、その結果どのようなことが期待できるか、各班で意見交換を行いました。地雷や教育、貧困など、いまだに多くの問題が残っているカンボジアについて考えるのは難しかったようだが、それでも活発にアイデアを出し議論を進めた。クラス全体での発表にも、工夫が見られた。

授業の後半は、昨年度交流した地域団体の方が抱える課題や地域の課題の解決に向け、啓発物の作成について考え始めた。本日、本来であればコンソーシアムの方々をお招きし地域の現状や課題をお聞きするはずであった。しかし、このコロナ禍ではそういったことも制約を受けてしまう。そこで気がついたことは、私たちのみならず地域の方々も不自由な生活を強いられているはずだと言うこと。どのような課題に取り組むべきか、真剣な議論を行った。

【育成の評価と改善点】

カンボジアの地雷・教育・貧困について、これほど真剣に考え、かつリアルに感じたことは無かった。これはある生徒が漏らした感想である。日本においては知ることのない現実が、世界のあらゆるところで起きている。まさに、SDGsの目標の意義を肌で感じた瞬間でもあった。

このようなことを感じる生徒は決して少なくはない。しかし、今回の授業のテーマが、カンボジアの地雷・教育・貧困を取り扱ったものだからこそであり、やはり日常の生活の中ではそう感じる場面は少ないだろう。

- 単元名： 豊明市の地域課題について考える・カンボジアオンライン講義
- 学習内容： 自分たちが取り組みたい地域課題を考え、啓発素材を作成する・カンボジアの現状を知り、SDGsに繋がる発想を身につける。
- ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	SDGs推進や地域課題解決について自分で考えることができる	SDGs推進や地域課題解決に向けて対策をグループで考えることができる	SDGs推進や地域課題解決に向けた啓発物の内容を考えることができる	SDGs推進や地域課題解決に向けた啓発物の活用計画を提案することができる
協働性	グループ活動で他者の意見に耳を傾けることができる	グループ活動でお互いの考えを伝え合い、認め合うことができる	グループの話し合いをもとに、協力して啓発物を作成することができる	コンソーシアムの方々と意見交換しながら啓発物を改良することができる
探究力	豊明市の地域課題と活動について調べることができる	地域課題解決に向けたことをグループで共有し、話し合うことができる	地域課題解決につながるプロジェクトをグループで立案することができる	コンソーシアムの方々と啓発物の活用方法について協議することができる
発信力	グループ活動で自分の意見を伝えることができる	グループ活動で他者の意見に対する自分の考えを伝えることができる	自分の意見やグループの意見を全体へ発表することができる	コンソーシアムの方々に自分たちが考えたことを発表することができる

4. 授業進行表

【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目 (5分)	【TL 探究】 ・前回(5/29)、班で話し合った地域課題の振り返り	・前回班で話し合った地域課題について、振り返りをおこない、内容を確認する。	・ホワイトボードにタイトルとして地域課題を書かせるのもよい。	
(25分)	・地域課題についての情報収集と昨年度の成果物の確認	・班で取り組む地域課題について、情報を集める。昨年度の成果物を見たり、探究成果発表動画を視聴したりして、ヒントを得る。	・啓発素材の方向性が、課題解決に向かっているか否かを注意深く観察する。 ・班での話し合い（活動）に参加していない生徒がいれば、指導する必要がある。	
(20分)	・啓発素材の検討	・啓発素材のアイデアを出し合う。	・方向性に迷いがあれば、助言する。	
2限目 (30分)	・班で作成する啓発素材の方向性を決定する。	・様々なアイデアをもとに、地域課題とその解決につながる啓発素材開発案をまとめるとする。	・課題解決への根拠になるアイデアや情報を、数多く出すように指導する。	
(20分)	・各班の発表による、様々なアイデアの共有	・各班で考えた地域課題と解決につながる啓発素材について発表する。	・発表内容をしっかりと聞く環境を作り出し、確実な情報共有ができるように指導する。	
3限目	【TG 探究】			
4限目 (15分)	カンボジアオンライン研修 ・カンボジア近代史	・普段の授業を受ける姿勢で、オンライン研修を受講する。	・オンライン研修ではあるが、研修を聞く姿勢や態度に留意させる。	
(15分)	・内戦経験者の体験談	・内戦経験者の体験談を聞く。	・前回の事前学習をもとに、スムーズな質疑がおこなえるよう事前指導をしておく。	
(10分)	・質疑応答	・きちんとした言葉使いで質問をする。	・3年5組⇒1組の順で質疑をおこなわせる。	
(10分)	・休憩	・時間内に席に戻る。	・時間に遅れないよう、指示をする。	
(15分)	・地雷撤去活動団体職員の講義	・地雷撤去活動団体職員の講義を聞く。	・1年4組⇒1組の順で質疑をおこなわせる。	
(10分)	・質疑応答	・きちんとした言葉使いで質問をする。	・2年6組⇒1組の順で質疑をおこなわせる。	
(15分)	・学校設立支援団体職員の講義	・学校設立支援団体職員の講義を聞く。	・Google Classroomにて配信されたフォームにて、感想や意見を入力するよう指示する。	
(10分)	・質疑応答	・きちんとした言葉使いで質問をする。		
(5分)	・まとめ ・感想や意見	・オンライン講義を受けた感想や意見を入力し、提出をする。		

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

これまでの活動によって、豊明市に抱える地域課題が見えてきた。その解決手段として、生徒たちが何をすればよいのか、どんな啓発物を制作するのか、少しずつではあるが具体性を帯びてきた。

大切なことは、班で取り組む地域課題について、しっかりと情報を集めること。昨年度の成果物を見たり、探究成果発表動画を視聴したりして、ヒントを得ること。開発しようとする啓発素材の方向性が、課題解決に向かっていること、である。方向性に迷いがあれば、教員から助言する必要があるが、明確な道標は生徒の主体性を欠く結果になり好ましくはない。このバランスを保ちながら的確な助言をした。

生徒たちは話し合いを行った後、解決したい地域課題（設定）→ 課題解決につながる啓発物は何か（仮説）→ なぜそれが解決につながるのか（根拠）という流れに従って、各班の企画案がクラス内で発表した。

後半の活動は、カンボジアオンライン研修である。前回までの授業で、カンボジアの地雷・教育・貧困について学んでいた。その上で、「内戦経験者の体験談」「地雷撤去活動団体職員の講義」「学校設立支援団体職員の講義」を受けられるオンライン研修を設けることができたのは、今後の活動に大きな影響を与える重要な機会であったと捉えている。

【生徒の学びと教育的効果】

現時点での各班が設定した地域課題と解決のための啓発素材、その素材でどのようにして地域課題が解決されるのか、を簡単にまとめて発表した。ここで重要なことは、今日のこの発表の内容で今後の活動を進めていくべきなのか、ということを明確にすることである。そのためには、これから活動において様々な情報を集め、多くの人（地域の方々やコンソーシアム関係者）から助言をもらい、多方面からの検討を重ね、原点に戻って地域課題とその解決案を見直すことも大切である。間違いや違和感を覚えたら、直ちに修正していくなければならない。教員は常に鋭いアンテナを張り、生徒を見守っていかなければならない。

【育成の評価と改善点】

本日は今後の活動を大きく左右しかねない活動内容であったが故に、あまり堅くなりすぎず、リラックスして多方面から物事を考えることも必要である。そのためにも、後半の他国の実態を知りその解決方法を実際に目の当たりにしたカンボジアオンライン研修は、生徒にとってよい刺激となったはずである。

- 単元名：パラオと沖縄の貧困、移民、犯罪とSDGs
- 学習内容：日本で得られる情報からは知ることのできないパラオの現状を知り、SDGsに繋がる発想を身につける。
- ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	SDGs推進や地域課題解決について自分で考えることができる	SDGs推進や地域課題解決に向けての対策をグループで考えることができる	SDGs推進や地域課題解決に向けた啓発物の内容を考えることができる	SDGs推進や地域課題解決に向けた啓発物の活用計画を提案することができる
協働性	グループ活動で他者の意見に耳を傾けることができる	グループ活動でお互いの考えを伝え合い、認め合うことができる	グループの話し合いをもとに、協力して啓発物を作成することができる	コンソーシアムの方々と意見交換しながら啓発物を改良することができる
探究力	豊明市の地域課題と活動について調べることができる	地域課題解決に向けたことをグループで共有し、話し合うことができる	地域課題解決につながるプロジェクトをグループで立案することができる	コンソーシアムの方々と啓発物の活用方法について協議することができる
発信力	グループ活動で自分の意見を伝えることができる	グループ活動で他者の意見に対する自分の考えを伝えることができる	自分の意見やグループの意見を全体へ発表することができる	コンソーシアムの方々に自分たちが考えたことを発表することができる

4. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目 (10分)	【TG 探究】 パラオオンライン講義の準備 Kahoot!へのログイン（準備） パラオオンライン講義 講師：早川 理恵子 先生 ・パラオと沖縄の移民・貧困・犯罪 ・ビデオ「1000 以上残るパラオの日本語」 ・第一次世界大戦、国際連盟と委任統治 <クイズ(Kahoot!)> ・日本にもある借用語 ・即席パラオ語	・班ごとに机を並べ、講義を受ける体制を整える。 ・班ごとに iPad 1 台を使い、Kahoot!にログイン（学年—クラス—班名）し、クイズの準備を行う。	・以下の点に注意し環境を整える。 ①班ごとの体制を整える。 ②代表の 1 つの班に中継用 iPad を設置する。 ③マイク OFF、カメラ ON の状態にして zoom に入室する。 ④生徒の iPad を班ごとに 1 台準備させ、Kahoot!に入室させる。ニックネームを「学年—クラス—班（例：1 年 1 組 1 班）」とさせる。 ⑤クラス内が静かになったところで、マイクを ON にする。その際には、会話が相手に伝わることを留意させる。	
(25分)		・普段の授業を受ける姿勢で受講する。 ・ビデオを拝聴し、パラオ語の中に数多くの日本語が混じっていることを理解する。 ・1919 年からの日本委任統治領時代の状況を理解する。 ・手際よく Kahoot!に参加する。素早く班で話し合い、答えを導きだし、入力する。 ・パラオ語の練習に、積極的に参加する。		
(20分)	・太平洋の島の貧困・犯罪・移民 ※マイアミより中継（インタビュー形式）※【特別ゲスト】クレオ・パスカル女史（英国王立国際問題研究所研究員）	・Kahoot!終了後、再び講義を受ける体制を整える。 ・太平洋の島の貧困、犯罪、移民について、日本から得られる情報の差異について理解する。	・日本=ニュージーランド=マイアミの 3 か国同時中継であることから、通信状況が悪くなったときは、その場を取り次ぐ。	
2限目 (15分)	・パラオと八重山の SDGs ・イリオモテヤマネコか人間か（皇太子殿下の手紙（回答）から） ・「石垣空港物語」珊瑚か経済か ・パラオ海洋保護区と水産資源	・修学旅行への導入として、訪れる八重山諸島の歴史、環境などについて理解を深める。 ・3 名の生徒で、手紙を読み上げる。 ・代表生徒より、今回の講義についての謝辞を述べる。	・八重山諸島への修学旅行が実施されることから、その事前学習として、講義の内容を捉えさせる。 ・事前に指導しておく。 読み上げ生徒 2 年 1 組 生徒 2 年 2 組 生徒 2 年 4 組 生徒 謝辞代表生徒・2 年 5 組 生徒 ・休憩時間を伝える。	
(10分)	・休憩	・指定された時間に席へ戻る。		
(20分)	・感想（Google フォーム）	・言葉遣いに気をつけ、感想を入力し、送信する。	・Google Classroom にて配信されたフォームにて、アンケートや感想を入力するよう指示する。	
3限目 4限目	【TL 探究】 ・課題解決、啓発素材の検討 ・作成する啓発素材の方向性を決定 ・片付け	・様々な情報とアイデアをもとに、地域課題とその解決につながる啓発素材開発案をまとめる。 ・作成しようとする啓発素材が、課題解決に繋がるのかを、多方面から検証する。 ・机を元に戻し、片付けを行う。	・班で開発する啓発素材が課題解決への方向性があるのかを見定め、必要であれば助言する。 ※必要な観点…外国人市民・高齢市民への課題解決につながっているのか、解決の糸口として自分たちで啓発素材を作成する方向性になっているのかを確認する。	

【授業の様子（写真）】



【生徒の学びと教育的効果】

今回のオンライン講義では、早川理恵子先生（博士）より、パラオと沖縄の貧困、移民、犯罪とSDGsについての講義をいただいた。「パラオってどこ？」から始まり、あまりなじみの無いこの国が実は日本統治時代に栄え、発展してきたことはあまり知られていない。第一次世界大戦前後の日英同盟・国際連盟（現在の国際連合）・委任統治領、移民統治の状況、沖縄から多くの日本人が移民していったその経緯などを詳しく教わった。

オンライン講義は通常の対面式授業とは異なり、お互いの反応を確認することが難しい。また、一方的な受け身型の講義形式では退屈してしまう。そこで今回はあらかじめ二つの工夫（準備）をして望んでいる。ひとつめは、生徒には資料としてPDFを配信してある。生徒はこの資料を見ながら講義を受け、時には資料の一部を読み上げさせた。生徒にはどの部分を読み上げるのかを指示しておくことで、スムーズな進行を続けることができた。もうひとつは、全生徒が参加している感覚を持って臨めるように、Kahoot!（多肢選択問題を用いた学習ゲーム）を用いて、学年・クラス・班で問題の解答を競い合う場面を設定した。全ての解答が終わった後に正答率のランキングが表示され、その結果に一喜一憂する場面もあった。

【生徒の学びと教育的効果・育成の評価と改善点】

本授業の後、生徒全員が講師の先生に対し感想を送った。そのひとつを見てみると、「パラオで使われている言語に多くの日本語が使われてびっくりしました。その理由が第一次世界大戦の勝利により得た委任統治権で沖縄（世界恐慌などにより解雇された人々）の人がパラオなどに移住したことにより、沖縄出身者を中心とした日本人移民が増えて日本語が普及したということを初めて知りました。また、パラオ沿海での魚の減少を理由にデモが起き、SDGsまで発展した事にびっくりしました。今日は貴重な時間を頂いてためになるお話をありがとうございました。」とある。

本校の生徒たちは、これから地元の豊明市の地域課題についてその解決を探っていく活動を行っていく。そういった活動を、ただ単に地元だけを見つめるのではなくグローバルな視点からの解決を見いだしていくためには、今回のような日本以外の国々の「今」と「現状」を知ることも重要だと考える。

本日の後半は、様々な情報とアイデアをもとに、地域課題とその解決につながる啓発素材開発案をまとめた。作成しようとする啓発素材が、課題解決に繋がるのかを、多方面から検証し、外国人市民・高齢市民への課題解決につながっているのか、解決の糸口として自分たちで啓発素材を作成する方向性になっているのかを確認しなければならない。

- 単元名 : 豊明市の地域課題解決と啓発素材について考える・シンガポールオンライン講義
- 学習内容: 豊明市の地域課題解決のための啓発素材を作成する・シンガポールの概要、多文化共生など学び、SDGsに繋がる発想を身につける。
- ループリック評価:

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	SDGs推進や地域課題解決について自分で考えることができる	SDGs推進や地域課題解決に向けた対策をグループで考えることができる	SDGs推進や地域課題解決に向けた啓発物の内容を考えることができる	SDGs推進や地域課題解決に向けた啓発物の活用計画を提案することができる
協働性	グループ活動で他者の意見に耳を傾けることができる	グループ活動でお互いの考えを伝え合い、認め合うことができる	グループの話し合いをもとに、協力して啓発物を作成することができる	コンソーシアムの方々と意見交換しながら啓発物を改良することができる
探究力	豊明市の地域課題と活動について調べることができる	地域課題解決に向けたことをグループで共有し、話し合うことができる	地域課題解決につながるプロジェクトをグループで立案することができる	コンソーシアムの方々と啓発物の活用方法について協議することができる
発信力	グループ活動で自分の意見を伝えることができる	グループ活動で他者の意見に対する自分の考えを伝えることができる	自分の意見やグループの意見を全体へ発表することができる	コンソーシアムの方々に自分たちが考えたことを発表することができる

4. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目	【TL 探究】 地域課題解決に向けた啓発素材の方向性の検討	・豊明市の地域課題解決に向けた啓発素材の方向性を検討する。	・本日の使用教室を、2号館2階多目6~11とする。(担当教員の判断で、適宜休憩時間をとる。)	
2限目	コンソーシアム参加者 ・スギ薬局 ・国際交流協会 ・ARMS ・社会福祉協議会 ・市民協働課 ・青年会議所	・コンソーシアムの方からの話を聞き、地域課題や啓発素材のヒントを得る。 ・コンソーシアムの方からの助言をもとに、啓発素材案を検討する。 ・様々なアイデアや助言をもとに、班で考えている啓発素材をより具体化していく。	多11 多10 階 多9 多8 多7 多6 2-6 2-5 段 2-4 2-3 2-2 2-1 ・コンソーシアムの方を紹介し、本日の流れを伝える。例:挨拶 ⇒ お話 ⇒ 机間巡視(助言) ⇒ まとめ ⇒ お礼 ・担当教員の判断で、適宜休憩時間をとる。 ・コンソーシアムの方からの話を聞く態度に留意させる。 ・コンソーシアムの方とコミュニケーションがとれるように、各班との調整役になる。 ・地域課題と啓発素材が結びついているか観察し、必要があれば指導する。 ・まとめを促す。(10:45をめどとする) ・代表生徒より謝辞を促す。 ・休憩を指示し、時間までにもとの教室へ速やかに戻るよう、指示する。	
	啓発素材の発案・検討・修正	・班での話し合いの際、コンソーシアムの方から助言をもらう。		
	まとめ(コンソーシアムの方から、全体のまとめ)	・本日のまとめを聞き、次回へつなげる。 ・お礼の言葉を述べる。 ・時間(11:00)までにもとの教室へ移動する。		
3限目	【TG 探究】	・普段の授業を受ける姿勢で、オンライン研修を受講する。	・オンラインではあるが、研修を聞く姿勢や態度に留意させる。	
4限目 (5分)	シンガポールオンライン研修 ・シンガポール概要説明	・シンガポールの概要を理解する。 (人口・面積・時差・公用語・学校制度など)	・以下の点に留意し環境を整える。 ①2限終了後、直ちに準備を行う。 ②マイクオフ、カメラオンの状態にしてzoomに入室する。 ③質疑応答などの際、マイクのオンオフがスムーズに行える体制を整える。	
(5分)	・市内観光地の紹介 ※ビデオ視聴	・著名な観光地を見学し、理解を深める。	・1年生1組~4組(4クラス)	
(20分)	・テロックアイヤーストリート (複数の宗教が存在する通り)	・複数の宗教が同じ空間に存在することを確認し、多文化共存の理解を深める。		
(15分)	・質疑応答	・きちんとした言葉使いで質問をする。		
(8分)	・Harmony in Diversity Gallery ※ビデオ視聴	・相互理解、尊敬、感謝を築く重要性を学ぶ。		
(20分) (5分)	・ホーカーセンター ・クイズ形式での学び	・多国籍料理などについて、クイズ形式で学ぶ。きちんとした言葉使いで回答をする。	・回答を求められるような状況にあたっては、速やかに行う。 ・3年生1組~5組(5クラス)	
(5分) (7分)	・まとめ ・質疑応答	・まとめを聞く。 ・きちんとした言葉使いで質問をする。 ・代表生徒より、謝辞を述べる。	・2年生1組~6組(6クラス) ・謝辞代表生徒2年組	
	・感想や意見	・オンライン講義を受けた感想や意見を入力し、提出をする。	・Google Classroomにて配信されたフォームにて、感想や意見を入力するよう指示する。	

【授業の様子（写真）】



【生徒の学びと教育的効果】

本日は、地域のコンソーシアムの方々が来校され、地元豊明市の現状や課題について具体的な話を聞くことができた。

「外国人市民と高齢者が輝く新たな架け橋プロジェクト」として、自分たちが設定した地域課題とその解決のための啓発素材について、本当にこの地域課題は地元の人たちにとって重要なことなのか、開発しようとする啓発物は有益なのか、そのようなことを協議するにあたって、その立場からの確なアドバイスをいただくことができた。

後半の授業では、シンガポールオンライン研修を実施した。シンガポールでは、複数の宗教が同じ空間に存在し、お互いを認め合いながら共存している、まさに多文化共生の国である。このことは地元を振り返ると、まさに外国籍市民が多いこの豊明市の地域課題解決への糸口になるのではないか。そのような期待を胸に、インターネットでは知ることのできない他の国々の現状を届ける機会を設けた。

【生徒の学びと教育的効果】

前半の活動では、コンソーシアムの方々の立場からの確なアドバイスをいただくことができた。特に新型コロナウイルス感染症への感染対策から、本来であればさまざまな場所へ出向き、生の声を拾ったり、アンケートなどを実施したりして多くの意見を求めるところではあるが、なかなか儘にならないところもある。そういったことからも、多くの方々にご来校いただき、適切なアドバイスをいただくことができたのは、非常に有益であった。

【育成の評価と改善点】

後半のシンガポールオンライン研修では、前回のカンボジアオンライン研修と同様、グローバルな視点からの見地を身につける絶好の機会となったはずである。今年度も実際に海外での研修を実施することができない。そういった意味では、オンラインではあるが、海外の様々な現状を知る機会を設けることは、十分な意義があると考える。

1. 単元名 : 豊明市の地域課題解決と開発する啓発素材を決定する。
2. 学習内容: 豊明市の地域課題解決のための啓発素材を決定する。
3. ループリック評価:

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	SDGs 推進や地域課題解決について自分で考えることができる	SDGs 推進や地域課題解決に向けた対策をグループで考えることができる	SDGs 推進や地域課題解決に向けた啓発物の内容を考えることができる	SDGs 推進や地域課題解決に向けた啓発物の活用計画を提案することができる
協働性	グループ活動で他者の意見に耳を傾けることができる	グループ活動でお互いの考えを伝え合い、認め合うことができる	グループの話し合いをもとに、協力して啓発物を作成することができる	コンソーシアムの方々と意見交換しながら啓発物を改良することができる
探究力	豊明市の地域課題と活動について調べることができる	地域課題解決に向けたことをグループで共有し、話し合うことができる	地域課題解決につながるプロジェクトをグループで立案することができる	コンソーシアムの方々と啓発物の活用方法について協議することができる
発信力	グループ活動で自分の意見を伝えることができる	グループ活動で他者の意見に対する自分の考えを伝えることができる	自分の意見やグループの意見を全体へ発表することができる	コンソーシアムの方々に自分たちが考えたことを発表することができる

4. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目	【TL 探究】 地域課題解決に向けた啓発素材の方向性の検討	・豊明市の地域課題解決に向けた啓発素材の方向性を検討する。	・本日の使用教室を、2号館2階多目6~11とする。	
2限目	コンソーシアム参加者 ・スギ薬局 ・国際交流協会 ・ARMS ・社会福祉協議会 ・市民協働課 ・青年会議所	・コンソーシアムの方からの話を聞き、地域課題や啓発素材のヒントを得る。 ・コンソーシアムの方からの助言をもとに、啓発素材案を検討する。 ・様々なアイデアや助言をもとに、班で考えている啓発素材をより具体化していく。	多11 多10 階 多9 多8 多7 多6 2-6 2-5 段 2-4 2-3 2-2 2-1 ・前回と同じコンソーシアムの方が教室に入る予定だが、他の方が入る場合もある。その場合は前回と同様に紹介から始め、全体に本日の流れを伝える。 例:挨拶 ⇒ お話 ⇒ 机間巡回(助言) ⇒ まとめ ⇒ お礼	
	啓発素材の発案・検討・修正	・班での話し合いの際、コンソーシアムの方から助言をもらう。 ・開発する啓発素材を説明できるように準備する。	・担当教員の判断で、適宜休憩時間をとる。 ・コンソーシアムの方からの話を聞く態度に留意させる。 ・コンソーシアムの方とコミュニケーションがとれるように、各班との調整役になる。 ・地域課題と啓発素材が結びついているか観察し、必要があれば指導する。 ・まとめを促す。(終了時間は10:55をめどとする) ・代表生徒より謝辞を促す。	
3限目	まとめ (コンソーシアムの方から、全体のまとめ)	・本日のまとめを聞く。 ・お礼の言葉を述べる。	・発表する内容が、なぜその課題に着目したのか、その課題に対してどのような考えを持ったのか、コンソーシアムの方からの助言がどのように活かされているのか、開発する啓発素材は何か、それによって何が期待できるのかなどの観点が含まれているかを確認する。	
4限目	開発する啓発素材をクラスで共有	・開発する啓発素材を発表できるように準備する。 例: ワークシートを撮影・投影、スライドを作り発表、ホワイトボードにまとめ発表など。	・すべての班が発表できる状況が整った時点で発表をおこなわせる。(班によって進行が異なるので、時間を持て余すことのないように配慮する。) ・発表者の話をしっかりと聞く環境を作る。必要であればメモをとらせる。 ・他の班の発表を聞き、参考になった点などを班で共有する。自分の班の啓発素材開発に活かせがあれば改善する。	
	啓発素材の発案・検討・修正	・各班の代表者、または全員で啓発素材開発案を発表し、クラス内で情報を共有する。 ・他の班の発表を聞き、参考になった点などを班で共有する。自分の班の啓発素材開発に活かせがあれば改善する。	・発表者の話をしっかりと聞く環境を作る。必要であればメモをとらせる。 ・他の班の発表を聞き、自分の班に活かせることができれば、それを促す。 ・班でまとめた作成手順や作成方法に不備がないかどうか、実現可能かどうかを確認する。 ・アンケートや現地調査、情報検索などから、課題解決の根拠となるものが集められるといい。	
	開発する啓発素材の決定	・開発する啓発素材の作成手順、作成方法、日程、役割分担、費用などをまとめる。 ・夏休み中に活動できることがあれば、その計画を立てる。 ・開発する啓発素材を決定する。 ・ループリック評価をおこなう。	・ワークシートを回収し、最終確認をする。	

【授業の様子（写真）】



【生徒の学びと教育的効果】

前回と同じく、本日は、地域のコンソーシアムの方々が来校され、地元豊明市の現状や課題について具体的な話を聞くことができた。前回と異なるのは、班によっては他クラスへ出向き、これまで関わりの無かったコンソーシアムの方々との相談やアドバイスをいただくことができた点であろう。そのような生徒の相談事にもご対応くださったコンソーシアムの方々に感謝し、敬意を表する。

【生徒の学びと教育的効果・育成の評価と改善点】

コンソーシアムの方々から、的確なアドバイスやヒントをいただくことができたことは、生徒にとって今後の活動に大きな道筋ができたと感じる。可能な限り複数回このような場を設けたいと考えるが、一方で新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらない。今後、生徒たちは学校外でのフィールドワークへと進むことになるが、制限のある中での最大限の活動を期待してやまない。

本日後半の活動は、各班で設定した地域課題と、その解決に向けた啓発素材の案をクラス内で共有することであった。本日は、1学期最後の授業であったため、夏休み中に活動できることはあるのか、あるいはしておかなければならないことはあるのか、そういう観点からも、現時点での構想をクラス内で発表し共有することができたことは意義があったと考える。

- 単元名：地域課題解決のための啓発素材開発、多文化共生アラカルト講座
- 学習内容：ループリック評価の確認、啓発素材作成までの日程確認、校外活動のルール確認、現地調査、啓発素材の開発、世界各地での開発支援
- ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	地域課題や課題解決のための啓発物開発について、興味・関心をもつことができる	地域課題と新たに開発しようとする啓発物を関連づけて考えることができる	地域課題解決のための啓発物(作成)にあたって、積極的に取り組むことができる	地域の方々の意見を聞き、それらを生かして、啓発物開発に取り組むことができる
協働性	班員の意見を大切にし、協力して地域課題の発見や啓発物の開発に取り組むことができる	コンソーシアムの方々の助言や意見を聞き、新たな啓発物作成の提案ができる	地域やコンソーシアムの方々と改善点を協議し、協働しながら啓発物を開発できる	開発した啓発物を地域の方々に使用してもらい、感想や意見などをまとめることができる
探究力	具体的な地域課題を見つけ、それを解決するための啓発物作成について検討できる	地域課題解決につながる啓発物作成を目指して調査し、その内容を活用できる	現地での調査を通じて地域の現状を知り、地域の要求を開発に反映できる	SDGsとの関連やグローバルな視点を踏まえて、啓発物の作成や活用方法を検討できる
発信力	グループ活動で自分の考えや他の意見についての自分の考えを伝えることができる	グループでまとめた考えた啓発物のアイディアをクラスで発表・説明できる	啓発物のアイディア・活用法などをコンソーシアムの方々に発表・説明できる	完成した啓発物を地域の方々に提示し、その活用を呼びかけることができる

4. 授業進行表

【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目 2限目	【TL 探究】 2学期ループリック評価表と今後の流れを確認	ループリック評価の内容を確認する。 以下の日程を確認する。 ・9/4：今後の計画作成、アラカルト講座 ・9/18：現地踏査 ・10/16：啓発素材開発、協力団体の連携 ・10/30：啓発素材開発、協力団体と連携 ・11/6：啓発素材開発、オンラインツアーアー ・11/16～11/19：SGL 国内研修	2学期のループリックを確認し、より高いレベルでの活動を目標とするよう指導する。 コロナ禍で地域の人々との交流ができないことも成立するよう、臨機応変な対応と創意工夫をするよう指導する。 ※遅くとも 11 月中に完成・提出させる。	
	活動のルールを確認 1. 予算の活用方法を確認	以下の内容を確認する。 ・予算は各班 11,000 円 ・予算受領印と会計報告書の作成 ・領収書の宛名は「星城高校」 ・各班のサブリーダが会計を行う(印鑑必須)	予算の支出・管理は 1 円の誤差も認められないことを理解させ、その管理に十分留意することを理解させる。 特に、①領収書の名前②但し書き（品目が分かるように）③支出内容も注意するよう指導する。 各サブリーダに印鑑を準備させる。	
	2. manaca の利用方法を確認	・manaca 利用報告書を毎回提出する ・manaca の管理、受け渡しは各担任で行う ・他の乗客へのマナー、マスク着用必須 ・名鉄、名鉄バスとひまわりバスが利用可能	各班 1 枚程度の manaca (残高 10,000 円以上が入金済み) が割り当てられており、その取り扱い方法に留意させる。 公共マナー、モラルの重要性を理解させる。	
	3. 校外活動申請書・報告書を確認	・事前に申請で許可を取る ・事後に報告書を提出する	計画的な行動を心がけるよう指導する。	
	4. そのほかの注意事項	・活動中の単独行動は厳禁（原則 3 人以上） ・原則、公の場で活動する（個人宅は禁止） ・マナー、モラル、ルールに留意する ・新型コロナ感染症の予防対策を徹底	安心、安全が最優先であり、軽率な行動が無いよう指導する。 新型コロナ感染症の予防対策を徹底させる。 休憩時間を設け、アラカルト講座の会場へ移動するよう指示する。	
3限目 4限目	【TG 探究】オンラインで実施 アラカルト講座を受講し、世界各地の現状や課題を聞く。※講師名（主活動国） ①内海 悠二（アフガニスタン等） ②内海 摩耶（南スーダン） ③江口由希子（トンガ王国） ④山田 修土（ドミニカ共和国） ⑤玉置 美春（カンボジア） ⑥後藤 千明（エジプト） ⑦荒木美恵子（ジャマイカ） ⑧林 研吾（SDGs） ⑨大島 風花（ナミビア） ⑩佐藤 邦子（東ティモール） ⑪永石 雅史（東ティモール等） ⑫古藤真紀子（アフガニスタン）	世界各地の現状や課題について、講師が活動されたことや経験を知る。 世界規模の課題や地域課題をどのように考えているかを知る。	オンラインでの実施となるため、その準備を迅速に行う。各教室は PC を使ってプロジェクター投影し、iPad は授業風景の記録や、ホストとの連絡手段に利用する。	
	ワークシート記入・回収	興味、関心のある事柄についてメモをとる。 代表生徒はお礼の挨拶をする。	それぞれの生徒にどこへ行くべきかを確実に認識させる。 教室移動の際は、速やかに行動させる。	
		ワークシートをまとめる。	代表生徒にお礼の挨拶をするよう、指導する。	
			講座の修了後、挨拶係に適宜指示する。	
			ワークシートを回収する。	

【授業の様子（写真）】



【生徒の学びと教育的効果】

第2学期最初の授業である。第1学期には、コンソーシアムの方々より多大なるアドバイスとヒントをいただいた。2学期以降、生徒は学校外に出て活動を行うことになる。本日はその確認と各班に与えられた予算の使い方、会計の方法と確実性、交通費として利用するmanacaの取り扱い方法、そして何よりもコロナ禍ならではの行動制限と周りへの心遣いなどを指導した。また、現在の新型コロナウイルス感染症拡大の中では、なかなかコンソーシアムの方々を訪問し活動することは困難であることから、コロナ禍でも最大限可能なことを模索しながらの、第2学期スタートであることを指導した。

後半の活動は、多文化共生アラカルト講座の第2回目である。5月1日の第1回と同様、本校に10名以上の講師をお招きし実施することを計画していたが、やはりここでも新型コロナウイルス感染症拡大の影響をうけてしまった。急遽、すべての講座をオンラインにて実施することを提案し、講師の先生方もわずかな準備期間でご対応していただくことができた。

【生徒の学びと教育的効果】

学校の外での活動を行うに当たって様々なことが心配される。生徒の迷惑行為や地域住民とのトラブル、交通事故や所有物の紛失・盗難など。もちろん、これらはこの授業中のことに限ったことではなく、日常生活の中でも十分に注意していくなければならないことであるが、やはり生徒の活動が正規の授業中であることから、より一層の注意喚起をしていかなければならない。教師からは十分にそれらの指導を行っている。生徒にはその自覚が十分に備わっていることを期待している。

後半の活動は、これから望む地域課題への解決の糸口へのヒントを、グローバルな視点を持って取り組んでほしいとのことから企画した多文化共生アラカルト講座である。インターネットで調べたり、参考文献を見て学んだりという活動からは想像できない、経験者であるからこそ伝えることができる様々な国での活動を、生徒に知つてもらう機会であった。事後の感想文からは、やはり普段の生活からは知ることのできない様々な事柄に対しての学びがあったことがうかがえた。

【育成の評価と改善点】

オンラインでの多文化共生アラカルト講座を実施するに当たって、一方通行にならないように講師の先生方には可能な限り生徒への問い合わせをしてほしいとの依頼を行った。一方、こちら側で実施できることとして、本校は全生徒がiPadを所持していることから講義中のどのタイミングでも講師の先生へリアクションができるよう、講座ごとに使用できるチャットを準備した。今回は急な提案であったが、このことは十分有効に活用できる手応えを感じることができた。

1. 単元名：地域課題解決のための啓発素材開発
2. 学習内容：啓発素材開発、現地調査・情報収集
3. ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	地域課題や課題解決のための啓発物開発について、興味・関心をもつことができる	地域課題と新たに開発しようとする啓発物を関連づけて考えることができる	地域課題解決のための啓発物作成にあたって、積極的に取り組むことができる	地域の方々の意見を聞き、それらを生かして、啓発物開発に取り組むことができる
協働性	班員の意見を大切にし、協力して地域課題の発見や啓発物の開発に取り組むことができる	コンソーシアムの方々の助言や意見を聞き、新たな啓発物作成の提案ができる	地域やコンソーシアムの方々と改善点を協議し、協働しながら啓発物を開発できる	開発した啓発物を地域の方々に使用してもらい、感想や意見などをまとめることができる
探究力	具体的な地域課題を見つけ、それを解決するための啓発物作成について検討できる	地域課題解決につながる啓発物作成を目指して調査し、その内容を活用できる	現地での調査を通じて地域の現状を知り、地域の要求を開発に反映できる	SDGsとの関連やグローバルな視点を踏まえて、啓発物の作成や活用方法を検討できる
発信力	グループ活動で自分の考えや他の意見についての自分の考えを伝えることができる	グループでまとめた考えた啓発物のアイディアをクラスで発表・説明できる	啓発物のアイディア・活用法などをコンソーシアムの方々に発表・説明できる	完成した啓発物を地域の方々に提示し、その活用を呼びかけることができる

4. 授業進行表

【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目	地域課題解決のための啓発素材開発	各班で啓発素材開発をすすめる。	校内・校外で活動する班を把握する。	
2限目	・校外での現地調査、情報収集	・地域の情報や現状、声を集める	校外活動においては、以下のこと留意させる。	
3限目	・校内での啓発素材開発	・地域課題を的確に把握する	・事前に校外活動申請書を提出させる。	
4限目		・課題解決を意識してすすめる	・必要な班に、manacaを持たせる。	
		・啓発素材の作成に取りかかる	・予算の支出、管理を徹底させる。	
	※①取り組む課題 ②啓発素材	校外で活動する班は、出欠席の報告をする。 ※連絡には Google チャットを利用し、集合時・解散時に報告をする。 緊急事態宣言下での校外活動であることを十分に考慮し、節度ある行動を心がける。	・リーダー（サブリーダー）より、出欠の連絡を受ける。 ・安心、安全が最優先であり、軽率な行動が無いよう指導する。 ・新型コロナ感染症の予防対策を徹底させる。	
		A班 ①高齢者の認知症予防対策 ②お詫びとボードゲームなどでの交流 B班 ①高齢者の職問題と食問題 ②高齢者が簡単に作れる料理の配信と手に職を付けてもらう 1組 C班 ①外国人との言語の違い ②Kahootを利用してお互いの言語を学習 D班 ①貧困問題 ②LGBT・障がい者・高齢者と協力して募金活動・発展途上国へ E班 ①高齢者との交流 ②老人ホームで高齢者と一緒にゲーム・音楽・スポーツ融合して楽しむ		
		A班 ①シルバー世代・若者が楽しむ「場」の創出 ②まちかどアラスでシルバー世代と若者が共同で企画 B班 ①豊明市在住外国人との交流会の創出 ②国際交流協会との連携でイベント企画実施 2組 C班 ①市議会議員の高齢化 ②若い人が選挙に行きやすい環境づくり（1回市議会議員体験など） D班 ①外国人市民との交流不足 ②外国人市民主体の交流会の企画 E班 ①豊明市の高齢者人口比率の抑制 ②親世代を呼び込むための子育てパンフレットの作成		
		A班 ①若者・外国人を豊明市を知ってもらう ②豊明市を紹介する本の作成 B班 ①外国人・高齢者の食事を健啖的なものに ②豊明市の特産品を使って、おいしい日本料理をつくる 3組 C班 ①外国人市民の外国語学習 ②SNSを使った日本語学習のためのカルタ・ゲーム・おとぎの作成 D班 ①高齢者の携帯電話・スマートフォンの普及 ②使い方動画を作成して提供 E班 ①高齢者の認知症予防対策 ②お詫びを作成し、ポイントや割引券が手に入るコードを入手		
		A班 ①日本人と外国人の文化・言語のギャップ ②日本の文化やマナーを知ってもらう短編アニメーションの制作 B班 ①日本語が理解できないために各種サービスが受けられない ②地域の各種サービスについてのポスター製作 C班 ①外国人が生活しづらい ②豊明市の地図をもとにご飯屋さんや遊べる場所のボードゲームを作る 4組 D班 ①高齢者の認知症予防対策 ②頭を使う問題の作成と各公民館への配布 E班 ①高齢者の引きこもり解消 ②家庭菜園の推奨 F班 ①認知症予防と引きこもり対策 ②観光地や飲食店などの周辺マップ作成		
		A班 ①高齢者が外出する機会の創出 ②三崎公園で「みさきっさ」を開催・飲食・音遊び・ウォーキング B班 ①高齢者の引きこもり解消 ②盆踊り・伝統的な遊びを公民館で実施 C班 ①高齢市民の健康新促進 ②災害時に危険と思われる場所や避難所などを星城生と一緒に巡る D班 ①高齢市民や外国人市民のための夜の平和な街づくり ②該当の少ないところを調べてマップを作る E班 ①外国人市民との交流 ②料理を追じたベトナム人との交流会 F班 ①高齢者と外国人が波波が多くて移動しにくい ②坂道やバス停を英語や仮名で表記したマップ作成		
		A班 ①高齢者が活動できる場所の情報提供不足 ②市内の趣味・サークル活動等の情報パンフレット作成 B班 ①高齢者の認知症予防対策 ②回観派による交換日記の推奨（文章を書くことで認知症予防） C班 ①わかりやすいハザードマップの必要性 ②日本語版＆外国語版ハザードマップの作成 D班 ①外国人市民向け「日本的生活マナー」の理解度向上 ②生活マナーに涉及する劇の作成と動画の提供 E班 ①高齢者のバス利用をより便利に ②バス停へベンチの設置（時間を気にせず次のバスを待てる環境） F班 ①高齢者の運動不足解消 ②星城高校放人企団体操の制作と動画提供		

【授業の様子（写真）】



【生徒の学びと教育的効果】

本日はそれぞれの班が現地踏査や啓発物作成のための事前調査、必要な部材の調査・購入など、学校の外に出て活動することを可とした。したがって終日外での活動を行う班、前半はこの日の行動計画をたて、後半はその計画をもとに外へ行く班、校内に残ってインターネットで調査をしている班など、班によって行動はさまざまである。

それぞれの班の活動は、例えばハザードマップや地域の危険な坂道などを制作する班は現地調査が必須であり、まずは外へ出かけることから始めなければならない。現地で人に会って聞き取り調査などをする際は、あらかじめアポイントメントを取らなければならない場合もある。失礼のない態度を心がけるように指導した。こういったひとつの行動に対するあらかじめ段取りを組むことも、生徒にとっては大きな学びのひとつにつながるであろう。

それぞれの班が、「地域の課題解決のために開発する啓発素材は〇〇である」という、自分たちが立てた地域課題解決への仮説にしたがって、探究を進めている。

【生徒の学びと教育的効果】

2学期の今後の活動は、啓発素材の開発がメインである。そのためには、地域のことをより詳しく知り、多くの情報（声）を集め、コンソーシアムの方々や地域の方々からのアドバイスをもとに、作業を進めていかなければならない。

ここで大切なことは、それぞれの班がチームとして動いているか、チームとして到達目標を定めているのかということである。つまり、班の誰かがやればよい、何もせず待っていればできあがっていく、というようなものではないということである。班の一人ひとりが、それぞれの役割への自覚を持って行動する必要がある。そのなかで、人と話すことが得意な生徒、データをまとめるのが得意な生徒、様々な視点を持って考えることが得意な生徒、文章や図柄を上手に使いまとめるのが得意な生徒など、各自の得意な分野での役割を持たせること、それぞれが活躍する場面を設定することが重要である。

【育成の評価と改善点】

本日早速フィールドワークに出かけた班はやはり行動的なメンバーがそろっているようであり、コンソーシアムの方々とのコンタクトも活発である。土曜日にもかかわらず、豊明市役所の方に対応していただいた班もある。

それぞれの活動がそれぞれの自主性をもって行動できている印象を受けたが、外での活動ということもあって、見えない部分もあるはずである。細かなところにもアンテナを張って、生徒たちの行動を見守っていく必要性を感じた。

1. 単元名：地域課題解決のための啓発素材開発
2. 学習内容：啓発素材開発、現地調査・情報収集
3. ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	地域課題や課題解決のための啓発物開発について、興味・関心をもつことができる	地域課題と新たに開発しようとする啓発物を関連づけて考えることができる	地域課題解決のための啓発物(作成)にあたって、積極的に取り組むことができる	地域の方々の意見を聞き、それらを生かして、啓発物開発に取り組むことができる
協働性	班員の意見を大切にし、協力して地域課題の発見や啓発物の開発に取り組むことができる	コンソーシアムの方々の助言や意見を聞き、新たな啓発物作成の提案ができる	地域やコンソーシアムの方々と改善点を協議し、協働しながら啓発物を開発できる	開発した啓発物を地域の方々に使用してもらい、感想や意見などをまとめることができる
探究力	具体的な地域課題を見つけ、それを解決するための啓発物作成について検討できる	地域課題解決につながる啓発物作成を目指して調査し、その内容を活用できる	現地での調査を通じて地域の現状を知り、地域の要求を開発に反映できる	SDGsとの関連やグローバルな視点を踏まえて、啓発物の作成や活用方法を検討できる
発信力	グループ活動で自分の考えや他の意見についての自分の考えを伝えることができる	グループでまとめた考えた啓発物のアイディアをクラスで発表・説明できる	啓発物のアイディア・活用法などをコンソーシアムの方々に発表・説明できる	完成した啓発物を地域の方々に提示し、その活用を呼びかけることができる

4. 授業進行表

【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考																																																														
1限目	SGL 宮崎・鹿児島研修の概要説明	SGL 宮崎・鹿児島研修について理解し、体験学習についてその意義や目的を把握する。また、体験学習について自分の希望をだす。	SGL 宮崎・鹿児島研修の趣旨や目的を理解させ、充実した研修となるよう指導する。希望する体験学習を選択させる。																																																															
2限目	・体験学習希望調査・ホテル部屋割り																																																																	
3限目																																																																		
4限目	地域課題解決のための啓発素材開発 ・校外での現地調査、情報収集 ・校内での啓発素材開発	各班で啓発素材開発をすすめる。 ・地域の情報や現状、声を集める。 ・地域課題を的確に把握する。 ・課題解決を意識してすすめる。 ・啓発素材の作成をすすめる。 ※11月中に完成するよう計画を立て活動し、かつ丁寧につくり、雑な作業をしない。	校内・校外で活動する班を把握する。校外活動においては、以下のこと留意させる。 ・事前に校外活動申請書を提出させる。 ・必要な班に、manacaを持たせる。 ・予算の支出、管理を徹底させる。 ・新型コロナ感染症の予防対策を徹底させる。																																																															
<p>※①取り組む課題 ②啓発素材</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">A班</td> <td>①高齢者の認知症予防対策 ②脳トレとボードゲームなどの交流</td> </tr> <tr> <td>B班</td> <td>①高齢者の健常課題と食事課題 ②高齢者が簡単に作れる料理の配信と手に職を付けてもらう</td> </tr> <tr> <td>1組 C班</td> <td>①外国人との言語の違い ②Kahootを利用してお互いの言語を学習</td> </tr> <tr> <td>D班</td> <td>①貧困問題 ②LGBT・障がい者・高齢者と協力して募金活動・発表会実施</td> </tr> <tr> <td>E班</td> <td>①高齢者との交流 ②老人ホームで高齢者と一緒にゲーム・音楽・スポーツ融合して楽しむ</td> </tr> <tr> <td>A班</td> <td>①シルバー世代・若者が楽しむ「場」の創出 ②まちかどテラスでシルバー世代と若者が共同で企画</td> </tr> <tr> <td>B班</td> <td>①豊明市在住外国人との交流会の創出 ②国際交流協会との連携でイベント企画実施</td> </tr> <tr> <td>2組 C班</td> <td>①市議会議員の高齢化 ②若い人が選挙に行きやすい環境づくり(1日市議会議員体験など)</td> </tr> <tr> <td>D班</td> <td>①外国人市民との交流不足 ②外国人市民主体の交流会の企画</td> </tr> <tr> <td>E班</td> <td>①豊明市の高齢者人口比率の抑制 ②親世代を呼び込むための子育てパンフレットの作成</td> </tr> <tr> <td>A班</td> <td>①若者・外国人に豊明市のことを使ってもらう ②豊明を紹介する本の作成</td> </tr> <tr> <td>B班</td> <td>①外国人・高齢者の食事を健康的なものに ②豊明市の特産品を使って、おいしい日本料理をつくる</td> </tr> <tr> <td>3組 C班</td> <td>①外国人市民の外国語学習 ②SNSを使った日本語学習のためのカルタ・ゲーム・脳トレの作成</td> </tr> <tr> <td>D班</td> <td>①高齢者の携帯電話・スマートフォンの普及 ②使い方動画を作成して提供</td> </tr> <tr> <td>E班</td> <td>①高齢者の認知症予防対策 ②脳トレを作成し、ポイントや割引券が手に入るコードを入手</td> </tr> <tr> <td>A班</td> <td>①日本人と外国人の文化・言語のギャップ ②日本の文化やマナーを知ってもらう短編アニメーションの制作</td> </tr> <tr> <td>B班</td> <td>①日本語が理解できないために各種サービスが受けられない ②地域の各種サービスについてのポスター製作</td> </tr> <tr> <td>4組 C班</td> <td>①外国人が生活しづらい ②豊明市の地図をもとにご飯屋さんや遊べる場所のボードゲームを作る</td> </tr> <tr> <td>D班</td> <td>①高齢者の認知症予防対策 ②頭を使う問題の作成と各公民館への配布</td> </tr> <tr> <td>E班</td> <td>①高齢者の引きこもり解消 ②家庭菜園の推奨</td> </tr> <tr> <td>F班</td> <td>①認知症予防と引きこもり対策 ②観光地や飲食店などの周辺マップ作成</td> </tr> <tr> <td>A班</td> <td>①高齢者が外出する機会の創出 ②二崎公園で「みさきっさ」を開催 飲食・音楽・ウォーキング</td> </tr> <tr> <td>B班</td> <td>①高齢者の引きこもり解消 ②盆踊り・伝統的な遊びを公民館で実施</td> </tr> <tr> <td>5組 C班</td> <td>①高齢市民の健康促進 ②災害時に危険と思われる場所や避難所などを星城町と一緒に巡る</td> </tr> <tr> <td>D班</td> <td>①高齢市民や外国人市民のための夜の平和な街づくり ②該当の少ないところを調べてマップを作る</td> </tr> <tr> <td>E班</td> <td>①外国人市民との交流 ②料理を通じたベトナム人との交流会</td> </tr> <tr> <td>F班</td> <td>①高齢者と外国人が坂道が多くて移動しにくい ②坂道やバス停を英語や仮名で表記したマップ作成</td> </tr> <tr> <td>A班</td> <td>①高齢者が活動できる場所の情報提供不足 ②市内の鍼灸・オ・クル活動等の情報パンフレット作成</td> </tr> <tr> <td>B班</td> <td>①高齢者の認知症予防対策 ②回数券による交換日記の作成(文庫を書くことで認知症予防)</td> </tr> <tr> <td>6組 C班</td> <td>①わかりやすいハザードマップの必要性 ②日本語版&外国語版ハザードマップの作成</td> </tr> <tr> <td>D班</td> <td>①外国人市民向け「三木の生活マナー」の理解度向上 ②生活マナーに関する問題の作成と動画の提供</td> </tr> <tr> <td>E班</td> <td>①高齢者のバス利用をより便利に ②バス停ヘンチの設置(時間にせず次のバスを待てる環境)</td> </tr> <tr> <td>F班</td> <td>①高齢者の運動不足解消 ②星城高校版大金星体操の制作と動画提供</td> </tr> </table>	A班	①高齢者の認知症予防対策 ②脳トレとボードゲームなどの交流	B班	①高齢者の健常課題と食事課題 ②高齢者が簡単に作れる料理の配信と手に職を付けてもらう	1組 C班	①外国人との言語の違い ②Kahootを利用してお互いの言語を学習	D班	①貧困問題 ②LGBT・障がい者・高齢者と協力して募金活動・発表会実施	E班	①高齢者との交流 ②老人ホームで高齢者と一緒にゲーム・音楽・スポーツ融合して楽しむ	A班	①シルバー世代・若者が楽しむ「場」の創出 ②まちかどテラスでシルバー世代と若者が共同で企画	B班	①豊明市在住外国人との交流会の創出 ②国際交流協会との連携でイベント企画実施	2組 C班	①市議会議員の高齢化 ②若い人が選挙に行きやすい環境づくり(1日市議会議員体験など)	D班	①外国人市民との交流不足 ②外国人市民主体の交流会の企画	E班	①豊明市の高齢者人口比率の抑制 ②親世代を呼び込むための子育てパンフレットの作成	A班	①若者・外国人に豊明市のことを使ってもらう ②豊明を紹介する本の作成	B班	①外国人・高齢者の食事を健康的なものに ②豊明市の特産品を使って、おいしい日本料理をつくる	3組 C班	①外国人市民の外国語学習 ②SNSを使った日本語学習のためのカルタ・ゲーム・脳トレの作成	D班	①高齢者の携帯電話・スマートフォンの普及 ②使い方動画を作成して提供	E班	①高齢者の認知症予防対策 ②脳トレを作成し、ポイントや割引券が手に入るコードを入手	A班	①日本人と外国人の文化・言語のギャップ ②日本の文化やマナーを知ってもらう短編アニメーションの制作	B班	①日本語が理解できないために各種サービスが受けられない ②地域の各種サービスについてのポスター製作	4組 C班	①外国人が生活しづらい ②豊明市の地図をもとにご飯屋さんや遊べる場所のボードゲームを作る	D班	①高齢者の認知症予防対策 ②頭を使う問題の作成と各公民館への配布	E班	①高齢者の引きこもり解消 ②家庭菜園の推奨	F班	①認知症予防と引きこもり対策 ②観光地や飲食店などの周辺マップ作成	A班	①高齢者が外出する機会の創出 ②二崎公園で「みさきっさ」を開催 飲食・音楽・ウォーキング	B班	①高齢者の引きこもり解消 ②盆踊り・伝統的な遊びを公民館で実施	5組 C班	①高齢市民の健康促進 ②災害時に危険と思われる場所や避難所などを星城町と一緒に巡る	D班	①高齢市民や外国人市民のための夜の平和な街づくり ②該当の少ないところを調べてマップを作る	E班	①外国人市民との交流 ②料理を通じたベトナム人との交流会	F班	①高齢者と外国人が坂道が多くて移動しにくい ②坂道やバス停を英語や仮名で表記したマップ作成	A班	①高齢者が活動できる場所の情報提供不足 ②市内の鍼灸・オ・クル活動等の情報パンフレット作成	B班	①高齢者の認知症予防対策 ②回数券による交換日記の作成(文庫を書くことで認知症予防)	6組 C班	①わかりやすいハザードマップの必要性 ②日本語版&外国語版ハザードマップの作成	D班	①外国人市民向け「三木の生活マナー」の理解度向上 ②生活マナーに関する問題の作成と動画の提供	E班	①高齢者のバス利用をより便利に ②バス停ヘンチの設置(時間にせず次のバスを待てる環境)	F班	①高齢者の運動不足解消 ②星城高校版大金星体操の制作と動画提供
A班	①高齢者の認知症予防対策 ②脳トレとボードゲームなどの交流																																																																	
B班	①高齢者の健常課題と食事課題 ②高齢者が簡単に作れる料理の配信と手に職を付けてもらう																																																																	
1組 C班	①外国人との言語の違い ②Kahootを利用してお互いの言語を学習																																																																	
D班	①貧困問題 ②LGBT・障がい者・高齢者と協力して募金活動・発表会実施																																																																	
E班	①高齢者との交流 ②老人ホームで高齢者と一緒にゲーム・音楽・スポーツ融合して楽しむ																																																																	
A班	①シルバー世代・若者が楽しむ「場」の創出 ②まちかどテラスでシルバー世代と若者が共同で企画																																																																	
B班	①豊明市在住外国人との交流会の創出 ②国際交流協会との連携でイベント企画実施																																																																	
2組 C班	①市議会議員の高齢化 ②若い人が選挙に行きやすい環境づくり(1日市議会議員体験など)																																																																	
D班	①外国人市民との交流不足 ②外国人市民主体の交流会の企画																																																																	
E班	①豊明市の高齢者人口比率の抑制 ②親世代を呼び込むための子育てパンフレットの作成																																																																	
A班	①若者・外国人に豊明市のことを使ってもらう ②豊明を紹介する本の作成																																																																	
B班	①外国人・高齢者の食事を健康的なものに ②豊明市の特産品を使って、おいしい日本料理をつくる																																																																	
3組 C班	①外国人市民の外国語学習 ②SNSを使った日本語学習のためのカルタ・ゲーム・脳トレの作成																																																																	
D班	①高齢者の携帯電話・スマートフォンの普及 ②使い方動画を作成して提供																																																																	
E班	①高齢者の認知症予防対策 ②脳トレを作成し、ポイントや割引券が手に入るコードを入手																																																																	
A班	①日本人と外国人の文化・言語のギャップ ②日本の文化やマナーを知ってもらう短編アニメーションの制作																																																																	
B班	①日本語が理解できないために各種サービスが受けられない ②地域の各種サービスについてのポスター製作																																																																	
4組 C班	①外国人が生活しづらい ②豊明市の地図をもとにご飯屋さんや遊べる場所のボードゲームを作る																																																																	
D班	①高齢者の認知症予防対策 ②頭を使う問題の作成と各公民館への配布																																																																	
E班	①高齢者の引きこもり解消 ②家庭菜園の推奨																																																																	
F班	①認知症予防と引きこもり対策 ②観光地や飲食店などの周辺マップ作成																																																																	
A班	①高齢者が外出する機会の創出 ②二崎公園で「みさきっさ」を開催 飲食・音楽・ウォーキング																																																																	
B班	①高齢者の引きこもり解消 ②盆踊り・伝統的な遊びを公民館で実施																																																																	
5組 C班	①高齢市民の健康促進 ②災害時に危険と思われる場所や避難所などを星城町と一緒に巡る																																																																	
D班	①高齢市民や外国人市民のための夜の平和な街づくり ②該当の少ないところを調べてマップを作る																																																																	
E班	①外国人市民との交流 ②料理を通じたベトナム人との交流会																																																																	
F班	①高齢者と外国人が坂道が多くて移動しにくい ②坂道やバス停を英語や仮名で表記したマップ作成																																																																	
A班	①高齢者が活動できる場所の情報提供不足 ②市内の鍼灸・オ・クル活動等の情報パンフレット作成																																																																	
B班	①高齢者の認知症予防対策 ②回数券による交換日記の作成(文庫を書くことで認知症予防)																																																																	
6組 C班	①わかりやすいハザードマップの必要性 ②日本語版&外国語版ハザードマップの作成																																																																	
D班	①外国人市民向け「三木の生活マナー」の理解度向上 ②生活マナーに関する問題の作成と動画の提供																																																																	
E班	①高齢者のバス利用をより便利に ②バス停ヘンチの設置(時間にせず次のバスを待てる環境)																																																																	
F班	①高齢者の運動不足解消 ②星城高校版大金星体操の制作と動画提供																																																																	

【授業の様子（写真）】



【生徒の学びと教育的効果】

11月に実施されるSGL宮崎・鹿児島研修への準備を同時進行で行いつつ、生徒は班ごとに地域課題解決に向けた啓発素材の開発に取り組んでいる。とにかく現地へ出向き、そこへ行かなければ気がつかない「何か」を求めて活発に行動している班も見受けられる。また、外国籍市民と接点を「会話」や「交流会」とするのではなく、「食」から入り込むことを考えた班もある。「食」は万国共通、おいしいものはおいしい。ベトナムで一般的なメニューを和風にアレンジし、そのレシピを作成した。異なる国籍の人々が、相互理解を「おいしい」から始める。なかなか高校生らしい発想ではないか。

【生徒の学びと教育的効果・育成の評価と改善点】

啓発素材を制作していくにあたって、現地調査や実際の行動が欠かせない段階となってきた。大雑把ではあるが、作成する啓発素材の形が見えてきたので、それが地域課題の解決手段として有効であるかどうか、確認が必要である。苦労して制作したとしても、それが人々に求められていなかったり、不十分なものであったりしたら、企画を練り直さねばならない状況にもなりかねない。このような重要な局面を迎えている班も現れてきたことから、教師側による生徒への声かけも重要な要素になってくる。しかし、生徒たちの発想を潰したり、終着点を曲げたりすることは厳禁である。生徒にとっても教員にとっても、この時期の活動は様々な意味において、重要な局面である。

1. 単元名：地域課題解決のための啓発素材開発
2. 学習内容：啓発素材開発、現地調査・情報収集
3. ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	地域課題や課題解決のための啓発物開発について、興味・関心をもつことができる	地域課題と新たに開発しようとする啓発物を関連づけて考えることができる	地域課題解決のための啓発物(作成)にあたって、積極的に取り組むことができる	地域の方々の意見を聞き、それらを生かして、啓発物開発に取り組むことができる
協働性	班員の意見を大切にし、協力して地域課題の発見や啓発物の開発に取り組むことができる	コンソーシアムの方々の助言や意見を聞き、新たな啓発物作成の提案ができる	地域やコンソーシアムの方々と改善点を協議し、協働しながら啓発物を開発できる	開発した啓発物を地域の方々に使用してもらい、感想や意見などをまとめることができる
探究力	具体的な地域課題を見つけ、それを解決するための啓発物作成について検討できる	地域課題解決につながる啓発物作成を目指して調査し、その内容を活用できる	現地での調査を通じて地域の現状を知り、地域の要求を開発に反映できる	SDGsとの関連やグローバルな視点を踏まえて、啓発物の作成や活用方法を検討できる
発信力	グループ活動で自分の考えや他の意見についての自分の考えを伝えることができる	グループでまとめた考えた啓発物のアイディアをクラスで発表・説明できる	啓発物のアイディア・活用法などをコンソーシアムの方々に発表・説明できる	完成した啓発物を地域の方々に提示し、その活用を呼びかけることができる

4. 授業進行表

【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目	SGL 宮崎・鹿児島研修の概要説明	SGL 宮崎・鹿児島研修について、鹿児島班別研修の計画を立てる。	SGL 宮崎・鹿児島研修の趣旨や目的を理解させ、充実した研修となるよう指導する。	
2限目				
3限目				
4限目	地域課題解決のための啓発素材開発 ・校外での現地調査、情報収集 ・校内での啓発素材開発	各班で啓発素材開発をすすめる。 ・地域の情報や現状、声を集める。 ・地域課題を的確に把握する。 ・課題解決を意識してすすめる。 ・啓発素材の作成をすすめる。 ※11月中に完成するよう計画を立て活動し、かつ丁寧につくり、雑な作業をしない。	校内・校外で活動する班を把握する。 校外活動においては、以下のこと留意させる。 ・事前に校外活動申請書を提出させる。 ・必要な班に、manacaを持たせる。 ・予算の支出、管理を徹底させる。 ・作業を分担し、すべての班員が開発に意欲的に取り組むよう促す。	

令和3年度第2学年SGL地域協創学II 地域協創プロジェクト 地域課題＆啓発素材開発案一覧

仰星2年1組A班	①高齢者の認知症予防対策 ②オリジナル人生ゲームで思い出そう！！～回想法による認知症予防～
仰星2年1組B班	①高齢者の引きこもり問題～ごーとうーとらべる～ ②豊明市のマップ作り
仰星2年1組C班	①外国人との言語の違い ②言語の壁をなくそう！！～アプリを使った言語学習～
仰星2年1組D班	①悪意のない差別 ②多様な個性を認め合う場所にするために
仰星2年1組E班	①高齢者との交流 ②高齢者と一緒にゲームして楽しむ
仰星2年2組A班	①シルバー世代・若者が楽しむ「場」の創出 ②まちかどテラスでシルバー世代と若者が共同で企画
仰星2年2組B班	①豊明市在住外国人との交流会の創出 ②国際交流協会との連携でイベント企画実施
仰星2年2組C班	①市議会議員の高齢化 ②若い人が選挙に行きやすい環境づくり（1日市議会議員体験など）
仰星2年2組D班	①外国人市民との交流不足 ②外国人市民主体の交流会の企画
仰星2年2組E班	①豊明市の高齢者人口比率の抑制 ②親世代を呼び込むための子育てパンフレットの作成
仰星2年3組1班	①若者・外国人に豊明市のことを使ってもらう ②豊明を紹介する本の作成
仰星2年3組2班	①市民との異文化理解 ②ベトナムの食文化に触れよう
仰星2年3組3班	①外国人市民の外国語学習 ②日本語学習のためのゲームの作成
仰星2年3組4班	①齢者の携帯電話・スマートフォンの普及 ②シニア世代 with smartphone
仰星2年3組5班	①高齢者の認知症予防対策 ②うちらと認知症予防しちゃう？
特進2年4組A班	①日本人と外国人の文化・言語のギャップ ②日本の文化やマナーを知ってもらう短編アニメーションの制作
特進2年4組B班	①日本語がわからない外国人市民への対応 ②豊明市図書館の案内スライド作製
特進2年4組C班	①外国人が生活しやすい ②豊明市の地図をもとにご飯屋さんや遊べる場所のボードゲームを作る
特進2年4組D班	①高齢者の認知症予防対策 ②頭を使う問題の作成と各公民館への配布
特進2年4組E班	①高齢者の引きこもり解消 ②家庭菜園の推奨
特進2年4組F班	①認知症予防と引きこもり対策 ②観光地や飲食店などの周辺マップ作成
特進2年5組A班	①高齢者が外出する機会の創出 ②三崎公園で「みさきっさ」を開催 飲食・昔遊び・ウォーキング
特進2年5組B班	①高齢者の引きこもり解消 ②伝統的な遊びを公民館で実施
特進2年5組C班	①高齢市民の健康促進 ②災害時に危険と思われる場所や避難所などを載せたマップの作製
特進2年5組D班	①高齢市民や外国人市民のための夜の平和な街づくり ②街灯の少ないところを調べてマップを作る
特進2年5組E班	①外国人市民との交流 ②ベトナム人との交流会
特進2年5組F班	①高齢者と外国人が坂道が多くて移動しにくい ②坂道やバス停を英語や平仮名で表記したマップ作成
特進2年6組1班	①高齢者が活動できる場所の情報提供不足 ②市内の趣味・サークル活動等の情報パンフレット作成
特進2年6組2班	①高齢者の認知症予防対策 ②回覧板による交換日記の推奨（文章を書くことで認知症予防）
特進2年6組3班	①わかりやすいハザードマップの必要性 ②日本語版&外国語版ハザードマップの作成
特進2年6組4班	①外国人市民向け「日本の生活マナー」の理解度向上 ②生活マナーに関わる劇の作成と動画の提供
特進2年6組5班	①日本と外国人の食の多文化理解 ②日本と外国の料理をSNSで共有
特進2年6組6班	①高齢者の運動不足解消 ②星城高校版大金星体操の制作と動画提供

【授業の様子（写真）】



【生徒の学びと教育的効果】

前回の授業と同様に、本日は最初に11月に実施されるSGL宮崎・鹿児島研修での班別研修計画を立てることから始めた。本来であれば、ベトナム海外研修にて、日本とは違う様々な現状の理解、国の課題、地域の開発状況などを学ぶ海外研修旅行を実施したかったのだが、やはり世界的規模の新型コロナ感染症拡大の中では、私たちの行動が大きく制限されてしまう。言ってみれば、世界規模の課題である。この課題解決に向けて、私たちは国境を越えた協力体制を整え取り組んでいかなければならぬことを実感している。

さて、班ごとに地域課題解決に向けた啓発素材の開発の取り組みをしているが、先述したようにこのコロナ禍では、様々な行動の制限を受けている。地域の方々とのコミュニケーションを密にすることもままならない現状がある。それでも、生徒たちは最小限の行動を持って、最大限の成果を得ようとしている。

【生徒の学びと教育的効果・育成の評価と改善点】

海外研修が中止となり、目的地を変更してのSGL宮崎・鹿児島研修となった。しかし、地元を離れ、普段の生活とは異なる地域を見て回ることも重要な学びのひとつだろう。今回の研修旅行での班別行動も、普段の地域課題解決の取り組みで行動を共にしている班単位での行動となる。九州といった普段の生活とは異なる地域での発見が、地元での課題解決の一助となる研修旅行となるように願ってやまない。

次回以降、前半と後半で異なる活動を計画している。したがって、学校の外へ出て地域を調べたり、コンソーシアムの方々とアポイントを取ったりすることは、時間的な面から難しくなっていく。それでも、必要に応じて行動する班があるので、その活動をいかに支援していくかが、今後の課題となるだろう。

- 単元名：地域課題解決のための啓発素材開発、パラオオンライン研修
- 学習内容：啓発素材開発、現地調査・情報収集、パラオの環境問題・海洋問題や改善への取り組みなどを学び、SDGsに繋がる発想を身につける。
- ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	地域課題や課題解決のための啓発物開発について、興味・関心をもつことができる	地域課題と新たに開発しようとする啓発物を関連づけて考えることができる	地域課題解決のための啓発物作成にあたって、積極的に取り組むことができる	地域の方々の意見を聞き、それらを生かして、啓発物開発に取り組むことができる
協働性	班員の意見を大切にし、協力して地域課題の発見や啓発物の開発に取り組むことができる	コンソーシアムの方々の助言や意見を聞き、新たな啓発物作成の提案ができる	地域やコンソーシアムの方々と改善点を協議し、協働しながら啓発物を開発できる	開発した啓発物を地域の方々に使用してもらい、感想や意見などをまとめることができる
探究力	具体的な地域課題を見つけて、それを解決するための啓発物作成について検討できる	地域課題解決につながる啓発物作成を目指して調査し、その内容を活用できる	現地での調査を通じて地域の現状を知り、地域の要求を開発に反映できる	SDGsとの関連やグローバルな視点を踏まえて、啓発物の作成や活用方法を検討できる
発信力	グループ活動で自分の考えや他の意見についての自分の考えを伝えることができる	グループでまとめた考えた啓発物のアイディアをクラスで発表・説明できる	啓発物のアイディア・活用法などをコンソーシアムの方々に発表・説明できる	完成した啓発物を地域の方々に提示し、その活用を呼びかけることができる

4. 授業進行表

【TG 探究 Think Global】 【TL 探究 Think Local】 【AG 探究 Act Global】 【AL 探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目 (15分)	SGL 宮崎・鹿児島研修結団式 (9:05より) ・校長より ・SGL主任 城戸先生より	SGL 宮崎・鹿児島研修の意義・目的を理解し、結団式に臨む。 校長より研修のねらいについて話を聞く。 城戸先生より全体の諸注意について話を聞く。	オンラインでの実施となるため、PC の設置・プロジェクターの準備、Zoom への入室を開始時間 (9:05) までに行う。 結団式の趣旨・目的を理解させ、充実した研修となるよう指導する。	
2限目	地域課題解決のための啓発素材開発 ・校外での現地調査、情報収集 ・校内での啓発素材開発 担任の開発状況確認	各班で啓発素材開発を完成させる。 ・地域課題解決に繋がるものを作成する。 ・地域住民が活用できるように作成する。 ・班内で役割を分担し、全班員で取り組む。 ・作成が間に合わない場合、担任の先生に開発状況、今後の工程、完成予定期を相談する。	全班の啓発素材の内容を把握する。 啓発素材が地域課題解決への一助になるように作成させる。 班内で作業を分担し、全班員が開発に意欲的に取り組めるように促す。	
3限目 4限目	【TG 探究】 パラオオンライン研修 ・パラオ概要説明（基本情報） ・パラオ珊瑚礁センター（ライブ中継） ・ドルフィンズパシフィックの紹介（録画映像） ・パラオの珊瑚礁保全活動と生活 ・パラオが抱える海洋問題 ・マングローブの重要性 ・質疑応答 ・お礼（クロージング）	・普段の授業を受ける姿勢で、オンライン研修を受講する。 ・パラオの概要を理解する。 (世界遺産・位置・行き方・一般情報<人口、気候、歴史、政治、治安、観光地>など) ・パラオ珊瑚礁センターの概要、設立意図、設立年、ODA の取り組みなどを学ぶ。 ・ドルフィンズパシフィックで催行しているプログラムの映像を見て、同施設の概要、設立意図、NGO の取り組みなどを学ぶ。 ・パラオで行われている珊瑚礁の保全活動と現地の生活へのつながりを理解する。 ・パラオが抱えている海洋問題（温暖化、水面昇、クラゲ危機、ゴミ問題など）を学び、グローバルな視点での問題解決方法を学ぶ。 ・SDGs の観点から、パラオのマングローブの役割について理解する。 ・きちんとした言葉使いで質問をする。 2年6組→5組→4組→3組→2組→1組 ・代表生徒より、謝辞を述べる。 ・オンライン研修を受けた感想や意見を入力し、提出をする。	・オンラインではあるが、研修を聴く姿勢や態度に留意させる。 ・以下の点に留意し環境を整える。 ①2限終了後、直ちに準備を行う。 ②マイクオフ、カメラオフの状態にして zoom に入室する。 ③質疑応答などの際、マイクのオンオフがスムーズに行える体制を整える。 ・質問する生徒をあらかじめ PC の前に移動させるなど、スムーズに進行させる。 ・謝辞代表生徒 2年1組 生徒 ・Google Classroom にて配信されたフォームにて、感想や意見を入力するよう指示する。	

【授業の様子（写真）】※次週の活動はSGL宮崎・鹿児島研修となる。その記録写真を載せておく。



SGL 宮崎・鹿児島研修結団式 石田校長より



宮崎県日南市の海岸で漂着したものを集めている様子（ビーチコーミング）



ビーチコーミングで拾い集めたものから珊瑚礁や貝殻、シガラスなどを瓶につめ、液体ロウで固めて作ったジェルキャンドル

【生徒の学びと教育的効果】

最初に、次週より実施されるSGL宮崎・鹿児島研修の結団式をオンラインで行った。石田校長より、SGL宮崎・鹿児島研修の意義・目的、現地で学んできてほしいこと、非日常的な経験をしてほしいこと、そして特進コースが100名、仰星コースが70名という大きな集団で行動することの大切さと心配りを経験してほしいというお言葉をいただいた。

昨年は、新型コロナ感染症拡大のため、この研修旅行自体実施することができていない。今年は、目的地こそ変更したが、研修旅行が実施できることへの感謝の気持ちもしっかりと持つてほしいと思う。

その後、地域課題解決のための啓発素材の完成を目指してそれぞれの班が活動を継続して行った。啓発座の完成締め切りが迫っていることから、後半のオンライン研修まで時間がない中、どの班も集中して作成に取り組む様子がうかがえた。

本日後半は、パラオオンライン研修である。もともとはSGL海外研修旅行の事前学習として設定していたものである。しかし、目的地こそ異なるが、海の自然が豊かな宮崎県を訪れ、いまだに火山灰が降り注ぐ鹿児島県を訪れる生徒にとって、このオンライン研修は、それぞれの地域課題の発見や解決へのヒントを得るための有効な事前学習へつながるであろう。

【生徒の学びと教育的効果】

今年度の研修旅行は、新型コロナ感染症の流行のため目的地を変更しての実施となるが、それでも海の豊かさを守るために取り組みについて学ぶ機会を設定することができた。実際にこの研修旅行で、生徒は宮崎県の美しい海に漂流するプラスチックゴミや軽石、珊瑚のかけらなどを拾い（ビーチコーミング）、いかに自然が破壊されているかを目の当たりにした。同時に、自分たちのわずかな行動が、この自然を守っていくことにつながることも体験した。この経験を、どのようにして地元の課題解決へと結びつけるのか、生徒の新しい発想と奇抜なアイデアを期待してやまない。

【育成の評価と改善点】

今回のオンライン研修では、パラオ共和国の「海の豊かさを守る（SDGs14）」取り組みや課題などについて伺うことができました。珊瑚礁やマングローブの現状、環境保護についての話を聞き、特に美しい海が当たり前の現地の子供たちにとって、この環境をどのように意識して維持していくのか、という観点は非常に感慨深いものであった。決して他の国のこととして捉えず、環境を守っていくことはどこの国であろうと、どこの地域であろうと同じであることに気がついてほしい。

- 単元名：地域課題解決のための啓発素材開発、インドネシアオンライン研修
- 学習内容：探究成果発表会に向けてのポスター作成・原稿作成、インドネシア海洋問題や改善への取り組みを学び、SDGsに繋がる発想を身につける。
- ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	地域課題や課題解決のための啓発物開発について、興味・関心をもつことができる	地域課題と新たに開発しようとする啓発物を関連づけて考えることができる	地域課題解決のための啓発物(作成)にあたって、積極的に取り組むことができる	地域の方々の意見を聞き、それらを生かして、啓発物開発に取り組むことができる
協働性	班員の意見を大切にし、協力して地域課題の発見や啓発物の開発に取り組むことができる	コンソーシアムの方々の助言や意見を聞き、新たな啓発物作成の提案ができる	地域やコンソーシアムの方々と改善点を協議し、協働しながら啓発物を開発できる	開発した啓発物を地域の方々に使用してもらい、感想や意見などをまとめることができる
探究力	具体的な地域課題を見つけて、それを解決するための啓発物作成について検討できる	地域課題解決につながる啓発物作成を目指して調査し、その内容を活用できる	現地での調査を通じて地域の現状を知り、地域の要求を開発に反映できる	SDGsとの関連やグローバルな視点を踏まえて、啓発物の作成や活用方法を検討できる
発信力	グループ活動で自分の考えや他の意見についての自分の考えを伝えることができる	グループでまとめた考えた啓発物のアイディアをクラスで発表・説明できる	啓発物のアイディア・活用法などをコンソーシアムの方々に発表・説明できる	完成した啓発物を地域の方々に提示し、その活用を呼びかけることができる

4. 授業進行表

【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目 2限目	<p>【TG 探究】地域協創プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> 啓発素材開発の完成・提出 探究成果発表の発表ポスターと発表原稿を検討し、作成 Glocal High School Meetings 2022 発表班の決定 発表タイトル 概要（日本語 400 以内） 集合写真の撮影 	<ul style="list-style-type: none"> 完成した啓発素材のデジタルデータを Classroom の課題に対して提出する。 発表内容の作成は、次のことを意識する。 <ol style="list-style-type: none"> 発表タイトル…発表の内容が伝わるか どのようなことに关心や疑問を持ったのか コンソーシアム関係者などからどのようなヒントや助言をいただいたのか 何の地域課題に対して取り組むのか 課題であることを示すエビデンスは何か（データ、グラフ、資料など）、なぜそれが課題になった今まで解決されないのか SDGs の何の目標と関連があるのか どのような物を開発したら解決できると考えたのか、なぜそう考えたのか 仮説をたてる「〇〇の地域課題について、～をすれば(作れば)、～が解消されるのでこの課題は解決されるのではないか」など どのような啓発物をつくったのか 工夫した点や苦労した点は何か つくったものをどこに提供したのか、誰に使ってもらったのか、どのような感想か 自分たちの仮説はどうだったのか 探究学習の成果は何か、残った課題は 	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題、仮説、SDGs、啓発素材開発・実践・振り返りなどをまとめて、1年間の探究成果が発表できるように、作成させていく。 今後のスケジュールを意識させる ポスター・原稿制作：12/18、1/15 クラス内での発表：1/29 探究成果発表会：2/5 (発表 7 分 + 質疑応答 3 分計 10 分程度) Glocal High School Meetings 2022 の発表班を決定する。 以下、発表班に対して、 1.発表タイトルの決定 2.概要（日本語 400 以内）をわかりやすくまとめさせる 3.集合写真の撮影（制服を正しく着用）を行う。 	
3限目 4限目	<p>【TG 探究】</p> <p>インドネシアオンライン研修</p> <ul style="list-style-type: none"> インドネシア並びにバリ島の概要説明 バリ島文化紹介 <ul style="list-style-type: none"> ①宗教について ②バビグリン（バリ島伝統料理） ③観光地紹介 クタビーチからライブ配信 バリ島の民族文化ならびに有名スポットの研修 日本人スタッフによる「海外で働く」とは 質疑応答 お礼 	<ul style="list-style-type: none"> 普段の授業を受ける姿勢で、オンライン研修を受講する。 バリ島の概要を理解する。 (場所・一般情報<人口、気候、歴史、治安、観光地>など) バリ島をはじめとした島々の状況について学ぶ。 バリ島の民族文化や有名な観光スポットについて学ぶ。 日本人がバリ島で働くことに至った経緯や意義について理解する。 きちんとした言葉使いで質問をする。 2年1組→2組→3組→4組 代表生徒より、謝辞を述べる。 オンライン研修を受けた感想や意見を入力し、提出をする。 	<ul style="list-style-type: none"> オンラインではあるが、研修を聞く姿勢や態度に留意させる。 以下の点に留意し環境を整える。 11:30までに zoom 接続を開始する。 ①マイクオフ、カメラオフの状態にして zoom に入室する。 ②質疑応答などの際、マイクのオンオフがスムーズに行える体制を整える。 質問する生徒をあらかじめ PC の前に移動させるなど、スムーズに進行させる。 質問 1年1組 生徒 生徒 1年2組 生徒 1年3組 生徒 1年4組 生徒 謝辞生徒 1年4組 生徒 Google Classroom にて配信されたフォームにて、感想や意見を入力するよう指示する。 	

【授業の様子（写真）】



【生徒の学びと教育的効果】

いよいよ成果発表準備の時期となった。昨年度は実施できなかったポスターセッションを行うべき、ポスターと発表原稿の作成に取りかかる。発表の原稿は、①発表のタイトル ②地域課題への関心・疑問 ③地域の人やコンソーシアム関係者からの助言内容 ④設定した地域課題 ⑤地域課題であるが故の根拠 ⑥解決策への仮説 ⑦関連する SDGs ⑧作成した啓発物 ⑨解決への道筋・成果はどうだったのか、についてしっかりと伝える内容を作成するよう指導した。

授業後半は、4回目のオンライン研修となる。今回も当初予定していた国では無く、世界的な新型コロナウイルス感染症の蔓延のなか、可能な場所としてインドネシア・バリ島からの研修となった。全4回のオンライン研修を通じて、生徒たちはそれぞれの国の抱える課題やコロナ禍で生じる問題を学んだ。教室にいながら、リアルタイムで世界中の「今」を見て、知って、学べるのはICTの技術が発展した現代だからこそ為し得ることである。しかしながら、その土地の空気を吸い、その土地の食べ物を食し、その土地ならではの現状を肌で感じることはできない。一日も早いコロナ禍からの脱却を願ってやまない。

【生徒の学びと教育的効果】

啓発素材の開発を終え（一部の班は引き続き啓発素材の開発を行っている）、探究成果発表会への準備を進めた。本日のインドネシアオンライン研修も含めて、様々な機会や手段を通じてインプットを行ってきた。この一年の大きな終着駅として設定した探究成果発表会に向けて、実りある成果発表ができるように、しっかりと準備するよう指導した。

後半のインドネシアオンライン研修では、やはり観光業がメインのバリ島においては、観光客の減少が経済に大きな影響を受けていることが問題となっている。しかし、通常観光客で埋め尽くされる海の環境が非常に良くなり、現在非常に美しい海に戻りつつあることが指摘された。バリ島では、観光業と自然を守ることのバランスが今度の課題となるだろう。

【育成の評価と改善点】

啓発素材の開発については、一部の班を除き予定通り進んだ。しかし、地域への提供、成果物を用いた実践に係る活動については、その取り組み状況にばらつきがあった。地域への提供、実践には外部との連携・連絡が必須であるが、コロナ禍においては、外部との連携がなかなか取られない状況にあることが要因として考えられる。制作した成果物が効果的に活用・実践されるための指導、声かけを継続的に行い、また授業者が適切に手助けすることで、実践に係る活動を充実させたい。

1. 単元名：探究成果発表の発表ポスターと発表原稿作成

2. 学習内容：探究成果発表会に向けてのポスター作成・原稿作成をおこなう。また、発表に向けてリハーサルを実施する。

3. ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	地域課題や課題解決のための啓発物開発について、興味・関心をもつことができる	地域課題と新たに開発しようとする啓発物を関連づけて考えることができる	地域課題解決のための啓発物(仮説)にあたって、積極的に取り組むことができる	地域の方々の意見を聞き、それらを生かして、啓発物開発に取り組むことができる
協働性	班員の意見を大切にし、協力して地域課題の発見や啓発物の開発に取り組むことができる	コンソーシアムの方々の助言や意見を聞き、新たな啓発物作成の提案ができる	地域やコンソーシアムの方々と改善点を協議し、協働しながら啓発物を開発できる	開発した啓発物を地域の方々に使用してもらい、感想や意見などをまとめることができる
探究力	具体的な地域課題を見つけ、それを解決するための啓発物作成について検討できる	地域課題解決につながる啓発物作成を目指して調査し、その内容を活用できる	現地での調査を通じて地域の現状を知り、地域の要求を開発に反映できる	SDGsとの関連やグローバルな視点を踏まえて、啓発物の作成や活用方法を検討できる
発信力	グループ活動で自分の考えや他の意見についての自分の考えを伝えることができる	グループでまとめた考えた啓発物のアイディアをクラスで発表・説明できる	啓発物のアイディア・活用法などをコンソーシアムの方々に発表・説明できる	完成した啓発物を地域の方々に提示し、その活用を呼びかけることができる

4. 授業進行表

【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目	【TG 探究】			
2限目	・探究成果発表の発表ポスターと発表原稿を検討・作成・完成	・発表内容の作成は、次のことを意識する。 1.発表タイトル…発表の内容が伝わるか 2.どのようなことに関心や疑問を持ったのか 3.コンソーシアム関係者などからどのようなヒントや助言をいただいたのか 4.何の地域課題に対して取り組むのか 5.課題であることを示すエビデンスは何か（データ、グラフ、資料など）、なぜそれが課題になった今まで解決されないのか 6.SDGs の何の目標と関連があるのか どのような物を開発したら解決できると考えたのか、なぜそう考えたのか 仮説をたてる 「〇〇の地域課題について、～をすれば(作れば)、～が解消消されるので～の課題は解決されるのではないか」など	・地域課題、仮説、SDGs、啓発素材開発・実践・振り返りなどをまとめて、1年間の探究成果が発表できるように作成させていく。	
3限目	・発表に向けての、検討・練習	7.どのような啓発物をつくったのか 工夫した点や苦労した点は何か つくったものをどこに提供したのか、誰に使ってもらったのか、どのような感想か 自分たちの仮説はどうだったのか 探究学習の成果は何か、残った課題は何か ・班内で、発表の手順や内容、順番などの検討を行う。 ・作成した発表ポスターをもとに、班内で発表のシミュレーション、練習をおこなう。 ・班内で発表への段取りが固まったら、担任の先生へ報告し、指導を仰ぐ。	・各班の発表ポスター・発表原稿の確認と指導を綿密に行う。 ・1年生の生徒が2年生の活動実施を見学することがあるため、上級生らしい振る舞いと、1年生にとって参考になる箇所を積極に伝えるよう、指導する。 ・今後のスケジュールを意識させる。 ポスター・原稿修正、クラス内発表の練習：1/15 クラス内での発表：1/29 探究成果発表会：2/5 (発表7分+質疑応答3分計10分程度)	
4限目	・ループリック評価	・自分自身の活動を振り返り、ループリック評価表を記入する。また、Google フォームにてデータの入力を行う。	・2月5日（土）の探究成果発表会では、コンソーシアムの方々をお招きし、各クラスの発表を見ていただくことを伝え る。 ・机間巡回を行い、手詰まっている班について、適切な指導を行う。 ・各班の発表ポスター・発表原稿をもとに発表の段取りや筋書き、内容などについて、助言・指導する。 ・ループリック評価表へ正確に記入させる。また、Google フォームにてデータを入力・送信させる。	

【授業の様子（写真）】



【生徒の学びと教育的効果】

本授業にて、第2学期最後となる。本時を含め残り3時間にて探究成果発表会への準備（ポスター作成、発表原稿作成、発表練習）をしなければならない。そのスケジュールをしっかりと生徒に伝え、限られた時間で最後まで行うよう指導した。そのような中で、地域のグループホーム「ひいす」を訪れ、探究成果発表に向けて利用者にアンケートを実施したり、これまでの活動に対するインタビューを実施したりして、発表に必要な情報を得る活動を行った班もあった。

また、生徒自身によるループリック評価表を用いて2学期の活動に対する自己評価をさせた。ループリック評価表を用いた自己評価は、主体性・協働性・探究力・発信力の各項目について、4段階のレベルで評価させた。あわせて、2学期の活動について簡単にまとめ、振り返らせた。自己の現状を客観的に認識し、次の課題を考えさせることで、自己評価能力を伸ばすことを狙いとした。

【生徒の学びと教育的効果】

最も活動が進んでいる班は、探究成果発表のポスターと発表原稿の作成の作業に目処が立っていた。あるクラスでは、全体の進行を意識づけるため、ひとつの班に発表の練習を実施していた。発表までまだ多くの時間と準備が必要とされる班は、かなりのスピードアップを強いられることになる。

本日のまとめとしてループリック評価表を用いた自己評価を実施した。ワークシートを用いて評価させたが、それだけでなく、2学期のまとめや振り返りを記入する欄があり、熱心に取り組む様子が見られた。取り組み状況から、新たな努力への意欲と方法づけに効果的であるように感じた。

【育成の評価と改善点】

3学期の活動は1年間の活動のまとめ、成果発表が中心となる。今年度は第1学年と第2学年がお互いに成果発表を行い、相互評価を行う形式を計画している。学年やクラス（コース）を超えた発表会となるため、発表の経験が生徒の自信につながり、今後の活動にも良い影響があることを期待している。そういう面からも充実した発表会となるよう指導し、短期間での準備となるため時間を有効に活用するよう工夫したい。

- 単元名：探究成果発表会に向けての準備
- 学習内容：探究成果発表会に向けての原稿・ポスターを作成し、発表に備える。
- ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	探究成果発表の原稿とスライドの作成に取り組むことができた	原稿やスライドに自分の意見やアイディアを取り入れることができた	班内で共有した意見やアイディアをプレゼンテーションに生かすことができた	啓発物開発の目的や過程、課題などを明確にしてプレゼンテーションができた
協働性	発表原稿とスライドの作成で、自分が担当する役割を実行できた	他の班員の意見やアイディアを取り入れ、原稿やスライドを作成できた	他の班員の原稿やスライドについて、改善点などの助言を伝えることができた	活発な意見交換を行い、班員の意見などを集約して原稿とスライドが作成できた
探究力	地域課題を探し、目的を明確にすることことができた	プレゼンテーションをするための資料やデータを探すことができた	データやグラフを効果的に使い、プレゼンテーションの質を高めることができた	プレゼンテーションを通して今後の課題を発見し、新たな探究へ向かうことができた
発信力	原稿を見ながら、プレゼンテーションを行うことができた	原稿を見ながら、聴衆にわかりやすくプレゼンテーションを行うことができた	原稿を見ずにプレゼンテーションを行うことができた	原稿を見ずに、聴衆にわかりやすくプレゼンテーションを行うことができた

4. 授業進行表 【TG 探究 Think Global】 【TL 探究 Think Local】 【AG 探究 Act Global】 【AL 探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目	・3学期ループリック評価表と今後の流れを確認	ループリック評価の内容を確認する。 <今後の予定> 1/29：クラス内での発表 2/5：探究成果発表会	・3学期のループリックを確認し、より高いレベルでの活動目標とするよう指導する。	
2限目	・探究成果発表の発表ポスターと発表原稿を作成・完成	・発表内容の作成は、次のことを意識する。 1. 発表タイトル…発表の内容が伝わるか 2. どのようなことに关心や疑問を持ったのか 3. コンソーシアム関係者などからどのようなヒントや助言をいただいたのか 4. 何の地域課題に対して取り組むのか 5. 課題であることを示すエビデンスは何か（データ、グラフ、資料など）、なぜそれが課題になった今まで解決されないのか 6. SDGs の何の目標と関連があるのか どのような物を開発したら解決できると考えたのか、なぜそう考えたのか 仮説をたてる「〇〇〇の地域課題について、～をすれば(作れば)、～が解消されるので～の課題は解決されるのではないか」など 7. どのような啓発物をつくったのか 工夫した点や苦労した点は何か つくったものをどこに提供したのか、誰に使ってもらったのか、どのような感想か 自分たちの仮説はどうだったのか 探究学習の成果は何か、残った課題は何か	・文部科学省の取材があることを伝える。 ・地域課題、仮説、SDGs、啓発素材開発・実践・振り返りなどをまとめて、1年間の探究成果が発表できるように作成させていく。 ・各班の発表ポスター・発表原稿の確認と指導を綿密に行う。 ・2/5 の探究成果発表会では、コンソーシアムの方々をお招きし、各クラスの発表を見ていただくことを伝える。 ・机間巡回を行い、手詰まっている班について、適切な指導を行う。	
3限目	・発表に向けての練習（発表側として）	・班内で、発表の手順や内容、順番などの検討を行う。 ・作成した発表ポスターをもとに、班内で発表のシミュレーション、練習をおこなう。 ・班内で発表への段取りが固まったら、担任の先生へ報告し、指導を仰ぐ。	・各班の発表ポスター・発表原稿をもとに発表の段取りや筋書き、内容などについて、助言・指導する。 ・ポスター印刷ができる班を把握する。	
4限目	・発表に向けての練習（聞く側として）	・発表を聞く側として、ふさわしい質疑ができるよう、発表を聴く。 ・発表班に対して、その発表がより充実したものとなるような質問を心がける ・発表の準備（原稿・ポスター・質疑応答の想定）が整い、ポスター印刷ができるまで準備が進んだら、その旨を担任の先生へ報告する。また、ポスターの印刷を依頼する。	・発表を聞く側になったとき、発表内容のよいところを引き出すような質問ができるように指導する。 <質問の例> ・〇〇〇について、もう少し詳しく教えてください。 ・なぜ、〇〇〇に注目したのですか？ ・〇〇〇について苦労したことは何ですか？失敗したことはありませんか？ ・〇〇〇はどうしたら（何をしたら）、さらに発展（進展）すると思いますか？	

【授業の様子（写真）】



【生徒の学びと教育的効果】

3学期最初の授業となる。はじめに、今学期のルーブリック評価表を確認させ、本時を含めて3回の授業の中で目指すべき目標を十分に理解させた。冬休み明けということもあり、各班はこの休みの期間のうちに探究成果発表会に向けてポスター作成や発表原稿の作成を行った。このポスターや発表原稿は本校が採用しているクラウドサービスの Google Workspace for Education を活用してデジタルで作成しており、ひとつのポスターや原稿を班員全員で共有し、誰でも・いつでも・どこでも編集が可能である。同時間帯に作業をすれば、生徒同士が離れた場所に居ても意見を出しながら編集・作成が可能であることから、学校が休みの期間においてもある程度の作業が進められる。まさに、学びの場所が限定されることはない。

さて、本時は次回の授業にて全体への探究成果発表会に向けてコースごとの発表会を行うことから、クラス内での発表練習をメインに活動した。特に発表の手順や内容、順番などの検討をしっかりと行い、スムーズな発表が進行されるよう検討しながらの練習となるように指導した。また、発表を聞く側にあっては、発表後の質疑応答が発表内容をより充実したものになるような質問ができるような質問内容を心がけるよう指導した。

【生徒の学びと教育的効果・育成の評価と改善点】

どの班も、次回のコース間発表練習に向けてしっかりととしたクラス内練習ができた。また発表までの手順を話し合い、ポスターを準備する役割や発表の順番など、細かなところまでポスターセッションを想定した練習を行うことができた。

しかしながら、現在、新型コロナウイルス感染症の罹患者が急激に増えており、学級閉鎖となったクラスもある。2月5日(土)の探究成果発表会に向けて、実施の内容や方法を検討しなければならない状況にある。

※実際に、次回（1月29日(土)）は臨時休校となつたため、残り1時間となつた。したがつて、探究成果発表会の運営方法を検討し直す必要が出てきた。

1. 単元名：探究成果発表会
2. 学習内容：クラス内探究成果発表会の実施と探究成果発表物（セルフレコーディング）の制作
3. ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	探究成果発表の原稿とスライドの作成に取り組むことができた	原稿やスライドに自分の意見やアイディアを取り入れることができた	班内で共有した意見やアイディアをプレゼンテーションに生かすことができた	啓発物開発の目的や過程、課題などを明確にしてプレゼンテーションができた
協働性	発表原稿とスライドの作成で、自分が担当する役割を実行できた	他の班員の意見やアイディアを取り入れ、原稿やスライドを作成できた	他の班員の原稿やスライドについて、改善点などの助言を伝えることができた	活発な意見交換を行い、班員の意見などを集約して原稿とスライドが作成できた
探究力	地域課題を探し、目的を明確にすることができた	プレゼンテーションをするための資料やデータを探すことができた	データやグラフを効果的に使い、プレゼンテーションの質を高めることができた	プレゼンテーションを通して今後の課題を発見し、新たな探究へ向かうことができた
発信力	原稿を見ながら、プレゼンテーションを行うことができた	原稿を見ながら、聴衆にわかりやすくプレゼンテーションを行うことができた	原稿を見ずにプレゼンテーションを行うことができた	原稿を見ずに、聴衆にわかりやすくプレゼンテーションを行うことができた

4. 授業進行表

【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
1限目	・発表ポスターを用いた クラス内探究成果発表	・発表班はポスターをホワイトボードに貼り、 クラス内発表を行う。 発表後は、各班より質疑応答を行う。 ・発表内容は、次のことを意識する。 1. 発表タイトル…発表の内容が伝わるか 2. どのようなことに関心や疑問を持ったのか 3. コンソーシアム関係者などからどのような ヒントや助言をいただいたのか 4. 何の地域課題に対して取り組んだのか 5. どのような啓発物をつくったのか	・地域課題、仮説、SDGs、啓発素材開発・ 実践・振り返りなどをまとめて、1年間 の探究成果をクラス内で発表させる。 ・各班の発表ポスターを用いて各班7分程度 の発表を行わせる。 ・発表後はそのほかの班より質疑応答を実 施させる。 ＜質問の例＞ ・○○○について、もう少し詳しく教 えてください。 ・なぜ、○○○に注目したのですか？ ・○○○について苦労したことは何ですか？失敗したことはありませんか？ ・○○○はどうしたら（何をしたら）、さ らに発展（進展）すると思いますか？	
2限目	・発表に対する質疑応答	・発表を聞く側として、ふさわしい質疑ができる ように、発表を聴く。 ・発表班に対して、その発表がより充実したも のとなるような質問を心がける	・審査用紙を回収し、集計する。	
3限目	・審査用紙を用いた発表審査	・審査用紙を用いて、発表を審査する。	・セルフレコーディングには静かな環境が 必要なため、下のように別クラスにて行 う。 2-1 ⇒ 多目1、多目2 2-2 ⇒ 3-1教室、3-2教室 2-3 ⇒ 多目5、多目6 2-4 ⇒ 3-3教室、多目4 2-5 ⇒ 3-3教室、3-4教室 2-6 ⇒ 2-7教室、多目5	
4限目	探究成果発表物（セルフレコーディング） の制作	・Google Meet と iPad の画面集合力を用いて発 表内容のセルフレコーディングを行う。以下 のように準備、実施する。 1. 「設定」>「コントロールセンター」の順に 選択し、「画面収録」の横にある追加ボタ ンをタップする。 2. Google スライドより、ポスターを開き、 再生>このデバイスで表示をタップする。 3. iPad でコントロールセンターを開く。 4. グレイの録画アイコンを長押しして、「マ イク」をタップし、マイクをオンにする。 5. 「収録を開始」をタップし、3秒のカウント ダウン後に発表内容を録画する。 6. 録画を停止するには、コントロールセンタ ーを開いて、赤い録画ボタン 赤い録画ア イコンをタップする。または、画面上端 の赤いステータスバーをタップし、「停止」 をタップする。	・本時に全てのセルフレコーディングが完 了するように時間配分や生徒への指導 を的確に行う。 また、ほかのクラスの使徒と接触がない ように指導する。	
	・ループリック評価	・収録した動画を、Google Classroom にて提出 をする。 ・自分自身の活動を振り返り、ループリック評 価表を記入する。また、Google フォームにて データの入力を行う。	・ループリック評価表へ正確に記入させ る。また、Google フォームにてデータを 入力・送信させる。	

【授業の様子（写真）】



【生徒の学びと教育的効果】

1年間の総括として計画していた探究成果発表会であるが、コロナ禍において、学年やクラスの枠を超えた相互発表・相互評価の実施を中止せざるをえない状況であった。したがって、本日の前半は正式なクラス内発表、後半は後日全ての学年・クラス・班の発表が見られるよう、発表ポスターを用いたセルフレコーディング（発表動画）の作成を行うこととした。

前半のクラス内発表は、前回の練習の成果もあり、発表の仕方や話し方などこれまでの1年間を締めくくるのにふさわしい発表ができた。発表ポスターをホワイトボードに貼り付けて、ポスターセッション形式にて発表である。発表後には質疑応答を実施し、お互い発表についての評価も行った。そして、その相互評価によって各クラスの優秀発表を選出した。

どの班も、臨時休校により準備に要する時間が十分とは言えない状況での探究成果発表ではあったが、ここまで1年間をふりかえりながら、設定した地域課題やその理由、解決に至るまでの過程や失敗を乗り越えた時の経験談、取り組みへの難しさや、道筋が開けたときの達成感など、意義のある発表内容であった。

【生徒の学びと教育的効果】

どのクラスの班も、締めくくりとしてふさわしい発表を行った。発表後は質疑応答の時間を設けた。発表内容に対する疑問や苦労した点、さらには発表内容をより引き立てる質問が数多く見受けられた。

発表者は、一年間班で行ってきた活動の成果を示したポスターの文字や写真やグラフなどを指しながら、的確な言葉で視聴者に伝える経験ができた。視聴者は、発表者のその発表がより充実したものとなるような質問を心がけながら、発問していた。その後、①グローバルな視点 ②地域課題の理解 ③地域協働活動の提言内容 ④調査・探究の深さ ⑤発表力・発信力の5項目について、5段階の評価を行い、それらを集計することによって、クラス内での最優秀発表を選出し表彰を行った。今回のクラス内発表会を実施したことで、一年間の活動に対して一段落をつけることができ、本時の授業内容は総括としてふさわしい内容であった。

【育成の評価と改善点】

クラス内という限定ではあるが、探究成果発表会が行えたことは学習者にとって非常に意義があったと考える。しかしながら、やはり学年やクラスを超えた発表会ができなかったことは非常に悔いが残る。コロナ禍という悪条件が様々なところで障害となった一年であったが、生徒たちは「できない」とことより、「何ができるのか」を常に追い求めてきた。この思考は、まさに探究活動あってのものであり、この思いを大切にこれからも探究活動に臨んでほしいと思う。

(3) 総合的な探究の時間 【SGL 地域協創学III】

SGL 地域協創学IIIの年間授業計画

回	日付	授業内容
第1回	4月17日(土)	SGL開校式・グローカル探究のまとめ作文の導入
第2回	5月1日(土)	Think Glocal アラカルト講座①
第3回	5月29日(土)	カンボジアについて考える・「グローバル探究のまとめ」の作文をまとめる
第4回	6月5日(土)	カンボジアオンライン研修
第5回	6月19日(土)	グローカル探究のまとめ作文(1年生のまとめ)
第6回	7月3日(土)	シンガポールオンライン研修
第7回	7月17日(土)	グローカル探究のまとめ作文(2年生のまとめ)
第8回	9月4日(土)	Think Glocal アラカルト講座②
第9回	9月18日(土)	グローカル探究のまとめ作文(2年生のまとめ)
第10回	10月16日(土)	グローカル探究のまとめ作文(世界規模の社会問題や各地域の解決すべき課題についての問題意識)
第11回	10月30日(土)	グローカル探究のまとめ作文(進学後の学習内容と社会問題(地域課題)解決への取り組みとの関連)
第12回	11月6日(土)	パラオオンライン研修
第13回	11月20日(土)	グローカル探究のまとめ作文(大学卒業後の職業と社会問題(地域課題)解決への取り組みとの関連)
第14回	12月4日(土)	インドネシアオンライン研修
第15回	12月18日(土)	探究のまとめ作文の推敲

令和3年度 総合的な探究の時間《SGL 地域協創学III》

【4月17日(土) 授業進行表】

- 単元名 : SGL開校式・グローカル探究のまとめ作文の導入
- 学習内容: 本年度のSGL活動の流れを理解し、SGL活動の概要に関する客観的な文章を作成する。
- ループリック評価:

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座において、世界や地域の課題について考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座において、世界や地域の課題解決について自分の意見を持つことができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分がどのように世界や地域の課題解決に関わっていくかを考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分がどのように世界や地域の課題解決に関わっていくかを考え、自分の進路と関連付けて考えることができる。
協働性	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、グループワークなどで仲間の意見を聞き、自分の意見を仲間に伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、グループワークなどで仲間の意見や考えを聞き、それにに対する自分の考え方やアドバイスなどをお互いに伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その国・地域にどのような課題があるかや、何を支援すべきかについて話し合うことができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その国・地域の課題解決に向かうどのような支援が必要かや、その支援によって期待される効果について話し合うことができる。
探究力	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座の前に、その国について調べ、まとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その国についてさらに調べ、現状や背景などについてまとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その内容がSDGsとの目標に連携しているかを明確にし、問題点をまとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自ら問題文を意図的に読みことでより広く情報を収集し、その国が抱える課題についてまとめることができる。
発信力	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分が感じたことや考えたことを積極的に仲間に伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分が感じたことや考えたことを課題解決策やSDGsと関連させて、仲間に伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分が感じたことや考えたことを課題解決策やSDGsと関連させて、クラスで発表することができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分と仲間で感じたことや考えたことを課題解決策やSDGsと関連させながらまとめて、探究の意見としてクラスで意図的に発表できる。

4. 授業進行表

【TG 探究 Think Global】 【TL 探究 Think Local】 【AG 探究 Act Global】 【AL 探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1限目	豊明市長・校長からのメッセージ動画を見る。 探究成果作文の作成の流れについて理解する。 SGL活動の目的や主旨を再確認し、共有する。 80字程度で自分の言葉でまとめる。	市が高校生に何を求めているのか、この活動を通して何を学ぶのかを再確認する。 1年間の流れを理解する。 グループ机になり、SGL活動のキーワードは何か、班で共有する。 クラス全体で共有する。 キーワードを利用して、SGL活動の目的や主旨について、80字程度でまとめる。	プロジェクターに投影し動画を再生する。 3年生の主な活動の流れについて説明する。以下の6項目について、①は80字程度、②~⑥は200字程度で作文していく。 ① SGL活動とは ② 1年生の振り返り ③ 2年生の振り返り ④ SDGsに関連した社会問題 ⑤ 卒業後の学部・専攻 ⑥ 将来の職業 1・2年時の活動や、オンラインツアーやアラカルト講座をヒントにしていくことを伝える。 ワークシートを配布する。 SGLの目的、主旨となるキーワードを列挙させ、作文の方向性をある程度示す。 キーワード: グローバル、共生、協創、協働、地域のリーダー、地域課題の解決、SDGs(外国人市民、高齢市民)など個人で80字でまとめる。グループで同じ作文にならないよう注意する。

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
2限目	80字程度で自分の言葉でまとめる。 作成した文章を班で共有する。 班の中で最もよい作文を全体で共有する。 (時間に余裕があれば) 1年生の振り返りを行う。	キーワードを利用して、SGL活動の目的や主旨について、80字程度でまとめる。 作文をグループで共有し、原稿用紙の使い方や基本的な言葉遣いなどを、プリントを見ながらお互いに訂正を入れあう。 班の中で最もよい作文を決定する。 各自必要があれば、キーワードなどや一部言い回しを優秀な作文から引用するなどして書き直す。	個人で80字でまとめる。グループで同じ作文にならないよう注意する。 基本的な原稿用紙の使い方や正しい書き言葉での言葉遣いなどの注意を記したプリントを配布する。お互いに共有し、基本的な間違いを訂正し、伝わりにくいや言い回しなどを指摘しあうよう伝える。

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

本時は今年度最初の授業となるため、1年間のSGL活動の概要を理解させることを目標の1番目とした。市や学校が高校生に何を求めていたかを再確認するため、市長と校長からのメッセージ動画を視聴した。探究のまとめの作文作成にあたり、基本の段落構成や原稿用紙の使い方や書き言葉について教員が指導した。授業後半では、さっそくSGL活動の概要説明の作文に取り組んだが、文科省からの指定事業概要や活動内容を客観的な視点で記述することができない生徒が多く出る結果となった。これを受けて次回の作文内容は、事業概要と活動内容、および、それぞれの狙いについて記述できるよう指導することにした。

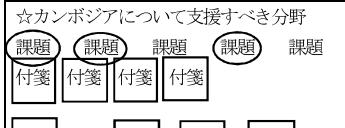
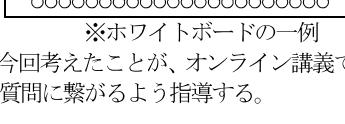
【生徒の学びと教育的効果】

今年度も市長と校長からの話を聞くところからスタートした。3年生の生徒たちは、1年次、2年次にも話を聞いているが、毎年話を聞く心境が違うのではないかと思う。3年生はこれまでの実践的な活動は行わなくなり、卒業後のことについて考える時間が増えていくので、地元が直面している課題、今後の自分たちができることについて、じっくり思いを馳せる契機となった。生徒たちの表情も引き締まっており、これまでの活動の意義深さを感じ、今後の自分のあり方が大切だと理解した様子だった。ワークシートをまずは完成させ、その後に作文に取り組んだものの、本校のSGL活動と大元である文科省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローカル型」を区別して理解できていない状態で書き始めてしまったため、それぞれが何を狙って行われているのか、主体は誰なのかなど、混乱して記述されていた。

- 単元名：カンボジアについて考える・「グローバル探究のまとめ」の作文をまとめる
- 学習内容：カンボジアが抱える課題を知り、どのような支援が必要かを議論する。SGL活動の概要について100字程度にまとめる。
- ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座において、世界や地域の課題について考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座において、世界や地域の課題解決について自分の意見を持つことができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分がどのように世界や地域の課題解決について考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分がどのように世界や地域の課題解決について考えることができる。
協働性	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、グループワークなどで仲間の意見を聞き、自分の意見を仲間に伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、グループワークなどで仲間の意見や考えを聞き、それに対する自分の考え方やアドバイスなどをお互いに伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その国・地域にどのような課題があるかや、何を支援すべきかについて話し合うことができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その国・地域の課題解決に向かどのような支援が必要かや、その支援によって期待される効果について話し合うことができる。
探究力	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座の前に、その国について調べ、まとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その国についてさらに調べ、現状や背景などについてまとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その内容がSDGsとの目標に関連しているかを明確にし、問題点をまとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自ら開発文献を意欲的に読むことでより広く情報を収集し、その国が抱える課題についてまとめることができる。
発信力	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分が感じたことや考えたことを積極的に仲間に伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分が感じたことや考えたことを課題解決策やSDGsと関連させて、仲間に伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分が感じたことや考えたことを課題解決策やSDGsと関連させて、クラスで発表することができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分と仲間が感じたことや考えたことを課題解決策やSDGsと関連させながらまとめて、探求型の意見としてクラスで意欲的に発表できる。

4. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
3限目 (15分)	【TG 探究】 ・ビデオ視聴により、カンボジアについての理解 ・カンボジアの派生図②の作成	・CMCという団体の地雷・教育・貧困についてのビデオを見る。 ・改めてカンボジアの派生図②を作成する。		
(10分)	・カンボジアについて支援すべき分野の検討と話し合う分野の決定	・2つの派生図から、支援すべきだと思う分野やテーマを列举し、3つの分野に絞る。		
(20分)	・具体的な支援内容と期待できる変化の検討（できる限り多くのアイディアを出す）	・3つの分野について①具体的にどのような支援が必要か、②その支援で期待される変化について、自分の考えを付箋に書く。		
4限目 (15分)	・同じような考えを集めて分類・整理及び1つの支援分野と内容に焦点化、現状と課題の検索	・考えを分類して整理し、班として最重要支援分野と内容を選び、それについて、iPadを使って現状と課題について調べる。		
(10分)	・班でまとめた内容の発表	・各班の代表者が、まとめたことをクラス全体に発表する。（余裕があれば質疑応答）	・今回考えたことが、オンライン講義での質問に繋がるよう指導する。	
(5分)	・SGL活動についてのキーワードの確認	・ワークシートを見る	・ワークシートを配布する。	
(10分)	・原稿用紙の使い方・書き方の理解	・注意プリントを読み、100字程度で作文を行う。基本的なミスに気を付けながら作文していく。	・ワークシートのキーワードは全て使う必要がないことを伝える。	
(10分)	・作文の回し読み、および、添削	・注意プリントに記載があるふさわしくない書き方を訂正し合う。自分の作文と比べながら、自分の作文に活かしたり、友人にアドバイスを行ったりする。	・内容については添削せずに、注意プリントに記載のあったことのみ添削を行わせる。	
(5分)	・文章の修正	・必要に応じて修正を行う。	・遠慮せずアドバイスし合うよう伝える。	

【授業の概要と学びの狙い】

前時に作成した作文は、2つの別の事柄についてまとめようとして、うまくまとめられない生徒が多かったため、はつきり区別されたワークシートを用意し、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローカル型」について説明する箇所と、本校のSGL活動について説明する箇所と分けて記述できるようにした。その結果、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローカル型」については狙い通りに説明できるようになったが、それでもSGL活動については、活動内容と個人や自分の班の活動が記述されている生徒もいた。また、回し読みについては、本人では気付かない細かなミスを互いに伝え合うことができたが、文や文章の良し悪しについては、コメントをし合うのを避けているようだった。

- 単元名：グローカル探究のまとめ作文（1年生のまとめ）
- 学習内容：1年生の活動のまとめ（花溢れる街づくりプロジェクト）について400字程度の作文を行う
- ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座において、世界や地域の課題について考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座において、世界や地域の課題解決について自分の意見を持つことができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分がどのように世界や地域の課題解決に関わっていくかを考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分がどのように世界や地域の課題解決に関わっていくかを考え、自分の道筋と関連付けて考えることができる。
協働性	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、グループワークなどで仲間の意見を聞き、自分の意見を仲間に伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、グループワークなどで仲間の意見や考えを聞き、それに応じて自分の考えやアドバイスなどをお互いに伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その国・地域にはどのような課題があるかや、何を支援すべきかについて話し合うことができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その国・地域の課題解決に向かどのような支援が必要かや、その支援によって期待される効果について話し合うことができる。
探究力	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座の前に、その国について調べ、まとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その国についてさらに調べ、現状や背景などについてまとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その内容がSDGsとの目標に連動しているかを明確にし、問題点をまとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自ら開拓文献を意欲的に読むことでより広く情報を収集し、その国が抱える課題についてまとめることができる。
発信力	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分が感じたことや考えたことを積極的に仲間に伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分が感じたことや考えたことを課題解決策やSDGsと関連させて、仲間に伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分が感じたことや考えたことを課題解決策やSDGsと関連させて、クラスで発表することができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分と仲間を感じたことや考えたことを課題解決策やSDGsと関連させてからまとめ、探究型の意見としてクラスで意欲的に発表できる。

4. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
3限目 4限目	<ul style="list-style-type: none"> 地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローカル型について100字程度で作文 回し読みのあと相互に添削 星城高校のSGL活動について100文字程度で作文 100~150字程度で1年生の活動の流れ（花溢れる街づくりプロジェクト）についての作文 回し読みのあと相互に添削 250~300字程度で1年生の自分の班の活動についての作文 回し読みのあと相互に添削 	<ul style="list-style-type: none"> 文科省のホームページに記載されている説明を参考に記述する。 グループ内で回し読みをする。 書き方に誤りがあれば添削を行う。不自然な表現についてはお互いに指摘しあう。 前回使用したワークシートのキーワードを使用し記述する。 書き方に誤りがあれば添削を行う。不自然な表現についてはお互いに指摘しあう。 配信されたスライドを参考しながら作文を行う。 グループ内で回し読みをする。 書き方に誤りがあれば添削を行う。不自然な表現についてはお互いに指摘しあう。 誰と協働したのか、何を感じたり、何に疑問に思ったり、何を工夫したり、何に苦労があったか、など客観的に読んでも伝わる文章を作成する。 グループ内で回し読みをする。 書き方に誤りがあれば添削を行う。不自然な表現についてはお互いに指摘しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> 星城高校のSGL活動については記述しない。地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローカル型についての説明であることを改めて伝える。 「私は～だと思う～することができた」のような感想文になっていたり星城高校の活動について触れていたりする場合もお互いに指摘するよう伝える。 自分の班や個人的な取り組みについては書かず、学校全体で取り組んできた内容について記述するよう伝える。 自分の班の活動ではなく、1年生全体の動きについて作文を行うよう伝える。 自分の班の活動や個人的な思いについて記述するよう伝える。 	何について書くのかをきちんと理解したうえで記述させる。

【授業の概要と学びの狙い】

前時の授業で多くの生徒がSGL活動についてまではまとめることができたが、まだ書き終えていない生徒は前時の続きをから行なった。本時は1年生の活動の中でもメインの活動である「花溢れる街づくりプロジェクト」について作文した。活動の流れや狙いを思い返しながら、まずはワークシートにまとめられるように、1年生の活動について流れや狙いをまとめたスライドの配信とワークシートの配布を行なった。生徒はそれを見ながら記入を進めたが、生徒が行ったことばかりを書いてしまって、なぜその活動を行うことになったのかなどの理由や目的、その活動からの気づきや考察をきちんと書くことができていない生徒が多く見られた。それ以外にも、感想ばかりの作文になっている作文も見られたので、次の授業ではその修正を行うことが必要となった。

- 単元名：グローカル探究のまとめ作文（2年生のまとめ）
- 学習内容：2年生の活動のまとめ（啓発物の作成と活用および紹介）について400字程度の作文を行う
- ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座において、世界や地域の課題について考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座において、世界や地域の課題解決について自分の意見を持つことができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分がどのように世界や地域の課題解決に貢献していくかを考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分がどのように世界や地域の課題解決に貢献していくかを考え、自分の進路と関連付けて考えることができる。
協働性	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、グループワークなどで仲間の意見を聞き、自分の意見を仲間に伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、グループワークなどで仲間の意見や考え方を聞き、それに対する自分の考え方やアドバイスなどをお互いに伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その国・地域にどのような課題があるかや、何を支援すべきかについて話し合うことができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その国・地域の課題解決に向かうどのような支援が必要かや、その支援によって期待される効果について話し合うことができる。
探究力	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座の前に、その国について調べ、まとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その国についてさらに調べ、現状や背景などについてまとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その内容がSDGs のどの目標に照合しているかを明確にし、問題点をまとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自ら開発文献を意欲的に読むことでより広く情報を収集し、その国が抱える課題についてまとめることができる。
発信力	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分が感じたことや考えたことを積極的に仲間に伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分が感じたことや考えたことを課題解決策やSDGs と関連させて、仲間に伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分が感じたことや考えたことを課題解決策やSDGs と関連させて、クラスで発表することができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分と仲間が感じたことや考えたことを課題解決策やSDGs と関連させながらまとめて、探究班の意見としてクラスで意欲的に発表できる。

4. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
3限目 4限目	<ul style="list-style-type: none"> ・SGL活動のまとめ作文の取り組み確認 ・100~150字程度で1年生の活動の流れ（花溢れる街づくりプロジェクト）についての作文 ・回し読みのあと相互に添削 ・250~300字程度で1年生の自分の班の活動についての作文 ・回し読みのあと相互に添削 ・SGL活動のまとめと1年生の活動のまとめについてそれぞれ300~500字での清書 ・ループリック表による自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> 配信されたスライドを参考しながら作文を行う。 ・グループ内で回し読みをする。 ・書き方に誤りがあれば添削を行う。不自然な表現についてはお互いに指摘しあう。 ・誰と協働したのか、何を感じたり、何に疑問に思ったり、何を工夫したり、何に苦労があったか、など客観的に読んでも伝わる文章を作成する。 ・グループ内で回し読みをする。 ・書き方に誤りがあれば添削を行う。不自然な表現についてはお互いに指摘しあう。 ・ワークシートに清書をしていく。 ・原稿用紙の使い方に注意する。 ・ループリック表を見ながら1学期の活動について振り返り、自分で評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の班の活動ではなく、1年生全体の動きについて作文を行うよう伝える。 ・自分の班の活動や個人的な思いについて記述するよう伝える。 ・清書用のワークシートを配布する。 ・評価用のワークシートを配布する。 	何について書くのかをきちんと理解したうえで記述させる。

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

本時が夏休み前の最後の授業であった。前時の反省から、個の取り組みや工夫を書く箇所と、全体としての動きについて書く箇所を分けて、まずはこの1年生の活動の流れや主旨についてきちんと書くように方向性を統一した。その後で、個人や各班での考えや取り組み、そこからの気づきや考察など2年次に繋がるような記述となるよう促した。取り組みの早い生徒は、一度ここまででの作文を清書用紙に書き起こし作文をまとめた。授業の最後にはループリックで自己の活動の姿勢や取り組み内容について振り返った。

1. 単元名：グローカル探究のまとめ作文（2年生のまとめ）
2. 学習内容：2年生の活動のまとめ（啓発物の作成と活用および紹介）について400字程度の作文を行う
3. ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座において、世界や地域の課題について考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分がどのように世界や地域の課題解決について自分の意見を持つことができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分がどのように世界や地域の課題解決についていかを考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分がどのように世界や地域の課題解決についていかを考えることができる。
協働性	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、グループワークなどで仲間の意見を聞き、自分の意見を仲間に伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、グループワークなどで仲間の意見を聞き、よい考えを取り入れることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、仲間と話し合うを通じて、その国にある課題を発見し、何を支援すべきかについて考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、仲間と話し合うを通じて、その国にある課題解決となる支援を考案し、その支援によって期待される効果について考えることができる。
探究力	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座の前に、その国について調べ、まとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その国についてさらに調べ、現状や背景などについてまとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、SDGsの視点でその国が抱える課題をまとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座の後に、自ら関連文献を読み広く情報を収集し、その国が抱える課題をまとめることができる。
発信力	これまでの探究活動を、誰もが読みやすいように文章にまとめることができる。	これまでの探究活動において、どんなことに取り組んできたかを明確に述べ、自分が考えた解決策などを文章にまとめることができる。	自分の探究活動について、自分が設定した課題やその背景、解決策を出すまでの経緯などを明確にしながらまとめることができる。	探究活動での課題設定や誰とどのように協働したか、課題解決までの経緯を明らかにし、自分の今後の進路と関連付けてまとめることができる。

4. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
3限目 4限目	<ul style="list-style-type: none"> ループリック表による自己評価 2年生の活動の流れについて、100~200字でまとめる 回し読み 自分の班が作成した啓発物と得られた成果（期待できる効果）について200~400字でまとめる 回し読み 清書 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期のループリック表を見て目標を確認する。 配信されたスライドを参考にしながら作文を行う。 グループ内で回し読みをする。 書き方に誤りがあれば添削を行う。不自然な表現についてはお互いに指摘しあう。 2年次の班で集まり、課題設定や課題の背景などがどのようなものであったか確認し、作文を行う。 グループ内で回し読みをする。 ワークシートに清書をしていく。 原稿用紙の使い方に注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ループリック表を配信する。 ワークシートを配布する。 活動の主旨を明確にするよう伝える。 <p>啓発物の作成に至った経緯や作成した（提供した）結果どのような効果が得られたか（期待できたか）を明確に述べよう伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 清書用のワークシートを配布する。 	

【授業の概要と学びの狙い】

2学期最初の授業であった。2学期のループリックで今学期の目標について確認を行った後、探究のまとめ作文の続きを行った。今回の作文は、2年生の活動についての作文であったが、2年次の活動の主となるのは啓発物の作成および活用である。この作文でも、なぜ啓発物の作成を行うことになったのか、どんなことを解決するために作成するのかなどその経緯についてしっかりと記述するよう求めた。また、本校の仰星・特進の生徒は2年次から3年次にかけクラス替えを行っていないこともあり、2年次の班で集まることが簡単にでき、生徒同士の心の距離もかなり近くなっているため、班で集まると同時に、2年次の活動についての話ですぐに盛り上がっていた。

- 単元名：グローカル探究のまとめ作文（世界規模の社会問題や各地域の解決すべき課題についての問題意識）
- 学習内容：世界規模の社会問題や各地域の解決すべき課題についての問題意識について、400字程度の作文を行う
- ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座において、世界や地域の課題について考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座において、世界や地域の課題解決について自分の意見を持つことができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分がどのように世界や地域の課題解決について考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分がどのように世界や地域の課題解決について考えることができる。
協働性	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、グループワークなどで仲間の意見を聞き、自分の意見を仲間に伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、グループワークなどで仲間の意見を聞き、よい考えを取り入れることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、仲間と話し合うを通じて、その国にある課題を発見し、何を支援すべきかについて考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、仲間と話し合うを通じて、その国にある課題解決となる支援を考案し、その支援によって期待される効果について考えることができる。
探究力	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座の前に、その国について調べ、まとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その国についてさらに調べ、現状や背景などについてまとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、SDGsの視点でその国が抱える課題をまとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座の後に、自ら関連文献を読み広く情報を収集し、その国が抱える課題をまとめることができる。
発信力	これまでの探究活動において、誰もが読みやすいように文章にまとめることができる。	これまでの探究活動において、どんなことに取り組んできたかを明確に述べ、自分が考えた解決策などを文章にまとめることができる。	自身の探究活動について、自分が設定した課題やその背景、解決策を出すまでの経緯などを明確にしながらまとめることができる。	探究活動での課題設定や誰とどのように協働したか、課題解決までの経緯を明らかにし、自分の今後の進路と関連付けてまとめることができる。

4. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
3限目 4限目	<ul style="list-style-type: none"> 世界規模の社会問題や各地域の解決すべき課題についての問題意識について、その問題や課題についての情報と、それに対する自分の考えの整理 300~500字での作文 回し読み 清書 	<ul style="list-style-type: none"> 社会問題や各地域の課題を選択する。 なぜその問題や課題を選択したのかを記入する。 その問題や課題の背景（何をするときに、どのような人が、なぜ、どこで困っているのか）について iPad で調べ、情報をまとめる。 解決することによって、どのような社会となることが予想されるかを考え、記入する。 ワークシートにまとめたものを利用して、作文を行う。 グループ内で回し読みをする。 書き方に誤りがあれば添削を行う。不自然な表現についてはお互いに指摘しあう。 清書し、完成後写真を撮り課題提出を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時は、自身の関心のある社会問題や地域課題を選択し、それについて作文することを伝える。 次回の活動では、選択した社会問題と進学後の生徒の学習内容とのかかわりについてまとめることを伝える。 【選択した問題や課題と、生徒の進学後の学習内容とのかかわりがない場合】高校で学んできたことから、関心を持った社会問題や地域課題について作文する。 ワークシートを配布する。 すぐに選択できない生徒は SDGs の 17 の目標を参考に決定するよう伝える。 練習・清書用のワークシートを配布する。 写真を撮り提出するよう伝える。 	

【授業の概要と学びの狙い】

本時の作文の内容は、ここまで探究学習を行ってきて、生徒がどのような社会問題や地域課題について、とりわけ問題だと捉えている事柄についてである。ここからの作文内容については、生徒それぞれの個性あふれる内容となるため、生徒が選択したこの社会問題が、これまでの活動と繋がっている場合もあれば繋がっていない場合もあり、その両方がある。生徒には、高校卒業後に解決に向けて取り組んでいきたい内容と、その社会問題が繋がっていた方が作文として自然であることを伝えた。できれば、その社会問題を選んだ理由についてしっかり書くことを期待し、ワークシートにもその項目を設け書かせたが、作文として出来上がったものの中には、選んだ理由が抜け落ちていることが多く、今後における指導が必要となった。

1. 単元名：グローカル探究のまとめ作文（進学後の学習内容と社会問題（地域課題）解決への取り組みとの関連）

2. 学習内容：進学後の学習内容と社会問題解決への取り組みとの関連について、400字程度の作文を行う

3. ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座において、世界や地域の課題について考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座において、世界や地域の課題解決について自分の意見を持つことができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分がどのように世界や地域の課題解決について考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分がどのように世界や地域の課題解決について考えることができる。
協働性	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、グループワークなどで仲間の意見を聞き、自分の意見を仲間に伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、グループワークなどで仲間の意見を聞き、よい考えを取り入れることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、仲間と話し合うを通じて、その国にある課題を発見し、何を支援すべきかについて考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、仲間と話し合うを通じて、その国にある課題解決となる支援を考案し、その支援によって期待される効果について考えることができる。
探究力	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座の前に、その国について調べ、まとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その国についてさらに調べ、現状や背景などについてまとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、SDGsの視点でその国が抱える課題をまとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座の後に、自ら関連文献を読み広く情報を収集し、その国が抱える課題をまとめることができる。
発信力	これまでの探究活動を、誰もが読みやすいように文章にまとめることができる。	これまでの探究活動において、どんなことに取り組んできたかを明確に述べ、自分が考えた解決策などを文章にまとめることができる。	自分の探究活動について、自分が設定した課題やその背景、解決策を出すまでの経緯などを明確にしながらまとめることができる。	探究活動での課題設定や誰とどのように協働したか、課題解決までの経緯を明らかにし、自分の今後の進路と関連付けてまとめることができる。

4. 授業進行表

【TG 探究 Think Global】 【TL 探究 Think Local】 【AG 探究 Act Global】 【AL 探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
3限目 4限目	<p>・進学後の学習内容と社会問題（地域課題）解決への取り組みとの関連について自分の考えの整理</p> <p>・300~500字での作文</p> <p>・回し読み</p> <p>・清書</p>	<p>・以下を記入する。</p> <p>a. 前時に作文した内容</p> <p>b. 進学後に志望する分野 (学部学科専攻コース、学習内容)</p> <p>c. aとbがどのように関連するか</p> <p>d. どのような課題を新たに設定するのか</p> <p>e. どのように関わっていくのか (何に取り組んでいくのか)</p> <p>f. どのような未来図がイメージできるか</p> <p>・ワークシートにまとめたものを利用して、作文を行う。</p> <p>・ワークシートにまとめたものを利用して、作文を行う。</p> <p>・グループ内で回し読みをする。</p> <p>・書き方に誤りがあれば添削を行う。不自然な表現についてはお互いに指摘しあう。</p> <p>・清書し、完成後写真を撮り課題提出を行う。</p>	<p>・本時は、前時の作文した「自身の関心のある社会問題や地域課題」と「進学後の自分の学習」との関連について作文することを伝える。</p> <p>・次回の作文(11/20)は、「自身の関心のある社会問題や地域課題」と「大学卒業後の自分の進路希望」との関連について作文することを伝える。</p> <p>・[進学をしない生徒の場合] 高校卒業後の自分の進路希望との関連について作文をしていくことを伝える。(文字数600~)</p> <p>・ワークシートを配布する。</p> <p>・設定した課題と大学での学習内容が関連しない生徒には、大学4年間の生活でどうかかわっていくかを記述してもよいことを伝える(ボランティアや海外留学など)</p> <p>・大学卒業後の進路希望との関連を作文する際に内容がリンクしてしまうことが考えられるので、余裕があれば、大学での学習事項と卒業後の進路希望と明確に内容を分けながら関連や取り組みについて書いていくとよいことを助言する。</p> <p>・練習・清書用のワークシートを配布する。</p> <p>・写真を撮り提出するよう伝える。</p>	

【授業の概要と学びの狙い】

本時では、高校生として探究学習をしてきたことを踏まえ、自分が設定した社会問題に対し大学へ進んでからどのように向き合い、どのような小課題を設定し取り組んでいくのかを作文した。現時点では、高校卒業後の進路が確定している生徒は少なく、多くの生徒にとって記述するのが難しかったようである。世界的に大きな社会問題をテーマとした生徒が多く、新しくどのように小ステップを設定するかという点で苦労する生徒が多かった。今回の内容については自身の今後の将来と向き合うことが求められるので、作文をするのに今までの活動とは違いかなり長い時間がかかってしまうようだった。次回以降も長めに時間を取りながら進めていく。どうしてもこの内容で書くことができない生徒は、この探究学習で学習したことをどのように今後の人生に活かしていくか、という内容で書いていった。

1. 単元名：グローカル探究のまとめ作文（大学卒業後の職業と社会問題（地域課題）解決への取り組みとの関連）

2. 学習内容：大学卒業後の職業と社会問題解決への取り組みとの関連について、400字程度の作文を行う

3. ループリック評価：

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座において、世界や地域の課題について考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、世界や地域の課題解決について自分の意見を持つことができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分がどのように世界や地域の課題解決に関わっていくかを考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分がどのように世界や地域の課題解決に関わっていくかを考え、自分の進路と関連付けて考えることができる。
協働性	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、グループワークなどで仲間の意見を聞き、自分の意見を仲間に伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、グループワークなどで仲間の意見を聞き、よい考えを取り入れることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、仲間と話し合うを通じて、その国にある課題を発見し、何を支援すべきかについて考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、仲間と話し合うを通じて、その国に課題解決となる支援を考案し、その支援によって期待される効果について考えることができる。
探究力	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座の前に、その国について調べ、まとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その国についてさらに調べ、現状や背景などについてまとめることができます。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、SDGsの視点でその国が抱える課題をまとめることができます。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座の後に、自ら関連文献を読み広く情報を収集し、その国が抱える課題をまとめることができます。
発信力	これまでの探究活動を、誰もが読みやすいように文章にまとめることができる。	これまでの探究活動において、どんなことに取り組んできたかを明確に述べ、自分が考えた解決策などを文章にまとめることができる。	自分の探究活動について、自分が設定した課題やその背景、解決策を出すまでの経緯などを明確にしながらまとめることができる。	探究活動での課題設定や誰とどのように協働したか、課題解決までの経緯を明らかにし、自分の今後の進路と関連付けてまとめることができる。

4. 授業進行表

【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
3限目 4限目	<ul style="list-style-type: none"> ・進学後の学習内容と社会問題（地域課題）解決への取り組みとの関連について自分の考えの整理 ・300~500字での作文 ・回し読み ・清書 ・文章の入力、まとめと推敲 	<ul style="list-style-type: none"> ・以下を記入する。 <ul style="list-style-type: none"> a. 以前設定した内容 b. 大学卒業後に志望する職業、職種、分野 c. a と b がどのように関連するか d. どのような課題を新たに設定するのか e. どのように関わっていくのか (何に取り組んでいくのか) f. どのような未来図がイメージできるか ・ワークシートにまとめたものを利用して、作文を行う。 ・グループ内で回し読みをする。 ・書き方に誤りがあれば添削を行う。不自然な表現についてはお互いに指摘しあう。 ・清書し、完成後写真を撮り課題提出を行う。 ・本時の作文が終わった生徒は、これまでの作文を入力し、まとめと推敲を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は、以前設定した「自身の関心のある社会問題や地域課題」と「大学卒業後の自分の職業」との関連について作文することを伝える。 ・次回以降(12/4,18)は、これまで作文してきた文章を1つの文章にまとめ、推敲しデータとしてタブレットに入力していくことを伝える。 (・これまでの作文で文章量を比較的に多く仕上げてきた生徒は、多少この文章量が少なくして、文章の推敲に入ってもよいことを伝える) ※その場合はこれまでの作文を本人に返却する必要があるので、これまでの作文プリントを返却する。タブレットに写真を残しているはずなので、それで代用することも可 ・ワークシートを配布する。 ・設定した課題と卒業後の職が関連しない生徒には、卒業後の生活でどうかかわっていくかを記述してもよいことを伝える(社会人となり社会問題とどのように関わっていくか、何に取り組むか) ・練習・清書用のワークシートを配布する。 ・写真を撮り提出するよう伝える。 ・文章のつなぎのことばなど、文章に一貫性が出るよう指導する。(Google ドキュメントに打ち込みながらまとめていく) 	

【授業の様子（写真）】



【授業の概要と学びの狙い】

本時では、大学を卒業した後の自身の希望進路と、関心のある社会問題との関連について書いた。前回と同様に、書き始めるのに時間がかかり、苦労しているようだった。自身の進路が福祉や医療、外国人との協働に関連している生徒は、最初から最後まで作文の内容に一貫性があり、説得力の強い文章がかけていた。一方で、そうでない生徒や、前時の作文の中で小課題を新たに設定できていない生徒は取り組みづらいこともあり、それでも工夫して書きあげようと努めていた。どうしても課題が設定できない生徒は、関連性をなかなか自分で見つけることができず、ボランティアや募金をすることで関わっていく、改善の一助としたいといった落としどころに落ち着いた。

また、作文の段落構成としては本時の作文した段落で完結となるので、早く書けた生徒は推敲に入るため、Google ドキュメントに文字起こしを行った。細かい誤字脱字は生徒同士で確認し合い、内容や文が不自然な場合は教員から指摘をして、どのようなことを表現したかったのか確認を行った。

1. 単元名 : 探究のまとめ作文の推敲
2. 学習内容 : 一貫性のある文章になるよう推敲し、提出する。
3. ループリック評価 :

項目・レベル	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座において、世界や地域の課題について考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分がどのように世界や地域の課題解決について自分の意見を持つことができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分がどのように世界や地域の課題解決についていくかを考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、自分がどのように世界や地域の課題解決についていくかを考え、自分の進路と関連付けて考えることができる。
協働性	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、グループワークなどで仲間の意見を聞き、自分の意見を仲間に伝えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、グループワークなどで仲間の意見を聞き、よい考えを取り入れることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、仲間と話し合うを通じて、その国にある課題を発見し、何を支援すべきかについて考えることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、仲間と話し合うを通じて、その国にある課題解決となる支援を考案し、その支援によって期待される効果について考えることができる。
探究力	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座の前に、その国について調べ、まとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、その国についてさらに調べ、現状や背景などについてまとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座を受け、SDGsの視点でその国が抱える課題をまとめることができる。	アジア各国オンライン講義や途上国開発支援講座の後に、自ら関連文献を読み広く情報を収集し、その国が抱える課題をまとめることができる。
発信力	これまでの探究活動を、誰もが読みやすいように文章にまとめることができる。	これまでの探究活動において、どんなことに取り組んできたかを明確に述べ、自分が考えた解決策などを文章にまとめることができる。	自身の探究活動について、自分が設定した課題やその背景、解決策を出すまでの経緯などを明確にしながらまとめることができる。	探究活動での課題設定や誰とどのように協働したか、課題解決までの経緯を明らかにし、自分の今後の進路と関連付けてまとめることができる。

4. 授業進行表

【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	備考
3限目 4限目	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の活動の総括 ・探究のまとめ作文の推敲 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を振り返りながら話を聞く。 ・文章のまとめと推敲を行う。 ・段落の初めは全角で1字スペースを空ける。 ・最初に記入されていた指示を消して、タイトル・組番号名前・本文の形式にする。 ・友人同士チェックしたあと、提出する 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教室において Zoom で実施する。11時ごろには入室して開始の準備をしておく。 ・誤字脱字に注意させる。 ・「でます体」か「だである体」に統一させる。 ・話し言葉ではなく適切な書き言葉が使われているか確認させる。 ・文集として残るものであるので、まずは自分で何度も読み直しをするように伝える。その後1人でも多くの友人に読んでもらうよう指示する。 ・提出時は、タイトル・組番号名前・本文の3つのみしか書かれていない状態に整えてから提出するように伝える。 	

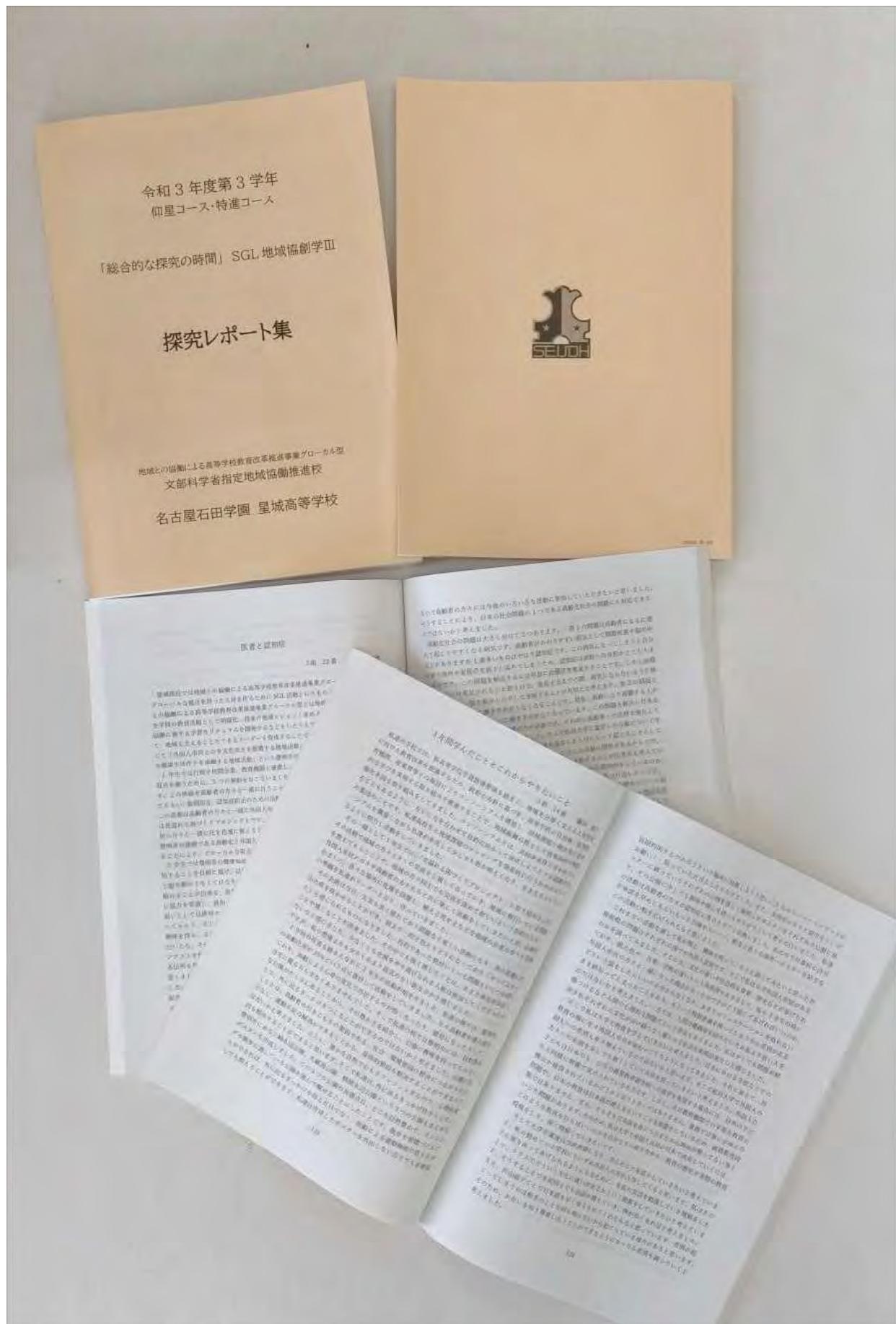
【授業の様子(写真)】



【授業の概要と学びの狙い】

本時の授業で3年生の授業は全て終了となる。今年度、3年間の総括を主任の先生方からいただき、生徒たちがあと少し自身の作文を完成させようと取り組もうとする意概を感じた。

前時までに、早い生徒は入力を終え推敲に入った。本時の授業が終わるまでにひとまず出来上がったところまで入力し、Googleドキュメント上で提出をするように求めた。提出があった生徒から順番に校正をかけていき、整えていった。言葉遣いや表現方法などに強いこだわりを持っている生徒もあり、この探究学習と自分の作文に思い入れがあることを見て取れた。今後の社会とのかかわりの中で、問題に気付き、課題を設定し、周囲の人と協働することで解決へ、主体的に動いていく人になっていてほしい。



3年生の総まとめとして作成した「探究レポート集」(280ページ)

(4) 学校設定教科：SGL 語学【SGL 英語 I】

コミュニケーション力アプローチとして、「SGL 語学」を学校設定教科とし、1年次の教育課程では学校設定科目「SGL 英語 I（1 単位）」の研究開発を行った。ネイティブ教員による少人数授業の実施により、英語の Speaking 技能と Listening 技能のブラッシュアップをすることによって、英語でのコミュニケーション力の向上を重点においていた研究開発に取り組んだ。英語で他者と会話する力、自分の考えを英語で発表する力、異なる意見を持つ相手と英語で理解し合う力を育成する。

また、今年度は昨年度に続き、コロナ禍の中で対面授業が制限された。その中で、ICT を活用した試みとして、各生徒に学校から提供されている iPad を用いて授業内の動画撮影、音声録音、Speaking テストの録画などを行った。自ら話している姿を客観的に観察することで、自身の発音や話しかたの改善点を見出して、結果として相手に伝わりやすい Speaking 技能の向上に繋げられた。回数を重ねるごとに、生徒の取り組みの姿勢の違いも見受けられ、より活動的な授業を行うことができた。

a. 学習の到達目標

これらの指導内容に基づき、学習の到達目標として、学習内容は CEFR の A2 から B1 にレベル設定し、B1 以上の運用能力育成を目標とする。（図 1 参照）

図 1 Can-do リスト

CEFR	Listening	Speaking
Grade B1	短い物語も含めて、学校、日常生活で、出会う、ごく身近な事柄について、標準語で明瞭に話された英語なら普通に理解できる。 英語のネイティブ・スピーカーが標準語で話し、発音もはつきりとしていれば、比較的長い講義・議論の要点を理解できる。	1. 自分の関心のあるさまざまな話について、ほどほど流暢さで説明や意見を述べプレゼンテーションができる。 2. 自分のよく知っている話題について、簡単なディベートができ英語のネイティブ・スピーカーの質問にも的確に答えることができる。
Grade A2	ゆっくりはつきりと話してもらえばスポーツや料理などの一連の行動の指示を聞いて理解し、指示通りに行動することができる。 英語のネイティブ・スピーカーがスピードやポーズなどにある程度配慮して話をすれば、おおよその内容を理解することができる。	1. 自己紹介をしたり、時間・日にち・場所について質問したり、事前に準備した身近なトピックについて短い話ができる。 2. 英語のネイティブ・スピーカーと、自分のことやなじみのある話題について、英語で短いやり取りをすることができる。

b. 定期テストと 5 段階評価の算出方法

定期テストは 1 学期期末、2 学期期末、3 学期学年末の年 3 回実施する。テスト内容は担当ネイティブ教員の作成した Listening テストと事前に指定した内容でネイティブ教員にスピーチを行う Speaking テストの 2 つを行う。5 段階評定の算出方法については、テストの配点に授業参加点、課題提出点の 4 つの配点を各 25 点、合計 100 点とする。

c. 評価の観点及び評価の方法

評価の観点及び評価の方法は以下の図の通りで行う。 (図 2 参照)

図 2

	関心・意欲 ・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
観点	英語を話すことによって積極的に相手とコミュニケーションを図ろうとしているか。	場面や目的に応じて必要な情報や自分の考えを英語で相手に伝えようとしているか。	相手が英語で話すことを理解しているか。また自分が伝えたいことを英語で話しているか。	英語を話すために必要な語彙や表現などの言語運用知識を身に着けているか。
方法	・日常の授業態度 ・Speaking テスト	・スピーチ及び発表 ・Speaking テスト	・スピーチ及び発表 ・Speaking テスト ・Listening テスト	・スピーチ及び発表 Speaking テスト Listening テスト

d. 使用教材

仰星コース、特進コースの使用教材は以下のとおり。

SGL 英語 I 【仰星コース・特進コース】

「Listening Platform2」いいいぢな書店

SGL 英語 I 単独での展開のため、教科書は日常会話ベースのものだけでなく、講義スタイルやニュース、ラジオ形式などの幅広い題材を取り扱っている。日常会話だけでなく、様々な場面を想定したリスニング力の向上を図る。授業では、ネイティブ教員から正しい発音、表現、言い回しを学ぶ。

e. 年間学習計画

仰星コース、特進コースの年間学習計画は以下のとおり。 (図 3 参照) 両コースともに教科書に沿っての学習 (ウォームアップ・リスニング・ディクション) に加え、生徒同士での活動の様子の動画撮影を行う。ペアワークの際は録音して見返すなどの時間を取りることによって、反復学習の時間を作り、英語を話すことに対する苦手意識をなくすよう試みた。

図 3 仰星コース年間学習計画

学習単元	学習方法	評価のポイント
1. お使いに行く	会話の中で必要な情報の取捨選択をして、重要情報の把握をする。	重要な情報の把握ができるか。また、うまく伝えられるか。
2. 土曜の計画	日常会話の中で、会話の流れを把握し、なにをするのか理解する。	会話の流れを理解し、予定を把握できるか、そして伝えられるか。

3. 家事の手伝い	さまざまな言い回しをする位置の把握をする。	場所をうまく理解できるか。その言い回しを身に着けているか。
4. どれをかおうか？	物を特定する際の描写を理解し、その物を把握する。	描写を理解し、伝えたいもののを把握する。また、伝える。
5. 言いたいこと、わかった？	会話の中で言い換えをした内容を理解して、会話を把握する。	会話の中でよくある言い換えを理解できるか。そして、その言い換え技法を使えるか。
6. 昨日したこと	長めの会話を聞いて、その話の概要を理解、把握する。	長文を聞き、何をしたのか話の概要を把握できるか。
7. レストランのコマーシャル	たくさんある情報の中で、必要な数字・金額を聞き取る。	細かな数字や金額を把握し、うまく伝えられるか。
8. 何と言って答えよう？	これまでの応用表現を理解し、使用する。	これまでの位置・描写の表現や言い換えの手法を使い、応用表現を使用する。
9. ニュース番組を聞く	実際のニュースを聞き、話の要旨を把握する。	ニュースを聞き、その要旨を理解・把握できるか。そしてそれを伝えられるか。
10. 友人の家への行き方	道を伝える際の言い回しを理解し、道順を把握する。	言い回しを理解し、道順の把握ができるか。また、実際に案内ができるか。
11. デパートにて	店員とお客様の会話を聞き、必要なものを推測する。	必要な情報を聞き出すことができるか。また伝えることはできるか。
12. 図や表を手掛かりに	会話と視覚情報を照らし合わせ、必要な情報を把握する。	耳から入る情報と手元にある視覚情報から必要な情報を把握できるか。
13. ネルソン・ダムについて	講義の内容を聞き、必要な情報をノートに取る。	講義を聞き、重要事項をノートに書きとどくことができるか。内容を把握できるか。
14. 新しい制服	会話のなかで言い換えられている物事を正確に把握する。	テーマについての会話の中で、言い換えられている情報を正確に把握できるか。

15. ホテル選び	与えられた情報の中で必要な情報の取捨選択をする。	与えられた情報の中で必要なものを取捨選択し、答えを導くことができる。
16. ディスカッションに参加	話者の立場を把握し、主張を理解する。	賛成・反対両者の立場を把握し、主張を理解できるか。また、自身もその立場で意見を伝えることができるか。
17. プロジェクトの説明	要望指示を把握し、その指示に従う。	ビジネス会話の中で指示を理解し、実行する。同様に自身も伝えることができるか。
18. 学園祭の準備は順調？	会話の流れでするべきことを推測する。	会話の中で必要な情報を整理し、今後すべきことを推測できるか。そしてそれを伝えられるか。
19. レストランの営業報告	グラフなどの複雑な視覚情報と会話を照らし合わせ、必要な情報を把握する。	会話と複雑な視覚情報を順次に理解し、必要な情報を把握できるか。
20. 美術館の歴史	施設の講義を聞き必要な情報をノートに取る。	説明を聞く中で情報を取捨選択できるか。また、必要な情報をノートに取ることができますか。

f. 定期テストの様子

1学期期末、2学期期末、3学期期末と行った Speaking テストでは、SGL 活動で行った内容と関連付けた内容でスピーチ原稿を作成することによって関連性を意識づけた。原稿内容は提出課題として事前に提示することにより、授業内、または SGL 活動内に原稿案を考えるよう促した。

「SGL 英語 I」では、ネイティブ教員による原稿案の添削、テスト前の発音、言い回しのチェックを徹底することにより、生徒の英語を話すことに対する苦手意識をなくすよう取り組みを進めていった。

また、2学期からは原稿内容に基づいたスライドを作成し、スライドを使用しながらの発表形式での Speaking テストを実施することにより、より実践的なスピーチスキルを英語で行うよう、Speaking 力に加え、プレゼンテーション力の向上を図った。それに加え、内容設定を学期ごとに難しくしていくことによって生徒のチャレンジ精神を磨いた。Speaking テストの様子は以下のとおり。

1 学期 「どのように人を助けたいか」

生徒は SGL 活動にて SDGs について学び、また、アラカルト講座などで、実際に世界で活躍する方々の講義を聞き、様々な社会課題について学んだ。その経験から、自らは何ができるかを想定し、英語でプレゼンテーションを行った。生徒は、今の自分がしていること、すぐにでもしたい事を英語で述べた。視覚イメージを使わないスピーチに多くの生徒は苦労をしている様子がうかがえた。

2 学期 「他国の SDGs 活動について」

2 学期では SGL 活動で学んだ他国の問題や、4か国のオンラインバーチャルツアーや終えて、各国の現状や SDGs に対する取り組みについて学ぶことができた。この経験を踏まえて、生徒が関心のある国ではどのような SDGs に対する取り組みがされているのか、各自が調べ、日本と比較し、どのような点が進んでいるのか、また自国に取り入れたい活動かをスライドや写真にまとめて発表した。1 学期に比べ、スライドや写真を見せることによって、多くの生徒がスムーズにスピーチを行うことができた。



3 学期 「SGL 活動での学びを将来どのように役立てたいか」

最後の振り返りということで、生徒にはこの学びを将来の自分はどのように役立てて行くのかをテーマに発表をしてもらうよう指示した。1 学期の発表と比べると、SGL の学びを将来の夢と絡めて、実現可能な行動目標を立てる生徒が多くいた。そのほかにも、スライドの見やすい工夫や、発表時のアイコンタクト、スピーチの際の間の取り方などを工夫して完成度の高いプレゼンテーションを行う生徒も見受けられた。



(5) 学校設定教科：SGL 語学【SGL 第 2 外国語】

SGL 第 2 外国語では、地元豊明市で急増するベトナム人との交流を促進させるためにベトナム語の学習に取り組む。そして、11 月の全員参加型ベトナム海外研修は、ベトナム語学習の成果を発揮する場としたい。4 月から 9 月までの授業はベトナム語の学習とし、10 月からの授業は英語の学習という複数言語の学習を計画する。ベトナム語学習については、ベトナム語の文字の学習から始め、挨拶や自己紹介などをベトナム語で理解し、表現できるようになることを目標とする。英語学習については、SGDs の理解を深めるために、17 の持続可能な開発目標に関連した英語の長文を読解することで、海外研修や探究学習に関連する内容を展開する。英語学習のレベルは CEFR の A2 (英検準 2 級レベル) から B1 (英検 2 級レベル) に設定し、B1 以上の読解力を身につけることを目標とする。授業担当者は、ベトナム人講師 2 名と外国語(英語)科教員 1 名の 3 名とする。

【SGL 第 2 外国語のシラバス】

教科・科目・単位	教科：SGL 語学	科目：SGL 第 2 外国語	単位：1 単位								
対象学年・コース	学 年：2 学年	コース：仰星コース・特進コース									
必履修・選択	必履修										
学習の到達目標	ベトナム語学習については、ベトナム語の文字の学びから始まり、その後、挨拶や自己紹介などをベトナム語で理解したり、表現したりすることができるようする。英語学習については、SGDs の理解を深めるために、17 の持続可能な開発目標に関連した文章を題材に、CEFR の B1 以上の読解力を身につけることを目標にする。										
テキスト	【ベトナム語】自主制作教材 【英 語】読解力と表現力を高める SDGs 英語長文 三省堂出版										
評価の観点	<table border="1"> <tr> <th>関心・意欲・態度</th> <th>思考・判断</th> <th>技能・表現</th> <th>知識・理解</th> </tr> <tr> <td>〔ベトナム語〕 ベトナム語の基本的な表現を習得しようとしている。 〔英語〕 SDGs に関わる諸問題を知り、理解しようとしている。</td> <td>〔ベトナム語〕 学んだ表現を用いて相手に伝えようとしている。 〔英語〕 課題解決に向けて自分の考えを持とうとしている。</td> <td>〔ベトナム語〕 挨拶や自己紹介などのやりとりが成り立っている。 〔英語〕 SDGs に関する文章について、内容を正しく理解している。</td> <td>〔ベトナム語〕 ベトナム語の文字や基本的な語彙を身につけている。 〔英語〕 英文を理解するために必要な語彙を身につけている。</td> </tr> </table>	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	〔ベトナム語〕 ベトナム語の基本的な表現を習得しようとしている。 〔英語〕 SDGs に関わる諸問題を知り、理解しようとしている。	〔ベトナム語〕 学んだ表現を用いて相手に伝えようとしている。 〔英語〕 課題解決に向けて自分の考えを持とうとしている。	〔ベトナム語〕 挨拶や自己紹介などのやりとりが成り立っている。 〔英語〕 SDGs に関する文章について、内容を正しく理解している。	〔ベトナム語〕 ベトナム語の文字や基本的な語彙を身につけている。 〔英語〕 英文を理解するために必要な語彙を身につけている。		
関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解								
〔ベトナム語〕 ベトナム語の基本的な表現を習得しようとしている。 〔英語〕 SDGs に関わる諸問題を知り、理解しようとしている。	〔ベトナム語〕 学んだ表現を用いて相手に伝えようとしている。 〔英語〕 課題解決に向けて自分の考えを持とうとしている。	〔ベトナム語〕 挨拶や自己紹介などのやりとりが成り立っている。 〔英語〕 SDGs に関する文章について、内容を正しく理解している。	〔ベトナム語〕 ベトナム語の文字や基本的な語彙を身につけている。 〔英語〕 英文を理解するために必要な語彙を身につけている。								
評価の方法	学習状況から、①参加態度 (スピーチングの技能を含む) 、②提出課題、③リスニングのテスト、④ライティングのテストの 4 項目において、A・B・C・D・E の 5 段階で評価する。										
授業担当者	4 月から 9 月まではベトナム語を学ぶため、星城大学のベトナム人留学生 2 名と SGL 開発部の外国語(英語)科教員 1 名が授業を担当する。10 月からは SGL 開発部の外国語(英語)科教員 1 名が授業を担当する。										

ベトナム語の講師は、地域協働コンソーシアムを構成する星城大学の協力により、ベトナム人留学生を派遣していただいた。グエン・ヴァン・ニヤンさん（星城大学経営学部4年）、ドアン・ティ・タム・ガードさん（星城大学経営学部4年）、グエン・ティ・ヌエさん（星城大学経営学部3年）の3名で、ニヤン講師が主にベトナム語の文字と日常会話の学びを担当し、ガード講師とヌエ講師が主にベトナム文化の学びを担当した。

ベトナム語と文化を学ぶ授業の実施に向けて、授業計画の作成を星城大学学修支援課にご協力いただいた。

第1回 SGL 第2外国語 (5月 12, 13日)

最初の授業は、講師の自己紹介とベトナムの国名・国旗・位置・都市などについて学び、生徒たちはクイズに答えながらベトナムに興味を持ち始めた。

第2回 SGL 第2外国語 (5月 26, 27日)

この授業では、ベトナム語の文字の学習がはじまった。ベトナム文化では、民族・紙幣・日本との関係を学ぶことで、ベトナムに対して親近感を持つことにつながった。

第3回 SGL 第2外国語 (6月 2, 3日)



ベトナム文化では国花・衣装・帽子について学び、ベトナムにも伝統文化があって継承されていることがわかった。ベトナム語では、簡単なあいさつの学びが始まった。

第4回 SGL 第2外国語（6月9,10日）



ベトナム語は、文字の学習が順調に進んできている。ベトナム文化では、名所を題材に学ぶことで、生徒たちはベトナムに行ってみたいという気持ちになってきた。

第5回 SGL 第2外国語（6月16,17日）



今回の授業では、ベトナム語の特徴について学んだ。英語とよく似た文字と日本語にはない「声調」による言葉の使い分けの学びは、生徒にとってとても新鮮であった。

第6回 SGL 第2外国語 (6月30日, 7月1日)

ベトナム建国の人は誰でしょうか?



ホーチミンは、1890年にフランスの植民地であるベトナムで生まれた。長い歳月を経たが、終戦でたたかれた後も、革命家として活動を止めず、一人で死んでしまった。

【日本】アフリカの革命家として有名な、一人で死んでしまった。

ソシエテ・ナショナル・ド・ベトナムの元大統領で、歴史家としても有名なホーチミン。

ホーチミンは、ベトナムの革命家として有名で、多くの人々が崇拝されています。

【日本】ソシエテ・ナショナル・ド・ベトナムの元大統領で、歴史家としても有名なホーチミン。

ホーチミンは、ベトナムの元大統領で、歴史家としても有名なホーチミン。

ホーチミン廟はベトナムでどこにありますか?



「ホーチミン廟(びょう)」は、ハノイ市のバーチアン地区にあります。

ホーチミン廟は、1975年に完成しました。建物が永久保存館として建設されました。1年中訪問者の内側の部屋で建物が保護されています。現在、ホーチミン廟はベトナム人によって最も崇拝されています。

ホーチミン廟は、ベトナムの元大統領で、歴史家としても有名なホーチミン。

xin chào (おはようございます。)

・Tôi tên là 私の名前は...

・Tôi đến từ 私は..... から来ました

・Tôi là học sinh 私は学生です

・Cảm ơn ありがとうございます。







ベトナム文化では、ベトナム建国の父と言われるホー・チ・ミン氏がベトナムの人々にどれだけ尊敬されているかを中心に学び、ベトナム語では自己紹介の練習が始まった。

第7回 SGL 第2外国語 (7月7,8日)

日本映画におけるベトナムの食文化



Sở thích của bạn là gì? 「あなたの趣味は何ですか?」

ソホ ティック タカバ パン ジーイー

Phở: フォー [料理]
「ピン」Pin: 電池
「ファー」Pha: 混ぜる

読み方: ポー







ベトナム文化では、有名なベトナム料理のフォーや生春巻きなどについて学び、ベトナム語では、お互いに趣味を質問し、回答するための会話を新たに学んだ。

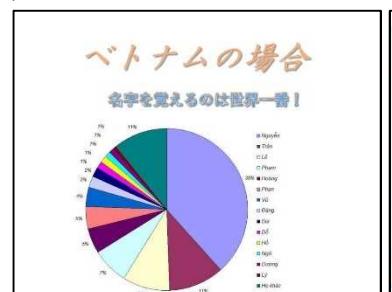
第8回 SGL 第2外国語 (9月8,9日)

日本とベトナム文化の違い!



ベトナムの場合

名前を覚えるのは世界一苦!



難易度	割合
簡単	10%
やや簡単	20%
普通	30%
やや難易	25%
難易	10%
とても難易	5%

BÀNG CHỮ CÁI TIẾNG VIỆT

Chữ cái in thường & chữ cái viet thường





ベトナム語の文字をすべて習い終わり、文字の読み方の総復習をした。ベトナム文化では、日本の文化と比較しながら、文化の違いに焦点を当てて学んだ。

第9回 SGL 第2外国語 (9月15, 16日)

ベトナム文化では、昼寝の習慣や毎日家族と電話することなど、日本にはない文化を学んだ。ベトナム語では挨拶、ご飯の誘い、趣味の応答などの会話の総復習をした。

第10回 SGL 第2外国語 (9月29, 30日)

最後の授業ではベトナム文化の総復習をした。ベトナム語では生徒がペアになって自己紹介を練習し、生徒全員が何も見ずにベトナム語で自己紹介できるようになった。

(6) Think Global 探究【アラカルト講座】

今年度のSGL 地域協創学では、2回の多文化共生アラカルト講座を実施することができた。昨年度同様、海外での研修が新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延により、全く実施できない中、生徒たちにいかにしてグローバルな学びを与え、グローバルな視点を持たせられるかが我々の大きな課題である。

・第1回多文化共生アラカルト講座 R3.5.1

各種資料やインターネットを使って、SDGs の学び、グローバルな学びを生徒たちに提供してはいるが、やはり実際に志を持って海外で活躍された方々の生の声は、そのような経験のない生徒たちにとって、刺激的で好奇心を強く持つ学びの機会となるだろう。

今年度のアラカルト講座も、可能な限り沢山の講座を用意し、人数を教室単位に小分けしての実施である。

用意する講座は全部で10講座。1年生、2年生、3年生の枠、クラスの枠を取っ払って、自分が興味のある講座、聴きたいと思う講座を自ら選ぶ方式を採用した。理由は自分で選ぶという主体性が、生徒たちにとってこの講座がより価値あるものに高められると感じたからである。

まずは講師の先生方の手配ということで、本校海外交流アドバイザー兼地域協働学習実施支援員の古藪真紀子氏にご指導とご助言を賜り、古藪氏のご協力のもと、JICA 中部にもお声かけしていただき、海外での活動経験の豊富な方々10名を集めていただいた。

我々が重視した点は、海外での経験が豊富であることはもちろんのこと、できるだけ年齢が生徒に近い人、熱量を持って熱く生徒に語りかけてくれる人を集めさせていただきたいということである。それは、国際貢献、国際交流に対して熱い思いを持った身近な大人を生徒たちに感じて欲しかったからである。

・第1回多文化共生アラカルト講座の様子（R3.5.1）



生徒たちには事前に10講座を提示し、この中から自分が受講したいものを3つ選ばせ、3年生の第一希望を優先しながら、振り分けを行った。概ね第一希望通りの受講であったが、一部の1年生には第2、第3希望になることがあった。

講師の先生方は実体験に基づく具体的な話を生徒たちに語りかけてくれ、スライドを使って説明し、時にグループディスカッションやグループワークの時間を設けて、生徒たちが飽きないように工夫をしながら講義を進めていただいた。

古藪氏のご尽力のおかげで、若く、熱量を持った講師の先生方を集めることができ、実際に海外で社会貢献活動に身を投じた方々の生きた言葉を聞くことで、生徒たちにとってグローバルな視点を持つことの重要性を知る良い機会になったと感じている。また、自らが選択した講座を受講したことから、受け身の姿勢ではなく、より能動的に話を聴けたのではないかと思われる。それは、講演後も残って講師の先生方に今回のテーマについて質問をしている姿が見られたことからもうかがえる。

さらに数名の生徒ではあるが、実際に将来このような活動がしたい、そのためには今何をすればいいのでしょうか、と言った質問があったとうかがった。まさに、この生きたアラカルト講座を実施した成果だと強く感じている。

令和3年5月1日(土)

令和3年度SGL地域協創学 Think Global探究アラカルト講座 教室配置図(11:05~12:45)

3F

旧書道室	1年3組	1年4組			3年6組	3年5組	3年4組	3年3組	多目的4
	講座⑦ 林先生 加藤大 ペテリック	講座④ 玉置先生 遠藤 第川		男子トイレ		講座⑩ (D) 永石先生 古藪 松尾	(C) 永石先生 古藪 松尾	(B) 永石先生 古藪 松尾	(A) 永石先生 古藪 松尾
			階段						

廊 下

2F

多目的12 机椅子出し 入れ	多目的11	多目的10			多目的9	多目的8	多目的7	多目的6	多目的5 机椅子出し 入れ
	講座② 江口先生 佐藤広 (小野)	講座③ 桥田先生 山本 鈴木和		女子トイレ	講座⑤ 後藤先生 (西川穂) 蟹江	講座⑥ 荒木先生 池尾 羽持	講座⑧ 大島先生 澤田 (伊藤泰)	講座⑨ 佐藤先生 石黒 (加藤与)	
			階段						

廊 下

SGL室 講師控え室 城戸	音楽室
---------------------	-----

5F

【仰星棟】

仰星ホール	
講座①	
内海先生	
新田、ウィレッツ、長江	入口

文部科学省指定グローカル型地域協働推進校 SGL地域協倉小学校 TG(Think Global)探究 第1回多文化共生アラカルト講座

海外で様々な支援活動を経験された講師の先生をお招きし、
地球規模または世界各地の課題について深く学ぶ機会です。

	講師名	職種・職歴	経歴
講座1	内海 悠二	名古屋大学准教授	元国連職員、アフガニスタン・ヨルダン・東ティモールでの活動
講座2	江口 由希子	JICA 中部	JICA 海外協力隊としてトンガで活動
講座3	桝田 由衣	JICA 中部	JICA 海外協力隊としてスリランカで活動
講座4	玉置 美春	名古屋大学博士後期課程	看護師、元 NGO 職員、カンボジアの医療施設で活動
講座5	後藤 千明	JICA 中部	青年海外協力隊(コミュニティー開発)としてエジプト・スダーンで活動
講座6	荒木 美恵子	JICA 中部	ジャマイカ大使館勤務経験
講座7	林 研吾	JICA 中部	SDGs 教育で有名な慶應義塾大学蟹江ゼミ出身 慶應大ラグビー部
講座8	大島 風花	JICA 中部	JICA 海外協力隊としてナミビアで活動
講座9	佐藤 邦子	児童福祉施設職員	元 JICA 専門嘱託(NGO 支援担当)、NGO で東ティモールでの活動
講座10	永石雅史 (オンライン)	名古屋大学教授	元在フィリピン日本大使館書記官 元 JICA 東ティモール所長 名古屋大学工学研究科教授



日 時 令和3年5月1日 (土)

場 所 星城高校 2号館2F/3F/4F各教室、仰星ホール

内 容 10講座の中から希望する講座を受講する

対 象 仰星・特進コース 1/2/3年生

・第2回多文化共生アラカルト講座 R3.9.4

第1回多文化共生アラカルト講座に続き、第2回多文化共生アラカルト講座を実施するに当たって、前回第1希望の講座を受けることができなかった生徒が第1希望の講座を受講できるよう、準備を進めてきた。また、本校海外交流アドバイザー兼地域協働学習実施支援員の古藪真紀子氏のご尽力により、講座の数を前回よりも多く設定することができ、生徒にとってはますます充実したグローバルな学びの機会になるよう期待を込めて準備を進めてきた。

ところが、ここへきて新型コロナウイルス感染症の爆発的な感染者数が報告され、講師の先生方を本校へお招きすること自体が困難な状況に陥ってしまった。もちろん、この講座に対して準備を進めてきたのは生徒や教員だけでなく、講師の先生方も同様である。延期か、形を変えてでの実施か、または中止か、非常に難しい選択を迫られたが、講師の先生方を含めた協議の結果、全ての講座をオンライン形式で行うこととした。この選択肢を快くお引き受けいただいた講師の先生方へは感謝と敬意を示すほか無く、生徒にとって貴重な学びの場を失うことなく実施できたことはこの上ない喜びである。

なお、オンライン形式での実施に当たっては、一方通行的な講座とならないよう、講師の先生方には可能な限り生徒への問い合わせを行って欲しいとの要望を出したのだが、こちら側としても何かできないかと考えた末、一つの可能性を見いだすことができた。それは、本校生徒は全員 iPad を所持していることから、講座の受講生徒全員と講師の先生をチャットルームで結びつけ、講義中のどのようなタイミングでも講座への反応や質疑応答ができる体制を整えたことである。

実際には、急遽な提案であったこと、生徒自身がチャットルームへの書き込みに不慣れなことなどにより、活発なやりとりは行われなかつたが、あらかじめこの環境を構築しておけば、かなり有効な手段になり得る、つまりオンラインならではの環境を活用した相互なやりとりが十分に行える可能性があることを見いだすことができたと感じている。

・チャットルームへのリンクをそれぞれ以下のように準備し案内をした。

アラカルト講座について
必ず自分がどの講座なのか、どこの教室なのかを確認してください。
なお、講義の中で講師の先生とチャットでのやりとりをする場合があります。 講師の先生から指示があったときは、以下の講座別リンクをタップしてチャットルームに入り、「年-組-番 氏名」を入力し、入室してください。（自分の講座を間違えないように注意すること。）
アラカルト講座① 内海 悠二先生 リンク : https://www.seijoh.ed.jp/sgl/Chatroom01/
アラカルト講座② 内海 摩耶先生 リンク : https://www.seijoh.ed.jp/sgl/Chatroom02/
アラカルト講座③ 江口 由希子先生 リンク : https://www.seijoh.ed.jp/sgl/Chatroom03/
アラカルト講座④ 山田 修土先生 リンク : https://www.seijoh.ed.jp/sgl/Chatroom04/
アラカルト講座⑤ 玉置 美春先生 リンク : https://www.seijoh.ed.jp/sgl/Chatroom05/
アラカルト講座⑥ 後藤 千明先生 リンク : https://www.seijoh.ed.jp/sgl/Chatroom06/
アラカルト講座⑦ 荒木 美恵子先生 リンク : https://www.seijoh.ed.jp/sgl/Chatroom07/

・第2回多文化共生アラカルト講座の様子（R3.9.4）



外部講師の方々にオンラインで途上国の開発支援についてのアラカルト形式で講座を行った。講師の方の経験を踏まえ、その国について、その国の人柄について知ることができた。文化や考え方、価値観など日本とは大きく異なる中、講師の方がご苦労されたことや成し遂げたことなど、貴重なお話をうかがうことができた。チャット形式の質疑応答では、こちら側の質問や小さな反応も一つ一つ拾っていただき、とても丁寧に説明をしていただくことができた。

日頃、日本人の集団の中で生活をしていると、海外についてあまり身近に感じることができないが、この講座を受けて興味や関心が深まった人も多くいるのではないだろうか。今日の講座を機に将来の進路選択に、海外に関連する事柄が加わった生徒もいるときいている。

今回実施したアラカルト講座では、想像以上に生徒たちが興味・関心を持って話を聴いていた。コロナ禍の中、海外研修が中止となる中でも、生徒たちはグローバルな事柄に興味・関心を持ち続けていたことを嬉しく思うと共に、次年度以降も新型コロナウイルスの影響で海外研修は厳しい状況であることは予想されることから、いかにグローバルな視点を持った学びを与え続けられるか、その工夫をする必要性を強く感じている。

文部科学省指定グローカル型地域協働推進校

SGL地域協創学 Think Global は探究

第2回多文化共生アラカルト講座

海外で様々な支援活動を経験された講師の先生をお招きし、
地球規模または世界各地の課題について深く学ぶ機会です。

	講師名	職種・職歴	内 容
講座1	内海 悠二	名古屋大学 准教授	元国連職員 アフガニスタン・ヨルダン・東ティモールでの教育開発政策
講座2	内海 摩耶	元JICA専門家	元JICA専門家 南スーダンで活動 スポーツ
講座3	江口 由希子	JICA中部	トンガ王国 スポーツの特性を活かした国際協力・国内での多文化共生
講座4	山田 修土	名古屋大学院 博士前期課程	ドミニカ共和国での農業支援活動
講座5	玉置 美春	名古屋大学院 博士後期課程	看護師 元NGO職員 カンボジアの医療施設で活動
講座6	後藤 千明	JICA中部 なごや地球ひろば	エジプトと出会って人生が変わった！エジプト・スーダン滞在記
講座7	荒木 美恵子	JICA中部	ジャマイカ大使館での勤務経験とグローバル・マインドについて
講座8	林 研吾	JICA中部	SDGs 将来に向けて高校時代に今すべきこと！
講座9	大島 風花	名古屋大学院 博士前期課程	JICA海外協力隊としてナミビアでの小学校教育活動
講座10	佐藤 邦子	児童福祉 施設職員	元JICA専門嘱託（NGO支援担当） NGOで東ティモールでの活動
講座11	永石雅史	名古屋大学 教授	元JICA東ティモール所長 元在フィリピン大使館職員 日本の国際協力
講座12	古藪 真紀子	名古屋大学 学術研究員	元JICAジェンダー・コミュニケーション開発専門家 アフガニスタンでの活動



(7) Act Global 探究【オンライン研修】

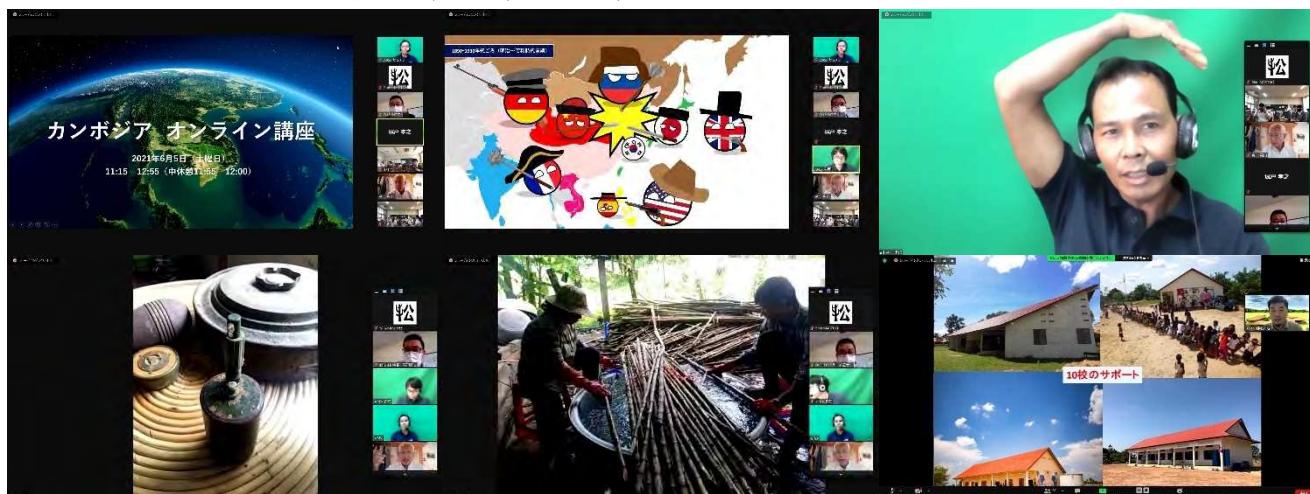
昨年度、11月に実施予定であったベトナム海外研修、12月に実施予定であったマレーシア海外研修が新型コロナウイルス感染症の拡大により中止となった。このことを受け、急遽企画・実施したオンラインツアーであるが、オンラインツアーというものがどのようなものであるのかも分からずの実施であったために、観光ベースの内容の実施にとどまったという反省がある。

そうしたことから、今年度は「オンラインツアー」という名称をやめ、「オンライン研修」と名を変えての計画・実施をすることとなった。その目的は、今年度も同様に中止となったベトナム海外研修とマレーシア海外研修に変わり、Act Global 探究の目的を達成することにある。かつ、「ツアー」から「研修」としたことで、それぞれの学びの趣旨と目的をしっかりと定め、ただ単に各国の観光地を巡るだけにとどまらず、その国々の現状や課題、その解決へのヒントまでをしっかりと伝えてもらい、グローバルな視点を生徒に身に付けさせることにある。

これらのことから、今年度はこのオンライン研修について4回実施の計画を立てた。年度当初想定した国は、カンボジア・ベトナム・パラオ・マレーシアの4か国である。カンボジア・ベトナムに関しては昨年度に引き続き2回目の実施であるが、他にパラオを設定した理由としては、第2学年の研修旅行先である八重島諸島の自然環境とパラオの自然環境とに共通した部分が多数存在しており、また、かつて日本統治時代に沖縄の先住民がパラオに移り渡りパラオの経済発展に大きく寄与した歴史を持つ国であることから、八重島諸島研修旅行の事前学習として最適な国であると感じたからである。また、マレーシアを設定した理由については、一昨年のマレーシア海外研修での学びと成果が著しいものであり、残念ながら今年度もこのマレーシア海外研修が実施できないことから、少しでもこの国の学びの機会を設定したいと言う思いからである。

結果的に、これらのオンライン研修を計画していた国々も、日本と同様、新型コロナウイルス感染症の拡大に見舞われ、国によってはロックダウンになってしまったことにより、オンライン研修の実施ができなくなった。先が見えるなかでの延期であれば、感染拡大が収まるまで待てば良いのだが、日本の状況を見ても先の見通しがつかず、このような中、最良の選択としてオンライン研修ができる国で実施をするという運びとなった。これらの理由により、今年度オンライン研修を実施した国は、カンボジア・シンガポール・パラオ・インドネシアとなった。

・カンボジアオンライン研修の様子（R3.6.5）



カンボジアオンライン研修の主たる狙いは、「内戦経験者の体験談」「地雷撤去活動団体職員の講義」「学校設立支援団体職員の講義」である。生徒たちは事前に、カンボジア地雷撤去の様子をまとめたビデオなどを見ながらカンボジアの基礎知識を学んでいた。しかし、やはり内戦経験者の生の話を聞くと、その想像を遙かに超えた生々しい話に息を呑みながら没頭していた様子が見て取れた。

以下にこのオンライン研修を聴いた生徒の感想文を抜粋する。

現在のカンボジアの学校では内戦についてあまり正しい情報を詳しく教えてはいないと言うことだったので、意外でした。なかなか情報が手に入りにくい状況だからなのか、ただ辛い歴史を伝えにくいだけなのかわからないけど内戦を経験したことのない私たちにとって勉強になりました。

地雷は人を殺すためだと思っていたけど、怪我をさせるための地雷だったり、戦車を壊すための地雷だったり、さまざまな種類があってとても恐ろしい物だと改めて感じました。

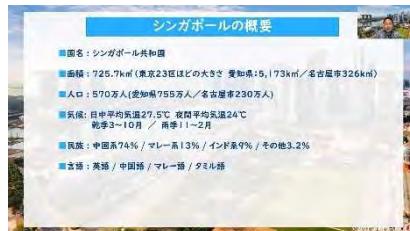
私は、実際の地雷の様子を見られたことが一番の衝撃でした。地雷はもっと大きいものと思っていたけれど、思ったより小さかったのが驚きでした。小さいのに人の命を奪ったり、怪我をさせてしまったりする脅威があるのでとても恐ろしいと感じた。

今日大きく3つのお話を聞いて、今の自分たちがいかに恵まれているかを再認識させられました。講師の方の話を聞いているとかなり昔のことのように聞こえるのに、実際はたったの20年前のことだったりすることに衝撃を受けました。

現在、カンボジアはまだ発展途上国で様々な問題がある状況ですが、何十年も経てばいずれかは先進国として力を持ち、その時には日本は少子高齢化により経済難に陥っているとも考えられます。そのような状況になった時、おそらく日本は他の先進国に助けてもらうことになり、このように考えると世界は助け合いの精神が大切だと気付きました。

今私たちは本当に恵まれた環境にあり、そして教育を受けて世界の問題なども容易に知ることができます。これは当たり前のことのように思えますがとても大きな武器だと思います。そのようなものを使って情報を集めて世界にある様々な問題や現実を知って私たちにできることを小さなことでも実践していきたいと感じました。

・シンガポールオンライン研修の様子（R3.7.3）



当初予定していたベトナムオンライン研修は、ベトナムの新型コロナウイルス感染症蔓延のため、ベトナムがロックダウン（特定地域もしくは建物へ入ったり、そこから出たり、その中を移動したりが自由にできない緊急の状況）となり、実施することができなかった。そのため代替国ではあるが、シンガポールでの研修を実施することになった。

このシンガポールオンライン研修の主たる狙いを、「多文化共生の理解」に定めた。特にテロックアイヤーストリート（複数の宗教が存在する通り）は、おしゃれなカフェやバー・レストランが軒を連ねる若者に大人気の場所であるが、同時に木々や植物などが多数存在し、緑豊かな環境となっている。シンガポールの旅行・観光には欠かせないこの場所には、実は複数の宗教が同じ空間に存在しており、まさに多文化共生の一端を担っている場所でもある。

以下にこのオンライン研修を聴いた生徒の感想文を抜粋する。

講義を受ける前まで、多国籍な国はオーストラリアのイメージが強かったのですが、シンガポールでも、マレーシアや中国など、色々な国籍の方が住んでいるということが分かりました。また、話を聞いて民族の格差や差別などの問題は無いのかと疑問に感じましたが、それらの問題は多くはなく、差別も取り締まっていると聞き、良い国だなと思いました。

1つの国の中にも多文化、多言語、多民族が存在しているため私たちは偏見なくそれらを理解していかなくてはならないと思いました。一方でシンガポールの人々は人種に関わらず生活しており、民族紛争などが起こってないというのは国民に理解があるということだと見受けました。

私は今日の講義を聞いて、初めにシンガポールの人口比率で中華系の人々が7割以上を占めていることに驚きました。また、他にも様々な人種の人々が住む多文化多様化社会であるということに凄く興味が湧きました。英語を共通言語としているのも国民のコミュニケーションやアイデンティティを大切にした考え方から成り立ったものだというのも大統領の国への愛を感じました。

テロックアイヤーストリートのオンライン観光では、様々な文化の建物が建てられていて、より多文化国家であることが知れました。そして、中華系の民族が政治の実権を握っているのにほかの民族にもちゃんと平等に権力が与えられていたり、宗教的な差別が全くなく、それを厳しく取り締まっていることや、文化系統ごとに大統領を順番で変えていたりすることから本当に多文化多様化社会に適した国だと思いました。実際に食事をしている人のインタビューでも文化を気にしながら食事を取っていることから一人一人が文化を大切にして生活していることが伺えて優しい国だと思いました。治安が良いのもとてもいいと思います。コロナがおさまったらいつか観光して様々な文化に触れたいと思いました。

・パラオオンライン研修の様子（R3.11.6）



世界 旅行 パラオ PALAU

近い・美しい・本物の楽園 パラオ

日本から南へ3000km（直行便4時間半）

- ・年間平均気温28℃前後
- ・季節は雨期と乾季（雨期5-10月、乾季11月-4月）
- ・2012年世界遺産登録（38複合遺産）
- ・人口約2万人
- ・比較的治安が良い
- ・政治も安定
- ・時差なし（日本と同時刻）
- ・ビザ不要
- ・通貨はUSドル（\$）
- ・公用語英語・パラオ語（パラオ語になった日本語）
- ・親日国（日本統治時代の影響）



今回のパラオオンライン研修は、第2学年が実施する予定であった八重島諸島研修旅行の事前学習という意味合いも含まれている。先述したように、沖縄とパラオには密接な関係が存在し、また、マングローブをはじめとする自然環境にいくつもの共通点を見いだすことができる。

このような観点で、パラオオンライン研修を企画・実施したのだが、実際は研修旅行の時期になって、沖縄県には新型コロナ感染症拡大に伴い、蔓延防止措置がだされた。その関係で、研修先を急遽宮崎・鹿児島に変更して研修旅行を実施しなければならなくなってしまった。

以下にこのオンライン研修を聴いた生徒の感想文を抜粋する。

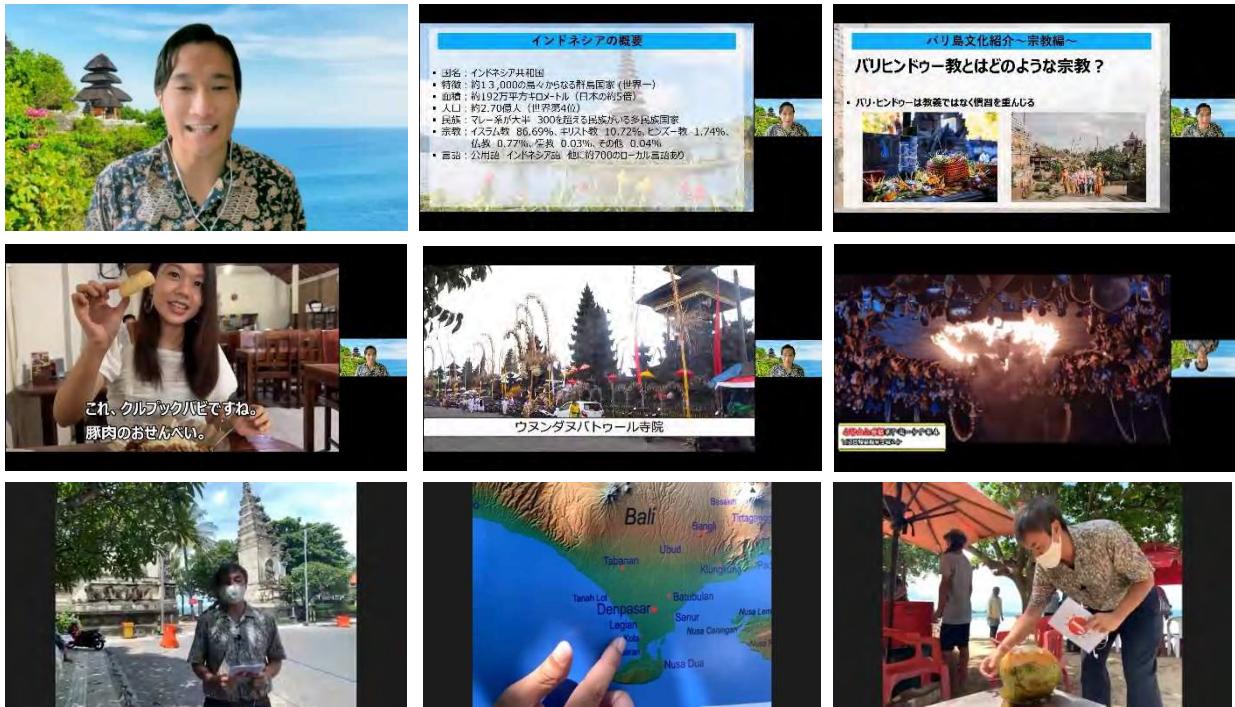
パラオが日本の真下にあることを知れた。国旗の中心の丸が少しずれていることが気になり、調べてみると、日本との関係のことが出てきて、日本と仲が良かったのだと知り、親近感を感じた。

マングローブは中学生の時社会で習い、どのような植物なのか知りたかったので、映像で実際に見られてよかったです。今回話を聞いて、海はとても繊細な生物体でできていると感じた。もっと、身の回りの自然から大切にしたいと思う。イルカの飼育がプールではなく、そのまま海で飼育していることがとても良いと思った。水温によってカメの性別が決まるなどを初めて知り、30度以上だと、メスということなので地球温暖化でメスが多くなってしまうのを防ぐためにも、まずは電気を使いすぎないや、ビニールの削減などと、自分の身の回りからできることをやりたい。美しい自然にいるからこそ、環境教育が大切という話を聞いて、とても納得した。

パラオには様々な種類の動植物が存在している一方、環境問題によってそれらは絶滅の危機に瀕しているということが分かりました。私たちの生態系を守るには環境問題に興味を持って世界のために自分に出来ることをすることが大切だと思いました。また、パラオのような環境問題に対して真剣の向き合う国が増えたらいいなと思いました。

パラオという国の名前は知っていましたが、パラオの海洋問題のことや珊瑚礁のことは知らなかつたのでとても勉強になりました。サンゴが多いと、色々な種類の魚が集まってくれることが出来るが、地球温暖化などによりサンゴが減ってしまうと、絶滅してしまう動物も出てくると知りました。

・インドネシアオンライン研修の様子（R3.12.4）



第4回目となるオンライン研修であるが、やはり当初計画していたマレーシアオンライン研修がマレーシアのロックダウンにより、計画を断念するに至った。この時点で、日本を含むアジア各諸国は新型コロナウイルス感染症の多大な影響を受けていた。この状況の中、多くの制限はあったもののインドネシアオンライン研修を実施できたことは奇跡に近いともいえる。

このインドネシアオンライン研修の主たる狙いを、「宗教と民族文化、伝統料理」に定めた。期待通りの講義を聴くことができたが、今回は「日本人が海外で働くことの意義」も合わせて講義していただくことができた。実際にインドネシアで働く日本人スタッフの経験を踏まえた話は、将来の目標として海外で働くことが視野にある生徒にとって、実に有意義な時間となった。

以下にこのオンライン研修を聴いた生徒の感想文を抜粋する。

バリ島に宗教があることを初めて知ったし、バリヒンデュー教と言うことを初めて聞きました。サカ暦の時にバリ行って外出できなかつたらとても悲しいなと思った。バリ島の調味料の色からしてすごい辛そう、でも料理は美味しいでした！

インドネシアのバリ島にあるお寺は日本のお寺とは全然違うと思いました。日本だと、木製の建物が多いけど、バリ島のお寺はほぼ石で作られていて、伝統的なダンスもあって日本のお寺の厳かな感じとは逆だと思いました。それから、バリ島は観光業で成り立っていると言っていたので、コロナウイルスで大きな打撃を受けたのではないのかなと思いました。

インドネシアの文化や食事などについて知ることができて楽しかったです。

松尾さんの海外や異文化に対する柔軟な考え方やポジティブな姿勢がすごいと思いました。自分が将来海外に行くかは分かりませんが、そのような考え方や姿勢を持てるようになりたいと思いました。

バリ島の食事や観光名所に加え、海外で働くことのハードルとメリットを知ることができたのが良かったです。視野を広く持ち、自分の可能性を信じて頑張りたいなと思えました。

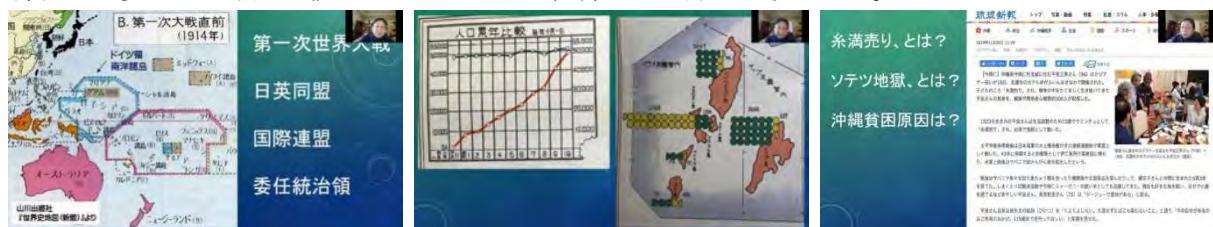
・パラオオンライン講義の様子（R3.6.19）

年度当初予定していた4回のオンライン研修以外にも、本年度はオンラインによる講義を1度実施することができた。オンライン研修とは違い、現地の生の映像や状況を見て学ぶ機会とは異なるが、インド太平洋の海洋安全保障と開発学を専門とする早川理恵子先生（博士）より、パラオと沖縄の貧困、移民、犯罪とSDGsについて学ぶ機会を設けていただくことができた。



最初に、パラオ共和国について、その場所やパラオ語には日本語が多く含まれている所以、日本にもパラオにも存在する借用語などをクイズ形式にして詳しく説明していただいた。

次に、第一次世界大戦前後の日英同盟・国際連盟（現在の国際連合）・委任統治領、移民統治の状況、沖縄から多くの日本人が移民していったその経緯などを詳しく教わった。



途中、特別ゲストの英国王立国際問題研究所研究員のクレオ・パスカル女史とアメリカのマイアミより中継を結び、太平洋の島々の貧困・移民・犯罪などについても伺うことができた。



英国王立国際問題研究所研究員
クレオ・パスカル女史

さらに、「パラオと八重山のSDGs」と題して、大変参考になるお話をしていただいた。特に、「持続可能とは誰にとって持続可能なのか？ 開発とは？ 目標は誰が決めて誰が確認するのか？」という問い合わせに言葉を失う場面もあり、西表島のヤマネコ、石垣島空港問題、魚がいなくなったパラオの海洋保護区について、非常に学びに繋がるお話をもいただくことができた。

(8) 探究成果発表

探究成果の発表内容は、1年生が花溢れる街づくりプロジェクトでの経験を踏まえた「新たな地域協働活動の提言」、2年生は地域協創プロジェクトでの「啓発素材開発の実践報告」である。発表形式については、当初の予定では校舎の2フロアを使い、時間で区切った8ターンのうち、2ターンが発表、6ターンが視聴・評価という相互的な発表活動・評価活動を計画していた。

しかしながら、この探究成果発表会でさえ、コロナ禍においては予定通り実施することができず（クラスを超えた移動や交流を極力避ける必要が出てきた）、その準備を予定していた日さえも、学校全体の臨時休校という状況に陥ってしまった。それでも、この状況下でできることは何か、どうやったら最小で最大の探究成果発表ができるのか、そんなことを模索した結果、最大限できることはクラス内での発表会と、作成したポスターを元にして iPad の画面収録機能を使用し、探究成果発表動画を作成し、学年・クラスを超えて視聴することでの共有であった。

2月5日 探究成果発表会 発表班・審査班割り振り表

会場 2号館3階

場所 時間	学習室1		3年2組		3年1組		階段	3年3組		3年4組		3年5組		3年6組	
	発表	審査班	発表	審査班	発表	審査班		発表	審査班	発表	審査班	発表	審査班	発表	審査班
① 10:00~10:11	2-1A	26E,13C,14E	2-1B	26D,13B,24B	2-1C	26B,12E,24C		2-1D	25F,12C,24D	2-1E	25D,12A	2-3C	25B,11D	2-3B	24F,11B
	2-2A	26F,13D,14G	2-3E	26C,13A,14D	2-3D	26A,12D,14C		2-2E	25E,12B,14B	2-2D	25C,11E,14A	2-2C	25A,11C,13G	2-2B	24E,11A,13F
	2-3A	13E,14F,24A													
② 10:13~10:24	2-1A	26F,13D,14G	2-1B	26C,13A,14D	2-1C	26A,12D,14C		2-1D	25E,12B,14B	2-1E	25C,11E,14A	2-3C	25A,11C,13G	2-3B	24E,11A,13F
	2-2A	13E,14F,24A	2-3E	26D,13B,24B	2-3D	26B,12E,24C		2-2E	25F,12C,24D	2-2D	25D,12A	2-2C	25B,11D	2-2B	24F,11B
	2-3A	26E,13C,14E													
移動・発表準備															
③ 10:30~10:41	2-6F	23D,11A,13E	2-6E	23B,11C,13G	2-6D	22E,11E,14B		2-6C	22C,12B,14C	2-6B	22A,12D,14D	2-5F	21D,13A,14E	2-6A	21B,13C,14F
	2-5A	23C,11B,13F,14G	2-5B	23A,11D,14A	2-5C	22D,24D,12A		2-5D	22B,24C,12C	2-5E	21E,24B,12E	2-4F	21C,24A,13B	2-4E	21A,23E,13D
④ 10:43~10:54	2-6F	23C,11B,13F,14G	2-6E	23A,11D,14A	2-6D	22D,24D,12A		2-6C	22B,24C,12C	2-6B	21E,24B,12E	2-5F	21C,24A,13B	2-6A	21A,23E,13D
	2-5A	23D,11A,13E	2-5B	23B,11C,13G	2-5C	22E,11E,14B		2-5D	22C,12B,14C	2-5E	22A,12D,14D	2-4F	21D,13A,14E	2-4E	21B,13C,14F
休憩															
⑤ 11:20~11:31	1-1D	23D,28D,14A	1-1E	23B,28B,14C	1-2A	22E,25F,14E		1-2B	22C,25D,14G	1-2C	22A,25B,13D	1-2D	21D,24F,13B	1-2E	13G,21B,26F
	2-4A	23C,26C,14B,13F	2-4B	23A,28A,14D	2-4C	22D,25E,14F		2-4D	22B,25C,13E	1-1A	21E,25A,13C	1-1B	21C,24E,13A	1-1C	21A,23E,26E
⑥ 11:33~11:44	1-1D	23C,26C,14B,13F	1-1E	23A,28A,14D	1-2A	22D,25E,14F		1-2B	22B,25C,13E	1-2C	21E,25A,13C	1-2D	21C,24E,13A	1-2E	21A,23E,26E
	2-4A	23D,28D,14A	2-4B	23B,28B,14C	2-4C	22E,25F,14E		2-4D	22C,25D,14G	1-1A	22A,25B,13D	1-1B	21D,24F,13B	1-1C	13G,21B,26F
移動・発表準備															
⑦ 11:50~12:01	1-4A	21A,23E,26B	1-4B	21C,24B,26D	1-4C	21E,24D,26F		1-4D	22B,24F,11B	1-4E	22D,25B,11D	1-4F	23A,25D,12A	1-4G	23C,25F,12C
	1-3G	21B,24A,26C,12E	1-3F	21D,24C,26E	1-3E	22A,24E,11A		1-3D	22C,25A,11C	1-3C	22E,25C,11E	1-3B	23B,25E,12B	1-3A	23D,26A,12D
⑧ 12:03~12:14	1-4A	21B,24C,26C,12E	1-4B	21D,24C,26E	1-4C	22A,24E,11A		1-4D	22C,25A,11C	1-4E	22E,25C,11E	1-4F	23B,25E,12B	1-4G	23D,26A,12D
	1-3G	21A,23E,26B	1-3F	21C,24B,26D	1-3E	21E,24D,26F		1-3D	22B,24F,11B	1-3C	22D,25B,11D	1-3B	23A,25D,12A	1-3A	23C,25F,12C

12:15~12:20 : 各会場の復帰（机椅子を元に戻す）

12:20~12:25 : 自分の教室にて、振り返りとルーブリック評価

12:50 : 解散

上の割り振り表は、当初予定していた形での探究成果発表会のタイムスケジュールである。実際には実施できなかった案であるが、記録としてここに記しておく。

令和4年2月5日、先述したように予定していた形での探究成果発表会は実施できなかったが、各クラスにおいて、クラス内の全班が探究成果発表を実施することができた。発表ポスターをホワイトボードに貼り付けて、ポスターーセッション形式にて発表を行った。各発表後には質疑応答を実施し、お互い発表についての評価も行った。そして、その相互評価によって各クラスの優秀発表を選出した。

どの班も、臨時休校により準備に要する時間が十分とは言えない状況での探究成果発表ではあったが、ここまで1年間を振りかえりながら、設定した地域課題やその理由、解決に至るまでの過程や失敗を乗り越えた時の経験談、取り組みへの難しさや、道筋が開けたときの達成感など、意義のある発表内容であったと感じている。

・発表の様子（写真）



・クラス内発表優秀班（各クラス 1 位）

1年1組 C班 タイトル：楽しくリサイクルを知ろう！

1年2組 E班 タイトル：☆ 世代を超えた communication ☆

1年3組 E班 タイトル：Toyoake With Nature ～ 自慢できるより良い街を目指して ～

1年4組 E班 タイトル：Circle Project

2年1組 C班 タイトル：言語の壁をなくそう!! ～ アプリを使った言語学習 ～

2年2組 A班 タイトル：Creating a place where young can gather and silver generation can enjoy.

2年3組 C班 タイトル：Leads to smiles "SugoroQ"

2年4組 A班 タイトル：日本人と外国人の文化の違い

2年5組 C班 タイトル：私をまもっP！ ～ 新田町・阿野町の安心・安全マップ ～

2年6組 F班 タイトル：コッペパン体操

どの班も甲乙付けがたく、内容も充実しており、また発表の態度も立派であった。自ら設定した地域課題に対する真摯な取り組みを一枚のポスターにまとめあげ、これをもとに発表をするというこの経験は、かれらの高校生活への自信にも繋がり、またこれから的人生に中でも必ずや大きな「糧」になるに違いない。

2年生の探求成果発表タイトル／動画リンク

学年組班	タイトル／リンク
2年1組A班	オリジナルゲームで想い出そう！～向想法による認知症予防～ https://youtu.be/fZZ7drGesfA
2年1組B班	高齢者引きこもり問題～家から出よう！豊明市 Go To Travel～ https://youtu.be/5QJzCQwwBo
2年1組C班	言語の壁をなくそう！～アプリを使った言語学習～ https://youtu.be/WXDwwRxt6lc
2年1組D班	多様な個性を認め合う社会にするために～心のバリアフリーを目指して～ https://youtu.be/tQdzuzhnaoQ
2年1組E班	高齢者とeスポーツ https://youtu.be/iJ3QOwl2SLs
2年2組A班	Creating a place where young can gather and silver generation can enjoy. https://youtu.be/xxm1JKWNpXA
2年2組B班	異文化交流を目的としたパンフレット製作過程 https://youtu.be/MHrTuQAuKQg
2年2組C班	豊明市議会と中高生の関わりを増やすために https://youtu.be/u7MX872Wc1s
2年2組D班	外国籍市民文化の取り入れ https://youtu.be/rIN3sPireno
2年2組E班	豊明の未来のために～親世代次の世代へ～ https://youtu.be/ovzsNGK5VDc
2年3組A班	桶狭間戦後から生まれた菓子は日本一じゃ！ https://youtu.be/UFzEJ3hZAg
2年3組B班	ペトナムの食文化に触れよう https://youtu.be/xaVarsIJKRQ
2年3組C班	Leads to smiles "SugoroQ" https://youtu.be/Okqnv1ztJA
2年3組D班	シニア世代 With Smartphone https://youtu.be/OTklkWkSKz0
2年3組E班	Preventing dementia with us!? https://youtu.be/e5XaQLUMF18
2年4組A班	日本人と外国人の文化の違い https://youtu.be/trVvLTrhGDA
2年4組B班	私達を使いたい！！ https://youtu.be/TqC79dgkFhw
2年4組C班	Learn Japanese, know Toyooka city https://youtu.be/EG1DVdX1A4w
2年4組D班	認知症予防のすすめ https://youtu.be/R1Q10nam0DQ
2年4組E班	高齢者じゅけえ野菜作らないもんか～家庭農園で健康に～ https://youtu.be/8NCIBZD4JLyo
2年4組F班	歩こう歩こう私は元気～歩いて健康を掴み取ろう～ https://youtu.be/Li9-8z4trK7E
2年5組A班	坂道に負けない豊明市民 https://youtu.be/qj1XdlLfu58
2年5組B班	ひきこもりグッバイ宣言～豊明市民との交流を目指して～ https://youtu.be/e4vxhOmp19c
2年5組C班	私をまもつブ！～新川町・阿野町の安心・安全マップ～ https://youtu.be/bGIBP17mt7k
2年5組D班	夜も平和なまわづり https://youtu.be/tG5fAc7J6Xw
2年5組E班	EXCHANGE OF FOOD CULTURE https://youtu.be/b8I-8XbdR0o
2年5組F班	『坂道健康プロジェクト』 https://youtu.be/T-ddJMSiaug
2年6組A班	地域の輪を広げるために～笑つかほんふれっと～ https://youtu.be/4vAxMDCRT3U
2年6組B班	認知質を防ぐ手紙交換 https://youtu.be/I-jIyWhGf
2年6組C班	命を守ろう！～みんなを救うハサードマップ～ https://youtu.be/k16AaSAGxWc
2年6組D班	外国人とゴミ出し問題～日本と外国のギャップ～ https://youtu.be/Civ9BCXds7Qk
2年6組E班	身近な野菜を使った外国人向けのヘルシーレシピ https://youtu.be/LfFeUX2NY0
2年6組F班	コッペパン体操 https://youtu.be/zWJcORTG5I

1年生の探求成果発表タイトル／動画リンク

学年組班	タイトル／リンク
1年1組A班	安心できる街づくり https://youtu.be/G63llrQDGRI
1年1組B班	言語の壁を無くそう https://youtu.be/SSqOnAtBTdY
1年1組C班	楽しくリサイクルを知ろう！ https://youtu.be/soi_mG8DSrQ
1年1組D班	ごみ分別プロジェクト https://youtu.be/CJf8t6EjGrI
1年1組E班	私たちと外国人住民の壁 https://youtu.be/aiDEx8xm8IM
1年2組A班	LET'S SORT! ~ 外国人のゴミ捨てのルール ~ https://youtu.be/B3ScII1rShqo
1年2組B班	～おじいちゃん おばあちゃん教えて昔の遊び～ いつまでも元気でいてね！ https://youtu.be/C9UuDVyflE8
1年2組C班	縦と横とのつながりを～人と人との交流を増やすために～ https://youtu.be/ceK-D2wjQw
1年2組D班	～世代を超えて～ https://youtu.be/TMim0UBmNzI
1年2組E班	☆世代を超えたcommunication ☆ https://youtu.be/3AVzI4rRZYo
1年3組A班	共存できる社会へ https://youtu.be/VP-iQxjezNM
1年3組B班	～共に彩る地域を～ https://youtu.be/wLS2GeMY7Yk
1年3組C班	～時代を駆け巡るひとり暮らしの高齢者たち～ https://youtu.be/Q6wgj3ZiAjI
1年3組D班	Win Win PROJECT https://youtu.be/o_lCrQCajrl
1年3組E班	Toyoake With Nature ~ 自慢できるより良い街を目指して～ https://youtu.be/ENPGy90M7So
1年3組F班	地域一帯への道 https://youtu.be/gLj-_gkMxRA
1年3組G班	A new breeze for the community ~ SDGsと共に地域課題を解決しよう～ https://youtu.be/ApBYIlgQO4w
1年4組A班	豊明市をきれいな町に ★・・ Let's TOYOAKE city be clean! ・・★ https://youtu.be/Dv3X8NrZZ_A
1年4組B班	～多文化共生～ https://youtu.be/r2rhAch8qwo
1年4組C班	豊明市を知ってもらおう https://youtu.be/LXiYIpyCaPfg
1年4組D班	～地域の高齢者を助けて仲良くなろう～ https://youtu.be/lFwfLJndlkE
1年4組E班	Circle Project https://youtu.be/onum5Qlun-A
1年4組F班	花あふれる街づくりプロジェクト～ 地域の方と花植え～ https://youtu.be/VLI5kahFLho
1年4組G班	街づくり with smile https://youtu.be/PsDqjAwvpVw

昨年度に引き続き、本校が中心となり文部科学省共催にて全国高等学校グローカル探究オンライン発表会（Glocal High School Meetings 2022）を今年度も実施することができた。

この大会に、日本語発表部門として2年5組C班、英語発表部門として2年1組C班が、学校代表として出場した。

Glocal High School Meetings 2022

参加者の活動による高校生の教育再生を進める会議 グローカル

内閣官房 企画調整室のGlocal High School Meetings 2022

日 時：2022年1月24日(土) 10:00～12:00

公式ホームページURL: <https://www.seijoh.ed.jp/glocalhsms/>

日本語発表部門出場班：特進コース2年5組C班

発表タイトル： 私をまもっぷ！～新田町・阿野町・安心安全マップ～

英語発表部門出場班：仰星コース2年1組C班

発表タイトル：Creating a "PLACE" where elderly people can gather which is also comfortable for young people ~ Proposal of [Machikado Terrace] ~

結果は、日本語発表部門の特進コース2年6組C班が銅賞、英語発表部門の仰星コース2年1組C班は銀賞を受賞した。

4. Glocal High School Meetings 2022 全国高等学校グローカル探究オンライン発表会の開催

新型コロナウィルス感染症のまん延に伴い、生徒たちが探究成果を発表する場が失われてしまった。特に、全国の高校生が集い、お互いの探究成果を発表する場が無くなることは、生徒たちが目標の一つを失い、他校の発表から刺激をもらう機会を失うことになる。この状況を開拓するために、自分たちの手で新たな探究成果発表会をつくろうと決心した。全国のほとんどの高校がオンライン会議用のアプリを活用している状況から、Zoomを活用した新たなオンライン発表会を企画すれば、コロナ禍であっても全国から多くの学校が参加できるのではないかと考えた。

新たな探究成果発表会の立ち上げとなった昨年度の「Glocal High School Meetings 2021 全国高等学校グローカル探究オンライン発表会」は、文部科学省初等中等教育局高校改革事業担当の方々と大会審査員長の松本茂先生、九里学園高等学校の鈴木精先生、昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校の勝間田秀紀先生、和歌山信愛中学校・高等学校の大村寛之先生の協力を得て、文部科学省共催によるオンライン大会を開催することができた。大会には全国のグローカル型地域協働推進校・事業特例校・アソシエイト校の中から34校が参加した。

今年度は第2回大会となる「Glocal High School Meetings 2022 全国高等学校グローカル探究オンライン発表会」を開催した。前年度と同様に、文部科学省初等中等教育局高校改革事業担当の方々から支援を受け、前述した3校の先生方には大会委員の役割を担っていただいた。また、一般社団法人 Glocal Academy の理事長で物理学博士の岡本尚也氏を大会審査員長にお迎えし、発表内容の審査と参加生徒への講話を通じて大会運営にご協力いただいた。大会には全国のグローカル型地域協働推進校・事業特例校・アソシエイト校の中から30校が参加した。

大会要項の作成や大会HPの作成、参加校への連絡、大会運営委員会の開催、Zoomの接続テスト、当日の大会運営、表彰状の作成、大会報告書の作成など、関係する業務はかなり多かったが、全国のグローカル型地域協働推進校・事業特例校・アソシエイト校の生徒が一堂に会して、お互いの探究成果を発表し合い、学び合う機会をつくれたことは、時間をかけて準備するだけの意義や価値があったと思える。本校生徒だけでなく、グローカル探究に取り組む同じ仲間である全国の高校生にとって、有意義な学びの場をつくれたことは、本校のカリキュラム研究開発の基盤となる「共生・協働・協創」というキーワードに合致するものと言える。

本大会の開催にあたり、多くの皆さまから大きなお力添えをいただいたことに、心から感謝の気持ちを伝えたい。また、本校のカリキュラム研究開発の指定期間が今年度で終了することから、来年度の大会開催については慎重に検討していきたい。

以下は、Glocal High School Meetings 2022 全国高等学校グローカル探究オンライン発表会の大会報告書の内容である。



地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローカル型

Glocal High School Meetings 2022

2022年全国高等学校グローカル探究オンライン発表会

大会報告書

主催

文部科学省指定グローカル型地域協働推進校
探究成果発表委員会

共催

文部科学省

幹事校 星城中学校・高等学校

協力校 九里学園高等学校

昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校
和歌山信愛中学校・高等学校

地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローカル型

Glocal High School Meetings 2022

2022年全国高等学校グローカル探究オンライン発表会

*Think Globally,
Act Locally !!*

2022年

1/29
(土)

主催: 文部科学省指定グローカル型
地域協働推進校探究成果発表委員会

共催: 文部科学省

- 参加校
文部科学省指定グローカル型
地域協働推進校
事業特例校
アソシエイト校

- 参加申込
学校エントリー 10月15日締切

- 発表動画視聴・投票
2022年1月11日～18日

- オンライン発表会
2022年1月29日(土)

- 発表部門
【日本語発表部門】
【英語発表部門】

- 問合せ先
名古屋石田学園星城中学校・高等学校
SGL開発部 城戸 孝之
Tel 0562-97-3111 (代)
〒470-1161 愛知県豊明市栄町新左山20

幹事校: 名古屋石田学園星城中学校・高等学校

協力校: 九里学園高等学校

昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校

和歌山信愛中学校・高等学校

目 次

大会関係者メッセージ	・・・ 1
大会要項	・・・ 3
大会参加校一覧	・・・ 5
日本語発表部門	・・・ 9
【 A グループ 】	
【 B グループ 】	
【 C グループ 】	
【 D グループ 】	
英語発表部門	・・・ 13
【 A グループ 】	
【 B グループ 】	
【 C グループ 】	
【 D グループ 】	
日本語発表部門審査結果	・・・ 17
英語発表部門審査結果	・・・ 19
オンライン発表会の様子	・・・ 21
司会担当生徒の紹介	・・・ 23

文部科学省

文部科学省初等中等教育局
参事官（高等学校担当）

田中 義恭



「グローバルな視点をもって地域課題の解決に挑む」

2022年全国高等学校グローバル探究オンライン発表会の開催について、共催者の文部科学省として、星城高等学校をはじめとした大会関係者のご尽力に心より感謝を申し上げます。今回の発表会のように、自分たちの取組を発表するだけでなく、他校の取組を知り、情報交換することは、自分たちの学びを振り返るうえでも重要な機会です。改めまして、本発表会に参加された全ての学校の生徒及び教職員、そして各地域のコンソーシアムの関係者の皆さん、大変お疲れ様でした。

さて、グローバル化が進む社会における国内外の諸課題は、予測困難なものとなってきており、かつ地球規模で複雑につながっています。このため、遠い海外の問題も実は身近な地域の課題と関係していることに気づき、「自分事」として捉えていく視点が必要です。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大という危機的事態に代表されるように、世の中の課題には、テストの解答のような「定められた正解」はありません。こうした課題に立ち向かうには、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を導いていくことが求められます。

本発表会に参加した高校生の皆さん、探究活動を通じて、このような力を育む学びに既に取り組んでいます。探究により、興味・関心が広がり、将来の目標や目指すべき進路が見えてきた人も多かったのではないでしょうか。一方で、全てが順調に進んだ訳ではなく、様々な困難に直面し、思いどおりにできなかったこともあることでしょう。皆さんのがこうした経験も力としながら、グローバルな視点をもって地域をよく知り、様々な地域の社会課題を自分事として捉え、多様な他者と協働し、コミュニティを支える人材として活躍することを、心より期待しています。

文部科学省としては、皆さんのが取り組んでいるような探究活動が、日本の高校生にとって当たり前の学びとなるよう、高等学校教育改革を進めてまいります。

全国高等学校グローバル探究オンライン発表会

大会委員長

星城中学校・高等学校 校長



大会委員長

石田 泰城

「生徒交流の新たなかたち」

コロナ禍において、生徒たちは海外研修へ行けなくなり、地域との協働によるさまざまな活動も制限される状態が続いています。できなくなったことは数多くありますが、一方で新たに生み出されたものもあります。本大会はまさに、生徒交流の新たなかたちを創ろうという思いを具現化したもので。できない理由を並べるのは簡単ですが、それよりも、何ができるかを探し求める気持ちが大切であり、グローバルな視点を持って地域課題の解決を考える高校生にも、そのような気持ちをもって探究的な学びに取り組んでほしいと思います。

また、新たなかたちを創ろうとする際には、周りの人々の協力を得ることが必要となります。本大会では、参事官の田中義恭様を始め文部科学省初等中等教育局の皆さんにはさまざまご配慮をいただきました。心よりお礼申し上げます。審査員長の岡本尚也様には事前に講話動画をご提供いただき、大会当日には鋭い視点で探究発表への講評をいただき、誠にありがとうございました。そして、協力校として大会運営にご尽力いただいた大会委員の先生方のご厚意に感謝いたします。大会に参加した生徒のみなさんや教員の皆さんを含め、多くの人々の力を合わせて協働した結果がオンライン発表会という生徒交流の新たなかたちにつながったのではないかと思います。

このような発表の場に多くの仲間が集い、お互いの探究成果を通して交流する機会になったことを嬉しく思うのと同時に、感謝の気持ちでいっぱいです。生徒のみなさんも、今後の各校における地域との協働による学びにおいて、関わる人々へ感謝の気持ちを忘れず、多様性を尊重しながら、決まった正解が存在しない探究的な学びに果敢に挑戦し、課題解決に向けてこれまでなかった新たな価値を創造していくことを心より期待しています。

大会審査員長

一般社団法人 Glocal Academy
理事長・物理学博士

岡本 尚也



「探究は始まったばかり。一步踏み出そう」

高校生のような若い世代にとって、地域を越えて異なる価値観に触れる場はこの上ない学びの場になる。日常の中では見いだせない生き方や気づかない視点、異なる進路に対する考え方、これらの中から新たな自己の生き方を見出し、自己実現に向けて歩んでいく。そういう意味で、全国の高校生が日頃取り組んだ探究活動の成果を持ち合い発表する「Glocal High School Meetings 2022」がコロナ禍の中でも開催された意義は大変大きい。主導的な役割を行った名古屋石田学園星城高等学校の教員の皆様、生徒の皆様、また運営に関わられた全ての皆様、そして探究的な学びを日々実践されている学校現場の教員の皆様、生徒の皆様に心より敬意を表したい。

全国の高等学校にて探究活動が行われているが、その理由・意義の一つに以前に比べ、社会の変化のスピードが速くなったこと、複雑化したことが挙げられる。このような中で自己実現を達成していくためには「こうすれば良い」というような求め他者から与えられた進路、選択ではなく、それらを参考にしながらも自らが今何を行うべきか（課題）を考え、情報を正しく集めながら、判断、実行していく力が必要になる。これは探究だけではなく、毎日の教科の学習、部活動や習い事、様々な場面においても経験する機会があるが、探究活動が最もその力が養成される実践の場となる。内の世界である自己と外の世界である社会と学術と向き合いながら、テーマを定め、問い合わせを立てながら発展させ、調査・実験を行って正しく情報を集め、結果を分析、考察を行なながらまとめていく。この一つ一つのプロセスに意味があり、必要な力の養成につながる。今回、探究という視点でいうとそのプロセスはまだ発展途上のものであるが、高校生にとって探究は始まったばかりである。一步踏み出すことで見えてくる世界が変わってくることは、取り組みの中で体験していると思う。これから誰も歩んでいない一步を踏み出し、自分自身の人生をより豊かにし、社会や学術をより豊かに面白くしていってくれることを心より祈願している。

全国高等学校グローカル探究オンライン発表会

大会委員

大 会 委 員

星城中学校・高等学校 城戸 孝之

各校の探究発表を拝見しながら、改めて生徒たちの多様なアイディアや取組内容に感心しました。コロナ禍で思うように活動ができない中、発表としてまとめるまでは、生徒たちの多くの努力があったと想像します。そのような努力は、生徒たちが「地域社会の課題を自分事として捉えること」につながったと思います。また、課題解決に向けた地域での実践や活動を通して、生徒たちに「地域社会の課題を解決する実践者」としての自覚が芽生えたのではないかと思います。このことは、グローカル人材育成という地域協働推進校の目標に沿ったものであり、各校における研究開発の成果と言えるのではないでしょうか。本大会にご協力いただいたすべての方々に感謝するとともに、今後さらに、各校の生徒同士による探究成果の共有や学び合いが加速していくことを心より期待しています。



大会委員

九里学園高等学校

鈴木 精

大会委員

昭和女子大学附属昭和高等学校

勝間田 秀紀

大会委員

和歌山信愛高等学校

大村 寛之

大会委員

星城高等学校

松尾 慎

Glocal High School Meetings 2022

【 2022 年全国高等学校グローカル探究オンライン発表会 】

- 目 的：** グローカル型地域協働推進校の生徒が日頃取り組んでいる「グローバルな視点をもって地域課題の解決に挑む提言や実践」を日本語や英語で発表・共有する場を設け、ふだん直接交流する機会が少ない全国の高校生が一堂に会して新たな気付きを得たり、ネットワークを構築したりして、今後のグローカル探究の深化や意欲の向上を図る。
- 日 時：** 令和 4 年 1 月 29 日(土)10:00~12:00 (オンライン発表会)
- 主 催：** 文部科学省指定グローカル型地域協働推進校探究成果発表委員会
- 共 催：** 文部科学省
- 幹 事 校：** 名古屋石田学園星城中学校・高等学校
- 協 力 校：** 九里学園高等学校 昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校 和歌山信愛中学校・高等学校
- 参 加 校：** 地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローカル型の指定校・事業特例校・アソシエイト校で参加を希望する学校 (対象 37 校、参加自由)
- エントリー：** (1) 日本語発表部門と英語発表部門にそれぞれ 1 チームのエントリー (片方のみのエントリー可)
(2) 1 チームの人数は 6 名以内 (複数の生徒によるチーム構成が望ましい。)
- 表 彰：** (1) 日本語発表部門 金賞・銀賞・銅賞
(2) 英語発表部門 金賞・銀賞・銅賞
* 金賞校は各部門 5 校となります。(文部科学省初等中等教育局長賞・大会委員長特別賞・審査員長特別賞・探究成果発表委員会特別賞・生徒間投票特別賞)
* 審査結果は大会ホームページ上で公表し、賞状は各校へ郵送します。
- 審 査：** 審査員長 一般社団法人 Glocal Academy 理事長・物理学博士 岡本 尚也
地域との協働による高等学校教育改革推進事業企画評価会議委員
審査員 文部科学省及び参加校教職員 (各校 2 名)
審査方法 審査員及び参加生徒による投票
- 大 会 HP：** 大会ホームページ <https://www.seijoh.ed.jp/glocalhsm/>
発表動画の視聴や投票などのページは ID とパスワードの入力が必要となります。
ID とパスワードは各校の参加生徒及び管理機関、地域協働コンソーシアム関係者に各校の判断でご案内ください。ただし、ID とパスワードの管理にはご配慮いただくようご案内ください。
- 参 加 申 込：** (1) 学校エントリー 令和 3 年 10 月 1 日 (金) ~ 10 月 15 日 (金)
大会ホームページからエントリーしてください。
- (2) 出場生徒エントリー 令和 3 年 11 月 15 日 (月) ~ 11 月 29 日 (月)
大会ホームページからエントリーしてください。その際、以下の内容が必要となります。
①出場生徒全員の氏名 (漢字とローマ字の両方)
②発表タイトル (文字数の指定はありません)
③発表概要 (日本語部門は 400 文字以内、英語部門は 200 words 程度)
④各部門の出場生徒集合写真 (横置き) の JPEG 画像データ
⑤発表動画公開に関わる肖像権及び個人情報使用承諾書の PDF データ
(大会ホームページから印刷して署名後にスキャンし、PDF データでご提出ください。生徒一人につき 1 枚作成していただき、原本は各校にて保管してください。)
* ①~④は大会ホームページ上で限定公開します。配慮を要する場合はご連絡ください。

- 日程と内容 :
- (1) 発表動画提出 令和3年12月20日(月)～令和4年1月7日(金)
 - ①動画ファイルはMP4のHD1280×720またはFHD1920×1080にしてください。
 - ②発表動画はZoomを使用してレコーディングします。また、スライド資料はパワーポイント等で作成します。Zoomでミーティングを開催してスライド資料を画面共有し、参加生徒人數分の端末がある場合は全員がミーティングに参加し、端末が1台の場合は発表する生徒が順番に入れ替わっていくかたちでレコーディングします。発表時間は10分以内です。
 - *サンプル発表動画を大会ホームページ上に掲載します。レコーディングする際の参考にしてください。また、昨年度の大会HPや大会報告書も参考にしてください。
 - (2) 動画視聴・投票 令和4年1月8日(土)～15日(土)
 - ①大会ホームページからYouTubeで発表動画視聴と投票をします。
 - ②投票は大会ホームページ上から、各校の研究開発担当教員2名と参加生徒全員(各部門最大6名)が投票します。
 - ③管理機関及び地域協働コンソーシアム関係者は、参加校から案内されたIDとパスワードを用いて、発表動画を視聴することができます。
 - ④参加校をA～Dの最大4グループに分け、各グループ内での発表動画視聴及びコメント投稿、審査・投票となります。(発表動画は全参加校のものを視聴することができます。)
 - (3) 審査結果発表・自校取組紹介用スライド提出 令和4年1月21日(金)
 - ①審査結果は大会ホームページ上で発表します。
 - ②各部門の金賞受賞校は1月29日にそれぞれオンライン発表をお願いします。
 - ③審査員長の岡本尚也様(一般社団法人Glocal Academy理事長)による講話動画を掲載しますので、今後の活動に向けた学びの機会としてご活用ください。
 - ④1月29日に行うオンライン発表会で用いる自校取組紹介スライド1枚をご提出ください。大会ホームページから指定ファイルをダウンロードし、パワーポイントでスライドを作成してください。(オンライン発表会当日の発表時間は各校1分以内です。)
 - (4) オンライン発表会 令和4年1月29日(土)
 - Zoomを使用してオンライン発表会を実施します。
 - 10:00 開会・大会委員長挨拶
 - 10:05 文部科学省挨拶
 - 10:10 ブレイクアウト①自校取組紹介【参加校による1分間紹介リレー(日本語)】
 - 10:25 ブレイクアウト②日本語部門金賞校発表【各グループでの発表&質疑応答】
 - 10:50 ブレイクアウト③英語部門金賞校発表【各グループでの発表&質疑応答】
 - 11:15 文部科学省初等中等教育局長賞(日本語発表部門・英語発表部門)の発表
 - 11:45 審査員長総評
 - 12:00 閉会
- 問合せ先 :
- 名古屋石田学園星城高等学校 SGL開発部主任 城戸 孝之 Tel: 0562-97-3111(代)
E-mail: kido.takayuki@seijoh.jp 〒470-1161 愛知県豊明市栄町新左山20
- 大会委員 :
- | | | |
|-------|--------------------|------------|
| 大会委員長 | 星城中学校・高等学校長 | 石田 泰城 |
| 大会委員 | 九里学園高等学校 | 鈴木 精 |
| | 昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校 | 勝間田 秀紀 |
| | 和歌山信愛中学校・高等学校 | 大村 寛之 |
| | 星城中学校・高等学校 | 城戸 孝之 松尾 慎 |
- その他の :
- (1) 大会要項や大会結果は大会ホームページ上に掲載します。
 - (2) 参加校はオンライン発表会当日までにZoom接続テストを行います。(実施日は後日案内)
 - (3) 参加校数によって発表会の実施内容を変更させていただく場合があります。
 - (4) 大会ホームページ上に参加校情報として、各校の研究構想テーマ・学校の電話番号・海外研修実施国名・学校HPリンク等の一覧を掲載します。
 - (5) 大会実施後に報告冊子を作成し、参加校へ配布します。

大会参加校一覧 (No.1~9)

No.1	東ブロック	北海道	北海道登別明日中等教育学校	地域協働推進校	元年度指定
海外研修先：オーストラリア、タイ他	学校HP： http://www.akebi.hokkaido-c.ed.jp			日本語発表： <input type="radio"/>	
研究開発構想名： AKB Future Project 2nd Stage ～北海道と世界の明日を創る					
No.2	東ブロック	山形県	九里学園高等学校	地域協働推進校	元年度指定
海外研修先：米国、フィリピン他	学校HP： https://kunori-h.ed.jp			日本語発表： <input type="radio"/>	
研究開発構想名： 世界に誇れる持続可能な置賜を創造する人材の育成					
No.3	東ブロック	山形県	山形県立山形東高等学校	地域協働推進校	元年度指定
海外研修先：シンガポール他	学校HP： http://www.yamagatahigashi-h.ed.jp			日本語発表： <input type="radio"/>	
研究開発構想名： ふるさとやまがたの課題に立ち向かうグローカルリーダーの育成					
No.4	東ブロック	福島県	福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校	地域協働推進校	2年度指定
海外研修先：ドイツ、アメリカ他	学校HP： https://futabamiraigakuen-h.fcs.ed.jp			日本語発表： <input type="radio"/>	
研究開発構想名： 原子力災害からの復興を果たし、新たな地域社会を創造するグローバルリーダー育成					
No.5	東ブロック	東京都	昭和女子大学附属昭和高等学校	地域協働推進校	元年度指定
海外研修先：フィンランド、カンボジア他	学校HP： https://jhs.swu.ac.jp			日本語発表： <input type="radio"/>	
研究開発構想名： 都市型社会課題への発信力を育成するクロスサービスラーニングプログラム					
No.6	中ブロック	新潟県	新潟市立高志中等教育学校	アソシエイト校	2年度指定
海外研修先：シンガポール他	学校HP： http://www.kohshichuto.city-niigata.ed.jp			日本語発表： <input type="radio"/>	
研究開発構想名： SDGs・にいがた未来ビジョンの実現を通して、よりよい未来、世界の変革を志す生徒を育てる					
No.7	中ブロック	福井県	福井県立丸岡高等学校	地域協働推進校	元年度指定
海外研修先：台湾、タイ他	学校HP： http://maruoka-h.sakura.ne.jp			日本語発表： <input type="radio"/>	
研究開発構想名： 持続可能なふるさとの豊かな營みを創出するグローカル人材の育成					
No.8	中ブロック	福井県	福井県立武生東高等学校	アソシエイト校	2年度指定
海外研修先：シンガポール、アメリカ他	学校HP： https://www.takefuhibashi-h.jp			日本語発表： <input type="radio"/>	
研究開発構想名： 主体的に、地域活性化に向けてグローバルな視点で考え方抜き行動する人材の育成 ～多文化共生によるわが町えちぜんの発展を目指して～					
No.9	中ブロック	山梨県	山梨県立甲府第一高等学校	地域協働推進校	2年度指定
海外研修先：フィリピン・セブ島他	学校HP： http://www.first.kai.ed.jp			日本語発表： <input type="radio"/>	
研究開発構想名： 「やまなし創世」に資するグローカルリーダーの育成 DOOR-扉を開いて-					
5					

大会参加校一覧 (No.10~18)

No.10	中プロック	岐阜県	岐阜県立斐太高等学校	アソシエイト校	元年度指定
海外研修先：アメリカ他		学校HP： https://school.gifu-net.ed.jp/wordpress/hida-hs		日本語発表： ○	
研究開発構想名： 斐高生が結ぶ地域と世界！～地域で考え世界とつながる、地域振興プロジェクト！～		英語発表： 一			
No.11	中プロック	静岡県	静岡県立榛原高等学校	地域協働推進校	元年度指定
海外研修先：台湾、シンガポール他		学校HP： http://www.edu.pref.shizuoka.jp/haibara-h/home.nsf		日本語発表： ○	
研究開発構想名： HAF プロジェクト HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT ～地域と世界を結ぶ有為な人材育成の望ましい在り方についての研究～		英語発表： ○			
No.12	中プロック	愛知県	星城中学校・高等学校	地域協働推進校	元年度指定
海外研修先：ベトナム、マレーシア他		学校HP： https://www.seijoh.ed.jp		日本語発表： ○	
研究開発構想名： 外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト ～新たなコミュニティーを協創できるスーパーグローバル・リーダーの育成～		英語発表： ○			
No.13	中プロック	愛知県	名古屋国際中学校・高等学校	地域協働推進校	元年度指定
海外研修先：アメリカ、シンガポール他		学校HP： https://www.nihs.ed.jp		日本語発表： ○	
研究開発構想名： 持続可能なランドスケープの設計 ～天白川水系から世界を俯瞰する～		英語発表： 一			
No.14	中プロック	三重県	三重県立宇治山田商業高等学校	地域協働推進校	元年度指定
海外研修先：オーストラリア他		学校HP： http://www.mie-c.ed.jp/cujiya		日本語発表： ○	
研究開発構想名： 観光都市 with SDGs ～伊勢志摩！未来創造プロジェクト～		英語発表： ○			
No.15	西プロック	大阪府	大阪府立豊中高等学校能勢分校	事業特例校	2年度指定
海外研修先：ドイツ、マレーシア他		学校HP： https://nose-br.toyonaka-hs.ed.jp		日本語発表： ○	
研究開発構想名： 能勢町版シャットベルケとの協働実践の研究 《人口減少全国ワースト 24 位の町と分校の雇用創造への挑戦》		英語発表： ○			
No.16	西プロック	大阪府	プール学院高等学校	アソシエイト校	元年度指定
海外研修先：カナダ、英国、タイ他		学校HP： https://www.poole.ed.jp		日本語発表： ○	
研究開発構想名： 大阪市生野区から発信する多文化共生社会の実現を目指す実践的カリキュラム		英語発表： ○			
No.17	西プロック	兵庫県	兵庫県立柏原高等学校	地域協働推進校	元年度指定
海外研修先：台湾、米国、カンボジア他		学校HP： https://www2.hyogo-c.ed.jp/weblog2/kaibara-hs		日本語発表： ○	
研究開発構想名： TAMBA Mirai Project 丹波から TAMBA へ ～グローバルな視点で丹波の地域 課題解決に主体的に取り組むグローカルリーダーの育成～		英語発表： ○			
No.18	西プロック	兵庫県	兵庫県立兵庫高等学校	地域協働推進校	2年度指定
海外研修先：ベトナム、イギリス他		学校HP： https://www.hyogo-c.ed.jp/~hyogo-hs		日本語発表： ○	
研究開発構想名： “次世代が選ぶまち”KOBE の実現～地域社会の未来を担い世界へはばたく実践者の育成～		英語発表： ○			

大会参加校一覧 (No.19~27)

No.19	西ブロック	奈良県	育英西中学校・高等学校	地域協働推進校	元年度指定
海外研修先:シンガポール他	学校HP: https://www.ikuei.ed.jp/ikunishi			日本語発表: ○	
研究開発構想名: 「他者を巻き込む行動」により地域に貢献する「自立女子」の育成					英語発表: ○
No.20	西ブロック	奈良県	奈良県立敵傍高等学校	地域協働推進校	元年度指定
海外研修先:オーストラリア他	学校HP: http://www.e-net.nara.jp/hs/unebi			日本語発表: 一	
研究開発構想名: 奈良発!未来を創造するグローカル・リーダー育成プログラム					英語発表: ○
No.21	西ブロック	和歌山県	和歌山信愛中学校・高等学校	地域協働推進校	元年度指定
海外研修先:カンボジア他	学校HP: https://www.shin-ai.ac.jp			日本語発表: ○	
研究開発構想名: 和歌山発!地域の未来を拓く鍵となる「Key Girl」育成プログラム					英語発表: ○
No.22	西ブロック	岡山県	岡山県立岡山城東高等学校	地域協働推進校	元年度指定
海外研修先:マレーシア、カナダ他	学校HP: http://www.joto.okayama-c.ed.jp			日本語発表: ○	
研究開発構想名: 「ステージは『世界』だ!」～岡山発グローバルリーダーの育成～					英語発表: ○
No.23	西ブロック	岡山県	岡山学芸館高等学校	事業特例校	2年度指定
海外研修先:フィンランド、カンボジア他	学校HP: http://www.gakugeikan.ed.jp			日本語発表: ○	
研究開発構想名: これからの地域社会を創造するグローカルリーダーシップの育成 ～社会課題の解決に正面から立ち向かうユース層の育成を目指して～					英語発表: ○
No.24	西ブロック	岡山県	金光学園中学・高等学校	アソシエイト校	元年度指定
海外研修先:イギリス、オーストラリア他	学校HP: http://www.konkougakuen.net/high			日本語発表: ○	
研究開発構想名: 真に世のお役に立つ『グローカル』人材の育成を目指す教育の実践開発					英語発表: 一
No.25	四国/九州ブロック	香川県	香川県立高松北高等学校	地域協働推進校	元年度指定
海外研修先:カナダ、シンガポール他	学校HP: https://www.kagawa-edu.jp/kitah02			日本語発表: ○	
研究開発構想名: グローバル化に対応した地域デザインを創造する地域創生リーダーの育成					英語発表: ○
No.26	四国/九州ブロック	愛媛県	愛媛県立松山東高等学校	地域協働推進校	元年度指定
海外研修先:オーストラリア、中国他	学校HP: https://matsuyamahigashi-h.esnet.ed.jp			日本語発表: 一	
研究開発構想名: 東高がんばっていきましょい ～グローバルからグローカルへの挑戦～					英語発表: ○
No.27	四国/九州ブロック	愛媛県	愛媛県立宇和島南中等教育学校	事業特例校	2年度指定
海外研修先:シンガポール、台湾他	学校HP: https://uwajimaminami-h.esnet.ed.jp			日本語発表: 一	
研究開発構想名: 夢・挑戦・感動つむぐ宇和島南グローカル・イノベーション ～宇和島の海・やま・まちを世界の中で考え、仲間とともに創る～					英語発表: ○

大会参加校一覧 (No.28~30)

No.28	四国/九州ブロック	高知県	高知県立高知西高等学校	事業特例校	2年度指定
海外研修先：オーストラリア、イギリス他	学校 HP： http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/mt			日本語発表： <input checked="" type="radio"/>	
研究開発構想名： 高知の“産業・文化”を活用したワールド・コミュニティー・プロジェクト ～高知と海外との連携による双方の地域創生ができるグローバルリーダーの育成～				英語発表： <input checked="" type="radio"/>	

No.29	四国/九州ブロック	高知県	高知県立室戸高等学校	地域協働推進校	元年度指定
海外研修先：オーストラリア他	学校 HP： https://www.kochinet.ed.jp/muroto-h			日本語発表： <input checked="" type="radio"/>	
研究開発構想名： 目指せ！持続可能な社会の担い手を育む教育の実践				英語発表： <input checked="" type="radio"/>	

No.30	四国/九州ブロック	宮崎県	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校	地域協働推進校	元年度指定
海外研修先：フィリピン・イフガオ地域他	学校 HP： http://gokase-h.com			日本語発表： <input checked="" type="radio"/>	
研究開発構想名： 学校を核とした「共学共創コミュニティ(GIAHS Co-Learning Community)」の形成				英語発表： <input checked="" type="radio"/>	

- ・オンライン発表会参加校数 30校
- ・日本語発表部門参加校数 27校
- ・英語発表部門参加校数 26校

日本語発表部門【Aグループ】(QRコードから発表動画を視聴できます)

JA1	東ブロック	山形県	私立	九里学園高等学校		
発表生徒：	齋藤 千紘 我妻 里莉	長谷川 玲 吉田 樹里	佐藤 由望 朝一 凜			
タイトル：	紅花を更なる発展へ					

JA2	東ブロック	北海道	公立	北海道登別明日中等教育学校		
発表生徒：	遠藤 真衣	中谷 芽愛				
タイトル：	Men's Make up					

JA3	中ブロック	新潟県	公立	新潟市立高志中等教育学校		
発表生徒：	高橋 知里	古野間 天音	石崎 美琴	星野 美智		
タイトル：	みんなでつくる、市民の「憩いの場」としての鳥屋野潟					

JA4	中ブロック	福井県	公立	福井県立丸岡高等学校		
発表生徒：	小林 蒼 山岸 愛実	津田 桃子 廣部 未来	山下 真奈 柴田 航輝			
タイトル：	まちづくりハイスクール～丸岡高校 文化部活動～					

JA5	西ブロック	奈良県	私立	育英西中学校・高等学校		
発表生徒：	秋田 さくら	藤本 零				
タイトル：	溶けないアイスを作りたい					

JA6	西ブロック	岡山県	公立	岡山県立岡山城東高等学校		
発表生徒：	大野 夕奈 藤原 梨々子	大原 拓真 山下 晃弥	西山 那奈			
タイトル：	冬は暖かくありたい					

JA7	四国/九州ブロック	高知県	公立	高知県立高知西高等学校		
発表生徒：	田邊 和音	山本 龍青				
タイトル：	地域商店街の復興～ICTを活用した「いの町商店街」の活性化に向けて～					

日本語発表部門【Bグループ】(QRコードから発表動画を視聴できます)

JB1	東ブロック	東京都	私立	昭和女子大学附属昭和高等学校		
発表生徒:	粟井 仁香 野村 光奈美	五十嵐 智紗 万代 沙耶	堀田 彩菜			
タイトル:	スマホの使い方と友達関係					

JB2	中ブロック	福井県	公立	福井県立武生東高等学校		
発表生徒:	井上 恵吾 宮川 莉乙	宮川 莉乙 上野 芽依	上野 芽依			
タイトル:	外国人用ハザードマップを作る					

JB3	中ブロック	愛知県	私立	名古屋国際中学校・高等学校		
発表生徒:	鬼頭 美優和 林 花恋	林 花恋 中根 隆希	中根 隆希			
タイトル:	地域とつながるアップサイクル商品の開発実践					

JB4	中ブロック	三重県	公立	三重県立宇治山田商業高等学校		
発表生徒:	浦田 奈波 橋本 美音	橋本 美音 山本 妃星々	山本 妃星々 櫻井 美晴			
タイトル:	オーガニックとSDGs ～好きな食べ物を食べ続けるために～					

JB5	西ブロック	兵庫県	公立	兵庫県立柏原高等学校		
発表生徒:	足立 風薫 高嶋 深央	足立 悠成 難波 侑里	安藤 美凪 待場 淳羽			
タイトル:	長崎さるく的まちあるきの実践～学校での共通体験を通じた在丹外国人との信頼関係の構築のために～					

JB6	西ブロック	岡山県	私立	岡山学芸館高等学校		
発表生徒:	高橋 遥 山本 裕依	山本 裕依 張 浩然	張 浩然 山口 綾花			
タイトル:	留学生と日本の高校生～語学の学び方とその効果の比較～					

JB7	四国/九州ブロック	高知県	公立	高知県立室戸高等学校		
発表生徒:	山本 苍 中松 美鶴	山本 若菜 岡 愛菜	西本 朱那 藤田 菜々花			
タイトル:	ユニバーサルデザインツアーオープン ～あらゆる人に室戸の魅力を伝えるために～					

日本語発表部門【Cグループ】(QRコードから発表動画を視聴できます)

JC1	西ブロック	和歌山県	私立	和歌山信愛中学校・高等学校	 
発表生徒:	道屋 心 田邊 愛果 岩木 美有羽 上林 光 岩永 いろは 北崎 琴音				
タイトル:	活気を取り戻せ！～ぶらくり丁の未来のために～				

JC2	東ブロック	福島県	公立	福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校	 
発表生徒:	木田 晏奈 宮迫 柚果				
タイトル:	鉄たまごという可能性				

JC3	中ブロック	岐阜県	公立	岐阜県立斐太高等学校	 
発表生徒:	田川 さくら 清田 琴子 坂巻 光清				
タイトル:	高校生目線の中部山岳国立公園の活性化方法				

JC4	中ブロック	静岡県	公立	静岡県立榛原高等学校	 
発表生徒:	若林 由莉奈 石井 俊輝 曽根 優太朗 増田 浩大				
タイトル:	牧之原市に住む人とペットを守る				

JC5	西ブロック	大阪府	私立	ブール学院高等学校	 
発表生徒:	上ノ山 和津子 藤井 結良 生駒 あづみ 井上 心音 勝井 初奈 山浦 紗葵				
タイトル:	私たち高校生と地元企業～制靴開発への道～				

JC6	西ブロック	兵庫県	公立	兵庫県立兵庫高等学校	 
発表生徒:	平野 優月				
タイトル:	～空き家とアーティストをつなぐ～架け橋プロジェクト				

JC7	四国/九州ブロック	宮崎県	公立	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校	 
発表生徒:	佐坂 胡実 花宮 百世				
タイトル:	Smile for Children				

日本語発表部門【Dグループ】(QRコードから発表動画を視聴できます)

JD1	中ブロック	愛知県	私立	星城中学校・高等学校		
発表生徒:	早川 竜樹	岩田 韶	坂野 亜弓			
	岡田 美乃里	金林 萌愛				

JD2	東ブロック	山形県	公立	山形県立山形東高等学校		
発表生徒:	高橋 咲彩	小松 優子	豊原 万葉			
	丸子 実桜	千場 花凜	深瀬 智紗都			

JD3	中ブロック	山梨県	公立	山梨県立甲府第一高等学校		
発表生徒:	有井 啓悟	今村 紗妃	名取 秀彦			
	村松 くるみ	崎田 美衣				

JD4	西ブロック	大阪府	公立	大阪府立豊中高等学校能勢分校		
発表生徒:	新谷 流生	辰野 寧熙				
タイトル:	ゼロカーボンタウンの普及					

JD5	西ブロック	岡山県	私立	金光学園中学・高等学校		
発表生徒:	平田 大輝					
タイトル:	商店街・貸農園を通した金光町の町おこし					

JD6	四国/九州ブロック	香川県	公立	香川県立高松北高等学校		
発表生徒:	橋本 和佳	高木 彩愛	中島 沙羅			
	重川 慎吾	寺竹 真治				

英語発表部門【Aグループ】(QRコードから発表動画を視聴できます)

EA1	東ブロック	山形県	私立	九里学園高等学校		
発表生徒:	中山 きらり	石川 舞桜	小山 優美			
	樋口 楓	黒田 梨々花	勝見 薫			

EA2	中ブロック	三重県	公立	三重県立宇治山田商業高等学校		
発表生徒:	中村 心美	佐々木 佑華	小坂 晴南	濱口 えま		
タイトル:	To realize a foreign friendly society by creating a movie of garbage separation					

EA3	西ブロック	大阪府	公立	大阪府立豊中高等学校能勢分校		
発表生徒:	谷安 祐美	東 梨佳	滝口 るな			
	牧志 アンナ	中岡 瞳喜	櫻井 真道			

EA4	西ブロック	岡山県	私立	岡山学芸館高等学校		
発表生徒:	加藤 華	清水 美琴	高平 佳菜	能登谷 りん花		
タイトル:	To understand developmental disabilities in Japanese educational circumstances -Focusing on autism spectrum disorders-					

EA5	四国/九州ブロック	愛媛県	公立	愛媛県立松山東高等学校		
発表生徒:	岡田 華音	藤田 彩愛	野浪 正歩也	内村 姫那		
タイトル:	Orangutan is crying					

EA6	四国/九州ブロック	宮崎県	公立	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校		
発表生徒:	齋藤 武志					
タイトル:	The Easy Ways to Reduce Food Waste					

英語発表部門【Bグループ】(QRコードから発表動画を視聴できます)

EB1	東ブロック	東京都	私立	昭和女子大学附属昭和高等学校	 	
発表生徒:	清水 碧 杉本 沙樹 菅家 利乃		鶴田 日向子 平塚 柚初			
タイトル:	The effects of self-esteem on career outcomes					

EB2	東ブロック	山形県	公立	山形県立山形東高等学校	 	
発表生徒:	鈴木 心 荒木 瑠理華 鏡 倖太 木島 悠那					
タイトル:	BON VOYAGE YAMAGATA					

EB3	中ブロック	静岡県	公立	静岡県立榛原高等学校	 	
発表生徒:	沖田 心優 松下 海優 新井 幸誠 田島 陸					
タイトル:	Proposal to be interested in agriculture					

EB4	西ブロック	兵庫県	公立	兵庫県立兵庫高等学校	 	
発表生徒:	栗本 希映 辰巳 摶 古川 明里 松岡 泳汰朗					
タイトル:	Creating Local Communities through Micro Libraries					

EB5	西ブロック	奈良県	私立	育英西中学校・高等学校	 	
発表生徒:	稻場 夕姫 新宅 宇水 田中 生萌					
タイトル:	Ikoma Sanjo Amusement Park × SNS					

EB6	四国/九州ブロック	香川県	公立	香川県立高松北高等学校	 	
発表生徒:	福元 葵 矢野 心愛 島本 彩佳 寒川 咲季					
タイトル:	What do you know about diabetes?					

EB7	四国/九州ブロック	高知県	公立	高知県立高知西高等学校	 	
発表生徒:	河崎 立樹 佐竹 勇哉					
タイトル:	飛べないなんて言わせない！！世界にはばたけ四万十ターキー～四万十ターキーの知名度を上げる方法～					

英語発表部門【Cグループ】(QRコードから発表動画を視聴できます)

EC1	西ブロック	和歌山県	私立	和歌山信愛中学校・高等学校		
発表生徒： 小野田 歩実 多田 美友加 岡田 ななみ						
タイトル： WHAT HAPPENS NEXT?						

EC2	東ブロック	北海道	公立	北海道登別明日中等教育学校		
発表生徒： 北側 来実						
タイトル： To be proud of each other's preferences						

EC3	中ブロック	福井県	公立	福井県立武生東高等学校		
発表生徒： 田中 結月 畑中 アユミ						
タイトル： 國際的なまちづくり						

EC4	中ブロック	山梨県	公立	山梨県立甲府第一高等学校		
発表生徒： 由元 悠菜 廣島 千匠 古屋 快人 橋田 一生 久保田 桜空						
タイトル： Game × Health						

EC5	西ブロック	奈良県	公立	奈良県立畝傍高等学校		
発表生徒： 斎藤 世羅 西芝 亜未 田中 昂 姫葉 美海						
タイトル： Are matsuri celebrations necessary in our city?						

EC6	四国/九州ブロック	高知県	公立	高知県立室戸高等学校		
発表生徒： 清兼 信華 多田 慧斗 谷口 結菜 林 愛美						
タイトル： 持続可能な室戸市を実現するための防災探究活動						

英語発表部門【Dグループ】(QRコードから発表動画を視聴できます)

ED1	中ブロック	愛知県	私立	星城中学校・高等学校	 
発表生徒:	高原 みつき 野村 春陽 川口 遥斗 野村 哉那 伊熊 涼介				

ED2	東ブロック	福島県	公立	福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校	 
発表生徒:	渡邊 快 菅波 竜人 山内 直 森 俊輔				

ED3	中ブロック	福井県	公立	福井県立丸岡高等学校	 
発表生徒:	朽木 智哉 田中 悟史 中村 亮太 西出 愛花 増田 琉那 宮平 侑汰				

ED4	西ブロック	大阪府	私立	プール学院高等学校	 
発表生徒:	有田 清夏 福田 さくら 堀 詩子 前村 希美				

ED5	西ブロック	兵庫県	公立	兵庫県立柏原高等学校	 
発表生徒:	小川 美那				

ED6	西ブロック	岡山県	公立	岡山県立岡山城東高等学校	 
発表生徒:	阿部 愛璃 井上 菜緒子 林 由季人 人見 茉奈花 毛利 心				

ED7	四国/九州ブロック	愛媛県	公立	愛媛県立宇和島南中等教育学校	 
発表生徒:	大塚 羽夏				

【日本語発表部門】 審査結果

金賞・文部科学省初等中等教育局長賞



兵庫県立柏原高等学校

発表タイトル：長崎さるく的まちあるきの実践

～学校での共通体験を通した在丹外国人との信頼関係の構築のために～

近年日本では、グローバル化に伴い、多様性を認めて多文化共生を目指す動きが高まっている。私たちの住む丹波市でも、外国人労働者の数は増加傾向にあり、近所に外国人がいる環境であるにもかかわらず、市民と外国人との交流が少ないのが現状だ。そこで長崎さるく博で行われたまちあるきイベントを参考に、外国人と地元住民が交流を持ち、信頼関係を築くことができるようなまちあるきを実施する。長崎さるく博で行われたまちあるきイベントでは、地元住民がガイドとなりゲストに街を案内した。ただガイドするだけでなく、ガイドとゲストの間には対話が盛んに生まれ、ガイドとゲストという関係を超えたまちあるきが行われた。私たちはガイド経験者である丹波市観光協会のボランティアガイドに聞き取り調査を行い、それも参考にして、市内の外国人労働者と共にまちあるきを行う予定である。

金賞・審査員長特別賞

兵庫県立兵庫高等学校

発表タイトル：～空き家とアーティストをつなぐ～ 架け橋プロジェクト

世界は今、高齢化の問題が深刻化している。日本では、高齢化が進む中、空き家が増加してきており、社会問題となっている。本研究の目的は、高齢化に伴って増加している日本の空き家問題に着目し、空き家とアーティストを繋げることによる解決策について提案することである。具体的には、神戸市長田区にある駒ヶ林町の空き家問題解決に向けて、全国のアーティストに駒ヶ林町の空き家活用によるアート活動を広めるために「神戸駒ヶ林×アーティストプロジェクト」を企画した。このプロジェクトでは、Webサイト作成を中心に駒ヶ林のアーティストにインタビューを行い、それを基にPR動画を作成して、その活動内容を区役所のまちづくり課に提案し、フィードバックを得ることでサイトのアップデートを図っている。さらに、神戸市内の芸術大学の学生を対象にWebサイトと駒ヶ林町での空き家活用についてのアンケートを実施し、成果と課題について検討する。

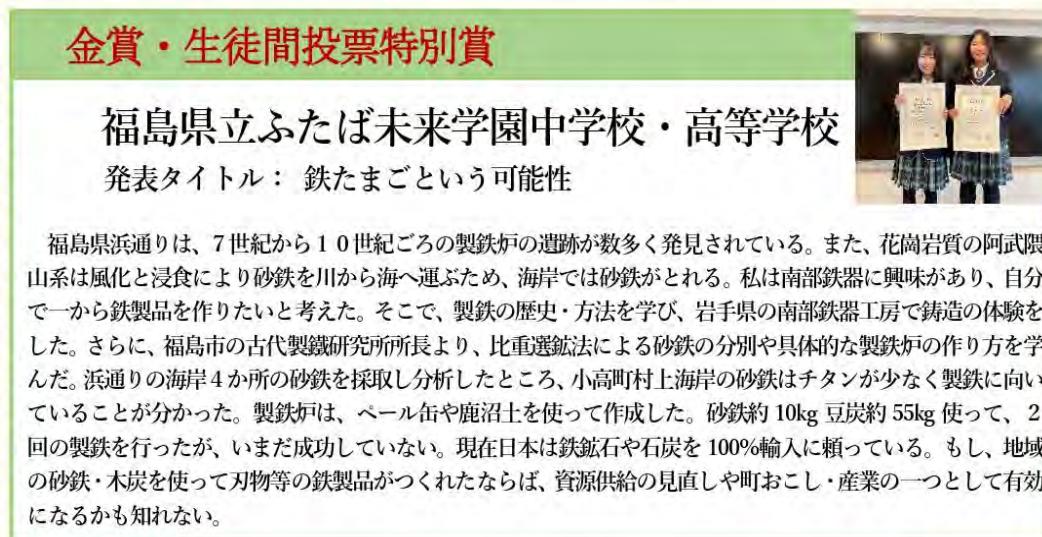
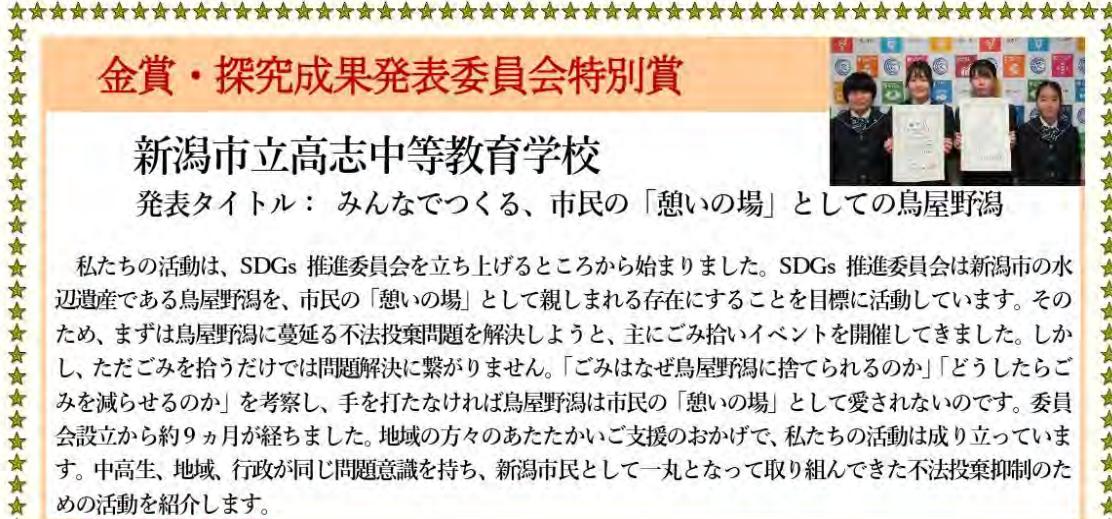
金賞・大会委員長特別賞

山形県立山形東高等学校

発表タイトル： 山形ハッカを県内に広めよう



山形の知られていない作物を広めたいという思いでこの探究を始めました。ハッカという作物は元々、山形県全体で、特に天童市高瀬地区で盛んに栽培されていました。しかし現在は衰退し、ハッカ農家は県内で数件のみになっています。また、天童地域では今でも道端に生えているなど地域に密着している植物であるにも関わらず、山形ハッカの存在は山形県民にもほとんど知られていません。私たちの中のでも聞き馴染みのない作物でした。とても魅力的な野菜であるのにも関わらずです。そこで私たちはハッカに目をつけ、山形ハッカが生活に取り入れられている未来を作ろうと活動をしています。私達の高瀬班では山形ハッカの歴史を根付させ、身近な存在にするため、まずはその歴史を周知していくための活動をしています。商品開発班では食としてのハッカの魅力を伝えるため、具体的なハッカの楽しみ方・取り入れ方を提案するような活動をしています。



銀賞		
九里学園高等学校	岡山県立岡山城東高等学校	高知県立高知西高等学校
高知県立室戸高等学校	三重県立宇治山田商業高等学校	名古屋国際中学校・高等学校
岐阜県立斐太高等学校	和歌山信愛中学校・高等学校	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校
山梨県立甲府第一高等学校	大阪府立豊中高等学校能勢分校	金光学園中学・高等学校

*順不同

銅賞		
北海道登別明日中等教育学校	福井県立丸岡高等学校	育英西中学校・高等学校
昭和女子大学附属昭和高等学校	福井県立武生東高等学校	岡山学芸館高等学校
静岡県立榛原高等学校	ブール学院高等学校	香川県立高松北高等学校
星城中学校・高等学校		*順不同

*順不同

【英語発表部門】審査結果

金賞・文部科学省初等中等教育局長賞

山形県立山形東高等学校 / Yamagata Higashi High School

Title: BON VOYAGE YAMAGATA



We focus on the “Post-Pandemic”, which is related to the 3 points. These are Economy, Health, and Education. Firstly, about the economy, the serious recession has lasted among a lot of restaurants in Yamagata. So, we should promote our consumption of these, and contribute to them. Secondly, about Health, we have been lacking exercises because of more staying at home, and we are also stressed. Thus, we propose the way to walk our town. Thirdly, about Education, by learning about cultures in foreign countries and gaining knowledge, we can broaden our horizons and that experience will allow us to go abroad after the pandemic. To make these aims come true, we held an event, called “World Travel Walk Rally at Yamagata”. Cooperating with some local restaurants in Yamagata, some participants, which are online high school students at this time, enjoyed the walk rally answering some quizzes about overseas. And then they also enjoyed meals around the world in those restaurants at discounted prices. Conclusively, there were some problems to solve. After making them better, we are going to hold an event which makes our society more active for the next stage.

金賞・審査員長特別賞

高知県立室戸高等学校 / Muroto High school

Title: 持続可能な室戸市を実現するための防災探究活動



Muroto City in Kochi Prefecture is a designated UNESCO World Geopark, and is a beautiful region blessed with rich nature and precious geological resources. However, as the triangular shape of the city overhangs the sea, it is predicted to suffer tremendous damage in the case of a disaster. We wanted to contribute to the safety of the entire region not only by protecting our own life, but also by using figures and evidence. Our research began with a lesson on statistics in our Mathematics class, in which we read numerical data on disaster prevention measures in Muroto City. By actually looking at the figures presented in official documents, we were able to understand the seriousness of the damage and the importance of disaster prevention measures. In addition, the voluntary evacuation drills and the experience of staying at the evacuation shelter allowed us to experience the effects of the disaster by ourselves, which we could not read from the data. In this presentation, we want to combine our reading of the materials and actual experiences to present what kind of disaster prevention measures should be taken and what we can do as a high school student in the community.

金賞・大会委員長特別賞

愛媛県立松山東高等学校 / Matsuyama Higashi High School

Title: Orangutan is crying



One of the causes of orangutans crying is the fact that their forests are decreasing because we grow palm plants and overproduce the palm oil. Palm oil is cheap and easy to process, so it is used in everything. Considering we have to change our consumption behavior, we held an "ethical challenge" to change our consciousness from our daily consumption activities. We asked all the students to send us a picture of the ethical consumption and shared it with all the students. The collected information was exhibited at the school festival, summarizing the stores where those products are sold and what they are ethical. In the survey conducted at the end of the challenge, the number of people who changed their consciousness increased slightly. We are going to make an ethical shopping map to visualize the change of consciousness into action. Palm oil has many problems, but it is essential to us. In order to solve problems and live happily, we believe that becoming an environmentally friendly ethical consumer is the key to staying alive on this planet. May the orangutans live in a world where they can laugh.

金賞・探究成果発表委員会特別賞

福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 / Futaba Future School

Title: Memories and feelings connected by games



Our theme is "Futaba Area, the past and the future created by games in Virtual Reality." We have been using a game called "Minecraft" that allows the players to create things such as buildings and towns using small blocks. In the game, we decided to recreate the past Futaba Area, before the earthquake on 3.11 in 2011. By seeing it with your own eyes, you can see the effects of the earthquake. The player of the game can know the facts by seeing the situation at the time of the earthquake and the nuclear disaster and this leads to prevent further discrimination and prejudice. We are also working to create a future map of Futaba Area and the nuclear power plants. Some people say that Fukushima is still a dangerous place and don't understand the meanings of opening a school not knowing the facts about the area. Wrong thoughts and beliefs lead to discrimination and prejudice. We think it is necessary to raise a voice about the future from Fukushima Prefecture. We also want to create various future places in the game, such as what high school students think of a nuclear power plants and how to rebuild the entire towns. We would like to make it a heritage site so that people in other areas can learn about the nuclear disaster or discuss how nuclear power plants should be.

金賞・生徒間投票特別賞

山梨県立県甲府第一高等学校 / Kofu First High School

Title: Game × Health



We have been exploring the use of games to improve the health of the elderly. We started this research when we learned about the movement to improve dementia through e-sports. A study conducted by the University of California showed that cognitive function improved before and after playing games, indicating the possibility of using e-sports to reduce the progression of dementia. Even in Japan, there are studies that have shown that games are effective in preventing dementia. In other words, games, which used to serve only as entertainment, are now thought to be useful for the health of the elderly. In addition, games have the advantage of being able to be enjoyed anywhere with equipment, and of being able to communicate with distant friends online. Therefore, we would like to spread this fact to the elderly. To do this, we have decided to work on eliminating the negative image that the elderly have of games. This negative image is that games are bad for the body and that games are for children. Specifically, we will hold health-themed events. Our plan is to have them play by themselves the games and learn about the fun and benefits of games. We hope that by promoting this plan, we will be able to improve the health of the elderly.

銀賞

九里学園高等学校	岡山学芸館高等学校	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校
昭和女子大学附属昭和高等学校	兵庫県立兵庫高等学校	香川県立高松北高等学校
福井県立武生東高等学校	奈良県立歴傍高等学校	岡山県立岡山城東高等学校
愛媛県立宇和島南中等教育学校	星城中学校・高等学校	*順不同

銅賞

三重県立宇治山田商業高等学校	大阪府立豊中高等学校能勢分校	静岡県立榛原高等学校
育英西中学校・高等学校	高知県立高知西高等学校	和歌山信愛中学校・高等学校
北海道登別明日中等教育学校	福井県立丸岡高等学校	ブール学院高等学校
兵庫県立柏原高等学校		*順不同

オンライン発表会の様子

日 程〔令和4年1月29日(土)〕

- 10:00 開会の挨拶（大会委員長 星城高等学校長 石田 泰城）
- 10:05 文部科学省挨拶（初等中等教育局参事官 田中 義恭）
- 10:10 ブレイクアウトセッション① 自校取組紹介（A～D グループ）
- 10:25 ブレイクアウトセッション② 日本語発表部門金賞校発表（A～D グループ）
- 11:00 ブレイクアウトセッション③ 英語発表部門金賞校発表（A～D グループ）
- 11:20 日本語発表部門 文部科学省初等中等教育局長賞受賞校発表
- 11:35 英語発表部門 文部科学省初等中等教育局長賞受賞校発表
- 11:50 審査員長総評（一般社団法人 Glocal Academy 理事長・物理学博士 岡本 尚也）
- 12:00 閉会の挨拶（大会委員長）



地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローカル型
Glocal High School Meetings 2022
2022年全国高等学校グローカル探究オンライン発表会

表1 ホスト（ガイド）とゲスト（観光客）
の関係を越えられた瞬間・話題

番号	性別	年齢	方言	ホスト（ガイド）とゲスト（観光客）の関係を越えられた瞬間・話題
1	女性	85歳	17歳	ホスト（ガイド）とゲスト（観光客）の関係を越えられた瞬間・話題 静かに歩いてるときに「おつかれ様」と言はれて、今は「おはようございます」とお通じた時
2	女性	76歳	20歳	静かに歩いているときに「おつかれ様」と言はれて、今は「おはようございます」とお通じた時
3	男性	74歳	13歳	静かに歩いているときに「おつかれ様」と言はれて、今は「おはようございます」とお通じた時
4	女性	70歳	5年	静かに歩いているときに「おつかれ様」と言はれて、今は「おはようございます」とお通じた時
5	男性	71歳	6年	静かに歩いているときに「おつかれ様」と言はれて、今は「おはようございます」とお通じた時
6	男性	76歳	5年	静かに歩いているときに「おつかれ様」と言はれて、今は「おはようございます」とお通じた時

共通の話題を通して、共感の感情が生まれた時に、

ホスト（ガイド）とゲスト（観光客）の関係を越えられた時に、

→ 高校生のまちあるきでも外国人との共通の話題を組み込む



総合司会

星城中学校・高等学校



廣田 純大



田岡 花菜

A グループ司会

九里学園高等学校



吉田 樹里



樋口 楓

B グループ司会

昭和女子大学附属昭和高等学校



野村 光奈美



清水 碧



平塚 榊初

C グループ司会

和歌山信愛中学校・高等学校



土橋 諒子



賀城 さくら



村上 由花



鈴木 朔弥



水落 佳穂



藤井 翠子



廣田 純大



田岡 花菜

D グループ司会

星城中学校・高等学校

5. 評価と課題

(1) ループリック評価

「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト」をテーマにした SGL 活動においてグローカル人材を育成するために、次の 4 つの観点から生徒を評価する。そして、その評価はループリック評価表を用いた生徒の自己評価によって行われる。

- ① 主体性：自ら行動する力
- ② 協働性：人々とつながる力
- ③ 探究力：解決策を探る力
- ④ 発信力：相手に伝える力

SGL 活動を通して生徒がどのように成長していくか、その変容についてループリック評価を用いた生徒の自己評価によって把握する。そして、その状況を踏まえて、活動内容や指導方法の改善につなげる。ループリック評価では、育成したい生徒像をもとに、主体性・協働性・探究力・発信力の 4 つの項目を設定している。生徒は自分の活動内容を振り返り、レベル 1 からレベル 4 までの 4 段階の評価文の中で、自分がどのレベルに相当するかを自己評価する。学期ごとに活動内容が異なるので、各項目・各レベルの評価文も学期ごとに作成している。下記の表 1 は 1 年生用のループリック評価文の一覧である。

表 1 1 年生ループリック評価文一覧表

学期	観点	レベル	評価文
1 学 期	主体性	1	SDGs に興味・関心をもつことができる。
		2	SDGs と地域課題を関連付けて考えることができる。
		3	SDGs 推進や地域課題解決について自分の考えをもつことができる。
		4	SDGs や地域課題に対して自分たちにできる取組を考えることができる。
	協働性	1	グループ活動で相手の意見に耳を傾けることができる。
		2	グループ活動でお互いの意見を伝え合うことができる。
		3	グループ活動でお互いの意見の良いところを認め合うことができる。
		4	多様な意見をもとにグループとしての考えをまとめることができる。
	探究力	1	豊明市について、地域の特性を調べることができる。
		2	豊明市の地域課題に対する取組や活動について調べることができる。
		3	現地調査を通じて、地域の現状を知り、地域が求めることを考えることができる。
		4	地域の課題解決を踏まえて花植えプロジェクトを企画することができる。
	発信力	1	グループ活動で自分の意見を伝えることができる。
		2	相手の意見に対する感想を伝えることができる。
		3	グループ内の意見をクラス全体の場で発表することができる。
		4	他のグループの意見を踏まえて、自分の意見をクラスで発表することができる。

2 学 期	主体性	1	班で計画したことや先生からの助言を活かして前向きに取り組むことができる。
		2	花壇づくりを通して自分の意見や考えたことを班員に伝え話し合うことができる。
		3	地域の方々と積極的に交流を図りながら、花壇づくりをすすめることができる。
		4	花植え後も地域の方々とコミュニケーションをとり花壇を管理することができる。
	協働性	1	班員の意見を大切にしながら、協力して花壇づくりに取り組むことができる。
		2	地域の方々に事前に説明やお願いをし、協働する団体を見つけることができる。
		3	地域の方々と協働しながら、花壇づくりや花植えを実施することができる。
		4	花植え後も水やりや花壇整備などを通して地域の方々と交流することができる。
	探究力	1	地域の方々に喜んでもらえるように、花壇づくりの計画を立てることができる。
		2	予算を活用して、値段や購入先を検討しながら計画をすすめることができる。
		3	花壇づくりを通して地域の方々に地域課題について聞き取りすることができる。
		4	花植え活動を地域課題解決にどのようにつなげられるかを考えることができる。
	発信力	1	花壇づくりの企画を地域の方々に伝える説明資料を班で作成することができる。
		2	作成した資料をもとに地域の方々に花壇づくりの企画を説明することができる。
		3	地域の方々の意見を聞き、完成した花壇づくりの計画を説明することができる。
		4	自分たちが地域課題解決に向けて取り組んでいくことを発信することができる。
3 学 期	主体性	1	発表内容について、自分の考えや意見を持つことができる。
		2	自分が担当する発表原稿やポスターを自分で作成できる。
		3	自分の発表原稿やポスターについて、改善点を考え、修正できる。
		4	全体の発表原稿とポスターについて、改善点を提案し修正できる。
	協働性	1	班の中で自分が担当する役割を実行できる。
		2	他の班員の意見やアイディアを取り入れ、自分の発表に活かすことができる。
		3	お互いの原稿やポスターについて、意見やアイディアを出し、検討できる。
		4	根拠となる資料やデータを班内で共有しそれに対する意見を集約できる。
	探究力	1	高齢者や外国人を対象としたテーマ設定ができる。
		2	それぞれのテーマに関する地域課題解決に向けた提言ができる。
		3	提言の根拠となる資料やデータ、グラフを提示してポスターを作成できる。
		4	データやグラフを効果的に使い、提言の根拠を明確に示すことができる。
	発信力	1	原稿を見ながら聴衆に向けて、班の伝えたいことが発信できる。
		2	途中、原稿を確認しながら聴衆に向けて、班の伝えたいことが発信できる。
		3	原稿を見ずに聴衆に向けて、班の伝えたいことが発信できる。
		4	発表に対する質疑に的確に回答し、班の提言をより強く訴えることができる。

1 学期は SDGs について理解し、地元豊明市の地域課題について理解を深めることが学びの中心となる。2 学期は花溢れる街づくりプロジェクトを核として、協働花壇づくりの企画と実践が学びの中心となる。そして、3 学期は 1 年間の学びの集大成として、新たな地域協働活動についての提言をポスターセッションの形式で発表することが学びの中心

となる。

表2 2年生ループリック評価文一覧表

学期	観点	レベル	評価文
1 学 期	主体性	1	SDGs推進や地域課題解決について自分で考えることができる。
		2	SDGs推進や地域課題解決に向けての対策をグループで考えることができる。
		3	SDGs推進や地域課題解決向けた啓発物の内容を考えることができる。
		4	SDGs推進や地域課題解決向けた啓発物の活用計画を提案することができる。
	協働性	1	グループ活動で他者の意見に耳を傾けることができる。
		2	グループ活動でお互いの考えを伝え合い、認め合うことができる。
		3	グループの話し合いをもとに、協力して啓発物を作成することができる。
		4	コンソーシアムの方々と意見交換しながら啓発物を改良することができる。
	探究力	1	豊明市の地域課題と活動について調べることができる。
		2	地域課題解決に向けて調べたことをグループで共有し、話し合うことができる。
		3	地域課題解決につながるプロジェクトをグループで立案することができる。
		4	コンソーシアムの方々と啓発物の活用方法について協議することができる。
	発信力	1	グループ活動で自分の意見を伝えることができる。
		2	グループ活動で他者の意見に対する自分の考えを伝えることができる。
		3	自分の意見やグループの意見を全体へ発表することができる。
		4	コンソーシアムの方々に自分たちが考えたことを発表することができる。
2 学 期	主体性	1	地域課題や課題解決のための啓発物開発について、興味・関心をもつことができる。
		2	地域課題と新たに開発しようとする啓発物を関連づけて考えることができる。
		3	地域課題解決のための啓発物作成にあたって、積極的に取り組むことができる。
		4	地域の方々の意見を聞き、それらを生かして、啓発物開発に取り組むことができる。
	協働性	1	班員の意見を大切にし、協力して地域課題の発見や啓発物の開発に取り組むことができる。
		2	コンソーシアムの方々の助言や意見を聞き、新たな啓発物作成の提案ができる。
		3	地域やコンソーシアムの方々と改善点を協議し、協働しながら啓発物を開発できる。
		4	開発した啓発物を地域の方々に使用してもらい、感想や意見などをまとめることができる。
	探究力	1	具体的な地域課題を見つけ、それを解決するための啓発物作成について検討できる。
		2	地域課題解決につながる啓発物作成を目指して調査し、その内容を活用できる。
		3	現地での調査を通じて地域の現状を知り、地域の要求を開発に反映できる。
		4	SDGsとの関連やグローバルな視点を踏まえて、啓発物の作成や活用方法を検討できる。
	発信力	1	グループ活動で自分の考えや他の意見についての自分の考えを伝えることができる。
		2	グループでまとめた考えた啓発物のアイディアをクラスで発表・説明できる。
		3	啓発物のアイディア・活用法などをコンソーシアムの方々に発表・説明できる。
		4	完成した啓発物を地域の方々に提示し、その活用を呼びかけることができる。

3 学 期	主体性	1	探究成果発表の原稿とポスターの作成に取り組むことができる。
		2	原稿やポスターに自分の意見やアイディアを取り入れることができる。
		3	班内で共有した意見やアイディアをプレゼンテーションに生かすことができる。
		4	啓発物開発の目的や過程、課題などを明確にしてプレゼンテーションができる。
	協働性	1	発表原稿とポスターの作成で、自分が担当する役割を実行できる。
		2	他の班員の意見やアイディアを取り入れ、原稿やポスターを作成できる。
		3	他の班員の原稿やポスターについて、改善点などの助言を伝えることができる。
		4	活発な意見交換を行い、班員の意見などを集約して原稿とポスターが作成できる。
	探究力	1	地域課題を探し、目的を明確にすることができます。
		2	プレゼンテーションをするための資料やデータを探すことができる。
		3	データやグラフを効果的に使い、プレゼンテーションの質を高めることができます。
		4	プレゼンテーションを通して今後の課題を発見し、新たな探究へ向かうことができます。
	発信力	1	原稿を見ながら、プレゼンテーションを行うことができる。
		2	原稿を見ながら、聴衆にわかりやすくプレゼンテーションを行うことができる。
		3	原稿を見ずにプレゼンテーションを行うことができる。
		4	原稿を見ずに、聴衆にわかりやすくプレゼンテーションを行うことができる。

2年生1学期はSDGsの17の持続可能な開発目標について理解し、その課題解決策をみんなで考えることと、豊明市の地域課題である「外国人市民との多文化共生」と「高齢市民の健康福祉」について調べ、その解決策を考えることが学びの中心となる。2学期は地域協創プロジェクトを核として、地域課題解決を目指した啓発素材開発の企画と実践が学びの中心となる。そして、3学期は1年間の学びの集大成として、啓発素材開発の実践発表を行うことが学びの中心となる。

これらのルーブリック評価文は、各学期の最初の授業時に生徒に提示し、どのような学習活動が求められるかについて生徒自身が確認できるようにした。そこから、自分がどのレベルを目指して活動するかについて考え、自分自身の目標を設定することができるようにした。各学期の最後の授業では、その学期の活動を振り返り、ルーブリック評価表を用いて自己評価をする。

その自己評価は各クラスで集計し、その後に学年全体の集計を行う。SGL開発会議やSGL実行委員会でその集計データを分析し、育成が不十分な項目を確認するとともに、なぜ自己評価が低かったのかについて、その原因を考えることによって、次の学期でどのような授業に改善していくか、どのような手立てを講ずるのか、また次の学期のルーブリック評価文の内容をどのようにしていくかなどについて検討する材料にした。

このルーブリック評価文は総合的な探究の時間の評価文にもなっており、授業担当者は、各生徒が記入した自己評価の内容を踏まえ、各生徒についてどの項目が最も評価でき、どの評価文が最も適切なのかを考えて選ぶことによって、生徒の自己評価と教員による評価の一貫性を保つようにしている。

表3 1年生1学期ループリック評価集計表
令和3年度第1学年 SGL地域協創学Ⅰ ループリック評価集計表【1学期】

	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性 自ら行動する力	SDGsに興味・関心をもつことができる。	SDGsと地域課題を関連付けて考えることができる。	SDGs推進や地域課題解決について自分の考えをもつことができる。	SDGsや地域課題に対して自分たちにできる取組を考えることができる。
協働性 人々と繋がる力	グループ活動で相手の意見に耳を傾けることができる。	グループ活動でお互いの意見を伝え合うことができる。	グループ活動でお互いの意見の良いところを認め合うことができる。	多様な意見をもとにグループとしての考えをまとめることができる。
探究力 解決策を探る力	豊明市について、地域の特性を調べることができる。	豊明市の地域課題に対する取組や活動について調べることができる。	現地調査を通じて、地域の現状を知り、地域が求めることを考えることができる。	地域の課題解決を踏まえて花植えプロジェクトを企画することができる。
発信力 相手に伝える力	グループ活動で自分の意見を伝えることができる。	相手の意見に対する感想を伝えることができる。	グループ内の意見をクラス全体の場で発表することができる。	他のグループの意見を踏まえて、自分の意見をクラスで発表することができる。

仰星1年1組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数	
主体性	0	0.0%	7	30.4%	10	43.5%
協働性	1	4.3%	6	26.1%	9	39.1%
探究力	1	4.3%	8	34.8%	10	43.5%
発信力	4	17.4%	7	30.4%	10	43.5%
小計	6	6.5%	28	30.4%	39	42.4%
					92	

仰星1年2組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数	
主体性	7	30.4%	7	30.4%	7	30.4%
協働性	1	4.3%	9	39.1%	6	26.1%
探究力	4	17.4%	11	47.8%	3	13.0%
発信力	5	21.7%	7	30.4%	9	39.1%
小計	17	18.5%	34	37.0%	25	27.2%
					92	

特進1年3組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数	
主体性	2	5.6%	15	41.7%	10	27.8%
協働性	3	8.3%	10	27.8%	17	47.2%
探究力	5	13.9%	15	41.7%	11	30.6%
発信力	7	19.4%	15	41.7%	12	33.3%
小計	17	11.8%	55	38.2%	50	34.7%
					144	

特進1年4組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数	
主体性	3	7.9%	8	21.1%	21	55.3%
協働性	3	7.9%	9	23.7%	16	42.1%
探究力	3	7.9%	13	34.2%	15	39.5%
発信力	5	13.2%	14	36.8%	15	39.5%
小計	14	9.2%	44	28.9%	67	44.1%
					152	

全クラス合計	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数	
主体性	12	10.0%	37	30.8%	48	40.0%
協働性	8	6.7%	34	28.3%	48	40.0%
探究力	13	10.8%	47	39.2%	39	32.5%
発信力	21	17.5%	43	35.8%	46	38.3%
小計	54	11.3%	161	33.5%	181	37.7%
					480	

表4 1年生2学期ループリック評価集計表
令和3年度第1学年 SGL地域協創学Ⅰ ループリック評価集計表【2学期】

	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性 自ら行動する力	班で計画したことや先生からの助言を活かし前向きに取り組むことができる。	花壇づくりを通して自分の意見や考えたことを班員に伝え話し合うことができる。	地域の方々と積極的に交流を図りながら、花壇づくりをすすめることができる。	花植え後も地域の方々とコミュニケーションをとり花壇を管理することができる。
協働性 人々と繋がる力	班員の意見を大切にしながら、協力して花壇づくりに取り組むことができる。	地域の方々に事前に説明やお願いをし、協働する団体を見つけることができる。	地域の方々と協働しながら、花壇づくりや花植えを実施することができる。	花植え後も水やりや花壇整備などを通して地域の方々と交流することができる。
探究力 解決策を探る力	地域の方々に喜んでもらえるように、花壇づくりの計画を立てることができる。	予算を活用して、値段や購入先を検討しながら計画をすすめることができる。	花壇づくりを通して地域の方々に地域課題について聞き取りすることができる。	花植え活動を地域課題解決にどのようにつなげられるかを考えることができる。
発信力 相手に伝える力	花壇づくりの企画を地域の方々に伝える説明資料を班で作成することができる。	作成した資料をもとに地域の方々に花壇づくりの企画を説明することができる。	地域の方々の意見を聞き、完成した花壇づくりの計画を説明することができる。	自分たちが地域課題解決に向けて取り組んでいくことを発信することができる。

仰星1年1組	レベル1	レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	2	8.7%	8	34.8%	7	30.4%	6	26.1%
協働性	1	4.3%	5	21.7%	14	60.9%	3	13.0%
探究力	1	4.3%	10	43.5%	8	34.8%	4	17.4%
発信力	3	13.0%	9	39.1%	9	39.1%	2	8.7%
小計	7	7.6%	32	34.8%	38	41.3%	15	16.3%

仰星1年2組	レベル1	レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	0	0.0%	9	40.9%	10	45.5%	3	13.6%
協働性	0	0.0%	6	27.3%	11	50.0%	5	22.7%
探究力	0	0.0%	7	31.8%	11	50.0%	4	18.2%
発信力	1	4.5%	12	54.5%	8	36.4%	1	4.5%
小計	1	1.1%	34	38.6%	40	45.5%	13	14.8%

特進1年3組	レベル1	レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	3	8.8%	8	23.5%	20	58.8%	3	8.8%
協働性	4	11.8%	9	26.5%	19	55.9%	2	5.9%
探究力	1	2.9%	6	17.6%	13	38.2%	14	41.2%
発信力	3	8.8%	11	32.4%	16	47.1%	4	11.8%
小計	11	8.1%	34	25.0%	68	50.0%	23	16.9%

特進1年4組	レベル1	レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	0	0.0%	10	28.6%	18	51.4%	7	20.0%
協働性	3	8.6%	2	5.7%	16	45.7%	14	40.0%
探究力	0	0.0%	5	14.3%	18	51.4%	12	34.3%
発信力	6	17.1%	12	34.3%	12	34.3%	5	14.3%
小計	9	6.4%	29	20.7%	64	45.7%	38	27.1%

全クラス合計	レベル1	レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	5	4.4%	35	30.7%	55	48.2%	19	16.7%
協働性	8	7.0%	22	19.3%	60	52.6%	24	21.1%
探究力	2	1.8%	28	24.6%	50	43.9%	34	29.8%
発信力	13	11.4%	44	38.6%	45	39.5%	12	10.5%
小計	28	6.1%	129	28.3%	210	46.1%	89	19.5%

表5 1年生3学期ループリック評価集計表
令和3年度第1学年 SGL地域協創学Ⅰ ループリック評価集計表【3学期】

	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性 自ら行動する力	発表内容について自分の考えや意見を持つことができた。	自分が担当する発表原稿やポスターを自分で作成できた。	自分の発表原稿やポスターについて、改善点を考え、修正できた。	全体の発表原稿とポスターについて、改善点を提案し修正できた。
協働性 人々と繋がる力	班の中で自分が担当する役割を実行できた。	他の班員の意見やアイデアを取り入れ、自分の発表に活かすことができた。	お互いの原稿やポスターについて、意見やアイデアを出し、検討できた。	根拠となる資料やデータを班内で共有しそれに対する意見を集約できた。
探究力 解決策を探る力	高齢者や外国人を対象としたテーマ設定ができた。	それぞれのテーマに関する地域課題解決に向けた提言ができた。	提言の根拠となる資料やデータ、グラフを提示してポスターを作成できた。	データやグラフを効果的に使い、提言の根拠を明確に示すことができた。
発信力 相手に伝える力	原稿を見ながら聴衆に向けて、班の伝えたいことが発信できた。	途中、原稿を確認しながら聴衆に向けて、班の伝えたいことが発信できた。	原稿を見ずに聴衆に向けて、班の伝えたいことが発信できた。	発表に対する質疑に的確に回答し、班の提言をより強く訴えることができた。

仰星1年1組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数				
主体性	0	0.0%	6	26.1%	10	43.5%	7	30.4%	23
協働性	1	4.3%	9	39.1%	11	47.8%	2	8.7%	23
探究力	1	4.3%	11	47.8%	6	26.1%	5	21.7%	23
発信力	8	34.8%	13	56.5%	1	4.3%	1	4.3%	23
小計	10	10.9%	39	42.4%	28	30.4%	15	16.3%	92

仰星1年2組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数				
主体性	3	13.6%	6	27.3%	7	31.8%	6	27.3%	22
協働性	1	4.5%	3	13.6%	13	59.1%	5	22.7%	22
探究力	1	4.5%	5	22.7%	12	54.5%	4	18.2%	22
発信力	3	13.6%	14	63.6%	3	13.6%	2	9.1%	22
小計	8	9.1%	28	31.8%	35	39.8%	17	19.3%	88

特進1年3組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数				
主体性	4	11.1%	7	19.4%	11	30.6%	14	38.9%	36
協働性	5	13.9%	12	33.3%	10	27.8%	9	25.0%	36
探究力	2	5.6%	12	33.3%	14	38.9%	8	22.2%	36
発信力	18	50.0%	12	33.3%	1	2.8%	5	13.9%	36
小計	29	20.1%	43	29.9%	36	25.0%	36	25.0%	144

特進1年4組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数				
主体性	1	2.7%	2	5.4%	18	48.6%	16	43.2%	37
協働性	2	5.4%	11	29.7%	12	32.4%	12	32.4%	37
探究力	0	0.0%	8	21.6%	19	51.4%	10	27.0%	37
発信力	5	13.5%	20	54.1%	10	27.0%	2	5.4%	37
小計	8	5.4%	41	27.7%	59	39.9%	40	27.0%	148

全クラス合計	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数				
主体性	8	6.8%	21	17.8%	46	39.0%	43	36.4%	118
協働性	9	7.6%	35	29.7%	46	39.0%	28	23.7%	118
探究力	4	3.4%	36	30.5%	51	43.2%	27	22.9%	118
発信力	34	28.8%	59	50.0%	15	12.7%	10	8.5%	118
小計	55	11.7%	151	32.0%	158	33.5%	108	22.9%	472

1学期・2学期・3学期のルーブリック評価の全体集計から、今年度の課題についていた「主体性」について、レベル3と4の自己評価の合計が1学期では59.2%で、2学期では64.9%、3学期では76.1%となった。2学期の数値を1学期のものと比較すると、数値は微増にとどまっている。しかし、3学期の数値は1、2学期のものと比較すると、レベル4の数値が大幅に向かっていることがわかる。生徒たちは、1学期の授業における社会課題や地域課題の理解と2学期の授業における地域住民との協働活動の実践を通して、地域課題を自分事として捉えるようになり、そのことが3学期での新たな地域協働活動の提言づくりにおいて、主体的に取り組むことにつながったのではないか。

表6 1年生の主体性の集計 (%)

主体性	1学期	2学期	3学期
レベル 4	19.2%	16.7%	36.8%
レベル 3	40.0%	48.2%	39.3%
レベル 2	30.8%	30.7%	17.1%
レベル 1	10.0%	4.4%	6.8%

「発信力」については、レベル3と4の自己評価の合計が1学期では41.6%で、2学期では50.0%、3学期では21.3%となった。1学期は、クラス内や班内で意見を交換したり、発表したりすることが求められた。2学期は、花溢れる街づくりプロジェクトの企画と実践において、地域住民とコミュニケーションを図ることが求められた。ここで求められることは、初めて出会う地元の高齢者や外国人とコミュニケーションをとることなので、1学期のものと比較してかなり高いハードルの設定と言える。それにもかかわらず、2学期の数値が上昇している状況を見ると、生徒たちの努力がうかがえる。特に、地域住民の方へ電話連絡をし、企画内容の説明や協力依頼をし、会うためにアポイントを取るのは、ほとんどの生徒にとって初めてのことでの貴重な経験となった。多くの教員から、この経験は価値があるという声があがった。

表7 1年生の発信力の集計 (%)

発信力	1学期	2学期	3学期
レベル 4	8.3%	10.5%	8.5%
レベル 3	38.3%	39.5%	12.8%
レベル 2	35.8%	38.6%	49.6%
レベル 1	17.5%	11.4%	29.1%

一方で、3学期の数値は大幅に減少した。3学期では、ポスターセッションの形式で、原稿を見ずに、わかりやすく発表することが求められた。生徒たちはポスターと原稿の作成を順調に進めていたが、発表練習する時間に設定した授業日が新型コロナウィルス感染拡大の影響で臨時休校となつたため、練習なしでの発表を迎えたこと、そして発表する日に登校できなかつた生徒もいたことが、このような結果につながつた。3学期途中までの活動が順調だったがゆえに、やり切れなかつたことへの悔しさが残つた。

表8 2年生1学期ループリック評価集計表
令和3年度第2学年 SGL地域協創学Ⅱ ループリック評価集計表【1学期】

	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4		
主体性 自ら行動する力	SDGs推進や地域課題解決について自分で考えることができる。	SDGs推進や地域課題解決に向けての対策をグループで考えることができる。	SDGs推進や地域課題解決に向けた啓発物の内容を考えることができる。	SDGs推進や地域課題解決に向けた啓発物の活用計画を提案することができる。		
協働性 人々と繋がる力	グループ活動で他者の意見に耳を傾けることができる。	グループ活動でお互いの考え方を伝え合い、認め合うことができる。	グループの話し合いをもとに、協力して啓発物を作成することができる。	コンソーシアムの方々と意見交換しながら啓発物を改良することができる。		
探究力 解決策を探る力	豊明市の地域課題と活動について調べることができる。	地域課題解決に向けて調べたことをグループで共有し、話し合うことができる。	地域課題解決につながるプロジェクトをグループで立案することができる。	コンソーシアムの方々と啓発物の活用方法について協議することができる。		
発信力 相手に伝える力	グループ活動で自分の意見を伝えることができる。	グループ活動で他者の意見に対する自分の考えを伝えることができる。	自分の意見やグループの意見を全体へ発表することができる。	コンソーシアムの方々に自分たちが考えたことを発表することができる。		
仰星2年1組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数	
主体性	3	12.0%	4	16.0%	12	48.0%
協働性	2	8.0%	5	20.0%	13	52.0%
探究力	3	12.0%	4	16.0%	14	56.0%
発信力	3	12.0%	5	20.0%	13	52.0%
小計	11	11.0%	18	18.0%	52	52.0%
					19	19.0%
仰星2年2組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数	
主体性	0	0.0%	2	9.1%	12	54.5%
協働性	1	4.5%	4	18.2%	10	45.5%
探究力	1	4.5%	4	18.2%	11	50.0%
発信力	1	4.5%	5	22.7%	13	59.1%
小計	3	3.4%	15	17.0%	46	52.3%
					24	27.3%
仰星2年3組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数	
主体性	0	0.0%	5	20.0%	15	60.0%
協働性	1	1.0%	4	16.0%	11	44.0%
探究力	1	1.0%	4	16.0%	13	52.0%
発信力	1	1.0%	8	32.0%	14	56.0%
小計	3	3.0%	21	21.0%	53	53.0%
					23	23.0%
特進2年4組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数	
主体性	1	2.8%	4	11.1%	22	61.1%
協働性	0	0.0%	5	13.9%	18	50.0%
探究力	2	5.6%	8	22.2%	18	50.0%
発信力	4	11.1%	12	33.3%	16	44.4%
小計	7	4.9%	29	20.1%	74	51.4%
					34	23.6%
特進2年5組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数	
主体性	0	0.0%	2	7.1%	12	42.9%
協働性	0	0.0%	3	10.7%	13	46.4%
探究力	0	0.0%	4	14.3%	14	50.0%
発信力	0	0.0%	5	17.9%	20	71.4%
小計	0	0.0%	14	12.5%	59	52.7%
					39	34.8%
特進2年6組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数	
主体性	0	0.0%	3	8.8%	17	50.0%
協働性	1	2.9%	8	23.5%	19	55.9%
探究力	1	2.9%	7	20.6%	21	61.8%
発信力	4	11.8%	6	17.6%	16	47.1%
小計	6	4.4%	24	17.6%	73	53.7%
					33	24.3%
全クラス合計	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数	
主体性	4	2.4%	20	11.8%	90	52.9%
協働性	5	2.9%	29	17.1%	84	49.4%
探究力	8	4.7%	31	18.2%	91	53.5%
発信力	13	7.6%	41	24.1%	92	54.1%
小計	30	4.4%	121	17.8%	357	52.5%
					172	25.3%

表9 2年生2学期ループリック評価集計表
令和3年度第2学年 SGL地域協創学Ⅱ ループリック評価集計表【2学期】

	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
主体性 自ら行動する力	地域課題や課題解決のための啓発物開発について、興味・関心をもつことができる。	地域課題と新たに開発しようとする啓発物を開発づけて考えることができる。	地域課題解決のための啓発物作成にあたって、積極的に取り組むことができる。	地域の方々の意見を聞き、それらを生かして、啓発物開発に取り組むことができる。
協働性 人々と繋がる力	班員の意見を大切にし、協力して地域課題の発見や啓発物の開発に取り組むことができる。	コンソーシアムの方々の助言や意見を聞き、新たな啓発物作成の提案ができる。	地域やコンソーシアムの方々と改善点を協議し、協働しながら啓発物を開発できる。	開発した啓発物を地域の方々に使用してもらい、感想や意見などをまとめることができる。
探究力 解決策を探る力	具体的な地域課題を見つけ、それを解決するための啓発物作成について検討できる。	地域課題解決につながる啓発物作成を目指して調査し、その内容を活用できる。	現地での調査を通じて地域の現状を知り、地域の要求を開発に反映できる。	SDGsとの関連やグローバルな視点を踏まえて、啓発物の作成や活用方法を検討できる。
発信力 相手に伝える力	グループ活動で自分の考えや他の意見についての自分の考えを伝えることができる。	グループでまとめた考えた啓発物のアイディア・活用法などをコンソーシアムの方々に発表・説明できる。	啓発物のアイディア・活用法などをコンソーシアムの方々に発表・説明できる。	完成した啓発物を地域の方々に提示し、その活用を呼びかけることができる。

仰星2年1組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数	
主体性	0	0.0%	1	4.3%	20	87.0%
協働性	1	4.3%	4	17.4%	16	69.6%
探究力	1	4.3%	5	21.7%	15	65.2%
発信力	1	4.3%	8	34.8%	12	52.2%
小計	3	3.3%	18	19.6%	63	68.5%
					92	

仰星2年2組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数	
主体性	0	0.0%	3	13.6%	10	45.5%
協働性	1	4.5%	4	18.2%	12	54.5%
探究力	0	0.0%	5	22.7%	10	45.5%
発信力	1	4.5%	4	18.2%	12	54.5%
小計	2	2.3%	16	18.2%	44	50.0%
					88	

仰星2年3組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数	
主体性	1	0.0%	3	12.5%	9	37.5%
協働性	2	1.0%	9	37.5%	8	33.3%
探究力	2	1.0%	7	29.2%	6	25.0%
発信力	7	1.0%	3	12.5%	10	41.7%
小計	12	12.5%	22	22.9%	33	34.4%
					96	

特進2年4組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数	
主体性	0	0.0%	3	8.3%	21	58.3%
協働性	2	5.6%	17	47.2%	14	38.9%
探究力	1	2.8%	12	33.3%	17	47.2%
発信力	8	22.2%	12	33.3%	13	36.1%
小計	11	7.6%	44	30.6%	65	45.1%
					144	

特進2年5組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数	
主体性	1	2.9%	6	17.6%	15	44.1%
協働性	2	5.9%	10	29.4%	14	41.2%
探究力	2	5.9%	8	23.5%	13	38.2%
発信力	5	14.7%	8	23.5%	15	44.1%
小計	10	7.4%	32	23.5%	57	41.9%
					136	

特進2年6組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数	
主体性	1	2.9%	8	23.5%	21	61.8%
協働性	1	2.9%	14	41.2%	13	38.2%
探究力	1	2.9%	9	26.5%	12	35.3%
発信力	6	17.6%	7	20.6%	21	61.8%
小計	9	6.6%	38	27.9%	67	49.3%
					136	

全クラス合計	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数	
主体性	3	1.7%	24	13.9%	96	55.5%
協働性	9	5.2%	58	33.5%	77	44.5%
探究力	7	4.0%	46	26.6%	73	42.2%
発信力	28	16.2%	42	24.3%	83	48.0%
小計	47	6.8%	170	24.6%	329	47.5%
					692	

表 10 2年生3学期ルーブリック評価集計表
令和3年度第2学年 SGL地域協創学Ⅱ ルーブリック評価集計表【3学期】

	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4					
主体性 自ら行動する力	探究成果発表の原稿とポスターの作成に取り組むことができた。	原稿やポスターに自分の意見やアイディアを取り入れることができた。	班内で共有した意見やアイディアをプレゼンテーションに生かすことができた。	啓発物開発の目的や過程、課題などを明確にしてプレゼンテーションができた。					
協働性 人々と繋がる力	発表原稿とポスターの作成で、自分が担当する役割を実行できた。	他の班員の意見やアイディアを取り入れ、原稿やポスターを作成できた。	他の班員の原稿やポスターについて、改善点などの助言を伝えることができた。	活発な意見交換を行い、班員の意見などを集約して原稿とポスターが作成できた。					
探究力 解決策を探る力	地域課題を探し、目的を明確にすることができた。	プレゼンテーションをするための資料やデータを探すことができた。	データやグラフを効果的に使い、プレゼンテーションの質を高めることができた。	プレゼンテーションを通して今後の課題を発見し、新たな探究へ向かうことができた。					
発信力 相手に伝える力	原稿を見ながら、プレゼンテーションを行うことができた。	原稿を見ながら、聴衆にわかりやすくプレゼンテーションを行うことができた。	原稿を見ずにプレゼンテーションを行うことができた。	原稿を見ずに、聴衆にわかりやすくプレゼンテーションを行うことができた。					
仰星2年1組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数				
主体性	0	0.0%	4	17.4%	17	73.9%	2	8.7%	23
協働性	1	4.3%	3	13.0%	7	30.4%	12	52.2%	23
探究力	0	0.0%	3	13.0%	14	60.9%	6	26.1%	23
発信力	1	4.3%	6	26.1%	11	47.8%	5	21.7%	23
小計	2	2.2%	16	17.4%	49	53.3%	25	27.2%	92
仰星2年2組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数				
主体性	1	5.0%	2	10.0%	4	20.0%	13	65.0%	20
協働性	1	5.0%	2	10.0%	11	55.0%	6	30.0%	20
探究力	0	0.0%	3	15.0%	10	50.0%	7	35.0%	20
発信力	0	0.0%	17	85.0%	0	0.0%	3	15.0%	20
小計	2	2.5%	24	30.0%	25	31.3%	29	36.3%	80
仰星2年3組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数				
主体性	1	0.0%	5	20.0%	5	20.0%	14	56.0%	25
協働性	2	1.0%	3	12.0%	9	36.0%	11	44.0%	25
探究力	2	1.0%	3	12.0%	10	40.0%	10	40.0%	25
発信力	2	1.0%	5	20.0%	11	44.0%	7	28.0%	25
小計	7	7.0%	16	16.0%	35	35.0%	42	42.0%	100
特進2年4組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数				
主体性	0	0.0%	7	19.4%	20	55.6%	9	25.0%	36
協働性	1	2.8%	10	27.8%	12	33.3%	13	36.1%	36
探究力	0	0.0%	7	19.4%	16	44.4%	13	36.1%	36
発信力	2	5.6%	24	66.7%	3	8.3%	7	19.4%	36
小計	3	2.1%	48	33.3%	51	35.4%	42	29.2%	144
特進2年5組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数				
主体性	2	6.1%	3	9.1%	11	33.3%	17	51.5%	33
協働性	2	6.1%	5	15.2%	10	30.3%	16	48.5%	33
探究力	1	3.0%	4	12.1%	16	48.5%	12	36.4%	33
発信力	2	6.1%	19	57.6%	6	18.2%	6	18.2%	33
小計	7	5.3%	31	23.5%	43	32.6%	51	38.6%	132
特進2年6組	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数				
主体性	0	0.0%	5	15.2%	13	39.4%	15	45.5%	33
協働性	1	3.0%	4	12.1%	16	48.5%	12	36.4%	33
探究力	1	3.0%	3	9.1%	19	57.6%	10	30.3%	33
発信力	4	12.1%	17	51.5%	7	21.2%	5	15.2%	33
小計	6	4.5%	29	22.0%	55	41.7%	42	31.8%	132
全クラス合計	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	人数				
主体性	4	2.4%	26	15.3%	70	41.2%	70	41.2%	170
協働性	8	4.7%	27	15.9%	65	38.2%	70	41.2%	170
探究力	4	2.4%	23	13.5%	85	50.0%	58	34.1%	170
発信力	11	6.5%	88	51.8%	38	22.4%	33	19.4%	170
小計	27	4.0%	164	24.1%	258	37.9%	231	34.0%	680

2年生にとっても今年度の課題は「主体性」の育成であった。1学期・2学期・3学期のループリック評価の全体集計から、レベル3と4の自己評価の合計が1学期では85.8%で、2学期では84.4%、3学期では82.4%となった。1年間を通して、80%以上の生徒が主体的に活動できたという自己評価をしたことは、生徒が主体的に探究活動に取り組んだ証と言えるのではないか。特に、3学期においてレベル4の自己評価をした生徒が40%を超えたことは、生徒たちが社会課題を自分事に捉えるようになっただけでなく、地域課題を解決する実践者としての自覚が芽生えてきたのではないかと考えられる。

このことは、2学期で取り組んだ地域協創プロジェクトが影響を及ぼしていると思われる。コンソーシアムの各団体と地域課題を一緒に考え、協働して地域課題の解決を目指して啓発物を開発し、実際に地域住民にそれを使ってもらってフィードバックを得るという学びは、生徒の主体性の育成に効果をもたらすことがわかった。

表11 2年生の主体性の集計 (%)

主体性	1学期	2学期	3学期
レベル4	32.9%	28.9%	41.2%
レベル3	52.9%	55.5%	41.2%
レベル2	11.8%	13.9%	15.3%
レベル1	2.4%	1.7%	2.4%

また、「協働性」についてはレベル3と4の自己評価の合計が1学期は80.0%、2学期は61.3%、3学期は79.4%であった。1学期では、各探究班においてコンソーシアムの関係者と地域課題を検討することで、協働する意識は高まったと考えられる。一方で、2学期に大きく数値が下がった。原因として考えられるのは、新型コロナ感染症拡大防止の観点から地域でのフィールドワークを中止したり、地域住民へのインタビューができないかたりしたことが影響を及ぼしていると考えられる。

表12 2年生の協働性の集計 (%)

協働性	1学期	2学期	3学期
レベル4	30.6%	16.8%	41.2%
レベル3	49.4%	44.5%	38.2%
レベル2	17.1%	33.5%	15.9%
レベル1	2.9%	5.2%	4.7%

しかし、3学期には数値が大きく改善し、なおかつレベル4の自己評価をした生徒が「主体性」と同様に40%を超える結果となった。これは、1、2学期の啓発素材開発においてコンソーシアムの関係者や地域住民と協働することを体感し、協働することの意義や価値を理解したことで、それが探究成果発表の内容をまとめていく活動に反映されたのではないかと思われる。地域協創プロジェクトにおける学びは、生徒の「主体性」の育成だけでなく、「協働性」の育成にも効果があることが、ループリック評価の集計表から明らかとなった。

(2) 目標設定シートの達成状況

地域との協働による高等学校教育改革推進事業において本校が設定した目標設定シートの主な項目について、2022年度の達成状況をまとめた。表13に示すように、地域協働活動に参加した生徒の数は305人で、海外研修（オンライン形式を含む）への参加率は100%であった。

表13 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

目標項目	地域協働活動に参加する生徒の数	海外研修参加率
目標値	450人	100%
達成状況	305人	100% オンライン海外研修を含む

1年生125人がSGL活動の「花溢れる街づくりプロジェクト」において、花壇づくりと花植え活動を実施した。2年生180人が「地域協働プロジェクト」として地域課題解決を目指した啓発素材開発に取り組んだ。3年生については、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から、地域での活動を見送った。このため、目標値を達成することはできなかった。

海外研修については新型コロナウィルス感染拡大によって実際に海外に行くことは不可能であったが、オンラインの形式に変更し、全学年の生徒全員がカンボジアとシンガポール、インドネシア、パラオのオンライン海外研修に参加した。

表14 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）

目標項目	生徒の活動発表年間実施回数	英語運用能力がCEFRのB1以上の生徒の割合 (元年度入学仰星コースの生徒が対象)
目標値	4回	50%
達成状況	4回	35%

SGL活動の探究成果発表会は、1年生、2年生、3年生の合計3回開催した。コロナ禍のため外部の見学は設定できなかったが、1、2年生は各クラス内でポスターセッション形式による発表を、3年生は探究レポートを用いた発表を行った。また、本校が中心となって2022年全国高等学校グローカル探究オンライン発表会を企画し、文部科学省の共催により、1月29日にはグローカル型地域協働推進校30校によるオンライン発表会を実施した。この大会の実施を含めて合計4回の活動発表会の実施となった。なお、全国高校生フォーラムや探究甲子園にも出場しているが、参加がごく一部の生徒に限られる為、回数には含めていない。

英語運用能力については英検2級以上の取得がCEFRのB1以上に相当する。令和元年度に入学した仰星コース3年生の英検2級以上の取得状況は、1年次に取得率10%、2年次に17%、今年度3年次には35%になった。達成目標の50%には届かなかったが、徐々に取得率が上昇してきたことが、取得率の推移から見て取れる。

表15 地域人材を育成する地域としての活動指標(アウトプット)

目標項目	コンソーシアム会議 実施回数	地域協働活動に参加者する 外国人市民と高齢市民の数
目標値	3回	150人
達成状況	2回	175人(外国人31人、高齢者144人)

1学期のコンソーシアム会議では、年間の活動予定を共有し、2学期でのコンソーシアム会議では、実施した活動の中間報告を行った。3学期のコンソーシアム会議は、新型コロナウィルスのまん延防止等重点措置の対象期間となったため中止した。目標値には届かなかったが、コロナの影響がなければ年間に3回以上実施する体制は整った。

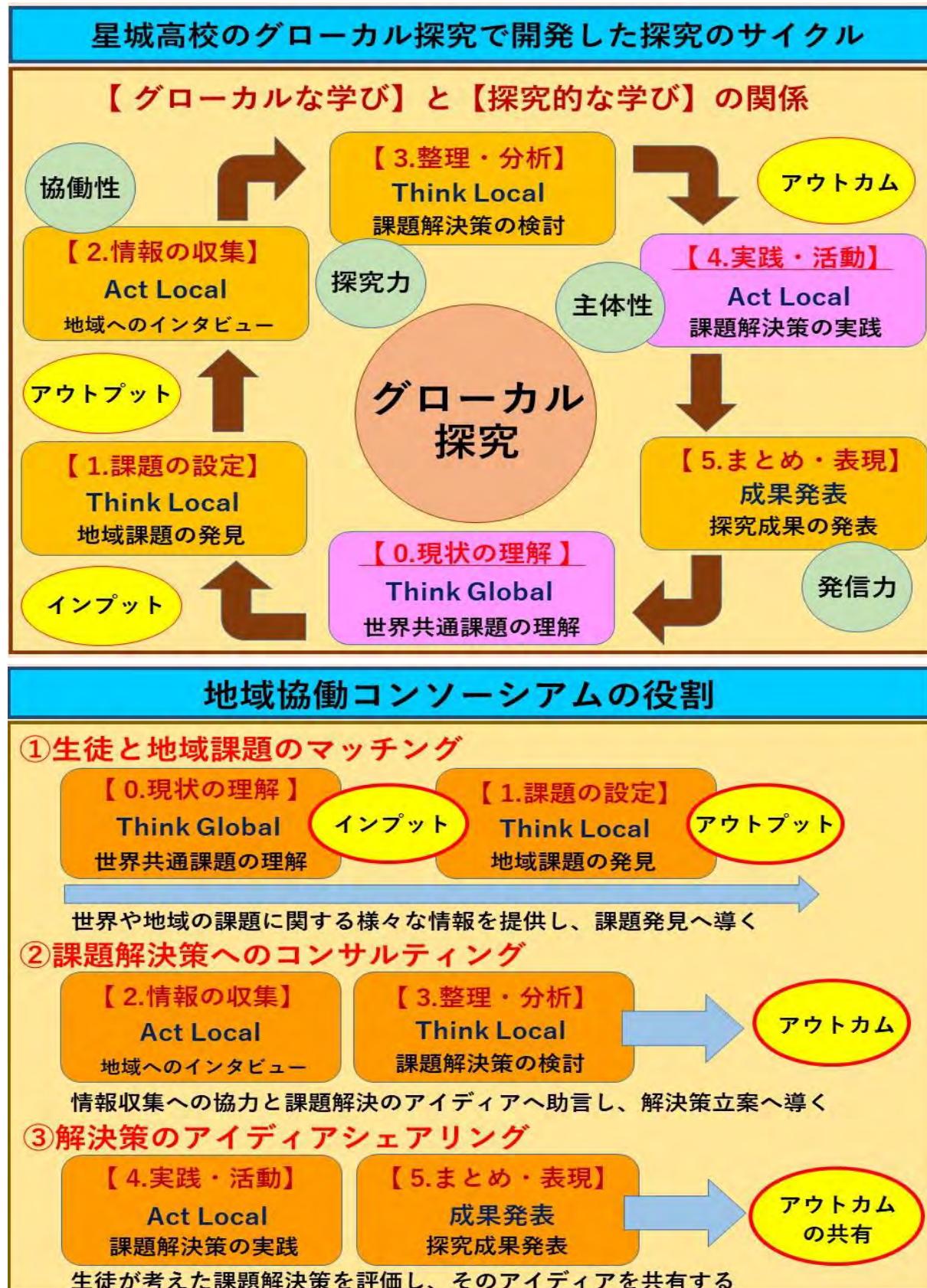
地域活動参加者数については、「花溢れる街づくりプロジェクト」での花壇づくりと花植え活動に高齢市民が144人、ベトナム人住民が14人参加した。その他として、本校生徒が関わった子ども日本語教室には、外国人児童17人が参加した。コロナ禍にもかかわらず、今年度も多くの地域住民が参加することになった。このことから、本校の地域協働活動が認知されてきたように感じている。

(3) 成果のまとめ

3年間の研究開発で成果として挙げられることは、第一に、グローカル探究の学びの過程を明確にし、それをカリキュラムに反映させることができたことである。その際、明らかになったことが二つある。一つ目は、探究的な学びのサイクルのスタートとなる「課題の設定」の前に、「現状の理解」として世界の課題や地域の課題についての豊富で多様なインプットが必要となる。これが充実していると、そのアウトプットとして、生徒が発見する地域課題の内容や、設定する課題の質が高くなる。二つ目として、地域との協働による探究学習では、自分たちで考えた課題解決策の「実践」がカギになる。実際にアクションを起こすという活動が最も主体性を発揮させる場面であり、この主体性の育成は検討や提言の活動だけでは得られにくい。この実践をすることによって、生徒たちがさまざまな社会課題を自分事として捉えるようになる。さらには、自分がその課題解決の実践者であることを自覚することにつながる。

第二に、地域協働コンソーシアムの役割を明確にできたことである。地域協働コンソーシアムの役割の一つ目は、生徒と地域課題のマッチングである。ネット検索だけでは得られない世界や地域社会の実情を生徒がインプットする機会を提供することがとても大切な役割になる。このインプットがしっかりとできると、地域課題の発見というアウトプットは多様なものが出てくることになる。二つ目は、生徒が課題解決策を検討している際の助言である。地域の実情とかけ離れてしまった場合はそれを指摘したり、コラボレーションできる団体や地域住民を紹介したりと、課題解決に向けた探究が進んでいくようにアドバイスする役割が大切になる。三つ目は、生徒たちのアイディアや開発した啓発物をシェアすることである。生徒たちは自分たちのアイディアが採用されるとモチベーションが上がる。地域協働コンソーシアムも高校生という若い世代の住民との協働

によって地域課題解決を進めていくことができる。ここがWin-Winになるという感覚を共有するために、アイディアをシェアするという役割が大切になる。



(4) 今後の課題

課題として残ったことは2つある。第一に、海外研修が今年度もコロナ禍において予定したかたちで実施できなかつたことがあげられる。オンライン形式に切り替えて実施し、生徒には好評だったが、学びとして充実させるためには研修テーマや内容構成を更に検討しながら企画する必要がある。

第二に、地域協働コンソーシアムを持続可能なものにすることである。これは、お互いがWin-Winの関係になるという意識を共有し続けられるかどうかにかかっている。そして、地域協働コンソーシアムを継続していくためには、お互いの負担が重くなりすぎないように配慮することがカギとなるであろう。

これらの点を考慮しながら、カリキュラム開発の研究指定校の期間は終了するが、今後とも総合的な探究の時間におけるグローカル探究の実践を続けていきたい。

『総合的な探究の時間における「オンライン」の活用』

—2021年度活動について—

名古屋大学大学院国際開発研究科
学術研究員 古藪真紀子
(海外交流アドバイザー兼地域協働学習実施支援員)

文部科学省からの研究指定を受けて始まった『外国市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト～新たなコミュニティーを協創するスーパーグローカル・リーダー(SGL)の育成～』(以下 SGL プログラム) は、最終年度となった。3 年間の活動をまとめ「総合的な探究の時間におけるグローカル探究活動」のモデルとなるカリキュラムがある程度作成されたと言える。しかし、SGL プログラムの計画当時に予想していなかった新型コロナウィルスの感染拡大により、2 年目並びに 3 年目は、多くの活動が制限され変更を余儀なくされた。その為、各活動が、①異なる考えを容認し、共生しようとする人間、②他者と協働して問題解決を図ろうとする人間、③自らの考えを発信して多くの人々と新たなものを協創できる人間、④人とのつながりを大切にし、感謝のできる実践力に富んだ地域リーダーといった SGL プログラムの人材育成目標を達成するにあたり、効果的であり、一般化する事ができるかを十分に検証することができなかった。

また、コロナ禍で海外研修の実施が難しい中、SGL プログラムにおける「グローカルな学び」の構想である『Think Global→Think Local→Act Local→Act Global』における「Global」な学びを十分に組み込むことが困難であったと言える。しかし、SGL プログラムでは、この課題を解決するために、様々な取り組みが行われた。特に 2 年に渡り実施した「SGL 地域協創学 Think Global 探究 多文化共生アラカルト講座 (以下多文化共生アラカルト講座)」並びに「オンライン海外研修」は、少なからず、生徒のグローバルな視点を広げるための一助となったと言える。では、これらの活動はどの様なものであったか。ここで詳しく考察するとともに、今後に向けた提案を提示する。

(多文化共生アラカルト講座)

多文化共生アラカルト講座は、国際協力機構 (JICA)、国際連合 (国連) の様々な実施機関や Non-Governmental Organization(NGO) などで、開発途上国において開発援助に関わってきた講師が、日本とは違うそれぞれの国の文化や価値観、海外で働くという事 (どのような活動をし、どのような困難があり克服したかなど)、また、その経験がどの様に今の仕事につながっているかなどの考えを提供し、国際的な視野 (「Think Global」) を広げてもらうための講座である。12 講座実施され、講師は、アフガニスタン、エジプト、東ティモール、ナミビア、ジャマイカやドミニカ共和国などと多地域での経験を提供す

ることができた。テーマも、紛争、農業、医療、教育、スポーツやジェンダーと多岐にわたり、生徒自らが興味のある講座を選び受講するというもので、それぞれ違う講座を受けた生徒が集まる探究グループの活動において、様々な視点を取り入れることができたと思われる。また、生徒は、国内にいながらも、行ったことのない国や地域について学ぶことができ、世界の課題や持続可能な開発目標（SDGs）に目を向けるきっかけとなつたと考えれば、「多文化アラカルト講座」のような講座は、カリキュラムに定着させる必要があると考える。

しかし、その実施方法については、検討していく必要がある。第1回目は、対面形式で実施したもの、第2回目の今年度は、新型コロナウィルスの爆発的感染拡大のため、

「オンライン」での開催となった。第1回目は、対面ということもあり、講師と生徒の活発な交流が見られたものの、第2回目は、「オンライン」という事もあり、やはり一方的な講義方式になっていたと思われる。各生徒が端末を持っているものの、インターネット環境の問題から、講師と繋がるのは各教室1台の端末となっている。そのため、講師は、教室に座っている生徒を見ながらの講座となり、また、講師の質問に対する回答も、生徒が端末まで来て発言するという形となり、スムーズなコミュニケーションは困難である。

しかし、「オンライン」での実施は、コロナ禍でも問題なく実施できる点や、世界中どこにいる人ともつなぐことができるという点で有効な実施方法である。より効果的な双向型の講座にするためには、インターネット環境を整備し、各生徒がそれぞれ講座にアクセスし、講師と生徒の双方が顔を見ながらの講座にすることを提案したい。また、これまでの講座の録画を有効に活用することで、より多くの情報を生徒に提供することができると考える。

（オンライン海外研修）

「百聞は一見にしかず」。プログラム1年目はマレーシアでの海外研修を実施し、実際に見て経験することで、生徒はグローバルな視点（「Think Global」）と活動（「Act Global」）を身に付ける事ができた。「Act Global」の学びには海外研修は必要不可欠であるものの、今年度予定していた海外研修は全て中止となり、その代替案として、「オンライン研修」が実施された。日本だけでなく予定していた海外研修先の国々においても、新型コロナウィルス感染拡大による多くの制限が課されていたことから、実施が可能な国として、カンボジア、シンガポール、パラオ、インドネシアの4カ国にて実施された。実施方法としては、日本の旅行会社に依頼し現地のエージェントにより以下のテーマを中心に研修が提供された。

国	テーマ
カンボジア	内戦経験者の体験談、地雷撤去活動、学校設立支援
シンガポール	多文化共生の理解

パラオ	環境保全
インドネシア	宗教と民族文化、伝統料理、日本人が海外で働くことの意義

各研修において、概ねテーマに沿った情報が提供され、現地とリアルタイムでつながっていることで、生徒はこれらの国について多少なりとも肌で感じ、多くの知識を得ることができた。しかし、全生徒が参加しているものの、時間的制限もあり、現地との双方向のやり取りも難しく、代表生徒による質問が数回できるのみで、リアルタイムでつながっているにも関わらず、収録された番組を見ているかのように感じた生徒も多いのではないか。「オンライン」では、「与えられた」知識を得るという事に留まり、1年目のマレーシア研修のような生徒の「主体的」な取り組みを促すことができるのが現状で課題である。

よって、ここでSGLプログラムにおけるグローバルな活動（「Act Global」）を身に付けるための「海外研修」の位置づけを再考し、より効果的な実施について提案する。新型コロナウィルスの終息が見えない中、「オンライン」による海外研修の実施は、実施国の状況による影響を受ける可能性があるものの、比較的、計画通りに実施できる可能性が高い事から有効な手段である。「海外研修」を通して、生徒がグローバルな視野を持ち活動につなげていくためには、現状の「オンライン研修」に生徒の「主体的な取り組み」促す活動を取り入れることが必至である。その為には、多くの国を網羅するのではなく（これは多文化共生アラカルト講座やオンライン研修の録画などで対応が可能）、1学年1国程度に絞り、「オンライン研修」を下記図のようにシリーズ化する事を提案したい。また、海外の姉妹校などと共同で実施する事が望ましく、SGLプログラムにおける地域協働コンソーシアムのような協力者を海外に得る事を提案する。

「オンライン研修」活動内容例

	活動
事前学習	録画教材などを使って指定国についての基礎的知識を得る。
オンライン(1)	持続可能な開発目標から2-3テーマ（情報の提供）
オンライン(2)	持続可能な開発目標から2-3テーマ（情報の提供）
授業(1)	生徒はグループで第1回目のテーマから課題を抽出（課題の深掘り）
オンライン(3)	生徒の出した課題についての情報提供、インタビュー調査など
授業2	課題解決策の検討
オンライン(4)	課題解決策の共有

これまでに述べた通り、新型コロナウィルス感染拡大という状況下、SGLプログラムの多くの活動が縮小、変更を余儀なくされた。特に「Global」な学びをどのように維持するかが課題であり、そのために「オンライン」を駆使した上述の二つの活動は、生徒の

国際的な視野（「Think Global」）やグローバルな活動（「Act Global」）を身に付けるための一助となった。上述の通り、「オンライン」での実施は、課題はあるものの、コロナ禍において、継続してプログラムの人材育成・教育目標達成に取り組むためには、大変有効な手段である。

最後に、SGL プログラムの計画当時には予想しなかった新型コロナウィルスの感染拡大から、その時々の状況に応じてトライアンドエラーで取り組んできた 3 年間の研究開発は、「総合的な探究の時間」の全国レベルでのモデルとなりうるカリキュラム案を作成することができたのではないか。海外交流アドバイザー兼地域協働学習実施支援員として、本カリキュラム開発に関わったことを光栄に思うと共に、プログラムの今後のさらなる発展と、カリキュラムを通して、生徒が「スーパーグローカル・リーダー」として、地域で活躍する事を期待したいと思う。

地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローカル型
令和3年度研究開発実施報告書【第3年次】

令和4年3月15日印刷
令和4年3月18日発行

発行者　名古屋石田学園星城高等学校
代表者　校長　石田　泰城

〒470-1161　愛知県豊明市栄町新左山20
TEL　0562-97-3111(代表)

印刷所　名英図書出版
〒460-0002　愛知県名古屋市中区丸の内1-4-10

